

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成18年6月

久留米工業高等専門学校

目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	11
	基準3 教員及び教育支援者	30
	基準4 学生の受入	42
	基準5 教育内容及び方法	55
	基準6 教育の成果	123
	基準7 学生支援等	145
	基準8 施設・設備	197
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	247
	基準10 財務	263
	基準11 管理運営	270
IV	選択的評価事項に係る目的	275
	選択的評価事項A 研究活動の状況	277
	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	292

I 対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

久留米工業高等専門学校

(2) 所在地

福岡県久留米市

(3) 学科等構成

準学士（学科）課程

機械工学科

電気電子工学科

制御情報工学科

生物応用化学科

材料工学科

専攻科課程

機械・電気システム工学専攻

物質工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成 18 年 5 月 1 日現在)

①学生数：1,144 人

単位：人

準学士課程	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	合計
機械工学科	42	44	45	42	47	220
電気電子工学科	40	44	45	42	37	208
制御情報工学科	44	44	39	42	36	205
生物応用化学科	42	47	41	42	42	214
材料工学科	44	51	38	48	35	216
計	212	230	208	216	197	1063

専攻科課程	1 年	2 年	合計
機械・電気システム工学専攻	23	31	54
物質工学専攻	14	13	27
計	37	44	81

②教員数：79 人

単位：人

	教授	助教	講師	助手	合計
一般科目	5	13	2	2	22
機械工学科	6	4	2	0	12
電気電子工学科	4	3	1	2	10
制御情報工学科	5	5	0	2	12
生物応用化学科	4	7	1	1	13
材料工学科	4	4	1	1	10
計	28	36	7	8	79

2 特徴

久留米工業高等専門学校は、昭和 14 年、旧制久留米高等工業学校に淵源を發しており、筑後川のほとりの自然環境豊かな 10 万㎡(約 3 万坪)のキャンパスを有している。戦後、九州大学久留米工業専門学校を経て久留米工業短期大学となった。その後、我が国経済の高度成長に伴う産業界の強い要望を受け、昭和 39 年 4 月に中堅技術者養成のための工業高等専門学校として改めて開設された。本校は、全国 62 校の高専の中でも最も早い時期に設立された学校の一つであり、旧制を含め 67 年の歴史をもった学校である。これまで 10,000 名を超える卒業生を輩出し、これらの卒業生は産業界の多職種各部門の第一線で中核の技術者として活躍している。

本校の教育理念は「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」である。この教育理念のもと、「工学の基礎学力を育成する」、「創造性を育成する」、及び「技術者としての素養と自立を養う」の 3 点が本校の教育の柱となっている。すなわち、工学の基礎学力の育成と質の高い専門教育に力を入れており、また実験、実習、卒業研究指導に多くの時間を割いた教育課程を通して知識と技術を関連づけながら、創造性を育む教育を行っている。さらに、数多くの一般教養科目によって広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者となるための素養を涵養している。他高専と比較して学生の自主性を最大限に尊重した教育がなされており、高専祭、音楽祭などの学校行事は学生会と学校側との話し合いを経て運営されている。

また、準学士課程では短期インターンシップや工場見学旅行、専攻科課程においては 2～4 ヶ月にわたる専攻科インターンシップを実施し、技術者になるための動機付けを行っている。また、専攻科課程においては、産業デザイン演習や創造工学実験などの技術者としての素養や創造性を伸ばす教育がなされている。

本校では、学生会活動に加え、体育、文化並びに技術活動などのクラブ活動にも力を入れており、これまでラクビー、水泳などのスポーツ活動やロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ソーラーボート大会、あるいは英語スピーチコンテストなどの大会において輝かしい成果をあげ、学生の能力の伸長と自主性の育成が図られている。

一方、本校では「地域社会への貢献」活動の一環として、地域産業の技術開発や技術教育の振興を図ることを目的に、平成 12 年 4 月に産学民連携推進センターを、及び平成 13 年 6 月にその支援組織である産学民連携推進協力を設立し、共同研究を中心として産学連携事業に重点的に取り組んでいる。

II 目的

久留米工業高等専門学校の使命

本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と知識を兼ね備えた技術者を育成することを使命とする。また、専攻科課程においては、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを使命とする。

教育理念

「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」

教育目的（養成すべき人材像）

次のような実践的技術者を育成する。

- (1) 自立の精神と創造性に富んだ技術者
- (2) 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
- (3) 社会に貢献できる技術者

課程・学科ごとの教育目的

本校では上記の教育理念、教育目的を具現化するために、以下に掲げる課程・学科ごとに独自の教育目的を定める。

（準学士（学科）課程）

・一般科目（文科及び理科）：

広い視野に立った社会人として必要な教養と創造性に富む、個性豊かな人間を形成する。文科系科目では、国際感覚を持って活躍できる技術者として必要な教養と語学力を培う。理科系科目では、数学、物理、化学等、専門工学を修得するための基礎となる十分な能力を培う。

- ・機械工学科： ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得した、創造性豊かで、国際的視野に立った実践的技術者を育成する。
- ・電気電子工学科： 自立の精神と創造性に富み、かつ広い視野と豊かな心を兼ね備えた、工業化社会に貢献できる電気電子技術者を育成する。
- ・制御情報工学科： 制御、情報を中心とした幅広い知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。
- ・生物応用化学科： 低学年においては化学工業技術者に必要な基礎知識を身に付け、高学年においては生物化学関連もしくは応用化学関連の専門知識を身に付けた、社会に貢献できる実践的技術者を育成する。
- ・材料工学科： ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を身につけ、これらの知識を応用して社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

（専攻科課程）

- (1) 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者の育成
- (2) 創造的研究開発能力の育成
- (3) 国際化に対応できる技術者の育成

本校の教育方針

本校の教育理念は簡潔であるが、人間的にも能力的にも優れた技術者を培うのに必要な要件を含んでいる。社会人として前向きに、強く生きていくためには、まず自分の頭で考え、社会のルールを守りながら自主的に行動する自立の精神が不可欠である。さらに、創造性、すなわち工夫しながら問題を解決する力を身につけるためには、物事に好奇心をもって積極的に取り組む姿勢が重要である。本校ではこのような人材を育てるため、できるだけ学生の自主性を尊重した教育を行っている。また、単に自分達の利益だけを追求するのではなく、高い視点に立って物事を考え、組織や社会全体を良くしていこうと考える、志の高い技術者を育成することを目指している。

上記の教育理念、教育目的を達成するために、具体的には、次のような教育方法をとっている。

- (1) 数学や物理など、工学の基礎学力の充実
- (2) 系統的な教育課程による質の高い専門教育
- (3) 実験、実習、卒業研究指導を多く取り入れた実践的な技術教育
- (4) 一般科目の充実による人間性の涵養とコミュニケーション能力の育成
- (5) 学生の自主性を重視した基本ルールや倫理観の教育
- (6) 学生会及び体育・文化・技術クラブを通しての自主的な課外活動の奨励
- (7) 好奇心をもって自分の頭で考え、工夫する力の養成

さらに、専攻科課程では、次のような教育の特色をもたせている。

- (1) 少人数の学生定員で充実した教育研究環境と学会発表の奨励
- (2) 準学士課程との継続性を重視した教育
- (3) 長期にわたるインターンシップの実施
- (4) 学士号の取得と大学院進学

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

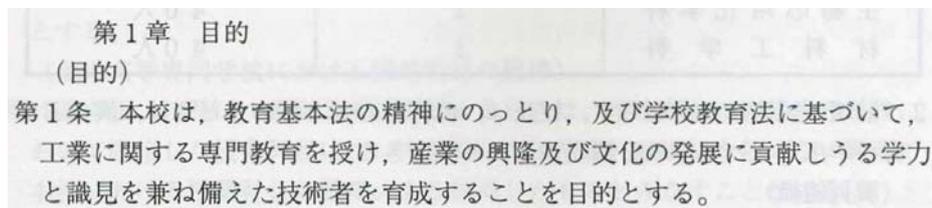
観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況) 「学則第 1 章第 1 条」(資料 1-1-①-1) では、本校は「教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と識見を兼ね備えた技術者を育成する」ことを目的として掲げている。また、本校では教育理念を「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」とし、学生便覧、学校要覧などに掲載している(資料 1-1-①-2)。これは、将来このような技術者に成長するための学力、素養を育む、という本校の目的を学生にも理解できるように教育理念の形にまとめたもので、学生及び教職員に周知されている。

さらに、準学士課程における各学科の教育目標と専攻科課程の教育目標が学生便覧に明記されている(資料 1-1-①-3)。

資料 1-1-①-1

学則第 1 章第 1 条

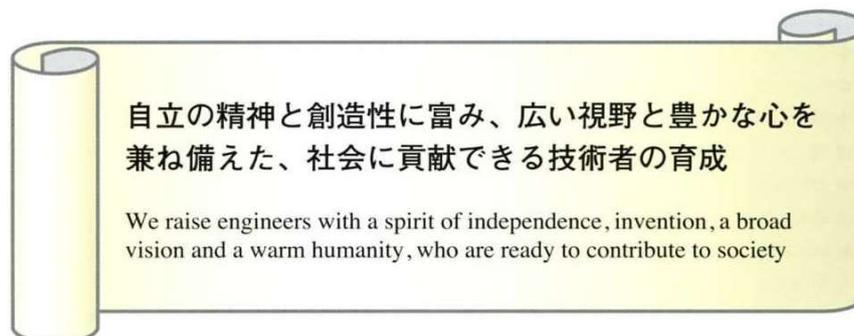


出典：学生便覧 P5

資料 1-1-①-2

本校の教育理念 (学校要覧)

教育理念
～ Guiding Principle of our Education ～



出典：平成 17 年度学校要覧 P1

資料 1 - 1 - ① - 3

準学士課程における各学科及び専攻科課程の教育目標

■ 準学士課程における各学科の教育目標

- 機械工学科 ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得した、創造性豊かで、国際的視野に立った実践的技術者を育成する。
- 電気電子工学科 自立の精神と創造性に富み、かつ広い視野と豊かな心を兼ね備えた、工業化社会に貢献できる電気電子技術者を育成する。
- 制御情報工学科 制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。
- 生物応用化学科 低学年においては化学工業技術者に必要な基礎知識を身に付け、高学年においては生物化学関連もしくは応用化学関連の専門知識を身に付けた、社会に貢献できる実践的技術者を育成する。
- 材料工学科 ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を身につけ、これらの知識を応用して社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

■ 専攻科課程の教育目標

- 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者の育成
- 創造的研究開発能力の育成
- 国際化に対応できる技術者の育成

出典：平成 18 年度学生便覧（冒頭部分の抜粋）

（分析結果とその根拠理由） 目的として、本校の使命、基本方針、養成しようとする人材像、到達すべき基本的成果が、本科及び専攻科についてそれぞれ学則、学生便覧、学校要覧に明文化されており、学生にも理解しやすい形で明確に定められている。

観点 1 - 1 - ②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

（観点到に係る状況） 本校の「学則第 1 章第 1 条」に記載されている目的、及び学校要覧などに掲げられている教育理念は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校一般に求められる目的に則ったものであり、同時に独立行政法人国立高等専門学校機構法第 3 条の「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図る」に則っている。

（分析結果とその根拠理由） 「学則第 1 章第 1 条」に記載されている本校の目的及び教育理念は学校教育法第 70 条の 2 の規定に定められた高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

観点 1 - 2 - ①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点到に係る状況） 学生便覧、学校要覧、ホームページには教育理念、及び学科別（準学士課程）あるいは専攻別（専攻科課程）の教育目標が、学校要覧、ホームページには J A B E E 技術者教育プログラムの説明と本校教育理念や教育課程との関係が、学生便覧には学校の設置の目的が掲載され

ている。目的を周知させるために、全教員は言うに及ばず事務部門各部署にも学生便覧が配付されており、教育理念のパネルが庶務課などに掲示されている。さらに、準学士課程への入学希望者には中学生向け学校パンフレット(資料1-2-①-1)、学生募集要項・入学案内(資料1-2-①-2)などが、専攻科課程への入学希望者には専攻科パンフレット(資料1-2-①-3)、専攻科学生募集要項・入学案内(資料1-2-①-4)などが準備されており、それらの資料の中に学科別(準学士課程)あるいは専攻別(専攻科課程)の教育目標が示されている。また、年度初めには、準学士課程と専攻科課程の学生を対象に教務主事より教育理念などの周知が図られていると同時に、準学士課程の新入生と専攻科課程の新入生に対しては別々に新入生オリエンテーションを通じて認識させるようにしている。さらに、新入生に対しては、年度当初の合宿研修の際にも教育理念の周知徹底を図っている。

(分析結果とその根拠理由) 目的が複数の手段で、学校の構成員である教員、職員、準学士課程の学生、専攻科課程の学生に分けて周知されているため、周知の効果が上がっている。

観点1-2-②: 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点到に係る状況) 教育理念を記載した中学生向け学校パンフレット、学校要覧を毎年実施する久留米高専オープンキャンパス(体験セミナー)、中学校訪問あるいは学校説明会で配布し、内容の説明を行っている。また、教育理念に加えて学科別(準学士課程)の教育目標も記載した学生募集要項・入学案内、及び専攻別(専攻科課程)の教育目標を記載した専攻科パンフレット、専攻科学生募集要項・入学案内を、入学前の資料として応募者に配布している。また、教育理念はホームページにも掲載している。

(分析結果とその根拠理由) 目的が、準学士課程入学希望の中学生と専攻科課程入学希望の高専学生などに公表されている。また、教育理念はホームページで広く社会に公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校の教育理念、教育目標は、学生便覧、学校要覧に明文化されており、学校の構成員すべてに公表されている。さらに、本校の入学希望者にも周知されている。

(改善を要する点) 該当なし。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校の使命、基本方針、養成しようとする人材像、到達すべき基本的成果が、本校の目的(教育理念、教育目標)として、学則、学生便覧、学校要覧に明文化されており、学生にも理解しやすい形で明確に定められている。本校の目的は学校教育法第70条の2に規定に定められた高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

本校の目的(教育理念、教育目標)は、複数の手段で、学校の構成員である教員、職員、準学士課程の学生、専攻科課程の学生すべてに周知されているため、周知の効果が上がっている。これらは、準学士課程入学希望の中学生と専攻科課程入学希望の高専学生などにも公表されている。また、教育理念はホームページで広く社会に公表されている。

資料 1 - 2 - ① - 1

平成 1 8 年度 中学生向け学校パンフレット (抜粋)

歴史ある高専、未来ある高専。

久留米工業高等専門学校は、昭和14(1938)年に(旧制)久留米高等工業学校として設立されました。その後、九州大学に併合された昭和24(1949)年の九州大学久留米工業専門学校、昭和33(1958)年の久留米工業短期大学を経て、昭和39(1964)年、国立久留米工業高等専門学校が誕生しました。5年間でしっかりした基礎学力を身につけ、専門的な知識及び技術を修得することにより、産業界の第一線で活躍する技術者が生まれています。卒業後は、産業界への就職の道と、本校専攻科への入学あるいは大学への編入学の道が開かれています。充実した環境の中で、未来を担う技術者を育てます。



教育理念

自立の精神と創造性に富み、
広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成

アドミッション・ポリシー
(入学者受け入れ方針)

- (1) 技術者になる意欲をもっている人
- (2) 理数系の基礎学力が身についている人
- (3) 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- (4) 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

教育の特徴

- 基礎科目を重視し、社会人として必要な一般教養と豊かな人間性を持った技術者を育てます。
- 専門教育では、教室での専門的講義のほかに、実験・実習・卒業研究などを取り入れて、実践的技術者を育てます。
- 大学受験にとらわれずに、自分の目標に向かって5年間じっくりと勉強できます。
- 企業での就業体験を希望する学生には、インターンシップ(工場実習)の機会があります。
- 学生の自主性を尊重する校風の中、責任感と自立心を持った学生を育てます。
- 高専5年間で卒業した後、さらに専門的な勉強をするための教育課程として2年間の専攻科があります。専攻科修了生は、大学卒業者と同じ「学士」の学位を取ることができます。

資料 1 - 2 - ① - 2 (1 / 2)

平成 18 年度 学生募集要項入学案内 (抜粋)

入 学 案 内

1. 本校の沿革

本校は、昭和14年久留米高等工業学校が設立されたことに始まり、久留米工業専門学校、久留米工業短期大学（昭和33年設立）と変遷し、実践的技術者の養成という時代の要請を受けて、昭和39年に現在の久留米工業高等専門学校となりました。

平成5年4月には、九州で最初に専攻科が設置され、優れた教授陣と充実した設備を誇っています。

2. 教育理念

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成。

3. 各学科の教育目標・概要

○機械工学科

(教育目標)

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を習得した、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。

(学科概要)

産業・工業の基盤となる機械技術者に必要な基礎能力と応用技術を、一般科目と専門科目により修得します。専門科目は、実験実習を多く取り入れた、設計・製図、生産加工、材料強度、機械力学、制御・情報、熱・流体などから構成されています。卒業生は、自動車、船、航空・宇宙、エネルギー、環境、ロボット、食品、鉄鋼、建設、化学、情報など広範囲な産業分野で活躍しています。

○電気電子工学科

(教育目標)

自立の精神と創造性に富み、かつ広い視野と豊かな心を兼ね備えた、工業化社会に貢献できる電気電子技術者を育成します。

(学科概要)

電気工学、電子工学、情報工学、通信工学等の電気電子工学各分野にわたってバランスのとれた教育課程を構成しています。講義に加えて、学生実験、工場実習さらに卒業研究等のものづくりを体験する実践的教育科目によって、パワーマネジメント技術とIT技術を学びます。

○制御情報工学科

(教育目標)

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を養成します。

(学科概要)

エレクトロニクスとコンピュータ利用技術が飛躍的に進歩した今日、ネットワーク、メカトロニクス（機械工学と電子工学の融合分野）及びそれと関連した専門的な科目、さらには豊かな人間性を養うための一般教養科目を学びます。

資料 1 - 2 - ① - 2 (2 / 2)

○生物応用化学科

(教育目標)

低学年においては、化学工業技術者に必要な基礎知識を身に付け、高学年において生物化学関連もしくは応用化学関連の専門知識を身に付けた、社会に貢献できる実践技術者を養成します。

(学科概要)

21世紀は化学とバイオの時代です。プラスチックに代表される高分子材料・食品・医薬品などの工業製品が私達の生活を支えています。

低学年からこれら身の回りの商品の製造・性質などについて化学・生物の両面から学びます。高学年では有機原料からの高分子材料の設計・製造・管理などについて学ぶ応用化学コース、バイオ工業製品の製造について学ぶ生物化学コースのいずれかを選択できます。

○材料工学科

(教育目標)

ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を授け、これらの知識を応用して社会に貢献できる技術者を養成します。

(学科概要)

ものづくり基礎は、それを構成する材料から始まります。様々な工業製品に使用される材料には金属、セラミックス及び高分子などがあります。材料工学科では、これらの材料のうち、金属とセラミックスを主に、構造、物性、機能及び製造や加工法についての基礎と応用技術について学びます。

4. 修業年限

5年

5. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

- (1) 技術者になる意欲をもっている人
- (2) 理数系の基礎学力が身についている人
- (3) 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- (4) 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

6. JABEE教育プログラム

久留米工業高等専門学校には、JABEE（日本技術者教育認定機構）教育プログラムとして、機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、制御情報工学プログラム、生物応用化学プログラム及び材料工学プログラムの5つの教育プログラムが用意されています。各教育プログラムは、高専4年、5年及び専攻科1年、2年の教育課程から構成されています。

なお、詳細については、本校ホームページ (<http://www.kurume-nct.ac.jp/>) を参照下さい。

資料 1 - 2 - ① - 3

平成 18 年度 専攻科パンフレットの専攻別教育目標

機械・電気システム工学専攻

機械、電気電子、制御情報に関するより深い専門知識を教授し、これらの知識を総合的に活用し、様々な問題解決ができる技術者を育成します。

物質工学専攻

有機、無機、ポリマー、金属材料及びバイオ技術に関するより深い専門知識を教授し、新物質の開発や製造プロセス技術に対応できる技術者を育成します。

出典：専攻科パンフレット表紙

資料 1 - 2 - ① - 4

平成 19 年度 専攻科学生募集要項・入学案内の教育目標（抜粋）

1. 専攻科の目的

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって、広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とします。

5. 専攻科の教育目標

- (1) 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者の育成
- (2) 創造的研究開発能力の育成
- (3) 国際化に対応できる技術者の育成

出典：平成 19 年度 専攻科学生募集要項・入学案内 P10

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況） 本校の教育目的は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と見識を兼ね備えた技術者の育成である（資料2-1-①-1）。

資料2-1-①-1

学則第1章第1条

第1条 本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を授け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と識見を兼ね備えた技術者を育成することを目的とする。

出典：平成18年度学生便覧

本校は機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の五つの学科で構成されている。各学科はそれぞれの教育目標を設定し、本校の教育目的の達成を目指している。機械工学科はものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得した、創造性豊かで国際的な視野に立った実践的技術者の育成を目標に掲げている。電気電子工学科は自立の精神と創造性に富み、かつ広い視野と豊かな心を兼ね備えた、工業化社会に貢献できる電気電子技術者の育成を、制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、様々な産業分野で活躍できる実践的能力に優れた技術者の育成を、生物応用化学科は低学年においては化学工業技術者に必要な専門知識を身に付け、高学年においては生物化学関連もしくは応用化学関連の専門知識を身に付けた、社会に貢献できる実践的技術者の育成を、材料工学科はものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を身に付け、これらの知識を応用して社会の発展に貢献できる技術者の育成を、それぞれ目的にしている。これら各学科の教育目標は学校教育法第70条の2「深く学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」という目的に沿ったものである。

（分析結果とその根拠理由） 各学科の教育目標は、本校の教育目的に沿ったものであり、また学校教育法に規定されている目的にも沿うものである。

観点2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況） 専攻科の教育目的は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材の育成である（資料2-1-②-1）。

資料 2-1-②-1

学則第 13 章第 4 6 条

第 4 6 条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

出典：平成 18 年度学生便覧

専攻科は、先端技術及び高度情報化に対応できる技術者の育成、創造的研究開発能力の育成、及び国際化に対応できる技術者育成を目標に、機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の 2 専攻で構成されている。各専攻は工業高専での 5 年にわたる実践的技術者教育を基盤に、機械・電気システム工学専攻では、「機械、電気電子、制御情報に関するより深い専門知識を教授し、これらの知識を総合的に活用し、様々な問題解決ができる技術者の育成」を、物質工学専攻では、「有機、無機、ポリマー、金属材料及びバイオ技術に関するより深い専門知識を教授し、新物質の開発や製造プロセス技術に対応できる技術者の育成」を教育目標に設定している。これらの教育目標は、学校教育法第 70 条の 6 「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」という目的に沿ったものである。

(分析結果とその根拠理由) 専攻科の目的が明確に設定され、それに沿った各専攻の教育目標がある。これらは学校教育法に規定される目的に沿ったものとなっている。

観点 2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況) 総合情報センターと産学民連携推進センターの二つが設置されている。総合情報センターの目的は教育研究支援を行い、校内の情報化に対応している。具体的には校内 LAN の整備やネットセキュリティの構築などである(資料 2-1-③-1)。産学民連携推進センターの目的は産業界、本校及び民間との連携である。具体的には共同研究、受託研究などを通じて、地域とともに学生に対する教育を実施していくことや、インターンシップ先の開拓、技術教育のためのフォーラムを開催するなどであり、地域の技術振興へ貢献している(資料 2-1-③-2)。

(分析結果とその根拠理由) 総合情報センターは教育研究支援や校内の情報管理、産学民連携推進センターは地域の産業界、民間と一体になって様々なフォーラムや研修会などを実施することにより、本校の技術教育を向上させるとともに、地域社会へ貢献している。

観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況) 教育課程全体について、企画調整は教務主事を中心にした教務主事室(教務主事・主事補)で企画され、教務委員会で審議し、最終的に学科長委員会に諮る体制が整備されており、教育課程の変更、改善、教育活動などに係る審議は教務委員会でされている(資料2-2-①-1、訪問調査時に提示)。教務委員会の下部組織として授業改善専門部会が設置され、学生による授業評価アンケートの集計・分析などの授業改善に関する取組がなされている(資料2-2-①-2)。また、企画主事を中心とした企画主事室(企画主事・主事補)では自己点検・評価に関する企画調整が行われ、自己評価検討委員会で審議し(資料2-2-①-3)、最終的に学科長委員会に諮られる。専攻科の教育課程については、専攻科主事室(専攻科主事・主事補)で企画され、専攻科委員会、教務委員会で審議された後、学科長委員会で最終審議が行われる(資料2-2-①-4、2-①-5)。

(分析結果とその根拠理由) 教務委員会、専攻科委員会、自己評価検討委員会など教育に関する企画、調整、実施など必要な機能を持つ委員会がその役割に応じて設置され、教育課程全体に係る重要事項について、審議されている。これらの立案は、当該主事室が行っており、いずれも最終的には学科長委員会に諮られる。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況) 教育の目的を達成する手段の一つとして、一般科目担当教員と専門学科所属の教員との連携を図っている。これまでも、専門学科所属教員による低学年の数学の授業が行われてきた。これらの教員は、数学を担当することにより数学の授業内容を把握できた。平成14年度から16年度にかけて授業視察が行われ、その際、専門学科所属教員と一般科目担当教員との間で相互の授業に関する討議、意見交換が行われた(資料2-2-②-1、訪問調査時に提示)。平成17年度には「数学教育に関する懇談会(第2回FD会議)」が開催され、多数の教員参加のもとで、数学担当教員による数学教育の現状が報告されるとともに、数学教育に関して活発な論議が行われた(資料2-2-②-2)。連携による改善策として、専門分野に必要な数学に関するアンケート調査が各専門学科に対して行われ、数学教育内容の見直しが検討されている。また、物理に関しても、教えるべき授業内容に関する調査が物理教員から各専門学科に対してなされている(資料2-2-②-3)。平成18年度には、新入学生に対する数学学力診断テストを再開した。数学学力診断テストの結果は第1回FD会議で報告された(資料2-2-②-4)。また、専門学科所属教員との意見交換により、各専門学科のJABEE認定に向けた英語コミュニケーション能力の強化を図る方策の一環として、平成12年度から希望者を対象に年二回TOEICを実施するとともに、英語担当教員によるTOEICに重点を置いた授業も行われるようになっている。

(分析結果とその根拠理由) 一般科目担当教員と専門学科所属教員の話し合いは適宜行われ、低学年での数学などの授業内容について連携が図られてきた。その結果、数学教育の具体的な方策が講じられつつある。

観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況) 隔週で三主事・主事補及び学級担任が出席して学級担任会が開催され、学級担任活動の円滑化が図られている(資料2-2-③-1)。新任教員に対しては着任時に3主事か

らオリエンテーション（新任者研修）が実施され、円滑に教育活動に入れる体制が確立している（資料 2-2-③-2）。課外活動について、学生会に対しては総括的に学生主事室（学生主事・主事補）が指導し、クラブ活動に対しては複数の顧問教員の指導体制になっており、外部コーチの支援体制も確立している（資料 2-2-③-3、2-③-4）。

資料 2-2-③-4

平成 18 年度に技術コーチを依頼したクラブ（個人名は省略）

文化系	体育系
茶道部	空手部
英会話部	ラグビー部
吹奏楽部	弓道部
華道愛好会	卓球部
	合気道部
	柔道部
	バドミントン部

出典：学生課学生係資料より作成

教員の教育活動の支援に関しては、主として学生課職員が行い、時間割の作成・管理、成績処理、入学試験、非常勤講師支援、授業に必要な機材・道具などの保守・整備・貸出し、課外活動支援、学生寮関連などの多岐にわたる業務について、教員を支えている（資料 2-2-③-5）。また、技術職員も実験・実習の準備、そのために必要な装置・機器類の保守管理などを行い、教員の教育活動を支援している。

（分析結果とその根拠理由） 学級担任が学級指導を円滑に行うための支援体制として学級担任会が機能している。新任教員に対するオリエンテーション（新任者研修）は 3 主事より実施されている。課外活動について、学生会に対しては総括的に学生主事室を、クラブ活動に対しては複数の顧問教員を配置するとともに外部コーチも導入するなど、指導が円滑に行えるように配慮されている。教員の教育活動は、主として学生課職員及び技術職員によって多岐にわたり支援されている。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点） 教育課程全体を企画調整するために、教務主事室・専攻科主事室、授業科目に関するアンケート調査などを行う授業改善専門部会、教育課程に関して審議する教務委員会と専攻科委員会、自己点検・評価に係る企画主事室、及び教育課程に関する懸案事項を最終的に審議して決定する学科長委員会が設置され、教育課程を運営、チェック、改善する体制が整備され機能している。

一般科目担当教員と専門学科所属教員との話し合いは適宜行われており、とくに低学年での数学などの授業内容については連携が緊密に行われている。

全学的なセンターとして産学民連携推進センターを設置し、共同研究、受託研究などを通じて、地域とともに学生に対する教育を実施するとともに、技術教育のためのフォーラム開催など地域社へ貢献している。

(改善を要する点) 該当なし。

(3) 基準 2 の自己評価の概要

準学士課程の教育組織は、機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の五つの学科で構成されており、各学科はそれぞれの教育目標を設定し、本校の教育目的の達成を目指している。専攻科は、先端技術、高度情報化及び国際化に対応でき社会に貢献できる技術者育成を目的に、機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の2専攻で構成されており、準学士課程の各学科、及び専攻科課程それぞれの教育目標は学校教育法第70条の2「深く学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」、及び学校教育法第70条の6「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」という目的に沿ったものである。

全校的なセンターとしては、総合情報センターと産学民連携推進センターを設置している。総合情報センターは、教育研究支援と校内の情報管理を行っている。産学民連携推進センターは、産業界、本校、民間との連携を図ることによって本校の技術教育を向上させるとともに、地域の技術振興に貢献している。

教育課程全体を企画調整するため、教務主事室・専攻科主事室、授業改善専門部会、教育課程などの問題を審議する教務委員会、専攻科委員会、自己点検・評価に係る企画主事室、及び教育課程に関する懸案事項を最終的に審議して決定する学科長委員会が設置され、教育課程を運営、チェック、改善する体制が整備され機能している。

教育の目的を達成する手段の一つとして、一般科目担当教員と専門学科所属の教員との連携を図っている。これまでも、専門学科所属の教員による低学年の数学の授業実施、一般科目担当教員と専門学科所属の教員との間での相互の授業に関する討議、意見交換なども行われてきた。各専門に必要な数学や物理の授業内容に関する調査も実施され、それぞれの教育内容の見直しを検討してきた。

教育活動支援としては、学級担任活動の円滑化を図るために隔週行われている学級担任会の開催、新任教員に対する着任時の各主事からのオリエンテーション（新任者研修）の実施などがある。学生の課外活動は、学生主事室及び複数のクラブ顧問による指導体制になっており、外部コーチの支援体制も確立している。教員の教育活動は、主として学生課職員及び技術職員によって多岐にわたり支援されている。

資料 2 - 1 - ③ - 1

久留米工業高等専門学校総合情報センター要項

(設置)

第 1 条 久留米工業高等専門学校に、総合情報センター（以下「センター」という。）を設置する。

(目的)

第 2 条 センターは、学内の情報処理を効率的かつ合理的に運用し、教育・研究の支援及び事務系業務の合理化を推進し、もって情報を積極的に提供・活用するための情報システムを整備することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報関連施設・設備の統合に関すること。
- (2) 情報化に関する研究、開発及び調査に関すること。
- (3) 情報システムの構築及び維持管理に関すること。
- (4) 情報化による産官学の連携に関すること。
- (5) 情報の保護に関すること。

(組織)

第 4 条 センターに関わる業務を行うために、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 情報システム責任者
- (3) 情報システム管理者

(センター長)

第 5 条 センター長は、本校の専任教授とし、校長が任命する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(情報システム責任者)

第 6 条 情報システム責任者は、次の各号の職員とする。

- (1) 電子計算機室長
- (2) 図書館関係職員から選出された者 1 名
- (3) SCS 活用委員会委員長
- (4) 教務主事補から選出された教官 1 名
- (5) 情報処理専門職員
- (6) 校長が必要と認めた者

(情報システム管理者)

第 7 条 情報システム管理者は、次の各号の職員とする。

- (1) 各専門学科から選出された教官 各 2 名
- (2) 一般科目から選出された教官 2 名（文科系 1 名・理科系 1 名）
- (3) 事務部から選出された者 1 名
- (4) 校長が必要と認めた者

2 前項に掲げる者の任期は、2 年とし、再任を妨げない。

(重要事項の取扱い)

第 8 条 センターの運用・管理上特に重要な事項について、審議を必要とするときは、学科長委員会に諮るものとする。

(事務)

第 9 条 センターに関する事務は、会計課事務情報処理室で行う。

(その他)

第 10 条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、平成 12 年 4 月 1 日から実施する。

出典：久留米工業高等専門学校規則集

資料 2 - 1 - ③ - 2

久留米工業高等専門学校産学民連携推進センター規則

[平成 12 年 4 月 1 日制定]

(設置)

第 1 条 久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、産学民連携推進センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 センターは、地域産業界等との共同研究等を推進することにより、本校の教育・研究の進展に寄与するとともに、併せて地域社会における技術開発及び技術教育の振興に資することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域産業界等との共同研究、受託研究に関すること。
- (2) 地域産業界に対する技術相談及び学術情報の提供に関すること。
- (3) 校内の共同研究に関すること。
- (4) 学生及び研究員等への技術教育に関すること。
- (5) 地域社会における学術研究の交流に関すること。
- (6) 講習会、セミナー、公開講座等に関すること。
- (7) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

(組織)

第 4 条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター長補 若干名
- (3) センター員
- (4) その他校長が必要と認めた者

(センター長)

第 5 条 センター長は、本校の専任教授とし、校長が任命する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長補)

第 8 条 センター長補は、本校の専任教員とし、校長が任命する。

2 センター長補の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠のセンター長補の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第 9 条 センター員は、次の各号に掲げる職員とする。

- (1) 各学科等から選出の教員 2 名
- (2) 専攻科主事補から 1 名
- (3) 庶務課長及び会計課長

2 前項第 1 号及び第 2 号に掲げる者の任期は、2 年とする。

(職務)

第 8 条 センター長は、センターに関する業務を掌理する。

2 センター長補は、センター長を補佐しセンターの業務を処理する。

3 センター員は、センターの業務を処理する。

(重要事項の取扱い)

第 9 条 センターに関する業務のうち、特に重要な事項で審議を必要とするときは、学科長委員会に諮るものとする。

(事務)

第 10 条 センターの事務は、庶務課において処理する。

(その他)

第 11 条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

資料 2 - 2 - ① - 2

第 1 回 授業改善専門部会議事録

日時 平成 18 年 4 月 20 日 (木) 15 時から 16 時 30 分

出席者 中畠, 福田(か), 前田(道), 平川, 馬越, 高橋

本部会での調整内容確認と割り当て分担、授業改善専門部会で調整する内容を確認し、分担を割り当て以下のように決めた。また、各項目のおおまかな作業方針を確認した。

(1) 本部会調整内容

1) 「学生による授業評価アンケート」集計及び解析：

- ・本科の平成 17 年度学生アンケート調査集計及び解析
- ・個別の授業の傾向より、学校全体の傾向を抽出するようにまとめる。

担当：高橋

2) シラバス（平成 18 年度分、学科別）作成：

- ・教育理念，教育目標，教育課程系統図，教育課程表，J A B E E プログラム構成図等に注意してまとめる。

担当：中畠, 前田

3) PDCA 組織図作成：

- ・授業に関する PDCA 組織図作成する。

担当：平川, 福田

以下省略

第 6 回 授業改善専門部会議事録

日時 2006 年 6 月 1 日 (木) 15 時 00 分から 16 時 10 分まで

出席者 中畠, 福田(か), 前田, 平川, 高橋

記録 高橋

1. 議事内容

(1) 本部会調整進捗状況

1) 「学生による授業評価アンケート」集計及び解析：高橋

- ・「平成 17 年度授業の学生による授業評価及び教員による自己評価に関する報告（仮題）」の編集状況

現時点でのサンプルが高橋より提示され、編集の方針及び状況が報告された。内容は①授業アンケート用紙、②授業アンケートの結果（図）、③教員による自己評価、④付録（学生によるアンケート結果の数値）、により構成されることが報告され了承された。また、教員による自己評価が会議の時点で 20 人分集まっていることが高橋より報告された。その他に、授業コードと授業科目名の対応表を掲載するかどうかを検討され、とりあえず、掲載したものを作成してから再度検討することになった。また、タイトルが表記のものでよいか、それぞれ持ち帰っての検討になった。

以下省略

出典：平成 18 年度授業改善専門部会議事録から抜粋

資料 2 - 2 - ① - 3

平成 18 年度（第 1 回）自己評価検討委員会議事録

1. 日 時 平成 18 年 4 月 10 日（月）16 時 00 分から 17 時 10 分
2. 場 所 小会議室
3. 出席者 綾部企画主事、江島企画主事補、平川企画主事補、渡邊企画主事補、
中野企画主事補、田中慎教務主事補（代理：馬越教務主事）、小田寮務主事補、
池田専攻科主事補、原田助教授（機械）、長田教授（電気）、泉本教授（生化）、
金城助手（一文）、越地助教授（一理）、陶山庶務課長、樋口会計課長、
牛尾学生課長
- 欠席者 橋村学生主事補

議事に先立ち、18 年度新委員の泉本委員及び平川委員から自己紹介があった。

4. 審議事項

(1) 自己評価書の草案について

綾部委員長から、認証評価について、概要及び本校の対応経緯が簡単に説明されたのち、6 月 30 日までに提出する自己評価書の作成について、改めて協力要請があった。次いで、企画主事室で 16 年度の試行的評価の自己評価書を元に作成された別添草案について、基準ごとの検討分担者案が提示され、審議の結果、次のとおり確認、了承された。

①各基準の担当者を次のとおりとする。

- 基準 1 高等専門学校の目的・・・（長田・金城）
基準 2 教育組織（実施体制）・・・（小田・泉本）
基準 3 教員及び教育支援者・・・（池田）
基準 4 学生の受入・・・（越地）
基準 5 教育内容及び方法・・・（田中・中野）
基準 6 教育の成果・・・（江島・渡邊）
基準 7 学生支援等・・・（橋村）
基準 8 施設・設備・・・（原田）
基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム・・・（綾部・平川）
基準 10 財務・・・（会計課長）
基準 11 管理運営・・・（江島）※5 主事対応

②選択的評価基準については今後作成する。

③基準をみたましているか、【留意点】に記載されたことが本文に反映されているか等チェック確認し、問題点・意見を取り纏める。

④本文の修正は赤色の見え消しで、コメントは緑で記載し、4 月 14 日（金）までに中野委員へ提出する。

以下省略

平成 18 年度（第 8 回）自己評価検討委員会議事録

1. 日 時 平成 18 年 6 月 5 日（月）15 時 00 分から 16 時 05 分
2. 場 所 小会議室
3. 出席者 綾部企画主事、江島企画主事補、平川企画主事補、中野企画主事補、
田中慎教務主事補、小田寮務主事補、池田専攻科主事補、原田助教授（機械）、
長田教授（電気）、泉本教授（生化）、金城助手（一文）、越地助教授（一理）、
陶山庶務課長、牛尾学生課長
- 欠席者 渡邊企画主事補、橋村学生主事補、樋口会計課長
- オブザーバー 馬越教務主事

4. 審議事項

(1) 今後の作業スケジュールについて

中野委員から、今後の作業予定について資料に基づきに詳細に説明された。

続いて綾部委員長から、補足説明があり併せてスケジュールに沿っての作業の実施について要請された。

(2) 問題点その他

・認証評価関係資料の保管場所について今後検討することとした。

・馬越教務主事から、外部評価委員会の規則改正が学科長委員会です承され、今後 9 名の方に委員委嘱を行い、委員会の開催は来年 1 月頃の実施を予定していること。また本校の運営組織表を作成中であること。が報告された。

出典：平成 18 年度自己評価検討委員会議事録（抜粋）

資料 2 - 2 - ① - 4 (1 / 2)

平成 18 年度各委員会委員名等一覧表

平成 18 年 4 月現在

- ◆ 学科長委員会
 - 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長、事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長
- ◆ 人事連絡委員会
 - 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長
- ◆ 予算委員会
 - 教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長、会計課長
- ◆ 施設・設備委員会
 - 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、企画主事、学科長、事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長
- ◆ 施設・設備専門部会
 - 赤坂、藤田、高松、黒木、伊藤、奥山、志賀、山崎、会計課長
- ◆ 教務委員会
 - 教務主事、〔教務主事補（全＝中武、宮崎、江頭、中嶋、田中慎、福田か、高橋）〕、〔学生主事補（笈木）〕、〔寮務主事補（小田）〕、〔専攻科主事補（前田）〕、永野、山本郁、龍頭、山崎、学生課長
- ◆ 授業改善専門部会
 - 〔教務主事補（○中嶋、福田か、高橋）〕、〔専攻科主事補（前田）〕、〔企画主事補（平川）〕
- ◆ 入試運営委員会
 - 教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科主事、学科長、〔教務主事補（江頭、福田か）〕、〔専攻科主事補（伊藤）〕、事務部長
- ◆ 専攻科委員会
 - 専攻科主事、〔専攻科主事補（全＝藤田、池田、前田、伊藤、奥山）〕、〔教務主事補（中嶋）〕、〔学生主事補（後藤）〕、永野、梶、江島、谷、学生課長
- ◆ 厚生補導委員会
 - 学生主事、〔学生主事補（全＝橋村、後藤、笈木、中畑、龍頭）〕、〔教務主事補（高橋）〕、〔寮務主事補（矢野）〕、〔専攻科主事補（池田）〕、川口、石井、濱上、木寺、中尾、学生課長
- ◆ 寮務委員会
 - 寮務主事、〔寮務主事補（全＝黒木、小田、梶、矢野、中坊）〕、〔教務主事補（田中慎）〕、〔学生主事補（中畑）〕、〔専攻科主事補（藤田）〕、廣尾、原、石井、宮崎、辻、谷、学生課長
- ◆ 自己評価検討委員会
 - 企画主事、〔企画主事補（全＝江島、渡邊、中野、平川）〕、〔教務主事補（田中慎）〕、〔学生主事補（橋村）〕、〔寮務主事補（小田）〕、〔専攻科主事補（池田）〕、原田、長田、泉本、金城、越地、庶務課長、会計課長、学生課長
- ◆ IABEE 委員会
 - 専攻科主事、教務主事、企画主事、専門学科長、平落、池田、川口、梶、奥山、小宮、大串、庶務課長、学生課長
- ◆ 外国人留学生委員会
 - 教務主事、〔教務主事補（福田か）〕、〔学生主事補（中畑）〕、〔寮務主事補（中坊）〕、田中大、高松、中島、丸山、渡邊、学生課長
- ◆ 就職担当委員会
 - 津田、〔専攻科主事補（伊藤）〕、原田、高松、江崎、矢野、学生課長
- ◆ 図書委員会
 - 図書館長、図書館長補、図書主幹、〔教務主事補（中武）〕、〔学生主事補（後藤）〕、〔専攻科主事補（奥山）〕、熊丸、泉本、濱上、山本稔、東島、庶務課長

資料 2 - 2 - ① - 4 (2 / 2)

平成 18 年度各委員会委員名等一覧表

平成 18 年 4 月現在

- ◆ 紀要編集委員会
○ 校長、教務主事、〔教務主事補（宮崎）〕、〔専攻科主事補（前田）〕、平濬、長田、丸山、森、濱上、川越、谷、中畑、木寺、東島、庶務課長
- ◆ 職員レクリエーション委員会
○ 事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長、田中大、原、熊丸、大岡、久保、龍頭、山本稔
- ◆ 外国人留学生委員会
○ 教務主事、〔教務主事補（福田か）〕、〔学生主事補（中畑）〕、〔寮務主事補（中坊）〕、田中大、高松、中島、丸山、渡邊、学生課長
- ◆ 就職担当委員会
○ 津田、〔専攻科主事補（伊藤）〕、原田、高松、江崎、矢野、学生課長
- ◆ 図書委員会
○ 図書館長、図書館長補、図書主幹、〔教務主事補（中武）〕、〔学生主事補（後藤）〕、〔専攻科主事補（奥山）〕、熊丸、泉本、濱上、山本稔、東島、庶務課長
- ◆ 紀要編集委員会
○ 校長、教務主事、〔教務主事補（宮崎）〕、〔専攻科主事補（前田）〕、平濬、長田、丸山、森、濱上、川越、谷、中畑、木寺、東島、庶務課長
- ◆ 職員レクリエーション委員会
○ 事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長、田中大、原、熊丸、大岡、久保、龍頭、山本稔
- ◆ 総合情報センター
○ 総合情報センター長、中尾、大崎、熊丸、笈木、奥山、米永、山崎、庶務課長、会計課長
- ◆ 産学民連携推進センター
○ 産学民連携推進センター長、〔専攻科主事補（藤田）〕、原田、大崎、福田幸、中野、伊藤、重松、久保、中畑、松尾、越地、庶務課長、会計課長
- ◆ 知的財産委員会
○ 産学民連携推進センター長、平濬、長田、伊藤、平野、松尾、川越、庶務課長
- ◆ 安全衛生委員会
○ 事務部長、衛生管理者（庶務課長）、安全管理者（会計課長）、産業医、庶務課長、原田、中島、綾部、野坂、重松、東島、大串、喜田、吉田、看護師、学生主事、施設係長、人事係長
- ◆ 学生相談室
○ 平元、中尾、大崎、中野、看護師、カウンセラー
- ◆ キャンパス・ハラスメント相談員
○ 学生相談室長、森、永野、高松、川口、泉本、平野、福田か、中坊、吉田、萩野、大石、野田

備考

1. ○は委員長
2. 〔 〕は各主事補より 1 名

出典：平成 18 年度各委員会委員名等一覧表

資料 2 - 2 - ① - 5

教務委員会開催に関する資料

久留米工業高等専門学校教務委員会規則

(平成13年 4月1日制定)

(平成17年12月 1日改正)

第1条 久留米工業高等専門学校の教務に関する事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。なお、次の各号の委員は、兼任することができる。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 学生主事補、寮務主事補、専攻科主事補から各1名
- (4) 各専門学科から各1名
- (5) 一般文科、一般理科から各2名
- (6) 学生課長
- (7) その他校長が必要と認めた者

第3条 前条第4号及び第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前条第7号の委員の任期は、1年とする。

4 前項の委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

第4条 委員会の委員長は、教務主事とする。

2 委員長に事故があるときは、教務主事補がその職務を代行する。

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

以下条文省略

出典：久留米工業高等専門学校規則集

資料2-2-②-2

平成17年度第2回FD会議「数学教育に関する懇談会」次第

平成17年11月30日

第2回FD会議 「数学教育に関する懇談会」

1. 数学教育に関する懇談会開催にあたって 教務主事
2. 中学校の数学から専攻科入試まで 数学担当教員
(高橋正郎助教授)
3. 数学と専門科目の連携について 教務主事
4. 意見交換

(資料)

- 平成17年度授業担当(常勤・非常勤等)
- 中学校数学の指導要領と教科書の目次
- 高校数学の指導要領と教科書の目次(本校の授業状況を含む。)
- 応用数学・確立統計教科書の目次
- 平成17年度入学者選抜学力検査問題
- 平成17年度専攻科入学者選抜学力検査問題

出典：平成17年度第2回FD会議「数学教育に関する懇談会」次第

資料 2 - 2 - ② - 3

物理担当と各専門学科との連携に関する資料

2006/3/26

各学科長 殿

物理担当教員より

新年度を迎えるに当たり、新2年生の物理カリキュラムについて、物理(4単位)と応用物理(4単位)のそれぞれで、何を扱うか物理教室で話し合いました。添付したファイルに、力学・電磁気・波動・原子物理の各分野で、何を扱うか項目をまとめています。各学科における講義内容・カリキュラム進行の参考にして頂ければと思い、報告いたします。本来なら、新カリキュラムを作成する前にまとめ、報告すべきことでした。遅くなってしまい、申し訳ありませんでした。

新カリキュラムにおいて、物理科目の8単位は、基本的に2年生で物理(4単位)、3年生で応用物理 I (2単位)と応用物理 II(2単位)となっています。何れも通年科目です。物理教室としては、物理で「力学 I」「波動」を、応用物理 I で「力学 II」「原子物理」を教え、応用物理 II で「電磁気 I・II」を教える予定です。

しかし、機械科は自学科で物理を教えるということなので、この限りではありませんし、電気科は応用物理 II を4年前期に開講するので、この予定では不都合があるかと思えます。また、他学科においても、「波動」よりも「電磁気」や「力学 II」を先に教えた方がいいなど、ご希望もあるかと思えます。

先の予定はあくまでも基本です。物理教室としては、これに各学科のご予定も取り入れ、よりよい物理カリキュラムにしたいと考えております。そこで、各学科におかれまして、物理カリキュラムで何を教えればいいのかご相談の上、山崎にお知らせ頂けないでしょうか。この内容で問題なければ「そのままでもよい」の一言でも結構です。この内容を減らし、その分、この内容について時間をかけて欲しいとか、具体的に書いて頂いても結構です。よろしければ、添付した Check.xls にキーワードを並べておりますので、各項目について重要度を記入してください。

機械科においては、物理教室が担当するのは応用物理 II と学生実験だけですので、応用物理 II で何を扱えばよいか、お知らせ下さい。電気科については、応用物理 II が4年生になっておりますので、電磁気ではなく別の内容にするか、応用物理 I と II の内容を入れ替えるとか、要望があるかと思えます。

なお、ご要望の受付は今回、今の時期だけで無く、今後も継続的に行います。現時点でのご要望で結構です。

以上

出典：物理教員から学科長宛文書（平成18年3月26日付け）

資料 2 - 2 - ② - 4

平成 18 年度第 1 回 F D 会議要旨

日 時：平成 18 年 5 月 24 日（水）17：10～18：20

場 所：大会議室

- 題 目：1. 新入生数学診断テストの結果報告
 一般理科（数学）中 坊 滋 一 助教授
 2. 平成 17 年度学生の授業評価アンケート結果報告
 教務主事補 高 橋 正 郎 助教授
 3. 卒業生の自己達成度評価及び学生支援に関する
 アンケート結果報告
 企画主事補 中 野 明 助手
 4. 授業改善の P D C A
 教務主事補 福 田 かおる 助教授
 5. P B L 講習会（熊本電波高専、Temasek Polytechnic, Singapore）
 報告 一般文科（英語）金 城 博 之 助手

出席者：久留米高専教員 61 名

1. 新入生数学診断テストの結果報告

中坊助教授から、今年度 5 年ぶりに実施した「新入生数学診断テスト」の結果について、第一段階が 1979 年第 1 回テストから 98 年第 20 回テストまで、第二段階が 99 年から 2001 年まで新たに問題を作成し実施、第三段階が今回である。

今回の問題内容は、99 年度に作成した問題を踏襲し指導要領の改正を勘案した。テスト結果について概ね次のような報告があった。

- ・ 入試倍率と平均点との関係は、入試倍率が下がっても平均点は一定しており、学生の学力は変わらない結果が出ていたが、今回の結果では、平均点が 77 点から 69 点に 8 点下がった。
- ・ 今回、60 点以下の者が以前の結果よりも増えており、学力が下がっている。2002 年から 2006 年の間に学力が下がっていることは、「ゆとり教育」の影響が出ていることが考えられる。
- ・ 数学に限って言えば、入学時に既に差が出ている。制御情報工学科の平均点ははずば抜けて高いが、その他の学科は団子状態である。また、推薦入学者の結果は、できる人はいるが、その学科の平均以下の者が少なからずいる。最低点を推薦入学者が取っていた学科もあった。しかし、入学後にこの結果が逆転することも十分あるので、この結果だけで全体をみることはできない。

2. 平成 17 年度学生の授業評価アンケート結果報告

高橋助教授から、平成 17 年度前・後期授業評価アンケート結果について、資料に基づき通年合計、一般と専門別、教員年齢別、教員所属別の説明があり、常勤教員より非常勤教員の方が良い印象を持っていること、また、同一教員でも担当する科目が違えば異なる結果が出ていること等の報告があった。

3. 卒業生の自己達成度評価及び学生支援に関するアンケート結果報告

中野助手から、今年度卒業生・修了生に対して実施したアンケートについて、資料に基づき集計結果の報告があった。教育理念の認識に関し、2 割の学生が「学校の教育理念」を全く知らないこと、技術者素養の修得に関し、17%が無記回答であったこと等の報告があった。この点について、学生が教育理念を知らないことは学校の責任であり、無記回答をなくすための設問項目の検討が必要である旨指摘があった。

4. 授業改善の P D C A

福田助教授（業務改善専門部会長 中野助教授の代理）から授業改善 P D C A 図について、これまでの授業改善システムの教員負担を軽減し、実態に合わせた機能的な体制にしたこと、他高専が作成している P D C A 図を参考に作成したこと及び作成に当たって P D C A のあり方そのものを検討したこと等について説明があった。

P D C A 図で計画、実施、点検、見直しの中心が教務委員会となっており、実態にあった図ではあるけれど対外的に説明がしづらいのではないかとの意見が出され、教務主事から、機能面からするとこの方法が最良との説明があった。

5. P B L 講習会（熊本電波高専、Temasek Polytechnic, Singapore）報告

金城助手から、参加した P B L 講習会の概要説明があった。

出典：平成 18 年度第 1 回 F D 会議要旨

資料 2 - 2 - ③ - 1

学級担任会記録（一例）

平成 18 年度 第 5 回学級担任会

期 日 平成 18 年 5 月 23 日 (火) 16:40 ~ 17:30

場 所 大会議室

[教務関係]

1. 保護者懇談会について（本科）

- ・後援会定期総会の出欠表の最終版は庶務課メールボックスに入れておく。現在 358 名出席予定。
- ・昼食場所、学級懇談会場所、個人面談控室、面談場所を学生係まで早急に連絡すること。（変更がない場合にもその旨連絡すること）
- ・ 5 年機械は、美術創造教室に変更する。
- ・ 女子トイレの表示を各建物に掲示する。

2. 入試動機に関するアンケート調査の実施について（本科 1 年）

- ・高専機構から、昨年度も実施した入試動機に関するアンケート依頼があった。アンケート実施後、5/25(木)17:00 までに教務係へまとめて提出すること。

3. 学生への連絡事項

(1) 中間試験について（本科）

- ・中間試験は、6/5(月)~6/9(金)で実施する。時間割は掲示済み。
- ・ 考査上の注意：携帯電話は持ち込み禁止（携帯電話は電源を切り片づけておくことも可）なので、時刻表示専用の時計（腕時計が望ましい）を準備すること。
- ・ 専攻科は平常授業とする。

(2) 豊橋技術科学大学 編入学説明会について（4、5 年(低学年可)、 専攻科）

- ・ 5 月 25 日 (木) 16:40 ~ D2 教室、来校説明者：二又 裕之 先生
- ・ 対象は、4、5 年生及び専攻科生とする。

(3) 平成 18 年度北陸先端科学技術大学院大学体験入学の募集（全学）

- ・ 対象は、高等専門学校在学学生、受入時期は随時、受講料は無料、年間定員は 10 名、交通費、滞在費用は自己負担とする。
- ・ 募集要項と申込書は、学生課で受け取ること。なお、学生課掲示板に掲示し、担任へ募集要項 1 部を参考に配付する。

4. その他

(1) 工場見学旅行について（4 年）

- ・ 担任は、本日の担任会終了後集合のこと。

【学生関係】以下の項目について、学生へ周知願いたい。

1 ウェーブホールの貴重品保管庫について

- ・ 5 月 24 日 (水) までに保管庫の中の物は取り除くこと。
- ・ 5 月 25 日 (木) 10:00 には貴重品庫を解錠する。
- ・ 貴重品庫の利用は原則として 1 日なので、今後遵守すること。
- ・ 今後 1 日以上の利用箇所については随時抜打的に解錠する。

2 旧売店内の荷物等について

- ・ 以前処分されたロッカー及び女子更衣室のロッカー内に放置された物品を、現在旧売店（学生課南側）に保管しているので、心当たりの者は 5 月中に取りに来ること。
- ・ 現在保管している物品は 6 月 1 日 (木) に処分する。

3 ウェーブホールのトイレ利用について

前回の担任会において、ウェーブホールトイレでの喫煙に対して、当分の間男子トイレの大便秘器を使用禁止とした。また、今後喫煙状況が改善されなければ女子トイレも含めて全面的に使用禁止とすることとしていたが、現状で改善された状況は見受けられない。今後もこのような状態が継続するのであれば全面的に使用禁止とする。

4 構内における自動車、バイク及び自転車について

- ・ 駐車・駐輪は以前より良くなっているものの、未だ不法駐車・駐輪が見受けられるので、所定の場所に駐車・駐輪するように。
- ・ 近々、取り締まりを行う予定である。

5 クラスマッチについて

クラスマッチの実施に関して、担任の御協力を頂きありがとうございました。

6 車両入構証について

- ・ 車両入構証ができあがっているので学生係へ取りに行くこと。
- ・ 未登録の自動車はかなりあるようなので、早めに自動車通学願を提出するように。

7 その他

クラブ顧問会議を、5 月 26 日 (金) 16 時 40 分から D4 教室において開催する。クラブ代表顧問及び部長（学生）は必ず出席することをお願いする。

【寮務関係】

・寮祭について

5 月 20 日 (土) 実施し、無事終了した。御協力ありがとうございました。

以下省略

出典：平成 18 年度第 5 回学級担任会記録

資料 2 - 2 - ③ - 2

平成 18 年度第 1 回新任者・人事交流受入れ研修次第

平成 18 年 4 月 3 日

国立久留米工業高等専門学校
第 1 回新任者・人事交流受入れ研修
平成 18 年度

1. 研修対象者

新任者	泉本 英次 (教授、生物応用化学科)
	平野 正和 (教授、材料工学科)
	平川 靖之 (助教授、電気電子工学科)
	石井 努 (助教授、生物応用化学科)
	濱上 寿一 (助教授、材料工学科)
	山本 稔 (講師、一般科目 (理科)、数学担当)
人事交流	野坂 通子 (助教授、佐世保高専、生物応用化学科、2 年間)
	酒井 道宏 (助教授、岐阜高専、一般科目 (理科)、数学担当、1 年間)

2. スケジュール

9 : 00 ~ 10 : 00	研修 1 (学校の沿革、組織、学校運営) (主事)
10 : 00 ~ 10 : 20	辞令交付 (校長)
10 : 30 ~ 12 : 00	研修 2 (教務・学生・寮務の説明) (主事) 寮務の説明 (主事)
13 : 30 ~ 14 : 30	着任式 (D 4 教室)
14 : 30 ~ 15 : 30	事務手続き (人事係長外)
15 : 30 ~ 16 : 30	学内見学 (主事)
16 : 30 ~	所属学科、担当科目、校務分掌等の説明

3. 本校等の URL

久留米高専ホームページ	http://www.kurume-nct.ac.jp/
サイボウズ (久留米高専) (規則、研究者総覧、会議室等予約、電話番号一覧等)	http://bs.on.kurume-nct.ac.jp/Scripts/cbag/ag.exe
文部科学省	http://www.mext.go.jp/
独立行政法人国立高等専門学校機構	http://www.kosen-k.go.jp/
大学評価・学位授与機構	http://www.niad.ac.jp/main.html
日本技術者教育認定機構 (J A B E E)	http://www.jabee.org/
高専 I T 教育コンソシアム	http://kosen-it.jp/

4. 資料

40 周年記念誌、学校要覧 (2005 年版)、PR パンフ (本科、専攻科)、学生便覧 (2005 年版)、緊急連絡網、学年暦 (前期)、教務・学生関係資料、予算 (教育研究費、出張旅費)

5. 担当

教務主事	馬越 幹男
学生主事	松井 悟
寮務主事	櫻木 功

出典：平成 18 年度第 1 回新任者・人事交流受入れ研修次第

資料 2 - 2 - ③ - 3

平成 1 8 年度課外活動指導教員一覧

	体 育 局	代表顧問	顧 問
1	陸上競技部	志賀	矢野・田中大・宮本・富岡・永野
2	柔道部	小宮	大崎・馬越・平野
3	剣道部	木寺	越地・松尾・原田
4	弓道部	中野	福田幸・笈木・川口
5	空手部	高松	櫻木
6	硬式野球部	渡邊	廣尾・熊丸・酒井・青山・平川・椿・大串・奥山
7	バレーボール部(男女)	高橋・金城	山崎・江島・笹栗
8	バスケットボール部(男)	山本郁	黒木・中畑・泉本・山本稔
9	バスケットボール部(女)	中坊	福田か・野坂
10	テニス部	小田	江頭・川越・赤坂・池田
11	ラクビー部	江崎	米永・藤田・中嶋
12	ハンドボール同好会	藤田	江崎・中嶋
13	合気道部	中島	松永・山本稔
14	水泳部	田中慎	後藤・綾部・中畑
15	サッカー部	橋村	松井・原・谷・石井・重松
16	バドミントン部	龍頭	大岡・中武・濱上・津田
17	卓球部	久保	丸山・前田・平元
18	サイクリング愛好会	中尾	東島
19	ソフトテニス愛好会	辻	森・伊藤・長田
20	フットサル愛好会	平暮	宮崎

	文 化 局	代表顧問	顧 問
1	囲碁将棋部	永野	高松
2	英会話部	中島	江島・福田か
3	軽音楽研究部	津田	中坊
4	茶道部	椿	前田・辻
5	写真部	綾部	山崎
6	新聞文芸同好会	長田	米永
7	吹奏楽部	宮崎	池田・奥山・平元
8	美術部	藤田	宮本・櫻木
9	天文愛好会	松井	田中慎
10	ドイツ文化研究同好会	東島	笈木
11	華道愛好会	後藤	大岡・森
12	ピアノ愛好会	小宮	原田
13	卓上ゲーム愛好会	中畑	
14	模型同好会	平暮	山本郁
15	プロコン同好会	黒木	丸山・中野
16	エコパワー愛好会	中武	福田幸・大崎
17	翔愛好会	中尾	田中大
18	自動車部	中尾	
19	ロボットコンテスト部	越地	大崎・熊丸・櫻木・福田・松井
20	ガーデニング愛好会	中嶋	越地・藤田

資料 2 - 2 - ③ - 5

学生課組織図と業務分担表

学 生 課 組 織 表

H. 18. 4. 1作成

構成員：課長 1，専門員（専門職員） 1，係長 3，主任 3，看護師 1，非常勤（8時間） 3，パート（6時間） 2
 技術職員 19 合計 33名

学生課長（1）

（各係事務総括）

専門員（専門職員）（1）

{ 入学者選抜に係る企画、立案、実施（体験セミナー、中学校訪問、入試説明懇談会含む）
 教育課程編成に係る専門的事項
 学籍に関する重要事項、課内連絡調整 }

教務係（18）

{ 入学者選抜の実施、学生の試験、時間割作成、指導要録、教務に関する諸証明書の発行、
 学生の進級（卒業、修了）査定 }

係長 1、主任 1、非常勤 1（8時間）、パート 2（6時間）

技術職員 13（技術専門職員 10、技術職員 3）

一般化学(1)：学生実験準備、実験補助

一般物理(1)：学生実験準備、実験補助

機械工学科(2)：学生実験準備、学生補助、卒業研究準備、設備機械維持管理

電気電子(2)：学生実験準備、学生補助

制御情報(2)：学生実験準備、実験等補助

生物応用(2)：学生実験準備、実験補助、卒業研究指導補助

材料工学(2)：学生実験準備、実験補助

情報処理センター(1)：学生演習補助、機器管理及び保守

学生係（4）

（授業料免除、奨学金、学生の課外活動全般、学生賞罰、学生の厚生施設利用、学生の諸証明、就職関係）

係長 1、主任 1、看護師 1、非常勤（8時間） 1

寮務係（3）

（寮生に関する全般的な事項、留学生関係）

係長 1、主任 1、非常勤（8時間） 1

実習係（6）

（工作実習実技指導補助、学生実験準備、卒業研究準備、機械設備維持管理）

係長 1（技術専門職員）

係員 5（技術専門職員 3、技術職員 2）

出典：学生課組織図と業務分担表

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況) 基礎学力を重視するために、学生が卒業するまでに修得すべき一般科目の単位数(選択科目を含む)を78単位に設定し、人間の素養の涵養という観点から、4、5年生に対する人文社会科学及び語学の2群から構成される一般選択科目を27科目開講している。教育の目的を達成するため、現在、一般科目担当教員は人事交流の教員(数学)を含む22名が配置され、一般科目担当の非常勤講師も適切に配置されている。このうち、理科には10名が、また文科には12名が配置され、一般科目をバランスよく担当している。高等専門学校設置基準では5学科構成の場合、専任の一般科目担当教員は22名以上となっているので、設置基準を満たしている(資料3-1-①-1、1-①-2、訪問調査時に提示)。

資料3-1-①-1

一般科目担当教員一覧(平成18年5月現在)

一般科目(文科)			一般科目(理科)		
教授	東島 光雄 中畑 義明 平元 道雄 江島 孝則	社会 英語 国語 英語	教授	川越 茂敏	数学
			助教授	宮本 泉	化学
大串 伸	化学				
中坊 滋一	数学				
助教授	小宮 厚 米永 正敏 木寺 英史 松尾 一 福田かおる 龍頭 信二	国語 英語 体育 社会 英語 体育	越地 尚宏	物理	
			山崎 有司	物理	
			高橋 正郎	数学	
			酒井 道宏※	数学	
			講師	谷 太郎	物理
助手	金城 博之 志賀 充	英語 体育	山本 稔	数学	

※人事交流(岐阜高専より)

(分析結果とその根拠理由) 一般科目担当教員の数は高等専門学校設置基準を満たし、一般科目の教育課程に沿って文科及び理科教員の配置もバランスよく配置されている。一般選択科目も十分に準備されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況) 教育の目的を達成するため、学生が卒業するまでに修得すべき専門科目の単位数を89単位に設定している。そのための専門科目を担当する教員として、専門学科所属の教員57名が配置されている。必要に応じて非常勤講師も適切に配置している。高等専門学校設置基準では5学科構成の場合、専任の専門学科所属教員は36名以上となっているので、設置基準を満たしている(資料3-1-②-1、1-②-2、訪問審査時に提示)。

資料 3-1-②-1

専門学科所属教員一覧（平成 18 年 5 月現在）

機械工学科		電気電子工学科		制御情報工学科	
教授	廣尾 靖彰 平 啓国男 松井 悟 永野喜三郎 櫻木 功 松永 崇	教授	青山 洋一 中島 勝行 長田 芳裕 池田 隆	教授	赤坂 則之 福田 幸一 川口 武実 綾部 隆 丸山 延康
		助教授	高松 政利 平川 靖之 宮崎 浩一		
		講師	原 卓伸		
助教授	原田 豊満 藤田 雅俊 中武 靖仁 橋村 真治	助手	大崎 邦倫 後藤 優治	助教授	江崎 昇二 江頭 成人 前田 道治 小田 幹雄 黒木 祥光
		講師			
講師	中尾 哲也 田中 大			助手	熊丸 憲男 中野 明
生物応用化学科		材料工学科			
教授	森 哲夫 伊藤 義文 泉本 英次 津田 祐輔	教授	重松 浩氣 平野 正和 笹栗 信也 馬越 幹男		
		助教授	奥山 哲也 田中 慎一 矢野 正明 濱上 寿一		
				講師	山本 郁
助教授	野坂 通子※ 富岡 寛治 中 寛裕之 辻 豊 梶 隆彦 笈木 宏和 石井 努	助手	久保 甚一郎		
		講師	渡邊 勝宏		
助手	大岡 久子				

※人事交流(佐世保高専より)

各学科の教員数は、それぞれ機械工学科 12 名、電気電子工学科 10 名、制御情報工学科 12 名、生物応用化学科 13 名（人事交流の教員 1 名を含む）、及び材料工学科 10 名である。人数の多い学科に関して、機械工学科は他学科にも及ぶ工作工場における実習を担当していること並びに数学・物理の一部を担当しているため、制御情報工学科は「制御」と「情報」という複合的な教育課程となっていること並びに教育用 IT システムの運用に関わっているため、及び生物応用化学科は「応用化学コース」と「生物コース」の 2 コースを持つ複合学科であるためである。

（分析結果とその根拠理由） 教育の目標を達成するため、専門学科所属の教員数は高等専門学校設置基準に規定された数を大幅に上回って配置されている。また、各学科の教員配置数も本校の教育課程及び学校運営に沿って、適切に配置されている。

観点 3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点到に係る状況） 機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の 2 専攻からなる本校専攻科は、平成 5 年 4 月に設立された。設立時から 5 年に一度、大学評価・学位授与機構の教員審査を受けて

きた。審査に合格した教員数は、平成15年度の審査では、専任及び兼任を含めて専門学科所属の35名、一般科目担当の8名で、それぞれの教員は深い専門知識を有し、先端技術や新しい時代に対応できる技術者の育成という専攻科の教育目標を達成するための各科目に対して適切に配置されている（資料3-1-③-1、1-③-2）。なお、専攻科には原則的に非常勤講師を配置しない方針である。

（分析結果とその根拠理由） 教育の目的を達成するために配置された教員については、大学評価・学位授与機構の審査を受けている。審査に合格した教員の多くが博士の学位を有し、教育の目標を達成する科目に対して適切に配置されている。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点到に係る状況） 平成18年5月1日現在における本校教員の年齢構成は資料3-1-④-1である。

資料3-1-④-1

教員の年齢構成一覧（平成18年5月現在）

教員の年齢別人数(人)

	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	一般科目	合計
60歳代	2	2	1	1	1	1	8
50歳代	4	2	3	4	4	8	25
40歳代	2	2	3	3	2	6	18
30歳代	4	4	4	4	3	6	25
20歳代	0	0	1	1	0	1	3
合計/人	12	10	12	13	10	22	79

出典：庶務課人事係資料

年齢構成は、60歳代が10%、50歳代が33%、40歳代が23%、30歳代が32%、及び20歳代が4%であり、教員組織は均衡ある年齢構成に配慮されている。教員の学位取得状況については、専門学科所属教員の84%が博士の学位を取得している。また、一般科目担当教員についても27%が博士の学位を取得している。専門学科所属教員のうち、24名（42%）が民間企業・研究機関経験者である。さらに、22名（28%）の教員が海外での教育研究経験が、また11名（14%）の教員が内地研究員として国内の大学にて研究を行った経験がある。

教員の採用は、すべて公募制であり、高等専門学校設置基準第11条～第14条に則り、人事連絡委員会に諮って公募、選考を行って、校長が採用を決定している（資料3-1-④-2、訪問調査時に提示）。

このように、本校の教育目的を効果的に達成するため、教育経歴や実務経験に配慮がなされている。教員組織の教育研究活動を促進するため紀要を発行したり、学協会での顕著な功績があった教員や教育分野で功績があった教員に対して表彰を実施している（資料3-1-④-3、1-④-4）。

（分析結果とその根拠理由） 教員組織は、年齢構成に配慮され、博士の学位取得者が多く、多様な教育経歴や実務経験を持った教員より構成されている。これらを考慮した公募が行われ、公正に教員採用を行っている。また、本校独自の表彰制度があり、教員の教育研究活動の活性化を図っている。

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

（観点到に係る状況） 教員の採用については人事連絡委員会で審議され、それに基づいて公募される（資料3-1-④-2、訪問調査時に提示）。応募者は書類審査及び面接審査の二段階で、調査委員会が適否を審査し、その結果をそれぞれ人事連絡委員会で審議する。この結果に基づき、校長が採用を決定している。教員の内部昇格については、同様の手順で審議・決定している。また、非常勤講師の任用については、学科長委員会で適切に審議されている（資料3-2-①-1、訪問調査時に提示）。これらの採用、内部昇格、任用は、高等専門学校設置基準(第6条～第14条)に準拠している（資料3-2-①-1、訪問調査時に提示）。（実施状況など詳細についての資料は、プライバシー保護の観点から訪問調査時に提示する。）

（分析結果とその根拠理由） 教員の採用、内部昇格は、人事連絡委員会における審議を経て公正に採用・昇格が行われている。また、非常勤講師の任用は、学科長委員会で適切に行われている。

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

（観点到に係る状況） 教員の教育活動に関する評価をより客観的に、かつ公正に行う目的で、各部署の責任者による評価を取り入れた評価体制が確立し、評価が実施されている。評価規則は全教員に公表されている（資料3-2-②-1、訪問調査時に提示）。

（分析結果とその根拠理由） 教育・研究活動全般に関する評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われている。

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するのに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点到に係る状況） 教育課程を展開するのに必要な職員は、主として学生課に配置されている。教務に係る事務は学生課教務係5名が担当し、実験実習などに係る技術職員は、学生課教務係及び実習係に19名配置されている。このうち、機械工学科工作工場には6名の技術職員が配置され、機械工学科以外の学科に対しても工作実習の支援に従事している。学生の課外活動及び福利厚生などに係る事務職員は、学生課学生係に4名（うち看護師1名）配置されている。学生寮の管理など

に係る事務職員は学生課事務係に3名配置されている。このように、教員及び学生に対して教育支援を行う職員が適切に配置されている。図書館には司書の資格を有する者を含む事務職員が3名配置されている（資料3-3-①-1、訪問調査時に提示、3-①-2、訪問調査時に提示、3-①-3）。

以上のことから、本校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員などの教育支援者が適切に配置されている。

（分析結果とその根拠理由） 事務、技術職員の定員削減が行われている中、本校では教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員などの教育支援者を適切に配置している。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点） 専門学科所属教員の84%が博士の学位を取得しており、一般科目担当教員についても27%が博士の学位を取得している。教員の経歴については、専門学科所属教員のうち41%が民間企業・研究機関経験者であり、多様な経歴をもつ者で構成されている。

教員採用については公募制で、人事連絡委員会で公正に審議が行われ、内部昇格についても同様に人事連絡委員会で審議し、最終的には校長が決定している。

教育・研究活動全般に関する評価をする体制が整備され、実際に年2回評価を実施している。また、評価規則を全教員に公表している。

（改善を要する点） 該当なし。

（3）基準3の自己評価の概要

教育の目的を達成するため、本校には一般科目担当教員として22名、専門学科所属教員として57名、それぞれ専任教員を配置しており、必要に応じて適切に非常勤講師も配置している。いずれも高等専門学校設置基準を満たしている。また、一般科目の理科及び文科の教員並びに専門学科の教員は、本校の教育課程に沿ってバランスよく配置されている。

2専攻からなる本校専攻科は平成5年4月に設置されているが、科目担当教員は5年に一度、大学評価・学位授与機構の教員審査を受けている。これらの全教員が、専攻科の科目担当教員として認定されており、専攻科の教育目標を達成するための各科目に、それぞれ適切に配置されている。

教員組織は、均衡ある年齢構成に配慮されており、教員の博士の学位取得者は専門科目担当教員の84%、一般科目担当教員についても27%である。また、専門学科所属教員には多数の民間企業・研究機関経験者がおり、海外や国内の大学等で教育研究活動に従事した経験のある教員も多い。

教員の採用は公募制を取り、人事連絡委員会で審議する体制が整備されている。内部昇格に関しても同様の手順で公正に審議し、最終的には校長が決定する。本校独自の表彰制度があり、教員の教育研究活動の活性化を図っている。非常勤講師の任用については、高等専門学校設置基準に準拠して、学科長委員会で適切に審議する体制が整備されている。教員の教育研究活動に関する定期的な評価を行う目的で、各部署の責任者による評価を取り入れた評価体制が確立し、実際に評価を実施している。その評価規則は全教員に公表している。

事務、技術職員の定員削減が行われている中、本校では教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員などの教育支援者を適切に配置している。

資料3-1-③-1

専攻科担当教員一覧（一般科目及び専門基礎科目）

授 業 科 目		授業形態	開講学年	単 位 数	担当教員	
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	演習	1年	1	福田かおる
		実践英語Ⅱ	演習	1年	1	福田かおる
		コミュニケーションⅡ	演習	2年	2	江島孝則
		環境倫理学	講義	1年	2	東島光雄
		産業デザイン演習	演習	1年	2	藤田雅俊
		工学倫理	講義	2年	2	東島光雄
	必修科目単位小計				10	
	選択	産業財産権特論	講義	1年	2	伊藤義文
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	1年	2	
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2年	2	
選択科目単位小計				6		
一般科目開設単位合計				16		
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	1年	2	泉本英次
		現代物理学	講義	1年	2	谷 太郎
		応用情報処理演習	演習	1年	2	中尾哲也、奥山哲也、富
		必修科目単位小計				6
	選択	応用数理Ⅰ	講義	1年	2	川越茂敏
		応用数学Ⅱ	講義	1年	2	室谷健太
		応用数学Ⅱ	講義	2年	2	中坊滋一
		量子力学	講義	1年	2	越地尚宏
		物性化学	講義	1年	2	津田祐輔
		画像工学	講義	1年	2	黒木祥光
		応用情報処理	講義	1年	2	江頭成人
	選択	統計力学及び熱力学	講義	2年	2	越地尚宏
		専攻科特論	講義	2年	4	
		選択科目単位小計				20
専門基礎科目開設単位合計				26		
一般科目、専門基礎科目開設単位合計				42		

出典：学生課教務係作成

資料 3-1-③-2

専攻科担当教員一覧 (各専攻)

機械・電気システム工学専攻						
授 業 科 目				担当教員		
専 門 科 目	必 修	創造工学実験	実験	1年 2	廣尾、橋村、田中(大)、青 田中大 藤田、池田、前田、伊藤、奥	
		技術英語	演習	2年 1		
		先端工学概論	演習	1年 1		
		専攻科研究論文	実験	1, 2年 10		
		専攻科インターンシップ	実習	2年 7		
	必修科目単位小計				21	
	選 択	弾塑性力学	講義	1年 2	原田豊満	
		応用流動工学	講義	1年 2	松永崇	
		生産加工学	講義	2年 2	永野喜三郎	
		移動現象論	講義	1年 2	平渡国男	
		計算力学	講義	2年 2	中尾哲也	
		設計システム工学	講義	2年 2	廣尾靖彰	
		メカトロニクス工学	講義	2年 2	綾部隆	
		システム制御工学	講義	1年 2	赤坂則之	
		センサー工学	講義	1年 2	江崎昇二	
		生体情報工学	講義	2年 2	前田道治	
		半導体電力変換工学	講義	1年 2	川口武実	
		応用電磁気学	講義	1年 2	前田三男	
		デジタル信号処理	講義	1年 2	池田隆	
		プラズマ工学	講義	2年 2	宮崎浩一	
		機械工学特論	講義	1年 2	松永 崇	
電気・電子工学特論	講義	1年 2	青山・中島・長田・池田・宮崎			
制御情報工学特論	講義	1年 2	福田幸一			
選択科目単位小計				34		
専門科目開設単位合計				55		
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目含む)				91		
物質工学専攻						
専 門 科 目	必 修	創造工学実験	実験	1年 2	伊藤義文、津田祐輔 笹栗信也 藤田、池田、前田、伊藤、奥	
		技術英語	演習	2年 1		
		先端工学概論	演習	1年 1		
		専攻科研究論文	実験	1, 2年 10		
		専攻科インターンシップ	実習	2年 7		
	必修科目単位小計				21	
	選 択	有機反応化学	講義	1年 2	石井努	
		有機構造化学	講義	2年 2	辻 豊	
		生体機能分子学	講義	1年 2	野坂通子	
		生体物質化学	講義	1年 2	笈木宏和	
		化学工学特論	講義	2年 2	泉本英次	
		高分子材料特論	講義	1年 2	森哲夫	
		応用物理化学	講義	2年 2	梶隆彦	
		真空工学	講義	2年 2	奥山哲也	
		機能材料学	講義	1年 2	奥山哲也	
		材料組織制御	講義	2年 2	山本郁	
		材料組織学特論	講義	1年 2	平野正和	
		表面処理工学	講義	1年 2	田中慎一	
		材料強度学	講義	2年 2	笹栗信也	
		無機材料学	講義	1年 2	馬越幹男	
		生物学特論	講義	1年 2	津田祐輔	
材料工学特論	講義	1年 2	笹栗信也			
選択科目単位小計				32		
専門科目開設単位計				53		
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目含む)				89		

出典：学生課教務係作成

資料3-1-④-3

久留米工業高等専門学校表彰委員会規則

(趣旨)

第1条 久留米工業高等専門学校(以下「本校」という。)における教育、研究、社会貢献、管理運営に対し、特に顕著な功績を挙げた本校教員に「功労賞」を授与し表彰するため、表彰委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(表彰を受ける者)

第2条 功労賞の表彰は、次に掲げる各号のいずれかに該当する者について行う。

- (1) 講義、演習、実験・実習等の授業において、特に教育効果を高めた者
- (2) 学生指導、クラブ活動等学生への教育に特に功績のあった者
- (3) 研究において顕著な実績を修め、外部から高い評価を得た者
- (4) 産学連携、地域連携、国際連携等により本校の社会貢献に特に功績があった者
- (5) その他、本校の管理運営に対して特に功績があった者

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、校長を委員長とする。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 専攻科主事
- (6) 企画主事
- (7) 各学科長
- (8) 事務部長
- (9) その他校長が必要と認めた者

(推薦方法)

第4条 委員会は、毎年1回、年度終了時までには本校教員に候補者の推薦募集を行う。本校教員は、1名以内の候補者を別紙様式により委員長あてに推薦することができる。

(表彰を受ける者の決定)

第5条 委員会は、推薦のあった者の中から合議により功労賞候補者を選定し、校長が決定する。

(表彰の方法)

第6条 表彰は、校長が表彰状を授与して行う。なお、記念品を授与することができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、庶務課人事係で処理する。

附 則

この規則は、平成15年3月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年11月1日から施行する。

出典：久留米工業高等専門学校規則集

資料3-1-④-4

平成17年度第1回表彰委員会記録

- ◆日時 平成18年3月16日(木) 13時40分から13時55分
- ◆場所 小会議室
- ◆出席者 前田校長、馬越教務主事、松井学生主事、櫻木寮務主事、笹栗専攻科主事、
松永・青山・綾部・津田・東島・宮本学科長、小川事務部長
- ◆陪席者 陶山庶務課長
- ◆審議事項

1. 「功労賞」候補者の推薦について

審議に先立ち、校長より、表彰規程第5条「合議」の仕方について、「申し合せ」を作成したので審議願いたいとの発言があり、審議の結果、了承された。

引き続き、「功労賞」候補者の推薦募集について、1名の推薦があったので審議願いたいとの発言があり、馬越教務主事より、電気電子工学科後藤雄治助手の推薦理由について、別紙のとおり、第2条第1号、第2号、第3号、第4号に該当する旨の説明がなされた後、申し合わせのとおり無記名による可否投票を行った結果、委員全員の可票を得たことにより、了承された。

出典：平成17年度第1回表彰委員会記録

資料 3 - 3 - ① - 3 (1 / 3)

事務分掌一覧

庶務課事務分掌一覧	
専門職員	庶務係
<ul style="list-style-type: none"> ○指定統計調査等の諸調査 ○自己点検・評価及び外部評価 ○将来構想策定に係る企画・調査 ○学則その他諸規程の制定及び改廃 ○地域社会との交流(産学民連携の推進) ○生涯学習、公開講座、学校開放等 ○教育研究組織等 ○日本技術者教育認定機構(JABEE) ○その他企画調査に係る事務のうち特定の専門的事項 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。 ○機密 ○儀式・会議その他諸行事 ○公印の管守 ○公文書類の收受及び発送 ○広報及び情報公開 ○内地及び外地研究員 ○民間団体等の研究助成等 ○科学研究費(会計課の所掌に属するものを除く。) ○学術団体等との連絡 ○宿日直 ○構内の警備取締り ○職員の諸証明(人事係の所掌に属するものを除く。) ○学校要覧等刊行物 ○渉外 ○その他他の課及び係の所掌に属さないこと。
人事係	図書係
<ul style="list-style-type: none"> ○職員の健康管理及び福祉 ○職員の定員及び現員 職員の任免・分限・懲戒及び保障 ○職員の給与 ○栄典及び表彰 ○職員の勤務評定 ○職員の研修 ○職員の公務災害補償 ○共済組合の長期給付及び退職手当 ○職員の人事記録 ○人事にかかる調査及び統計 ○その他人事 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書の受入れ ○図書の購入計画 ○図書の分類 ○図書の目録作成 ○図書の保管及び書庫内の配架整理 ○図書の閲覧及び貸出し ○図書及び図書館の利用についての指導 ○図書関係の調査及び統計 ○その他図書

資料 3 - 3 - ① - 3 (2 / 3)

事務分掌一覧

会計課分掌一覧	
総務係	出納係
<ul style="list-style-type: none"> ○会計に関する企画並びに連絡調整 ○会計関係法規 ○会計官吏の異動 ○概算及び予算の要求 ○予算の配賦・調整及び流用 ○支出負担行為計画及び支払計画 ○支出負担行為書案及び支出決議書案の監査 ○支出負担行為の確認 ○歳入金にかかる債権の管理並びに歳入徴収 ○債権管理及び歳入徴収にかかる計算証明 ○会計の検査及び監査 ○共済組合(長期給付を除く。) ○科学研究費の経理 ○会計にかかる調査及び統計(他係に属するものを除く。) ○他の係に属さないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歳入の収納 ○歳入金以外の債権の管理並びに徴収 ○給与の計算 ○前渡資金 ○所得税等の徴収 ○人件費及び旅費の支出負担行為書案及び支出決議書案の作成 ○小切手等の振出し及び支払 ○歳入及び歳出の決算 ○支出官及び出納官吏の計算証明 ○科学研究費の出納 ○奨学寄附金その他委任経理 ○出納にかかる調査及び統計 ○その他出納
用度係	施設係
<ul style="list-style-type: none"> ○物品の管理に関する計画 ○物品の調達及び修理 ○物品の管理 ○物品管理官の計算証明 ○物件費にかかる契約手続 ○物件費の支出負担行為書案及び支出決議書案の作成 ○物品の貸借・管理換及び寄附受入れ ○生産品及び不用物の処分 ○自動車の管理 ○運転手及び作業員の業務 ○用度にかかる調査及び統計 ○その他用度 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設及び環境整備 ○営繕関係の予算資料作成 ○営繕工事の企画設計 ○営繕工事の契約・施行及び検査 ○設備及び営繕用資材の需給 ○土地・建物・電気・ガス・水道・電話及び暖房施設の維持保全 ○国有財産(借入土地・建物等を含む。) ○職員の宿舎(庶務課の所掌に属するものを除く。) ○施設にかかる調査及び統計 ○その他施設

資料 3 - 3 - ① - 3 (3 / 3)

事務分掌一覧

学生課分掌一覧	
専門職員	教務係
<ul style="list-style-type: none"> ○専攻科の学生の募集及び入学者の選抜 ○専攻科の学生及び外国人留学生の入学・休学・転学・退学及び卒業・修了 ○専攻科の学生及び外国人留学生の教育課程の編成及び授業 ○専攻科の学生の試験及び成績 ○専攻科の学生の学業成績の記録及び整理・保管 ○専攻科の学生及び外国人留学生の学籍 ○専攻科の学生及び外国人留学生の課外教育 ○専攻科の学生及び外国人留学生の学習支援システム ○専攻科の学生及び外国人留学生の学務にかかる調査及び統計 ○その他学務 	<ul style="list-style-type: none"> ○学生の募集及び入学者の選抜 ○学生の入学・休学・転学・退学及び卒業 ○教育課程の編成及び授業 ○学生の試験及び成績 ○学生の学業成績の記録及び整理保管 ○学生の学籍（郵送による卒業・成績証明書の入手） ○学生の課外教育 ○学生の学習支援システム ○学生の教務にかかる調査及び統計 ○その他学生課の他係に属さない事項
学生係	寮務係
<ul style="list-style-type: none"> ○学生に対する奨学金、授業料等の減免・猶予及び経済援助 ○学生及び学生団体の指導監督（高専体育大会） ○学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業 ○学生の保健管理及び保健施設の管理運営 ○学生旅客運賃割引証 ○日本体育・学校健康センターの事務 ○高専生活の手びきの編集 ○学生の集会・掲示等 ○学生の表彰及び懲戒 ○学生に対する職業指導及び「就職のあつせん ○学生主事及び学生課長印の管守 ○学生の厚生補導にかかる調査及び統計 ○その他学生補導 	<ul style="list-style-type: none"> ○学生の入退寮 ○寮生の指導監督 ○寮生の外出及び外泊 ○寮生に対する寄宿料の免除 ○学生寮における施設設備の保守保全並びに整備 ○学生寮の環境衛生 ○学生寮の警備及び防火 ○寮生に対する貸与物品 ○学生寮内食堂の管理運営 ○寮生の食費その他諸経理の経理 ○寮務主事印の管守 ○学生寮にかかる調査及び統計 ○その他学生寮の管理運営

出典：本校ホームページ

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①: 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況） 準学士課程及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーは、学校要覧、学生募集要項・入学案内、ホームページ、中学生向け学校パンフレット、専攻科パンフレット、中学校向けの学校説明会及び入試説明懇談会の資料に記載し、本校職員を含めて社会に公表することで周知している（資料 4-1-①-1～8）。また、323校の中学校訪問を訪問して上記の資料を配布し、アドミッション・ポリシーについて説明している（資料 4-1-①-6、1-①-8）。

（分析結果とその根拠理由） 中学生に理解できる明確なアドミッション・ポリシーを学生募集要項などの各種印刷物やホームページなどに記載し、社会や本校構成員に公開・公表しており、周知徹底を図っている。

観点 4-2-①: アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況） 準学士課程においては、平成17年度入学者選抜試験まで、5教科(国語、数学、英語、理科、社会)の全国統一問題の成績と中学校からの内申書の評価に基づき、学科ごとに、その志望順位を考慮して点数の高い順に合格者を決定していた。また、入学者の学力試験成績と内申点の相関を分析した結果、各学科における学年総合成績と内申点が高い相関性を示していたため、内申点を重視した入学者選抜を取り入れてきた。さらに志望順位（第一希望、第二希望及び第三希望）を考慮して、第一希望を優先的に入学させてきた。しかし、入学者の試験における各教科の得点分布を調査した結果、数学の科目において、50点未満の得点未満の入学者の増加が顕著に認められるようになった（資料 4-2-①-1、訪問調査時に提示）。そのため、アドミッション・ポリシーに記載してある基礎学力重視の観点から、平成18年度入学者選抜試験より、合否判定基準の見直しが入試運営委員会で議論され、内申点の比率を引き下げ、志望順位優先の合否判定を止め、基礎学力重視の入学者選抜制度に切り替えた（資料 4-2-①-2、訪問調査時に提示、2-①-3、訪問調査時に提示）。

また、学力選抜以外にも推薦による選抜試験を行っているが、中学校の内申点が絶対評価で行われていることを勘案し、本校のアドミッション・ポリシーに沿った基礎学力重視の学生受入を実施するために、定員の30%まで推薦による選抜を実施している高専が多いのに対して、本校は入学定員の20%程度に留めている。さらに推薦による選抜試験では、作文検査と面接検査及び調査書の総合評価により合格査定を行っているが、アドミッション・ポリシーに沿った作文題目（資料 4-2-①-4）や面接検査時における評価項目（資料 4-2-①-5、訪問調査時に提示）を設定している。

資料 4-2-①-4

推薦入学試験 作文題目一覧

年 度	作 文 題 目
平成 1 6	宇宙空間と人間
平成 1 7	自然現象と技術
平成 1 8	科学技術と環境

出典：本科推薦入学者選抜試験資料より作成

専攻科の入学者選抜も、専攻科課程のアドミッション・ポリシーに基づいて行われているが、平成 1 8 年度入学試験より合否判定基準を明確に定め、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜が適切に実施されている（資料 4-2-①-6、訪問調査時に提示）。

（分析結果とその根拠理由） 明確なアドミッション・ポリシーを制定し、中学生や中学校及び社会に公表するとともに、教職員にも周知している。随時選抜方法の見直しを行い、アドミッション・ポリシーに沿って入学者選抜を実施している。

観点 4-2-②： アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況） 準学士課程受験者数及び合格者について、学力試験成績と内申点の相関を分析し、合格査定における内申点の配分が適切であるかどうかを検討している。入学後の学年総合成績、学力試験成績、中学校での内申点の相互相関を分析した結果、学年総合成績と内申点との間に高い相関関係があったため、内申点や志望順位を重視した入学者選抜を行ってきた（資料 4-2-②-1、訪問調査時に提示）。しかし、入学者の学力試験における各教科の得点分布を調査した結果、数学において、得点が 50 点未満の入学者の増加が顕著に認められ（資料 4-2-①-1、訪問調査時に提示）、アドミッション・ポリシーに記載してある基礎学力重視の観点から、平成 1 8 年度入学者選抜試験より、合否判定に際して内申点の比率を引き下げ、志望順位優先の合否判定を撤廃した。さらに、工業系専門科目の最も基礎となる入学者の数学学力を今後継続的に調査していくことが教務委員会で確認され（資料 4-2-②-2、訪問調査時に提示）、平成 1 8 年度入学者から実施している。この結果については、FD 会議で報告され（資料 4-2-②-3、詳細は訪問調査時に提示）、今後入試運営委員会で検討することになっている。

専攻科においても、問題の作成、試験の実施、合否査定に関して入試運営委員会で審議し、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を実施している（資料 4-2-①-6、訪問調査時に提示）。

（分析結果とその根拠理由） アドミッション・ポリシーに基づき、学生を受け入れてきた。そして、入学後の追跡調査及び検証を行って、継続的な入学者選抜の改善に役立てている。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況) 過去数年の入学辞退者数の推移を勘案して、準学士課程各学科の定員 40 名に対して、毎年 45 名程度合格させている。入学辞退者数は、毎年、各学科で 0～5 名程度いるが、実入学者数は、定員に対してほぼ同等となっている。入学手続き段階で、入学辞退者が多く定員割れを起こした場合には、追加合格者を発表し、すみやかに入学手続きを行うことにしている。したがって、毎年、各学科の定員を若干上回った実入学者となっている。

専攻科課程では、毎年、両専攻とも定員以上の実入学者数となっているが、教員数、研究施設・設備などまったく支障はない(資料 4-3-①-1)。

(分析結果とその根拠理由) 準学士課程及び専攻科課程の実入学者数が、定員に対して、大幅に超えたり、大幅に下回ったりする状況は現在までない。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 基礎学力を重視したアドミッション・ポリシーに沿って、準学士課程及び専攻科課程ともに適切な入学者選抜が実施され、入学辞退者は少なく、実入学者数が定員に対して適正である。

(改善を要する点) 該当なし。

(3) 基準 4 の自己評価の概要

教育目的に沿って、準学士課程入学者、編入学者及び専攻科課程入学者に対して、明確なアドミッション・ポリシーが定められており、学校要覧、学校パンフレット、学生募集要項・入学案内などの各種印刷物やホームページなどに記載し、本校構成員や社会や対して周知・公表している。

準学士課程では、アドミッション・ポリシーに記載してある基礎学力重視の観点から、平成 18 年度入学者選抜試験より、合否判定に際して内申点の比率を引き下げ、志望順位優先の合否判定を撤廃した。さらに、工業系専門科目の最も基礎となる数学に対する入学者の学力を今後継続的に調査していくことが教務委員会で確認され、平成 18 年度入学者から実施している。専攻科課程においても同様に、問題の作成、試験の実施、合否査定に関して入試運営委員会で審議し、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を実施している

推薦による選抜試験においても、作文検査と面接検査及び調査書の総合評価により合格査定を行っているが、アドミッション・ポリシーに沿って作文題目や面接検査時における評価項目を設定して、適切な選抜が行われている。

アドミッション・ポリシーに沿った学力選抜及び推薦選抜を行っているが、準学士課程及び専攻科課程の実入学者数が、毎年それぞれの定員に対して、大幅超過となったり、大幅に下回ったりすることではなく、入学定員と実入学者数との関係は適正である。

教育理念

～ Guiding Principle of our Education ～

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を
兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成

We raise engineers with a spirit of independence, creativity, a broad
vision and humanity, who are ready to contribute to society

アドミッション・ポリシー ～ Admission Policy ～

■ 本科(準学士課程) *Associated Bachelor Course*

An applicant to the associate bachelor course should be as follows

1. 技術者になる意欲を持っている人
A person who has eagerness to become an engineer
2. 理数系の基礎学力が身につけている人
A person who has acquired the basics of science and mathematics
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
A person who has an independent mind and always abides by social rules
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人
A person who tries to deepen mutual understanding through conversations with other people

■ 専攻科(学士課程) *Bachelor Course*

An applicant to the bachelor course should be as follows

1. 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
A person who has a strong inquiring mind about science and technology, and will work actively
2. 専門分野の基礎を修得している人
A person who has learned basics of his/her specialized field
3. 社会性と倫理観を身につけている人
A person who has acquired ethics and social conscience
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人
A person who has acquired basic communication skills

資料 4 - 1 - ① - 2

○生物応用化学科

(教育目標)

低学年においては、化学工業技術者に必要な基礎知識を身に付け、高学年において生物化学関連もしくは応用化学関連の専門知識を身に付けた、社会に貢献できる実践技術者を養成します。

(学科概要)

21世紀は化学とバイオの時代です。プラスチックに代表される高分子材料・食品・医薬品などの工業製品が私達の生活を支えています。

低学年からこれら身の回りの商品の製造・性質などについて化学・生物の両面から学びます。高学年では有機原料からの高分子材料の設計・製造・管理などについて学ぶ応用化学コース、バイオ工業製品の製造について学ぶ生物化学コースのいずれかを選択できます。

○材料工学科

(教育目標)

ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を授け、これらの知識を応用して社会に貢献できる技術者を養成します。

(学科概要)

ものづくり基礎は、それを構成する材料から始まります。様々な工業製品に使用される材料には金属、セラミックス及び高分子などがあります。材料工学科では、これらの材料のうち、金属とセラミックスを主に、構造、物性、機能及び製造や加工法についての基礎と応用技術について学びます。

4. 修業年限

5年

5. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

- (1) 技術者になる意欲をもっている人
- (2) 理数系の基礎学力が身についている人
- (3) 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- (4) 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

6. JABEE教育プログラム

久留米工業高等専門学校には、JABEE（日本技術者教育認定機構）教育プログラムとして、機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、制御情報工学プログラム、生物応用化学プログラム及び材料工学プログラムの5つの教育プログラムが用意されています。各教育プログラムは、高専4年、5年及び専攻科1年、2年の教育課程から構成されています。

なお、詳細については、本校ホームページ (<http://www.kurume-nct.ac.jp/>) を参照下さい。

出典：平成18年度 学生募集要項・入学案内より抜粋

資料 4 - 1 - ① - 3

<http://www.kurume-nct.ac.jp/nyugaku.htm>

●●● ここは久留米高専に入学を希望される方々への情報を提供するページです。



■ 久留米高専のアドミッションポリシーは次のとおりです。

(注、アドミッションポリシー: 本校入学者に期待される人間像)

■ 本科

- (1) 技術者になる意欲をもっている人
- (2) 理数系の基礎学力が身についている人
- (3) 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- (4) 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

■ 専攻科

- (1) 科学技術に対する強い探求心を持ち、積極的に取り組む人
- (2) 専門分野の基礎を修得している人
- (3) 社会性と倫理観を身につけている人
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

■ 本科 募集要項

[ここをクリックしてください。](#)

■ 本科 4年次編入学募集要項

[ここをクリックしてください。](#)

■ 専攻科 募集要項

[ここをクリックしてください。](#)

出典：久留米高専ホームページより抜粋

資料 4 - 1 - ① - 4

歴史ある高専、未来ある高専。

久留米工業高等専門学校は、昭和14(1939)年に(旧制)久留米高等工業学校として設立されました。その後、九州大学に包括された昭和24(1949)年の九州大学久留米工業専門学校、昭和33(1958)年の久留米工業短期大学を経て、昭和38(1964)年、国立久留米工業高等専門学校が誕生しました。5年間でしっかりした基礎学力を身につけ、専門的な知識及び技術を修得することにより、産業界の第一線で活躍する技術者が生まれています。卒業後は、産業界への就職の道と、本校専攻科への入学あるいは大学への編入学の道が開かれています。充実した環境の中で、未来を担う技術者を育てます。



教育理念

自立の精神と創造性に富み、
広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成

アドミッション・ポリシー (入学者受け入れ方針)

- (1) 技術者になる意欲をもっている人
- (2) 理数系の基礎学力が身についている人
- (3) 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- (4) 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

教育の特徴

- ◎基礎科目を重視し、社会人として必要な一般教養と豊かな人間性を持った技術者を育てます。
- ◎専門教育では、教室での専門的講義のほか、実験・実習・卒業研究などを取り入れて、実践的技術者を育てます。
- ◎大学受験にとらわれずに、自分の目標に向かって5年間じっくりと勉強できます。
- ◎企業での就業体験を希望する学生には、インターンシップ(工場実習)の機会があります。
- ◎学生の自主性を尊重する校風の中、責任感と自立心を持った学生を育てます。
- ◎高専5年間で卒業した後、さらに専門的な勉強をするための教育課程として2年間の専攻科があります。専攻科修了生は、大学卒業点と同一「学士」の学位を取得できます。

出典：平成18年度中学生向け学校パンフレットより抜粋

資料 4 - 1 - ① - 5

専攻科の概要について

目的

工業高専の5カ年にわたる一貫した実践教育は、堅実な人材を産業界に送り出し一定の評価を受けています。しかし、近年の科学技術の高度化にともない、より深い専門知識のみならず幅広い視野をもった技術者が求められています。専攻科は、さらに高度な専門知識を追求するだけでなく、充実した実験・研究を行うことにより、独創的な研究開発や先端技術に対応できるエンジニアを育成します。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

- (1) 科学技術に対する強い探求心を持ち、積極的に取り組む人
- (2) 専門分野の基礎を修得している人
- (3) 社会性と倫理観を身につけている人
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

特色

少人数定員で充実した教育研究環境 少人数に対するきめ細かな講義が行われています。充実した教授スタッフを擁し各分野に及ぶ研究テーマの中から自らが選び、探求する研究プログラムを用意しています。学生は入学後すぐに研究室に配属され指導教員のもとで2年間の研究に取り組み、その成果は、公開発表会や各分野の学会等において発表されています。

高専本学科との継続性を重視した教育 高専5年間の実践的教育を基盤に、カリキュラムの継続性を重視しています。将来の研究開発に必要な専門科目の修得と、自ら問題を発見し解決する能力を身につけさせる実験・研究など、研究開発能力に優れた実践型技術者の養成を行っています。

インターンシップの実施 実践技術者としての資質を高めるとともに地元との連携を深めるために、企業あるいは研究機関において長期のインターンシップを実施しています。

学士号の取得と大学院への進学 大学評価・学位授与機構から大学卒と同じ学士号が授与され、直接、国立大学大学院（修士課程）へ進学しています。

社会人の受け入れ 高専卒業業者か又はそれと同等以上の学力があると認められる人であれば、既に企業等で活躍中の社会人も、積極的に受け入れています。

出典：平成18年度専攻科パンフレットより抜粋

資料 4 - 1 - ① - 6

平成17年度 中学校等訪問先一覧															
県	市	中学校名										計			
福岡県	田川市	田川中	金川中	猪位金中	後藤寺中	弓削田中	中央中	伊田中	鎮西中			8			
	山田市	山田中										1			
	田川郡	糸田中	方城中	赤池中	金田中	添田中	鷹峰中	川崎中	池尻中	勾金中	赤中	12			
	嘉穂郡	舘田中	庄内中	穂波東中	福築中	稲築東中	嘉穂中	碓井中	桂川中	稲波西中	筑穂中	10			
	鞍手郡	若宮中	宮田西中	宮田中	鞍手南中	鞍手北中	宮田光陵中	小竹中				7			
	直方市	直方第一中	直方第二中	直方第三中	植木中							4			
	飯塚市	飯塚第一中	飯塚第二中	飯塚第三中	幸袋中	鎮西中	二瀬中	菰田中				7			
	粕屋郡	宇美中	宇美東中	宇美南中	須恵中	須恵東中	志免中	志免東中	粕屋中	粕屋東中	久山中	16			
	宗像市	自由が丘中	城山中	河東中	中央中	日の里中						5			
	宗像郡	玄海中	津屋崎中	福岡中	福岡東中							4			
	春日市	春日中	春日東中	春日南中	春日西中	春日北中	春日野中					6			
	福岡市		三筑中	日佐中	田隈中	次郎丸中	西福岡中	原中	原中央中	鷹取中	原北中	金武中	65		
			老司中	柏原中	花畑中	長尾中	友泉中	城南中	梅林中	片江中	那珂中	横手中			
			宮竹中	筑紫丘中	長丘中	平尾中	野間中	春吉中	住吉中	高宮中	東住吉中	千代中			
			博多中	東光中	志賀中	和白中	和白丘中	香椎一中	香椎二中	香椎三中	城香中	多々良中央中			
			青葉中	松崎中	箱崎中	吉塚中	席田中	板付中	姪浜中	百道中	当仁中	福教大付属中			
			青葉中	城西中	香坂丘中	香坂中	下山門中	内浜中	西陵中	北崎中	玄洋中	元岡中			
			早良中	三宅中	福岡中	多々良中	舞鶴中								
			大野城市	大野中	大野東中	大和中	平野中	御陵中							5
			大宰府市	学院中	大宰府中	大宰府西中	大宰府東中								4
			筑紫野市	筑山中	筑紫野中	筑紫野南中	天祥中	二日市中							5
	筑紫郡	那珂川中	那珂川南中	那珂川北中								3			
	糸島郡	福吉中	二丈中	志摩中								3			
	前原市	前原中	前原西中	前原東中								3			
	小郡市	小郡中	大原中	三国中	宝城中	立石中						5			
	甘木市	秋月中	甘木中	南陵中	十文字中							4			
	朝倉郡	三輪中	比良松中	夜須中	東峰中	杷木中						5			
	三井郡	北野中	太刀洗中									2			
	浮羽郡	田主丸中	吉井中	浮羽中								3			
	久留米市		櫛原中	舘訪中	牟田山中	福教大付属中	荒木中	江南中	城南中	筑邦西中	宮の陣中	青陵中	14		
			高牟礼中	良山中	屏水中	明星中									
	筑後市	筑後北中	羽犬塚中	筑後中								3			
	八女市	見崎中	南中	西中	福島中	八女学院						5			
八女郡	広川中	上陽中	筑南中	星野中	黒木中	矢部中	光友中	辺春中			8				
柳川市	柳城中	柳南中	蓮池中	昭代中							4				
大川市	大川中	大川東中	大川南中	三又中							4				
大牟田市		甘木中	橋中	田隈中	歴木中	白光中	松原中	延命中	右京中	船津中	米生中	10			
		勝立中										1			
三池郡	高田中										1				
山門郡	東山中	山川中	瀬高中	三橋中	大和中						5				
三潁郡	三潁中	城島中	大木中								3				
佐賀県	唐津市	鬼塚中	鏡中	西唐津中	第一中	第五中						5			
	東松浦郡	巖木中	相知中									2			
	武雄市	武雄中	武雄北中	川登中								3			
	多久市	西溪中	中央中	東部中								3			
	小城郡	小城中	芦刈中	牛津中	三日月中							4			
	杵島郡	北方中	山内中	有明中	福富中	白石中	江北中	大町中				7			
	藤津郡	吉田中	嬉野中	塩田中								3			
	鹿島市	東部中	西部中									2			
	佐賀市	芙蓉中	金泉中	城北中	鍋島中	城東中	成章中	城南中	昭栄中	城西中	佐賀大学付属中	10			
	佐賀郡	大和中	富士中	北山中	東与賀中	川副中	思斉中	諸富中				7			
	神埼郡	三瀬中	背振中	東背振中	三田川中	神崎中	千代田中					6			
	三養基郡	中原中	三根中	上峰中	北茂安中	基山中						5			
	鳥栖市	鳥栖中	鳥栖西中	田代中	基里中							4			
	熊本県	荒尾市	荒尾第一中	荒尾第二中	荒尾第三中	荒尾第四中	荒尾第五中						5		
		玉名市	玉名中	有明中	玉南中	玉陵中							4		
玉名郡		長洲中	腹栄中									2			
大分県	日田市	三隈中	北部中	大明中	東部中	南部中						5			
	日田郡	東溪中										1			
学習塾	福岡市	栄進館	栄進館	栄進館	栄進館	栄進館	栄進館	全教研				7			
	天神本館	原校	香椎本館	春日本館	大橋校	二日市校						6			
	久留米市	久留米本校	久留米	全教研	英数研	学習塾	学習館					6			
久留米本校	久留米本校	ゼミナール	全教研	トップスクール	アルファ						5				
佐賀市	栄進館	佐賀駅前教室	佐賀中央教室	鍋島教室	本庄教室						5				
中学校合計											323				
整合計											18				

出典：平成17年度 中学校訪問先リスト

資料 4 - 1 - ① - 7

平成17年度 久留米高専 学校説明会

アドミッションポリシー

- 技術者になる意欲を持っている人
- 理数系の基礎学力が身についている人
- 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人



Kurume National College of Technology

54

出典：平成17年度 学校説明会 説明資料

資料 4-1-①-8

平成 17 年度 中学校等訪問の手引き

1. 面会の相手について

事務室で 3 年の学年主任又は担任に面会を依頼。

2. 資料について

配布資料		手持資料
1.平成 18 年度入学案内資料	各校 1 部	1.中学校訪問の手引き
2.学校案内パンフレット	3 年生徒数	2.平成 18 年度入学案内資料
3.学校説明会案内	3 年クラス数	3.受験・合格・入学状況調
4.学校要覧	前年受験者数×2	4.平成 17 年度在学学生名簿
5.専攻科案内	各校 1 部	5.平成 17 年度学校訪問先一覧表
6.K O S E N ?	各校 1 部	6.平成 18 年度納付金一覧表
7.ポスター	3 年クラス数	7.平成 17 年度体験セミナー 参加者数調
8.高専奨学金案内 (学生支援機構)	3 年クラス数	8.お詫び文書 (中学校長宛)

3. 説明の内容について

- (1) 入試ミスのお詫び
- (2) 本校の教育理念及び教育の特徴と概要
- (3) 募集要項

・推薦 8 名程度/学科

2・3 年の 5 段階評価の総計が 77 以上

同一中学校からは 1 学科につき 2 名まで、計 10 名推薦可。

平成 17 年度	機 械	電気電子	制御情報	生物応用	材 料	合 計
志願者	16	18	10	32	6	82
合格者	11	10	9	11	6	47

・学力試験 第 3 志望学科まで記入可

久留米 (本校) と福岡 (代々木ゼミナール) の 2 会場で実施

- (4) 学校説明会 (中学生・保護者、先生)
 - ・佐賀会場 9 月 24 日 (土) 14:00～ 佐賀商工会館 地下会議室(県庁前)
 - ・福岡会場 10 月 1 日 (土) 14:00～ 天神ビル 11 階 9 号会議室
 - ・久留米会場 10 月 15 日 (土) 13:00～ 本校 第一体育館
- (5) 学校見学会 (中学生・保護者、先生)
 - ・本校 10 月 15 日 (土) 14:00～ 校内を自由に見学、申込不要
- (6) 入試説明懇談会 (進路指導の先生)
 - ・久留米会場 10 月 24 日 (月) 15:00～ ホテルニュープラザ
 - ・福岡会場 10 月 25 日 (水) 15:00～ 福岡国際ホール
- (7) ホームページ <http://www.kurume-nct.ac.jp/>

4. 依頼事項

- (1) 学校説明会/見学会への参加及びパンフの配付

5. その他

- (1) 訪問日を変更される場合は、資料の準備の都合がありますので、必ず事前に教務係までお知らせください。

出典：平成 17 年度 中学校訪問の手引き

資料 4 - 2 - ② - 3

平成 18 年 5 月 24 日

第 1 回 F D 会議

1. 新入生数学診断テストの結果報告
一般理科 (数学) 中坊 滋一 助教授

2. 平成 17 年度学生の授業評価アンケート結果報告
教務主事補 高橋 正郎 助教授

3. 卒業生の自己達成度評価及び学生支援に関するアンケート結果報告
企画主事補 中野 明 助手

4. 授業改善の P D C A について
教務主事補 福田かおる 助教授

5. P B L 講習会 (熊本電波高専、Temasek Polytechnic, Singapore) 報告
一般文科 (英語) 金城 博之 助手

出典：平成 18 年度 第 1 回 F D 会議資料

資料 4-3-①-1

過去 3 年間の入学定員数と実入学者数

進学士課程

年 度	学 科	入学定員 (名)	実入学者数 (名)
平成 16 年	機械工学	40	43
	電気電子工学	40	43
	制御情報工学	40	43
	生物応用化学	40	42
	材料工学	40	45
平成 17 年	機械工学	40	42
	電気電子工学	40	43
	制御情報工学	40	40
	生物応用化学	40	43
	材料工学	40	43
平成 18 年	機械工学	40	42
	電気電子工学	40	40
	制御情報工学	40	43
	生物応用化学	40	42
	材料工学	40	43

専攻科課程

年 度	専 攻	定員 (名)	実入学者数 (名)
平成 16 年	機械・電気システム工学	12	22
	物質工学	8	6
平成 17 年	機械・電気システム工学	12	26
	物質工学	8	11
平成 18 年	機械・電気システム工学	12	23
	物質工学	8	14

出典：久留米工業高等専門学校校報より抜粋

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系的性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況） 準学士課程の教育課程は、人間の素養の涵養を図るための一般基礎科目（人文社会科学系科目、自然科学系科目）と、実践的技術者育成を目的とした専門科目に分類される。低学年の人文社会科学系科目では、中等教育後期課程に準じた教育内容を主に教授している。4年及び5年には、大学教養課程に相当する人文社会科学系科目及び第二外国語系科目を一般選択科目として開講している。また、人文社会科学系科目や専門科目に繋がる自然科学系科目は、各学科とも低学年を中心に配置され、各学科とも学年進行とともに専門科目の比重が高くなる配置となっている（資料5-1-①-1）。各学科の専門科目の体系的性については、教育課程系統図（資料5-1-①-2）に示している。特に、実践的技術者育成の観点から、各学科ともに実験・実習科目を低学年より配置し、専門科目の内容を実験・実習を通じて理解できるように配慮している。

（分析結果とその根拠理由） 学年ごとの授業科目の配置は、教育目的に沿って、低学年では一般基礎科目を、高学年になるに従い専門科目を中心に体系的に配置している。また、各学科とも実践的技術者育成のために、実験・実習科目を配置している。

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況） 学生の進路に配慮して、4年、5年の専門必修科目では、各学科において進学にも就職にも対応できる科目配置を行っている（資料5-1-①-2）。また、4年、5年における一般選択科目では、人文社会科学系科目を多く開講している（資料5-1-②-1）。さらに、同一般選択科目においては、Ⅱ群として第二外国語系科目を設置しており、学生の国際社会への関心について配慮している（資料5-1-②-1）。

3年に編入学する外国人留学生に対しては、特例規則（資料5-1-②-2）に沿った配慮を、4年に編入学する高等学校からの編入生に対しては、教育課程表に専門概論科目（資料5-1-②-3）を配置している。平成18年度1年教育課程においては、4年、5年のいくつかの専門科目を学修単位とし、自学自習の促進、大学との単位互換制度に備えている（資料5-1-②-4）。

社会からの要請などに対応した教育課程の編成として、企業・公的研究機関で実習を行う短期インターンシップを実施しており、実習内容の発表会の実施（資料5-1-②-5）及び報告書（資料5-1-②-6、訪問調査時に提示）の提出をもって、単位を認定している。

本校では、準学士課程4・5年及び専攻科課程からなる各学科に対応した五つのJABEE教育プログラムを持っており、準学士課程と専攻科課程の連携にも配慮している（資料5-1-②-

7)。

(分析結果とその根拠理由) 編入学生及び留学生に対しては、編入学関連科目を開講している。学生のニーズや社会からの要請に応じ、人文社会科学科目及び語学科目を合わせて27科目の選択科目を開講するとともに、夏季休業中に短期インターンシップを実施している。五つのJABEE教育プログラムも持つことにより、準学士課程と専攻科課程の連携にも配慮している。

観点5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。)

(観点到に係る状況) 授業形態は講義、演習、実験、実習に大別される。低学年では各学科共通で一般教養及び基礎学力の充実を図るための講義科目が多く配置されている。演習、実験、実習については各学科とも低学年から高学年までバランスよく設定されている(資料5-1-①-1)。専門科目については、通常の実験・実習に加え、講義の中に実験を取り入れた科目(資料5-2-①-1)や、フィールドワークを取り入れた科目もある(資料5-2-①-2)。また、多くの教室には、液晶プロジェクターとスクリーンが整備されており、コンピューターを活用した講義も実施されている(資料5-2-①-3、2-①-4)。

(分析結果とその根拠理由) 教育の目的に照らして講義、演習、実験、実習がバランス良く配置されており、講義の中にも一部実験やフィールドワークを取り入れたものや、コンピューターを活用した講義など授業方法についても工夫されている。

観点5-2-②: 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点到に係る状況) シラバスは、教務主事主導で適切に作成され、学科別に冊子として配布されている(資料5-2-②-1、訪問調査時に提示)。また、同冊子には、教育課程系統図が示されているため、5年間の学習の流れも把握することができる。学生への周知については、各授業の最初に授業計画とともに授業内容、関連科目との関係、評価方法などについてシラバスを配布した上で説明している。また、シラバスについては、授業改善専門部会の主導で、授業評価アンケートを実施し、適宜修正を加えることにしている(資料5-2-②-2、2-②-3)。

(分析結果とその根拠理由) 適切にシラバスが作成され、学生に説明した上で授業に活用されている。

観点5-2-③: 創造性を育む教育方法(PBLなど)の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点到に係る状況) 学科により科目名・実施内容は異なるが、各学科において創造性を育む教育を実施している。例えば生物応用化学科では、「生物応用化学入門」を1年生に開講し、一つの商品を通じて専門学科の教員がそれぞれの専門に関係する講義を行っている(資料5-2-③-1)。

短期インターンシップは、4年の夏季休業期間中に実施される。インターンシップ終了後には、学科ごとに報告会を実施し、学生間のインターンシップ体験の共有化を図っている（資料5-1-②-5）。また、各学科とも5年生の卒業研究発表会を実施し、本校での創造性教育の集大成を行っている（資料5-2-③-2）。

（分析結果とその根拠理由） 創造性を育む授業が実施され、高学年では短期インターンシップ報告会・卒業研究発表会を行って、創造性の育成が図られている。

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

（観点到に係る状況） 成績評価基準は、学則第13条及び第14条の第2項（資料5-3-①-1）に基づき、「単位の取扱いに関する規程」（資料5-3-①-2）及び「学業成績の評価並びに単位の認定及び及落に関する規程」（資料5-3-①-3）が定められ、学生への周知は学生便覧に記載するほか、新入生に対しては入学オリエンテーション資料として「履修の手引き」（資料5-3-①-4）を配布、説明により指導を行っている。また、2年以上の学生についても、学級担任がホームルームなどで適宜指導を行っている。成績評価はシラバスに基づき科目担当者が行う。年度末の成績評価、及落査定及び卒業査定は、規定に基づいて教員全員で行っている（資料5-3-①-5、3-①-6、3-①-7）。また、「学業成績の評価並びに単位認定及び及落に関する規程」が定めた再評価を実施している（資料5-3-①-8）。この再評価結果についても、成績評価及び及落査定を全教員出席のもとで行っている。

（分析結果とその根拠理由） 成績評価及び進級・卒業認定の基準が明確に規定され、学生への周知も徹底されている。成績評価及び進級・卒業認定は、全教員の出席のもとで行われる及落査定会議、卒業査定会議において、適切に実施されている。

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

（観点到に係る状況） 新入生に対して高等教育機関としての高専における勉学及び課外活動の意義の周知あるいは団体行動の訓練のため、1泊2日の合宿研修を行っている。特別活動については、ホームルームとして1年から5年まで週1回1時間が設定されている（資料5-4-①-1、4-①-2）。人間の素養の涵養を図る目的で、学生大会、高専祭(文化祭・体育祭)、音楽祭、予餞会、クラスマッチ、交通安全教育、防災訓練、特別講演などが毎年学校行事として行われている（資料5-4-①-3）。各学科とも幅広い工業的な視野を培うために、日帰りの工場見学などのほかに、団体生活の基本を育むことも目的として4年に3泊4日程度の国内工場見学旅行を実施している（資料5-4-①-4）。

（分析結果とその根拠理由） 特別活動は高等専門学校設置基準に規定されている90単位時間以上実施されている。人間の素養の涵養を図るために各種文化イベント、体育関連イベント、安全に関する指導・講習が実施されているほか、新入生に合宿研修、4年に国内工場見学旅行を実施して

いる。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況) 生活指導に関しては、学生主事室、学級担任などが指導に当たっている。また、寮生については寮務主事室が中心となって宿直・日直教員も含めて学生の指導に当たっている(資料5-4-②-1、訪問調査時に提示)。さらに、校医、看護師による健康診断、健康相談が実施され、急な病気や傷害に対応しているばかりでなく、教員、看護師、カウンセラーで構成されている学生相談室も設置され、随時相談できる体制を整えており(資料5-4-②-2)、学生の状況により月1回精神科医との面談も実施している。

広い視野に立ち、集団での協調性を育み、精神面の涵養を図るために、学生には課外活動への参加を奨励しており、全教員がクラブ顧問として配置されている(資料5-4-②-3)。さらに、担当教員では指導が困難な場合、外部コーチを招聘し、学生の支援を行っている(資料5-4-②-4)。高専体育大会ばかりでなく、全国規模のロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、また、学生が多数参加するソーラーボート大会など地域のイベントや、文化系クラブの研修旅行にも指導教員を配置し、積極的に学生が大会や研修に参加できるよう配慮している(資料5-4-②-5)。学生会活動については、体育祭、文化祭、音楽祭など諸行事を学生会が中心となって自主的に運営しており、学生主事室が学生の自立の精神や創造性を培えるように支援を行っている。

(分析結果とその根拠理由) 生活指導面での支援体制が整備され、課外活動に対する支援体制も整っている。また、学生自身の自主的な諸行事の運営を支援することによって、学生の自立の精神や創造性を培うような方策が取られている。

<専攻科課程>

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況) 準学士課程では、大学卒と比肩し得る学力をもった実践的技術者を育成するように5年一貫の教育課程が編成されている。これに対して、専攻科課程は、急速な科学技術の進展や国際化に対応するために、工学の基礎に重点を置いた技術者教育が必要であるとの考えから、一般科目、専門基礎科目、専門科目の3つの柱で構成されている。その一方、準学士課程授業科目との継続性が重視されており、準学士課程4・5年及び専攻科課程からなる各学科に対応した五つのJABEE教育プログラムにより、準学士課程との連携が配慮されている(資料5-5-①-1、1-②-7)。

(分析結果とその根拠理由) 各専攻に共通の一般科目と専門基礎科目は、準学士課程との継続性が配慮されている。それぞれの専攻では、その専門を深める教育課程となっており、さらに、他専攻の科目も修得できるように配慮され、学際的に幅広く学習できる教育課程となっている。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置(例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。)され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成す

るために適切なものになっているか。

(観点に係る状況) 専攻科では教育目的に照らし、より具体的な目標として、先端技術、高度情報化及び国際化に対応でき、創造的研究開発能力を有する技術者の育成を掲げている。基礎を重視した、工学の基礎科目の中には、自然科学系科目を必修・選択あわせて8科目を配置し、先端技術・高度情報化に関しては、情報処理関連科目を専門基礎科目の中に3科目配置するとともに、それぞれの専攻に対して専門科目を15科目程度開講している。国際化への対応としては、一般必修科目として英語力向上に着目した科目と、技術者に必要な倫理に関する科目を、選択科目として知的財産権に関する科目を配置している。また、専門科目の中にも英語科目を1科目必修としている。独創的な研究開発能力については、自ら設定した実験テーマや、身の回りの製品に関する問題点を解決する科目、及び長期にわたる研究をまとめる科目を必修科目として設置している。さらに、教育目標を総合的に評価できる科目として、専攻科インターンシップを配置している(資料5-5-②-1、5-②-2)。

(分析結果とその根拠理由) 専攻科の教育目的、教育目標に対応するように、工学の基礎科目、先端技術、高度情報化対応科目、国際化対応科目、創造的研究開発能力向上のための科目が体系的に配置されている。それらは、専攻科の教育課程表として作成されている。

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成(例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。)に配慮しているか。

(観点に係る状況) 学問的動向、社会からの要請などに対応した教育課程の関連科目としては、「専攻科インターンシップ」(資料5-5-③-1、5-③-2)、「先端工学特論」など4科目を必修科目として配置している。また、他高等教育機関での単位取得について、これまでは「放送大学」が主であったが、近年「九州沖縄地区9国立工業高等専門学校間における単位互換に関する協定」(資料5-5-③-3、訪問調査時に提示)による各専門特論(サマーレクチャー) (資料5-③-4)、「久留米市大学等間単位互換科目」(資料5-5-③-5、訪問調査時に提示)、「久留米市単位互換協定大学による共同講義」が開設され(資料5-5-③-6、5-③-7、訪問調査時に提示)、本校の単位として認めることが出来るように、規程が設けられている(資料5-5-③-8)。また、産学民連携推進センターのフォーラム(資料5-5-③-9)、近隣大学・研究所などで開催される学術講演会や施設公開、放送大学特別講義などから工業・学問の最新情報を習得できる「先端工学特論」も開設されている(資料5-5-③-10)。

さらに、専攻科の学生が様々な分野の知識を広範に学べるように、他コースの専門科目も履修できるように、規程を設けている(資料5-5-③-8)。

(分析結果とその根拠理由) 専攻科の教育課程は、専攻科インターンシップや産学民連携推進センターのフォーラムなどの活動を通して、学問的動向、社会からの要請などに十分配慮した編成となっている。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適

切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況） 講義、演習、実験、実習の単位数の割合はそれぞれ60%、14%、16%、10%である（資料5-6-①-1）。講義と演習、実験、実習の割合を見ると60%と40%である。このうち、演習、実験、実習の科目は、必修科目となっている。選択科目については、すべて講義形式となっている。

各科目を受講する学生数は、各コースの専門科目については、2つの専攻共通の科目を除き、最大でも10人程度の少人数教育が行われている。実験科目の創造工学実験や専攻科研究論文、及び実習科目の専攻科インターンシップは、学生各人が進めるマンツーマン型の教育である（資料5-6-①-2）。また、産業デザイン演習は、両専攻の共通科目であるが、6人程度のグループに分けて課題が与えられ、共同で取り組むように工夫されている（資料5-6-①-3）。

また、専攻科で利用する教室では情報機器の使用が可能であるため、教員は必要に応じて、パソコンなどの情報機器を利用した授業を行っている。

（分析結果とその根拠理由） 講義、演習、実験、実習の四つの授業形態で授業が実施されており、科目が適切な割合に配置されている。講義や演習、実習、実験のいずれの科目も教員の目が行き届く少人数で行なわれており、適宜情報機器を利用する教育が行なわれている。

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況） 創造性を育む教育方法を採用している科目として「創造工学実験」や「産業デザイン演習」を挙げることができる。創造工学実験は、教員の助言を受けながら工学に関するテーマを学生自身で企画立案し、その計画発表及び成果発表会を行う科目である（資料5-6-②-1）。「産業デザイン演習」は専攻の異なる学生を小グループに分け、グループごとに商品の企画から最終デザインまでを検討する課題を与え、検討結果を発表させる科目である（資料5-6-②-2）。最終発表会では学生が他の学生の評価も行うなど、学生に問題意識を持たせるように工夫されている。このほかに、2ヶ月以上4ヶ月以内の期間、企業あるいは研究機関などにおいて実務に携わる「専攻科インターンシップ」を設けている。

（分析結果とその根拠理由） 教員の助言のもと、学生自身一人ひとりにテーマを設定させ、企画立案、実施、発表と学生の自主性を重んじた教育、さらにグループ単位で問題解決に当たらせる教育など様々な形態のPBL教育を行っている。また、専攻科インターンシップも科目として設定されている。

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点に係る状況） 各授業科目は、専攻科の教育目標及び教育課程における位置づけに沿って、シラバスが作成されている（資料5-6-③-1、訪問調査時に提示）。シラバスには、授業形態、

授業目的、授業内容、授業の進め方、教材及び参考図書、到達目標、J A B E E教育プログラム目標、評価方法が記載されている。また、専攻科シラバスは、冊子での配布、ホームページ上での開示を行っている。さらに、本年度から各科目ごとに授業の始めにシラバスを配布し、授業の目的、進め方、成績の評価方法などを説明し、シラバスの重要性を認識させるようにしている。

(分析結果とその根拠理由) シラバスは適正に整備され、冊子として全学生への配布やホームページ上での開示を行っている。さらに、各授業で説明し、学生の授業の理解に役立てるよう工夫されている。

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

(観点に係る状況) 専攻科における研究指導は、1年半にわたって行われる。研究テーマは基本的に学生一人一テーマとして、教員から提出された多くのテーマの中から学生に希望選択させている(資料5-7-①-1)。研究指導体制は、指導教員とほぼマンツーマンで行われているが、複数の教員、技術職員による指導ができる体制にもなっている。技術職員は各学科に約2名が配置され、実験装置の製作、研究補助などにより、教育・研究支援を行っている(資料5-7-①-2)。また、本校には工作工場があり、6名の技術職員が主として機械・電気システム工学専攻の研究補助を行っている。

(分析結果とその根拠理由) 研究指導は、指導教員とほぼマンツーマンで実施されるが、各学科に配置されている技術職員も実験装置の製作、研究補助などにより、教育・研究支援を行っている。研究成果の評価は、様々な角度から複数教員により行われており、学生の力を十分に伸ばすように配慮されている。

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況) 授業科目の成績評価方法はシラバスに記載され学生に公表されている。成績評価基準や修了認定基準は、学則第53条に従って定められた「専攻科における単位の修得に関する規程」(資料5-8-①-1)、及び「専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程」(資料5-8-①-2)に定められており、これらは学生便覧及び専攻科ガイダンス資料(資料5-8-①-3、訪問調査時に提示)に掲載、公表されている。

専攻科での単位は大学の単位と同等に扱われ、自学自習時間を含めた45時間の学修をもって、1単位と認定される。このことは、専攻科入学時のガイダンス、及び専攻科主事室の教員をはじめとする各教員を通じて、学生への周知徹底がなされている。

成績評価は、シラバスに記載された方法により、各授業科目担当教員が適切に実施している。上述の規程に定められた成績評価基準や修了認定基準に従って、単位認定、修了認定が全教員参加の修了査定会議で行われる。取得した単位は、学修成果報告書とともに大学評価・学位授与機構に報告し、学位授与の申請を行っている。さらに、平成10年の大学審議会の答申を受けて、成績評価

をGPAで行っている。

(分析結果とその根拠理由) 成績評価基準や修了認定基準が規程として策定され、学生便覧に開示されており、入学時のオリエンテーションで学生に説明、周知徹底されている。これらの規程に従って、単位認定、修了認定が全教員参加の修了査定会議で適切に行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 専攻科課程における、企画立案、実施、発表と学生の自主性を重んじた教育や、グループ単位で問題解決に当たらせる教育など、実践的な技術者の育成を目指し取り組んでいる点が優れている。

(改善を要する点) 該当なし。

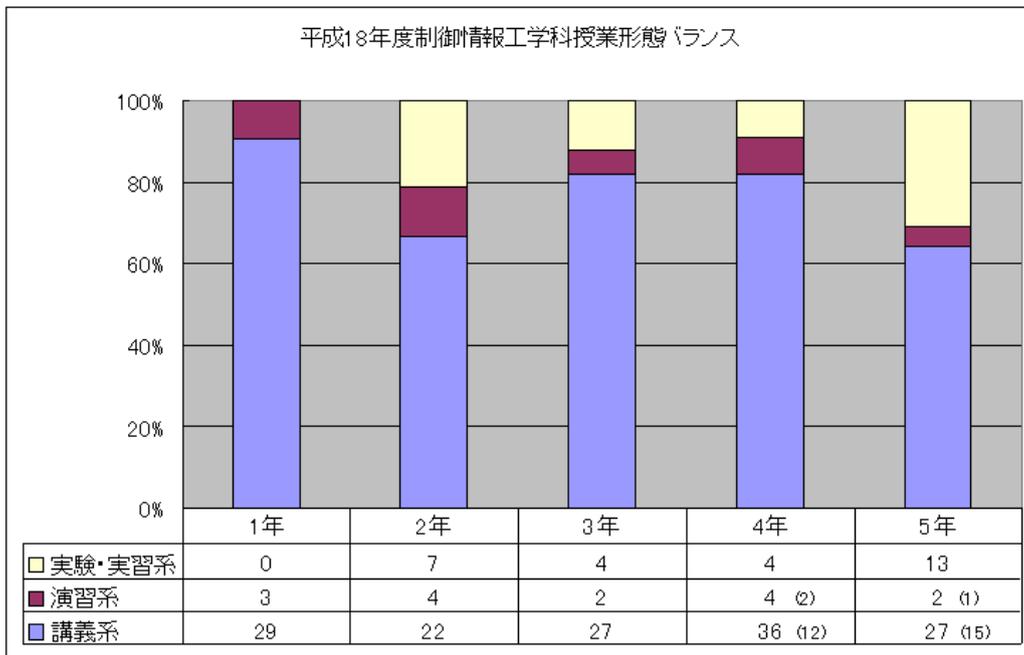
(3) 基準5の自己評価の概要

準学士課程においては、学年ごとの授業科目の配置は、教育目的に沿って、低学年では一般基礎科目を、高学年になるに従い専門科目を中心に体系的に配置している。また、各学科とも実践的技術者育成のために、実験・実習科目を配置している。編入学生や外国人留学生などに対しては、状況に応じた学習指導を行っている。開講科目は、教育の目的に照らして講義、演習、実験、実習がバランス良く配置されている。各科目では、適切にシラバスが作成され、学生に説明した上での活用がなされている。また、創造性を育む授業が実施され、高学年では短期インターンシップ報告会・卒業研究発表会を行って、創造性の育成が図られている。成績評価及び進級・卒業認定の基準については、明確に規定されており、学生への周知も徹底されている。及落査定会議、卒業査定会議については、全教員の出席のもとで行われている。特別活動については、人間の素養の涵養を図るために各種文化・体育関連イベント、安全に関する指導・講習が実施されるなど、学生の自立の精神や創造性を培うような方策が取られている。

専攻科課程の教育課程においては、準学士課程との継続性が配慮され、さらに、他専攻の科目を修得できるよう配慮されており、学際的に幅広く学習できる教育課程となっている。適切な割合に配置されている講義、演習、実験、実習の四つの授業形態で授業が実施されており、少人数で、教員の目が行き届いた教育が行なわれている。また、グループ単位で問題解決に当たらせる教育など様々な形態のPBL教育、並びに専攻科インターンシップが行なわれている。教育課程表の各科目においては、適切にシラバスが整備され、冊子の配布とホームページ上での開示が行われている。研究指導に関して、指導教員及び技術職員により適切に教育・研究支援が行われ、学生の力を十分に伸ばすように配慮されている。成績評価や修了認定の基準については、明確に規定、開示されており、適切に運用されている。

資料5-1-①-1

授業形態バランスグラフ



*集計単位は単位数、括弧は選択科目の単位数

出典：シラバスより集計

資料5—1—①—2

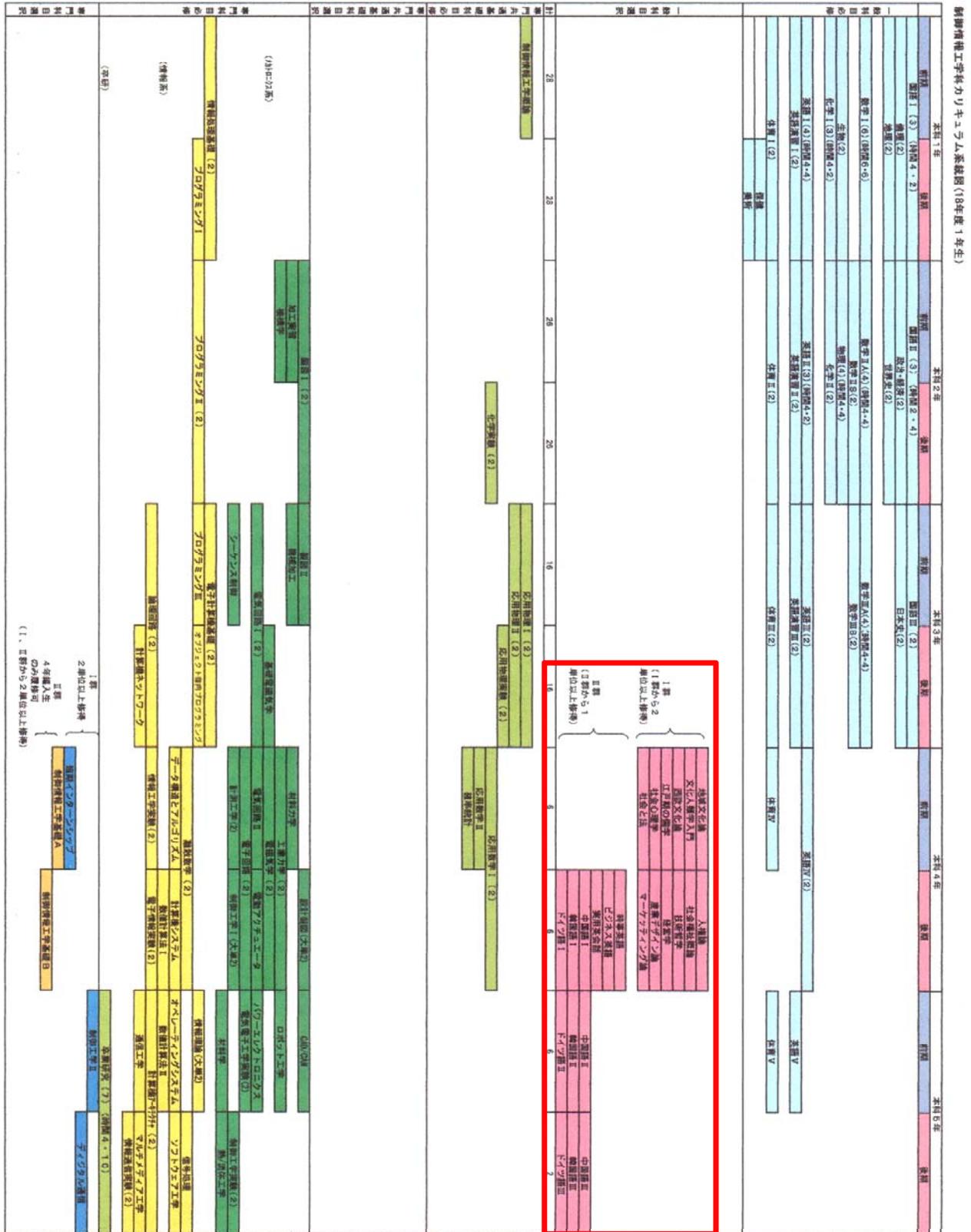
平成18年度教育課程系統図 (抜粋)

		本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
機械工学科	専門科目	機械製図 I	機械加工実習 I	機械製図 II	機械加工実習 II	機械製図 III	機械加工実習 III	機械設計実習 I	機械設計法 I	機械設計法 II	トライボロジー
	専門科目	機械加工実習 I	機械加工実習 II	機械材料科学	精密加工	材料力学 I	工業力学	工業熱力学	材料力学 II	機械力学	伝熱工学
	専門科目	情報処理基礎	プログラミング	計算工学	流体工学	制御工学	制御工学	制御工学	制御工学	制御工学	制御工学
	専門科目	機械工学基礎 (留学生のみ)	機械工学基礎 (留学生のみ)	機械工学概論 (留学生のみ)	機械工学概論 (留学生のみ)	安全工学	工業倫理	工業英語	短期インターンシップ	卒業研究	卒業研究
	専門科目	電気工学概論	電子工学概論	電気工学概論	電子工学概論	生産管理	品質管理	高分子科学	生産管理	品質管理	高分子科学
	専門科目	化学工学概論	化学工学概論	化学工学概論	化学工学概論	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
	専門科目	数学 I	数学 II A 数学 II B 物理 医学 化学 I	数学 III A 数学 III B 応用物理 I 応用物理実験	応用数学 I 応用数学 II	応用数学 III					
	専門科目	英語 I 英語 II 英語実習 I 倫理 地理	英語 II 英語 III 英語実習 II 世界史 政治・経済	英語 III 英語 IV 日本史	英語 IV 英語 V	英語 V	英語 V	英語 V	英語 V	英語 V	英語 V
	専門科目	中国語 I 中国語 II 韓国語 I ドイツ語 I	中国語 II 中国語 III 韓国語 II ドイツ語 II	中国語 III 中国語 IV 韓国語 III ドイツ語 III							
	専門科目	文化人類学入門 西欧文化論 江戸期の儒学 社会心理学 社会と法	地域文化論 文化人類学入門 西欧文化論 江戸期の儒学 社会心理学 社会と法								
	専門科目	体育 I 保健 養育	体育 I	体育 II	体育 III	体育 IV	体育 V				

出典：シラバス冊子

資料5-1-②-1

平成18年度教育課程系統図(抜粋)



出典：シラバス冊子

資料 5 - 1 - ② - 2

久留米工業高等専門学校外国人留学生特例規則

(目的)

第 1 条 この規則は、久留米工業高等専門学校学則第 4 3 条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校学校外国人留学生（以下「留学生」という。）に関する特例を定めることを目的とする。

(入学)

第 2 条 留学生は、定員外とすることができる。

(教育課程)

第 3 条 留学生の教育課程は、特別に編成することができる。

(授業料等)

第 4 条 国費留学生については、授業料、入学料及び検定料は徴収しない。

(留学生指導教官)

第 5 条 留学生に対し、学習及び生活上必要な指導、助言を与えるため、留学生指導教官を置く。

2 留学生指導教官は、当該学科長の推薦に基づき、校長が委嘱する。

(留学生相談員)

第 6 条 留学生の学習上の援助及び日常生活上の助言等を行うため、留学生相談員を置く。

2 留学生相談員は、学生のうちから当該学科長の推薦に基づき、校長が委嘱する。

3 留学生相談員は、必要に応じて留学生指導教官に連絡し、その指示を受けるものとする。

(住居)

第 7 条 留学生は、原則として学生寮に居住するものとする。この場合には、前条の留学生相談員は寮生であるものとする。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項が生じた場合は、外国人留学生委員会の議を経て校長が決定する。

附 則

この規則は、昭和 5 9 年 4 月 1 日から施行する。

出典：久留米高専規則集第 6 章「学生」

資料 5—1—②—3

平成 18 年度教育課程表

専門科目		制御情報工学科										備 考													
授 業 科 目	単位数	1年		2年		3年		4年		5年															
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後														
専門共通基礎	制御情報工学概論	1	2																						
	化学実験	2			4																				
	応用物理Ⅰ	2				2	2																		
	応用物理Ⅱ	2				2	2																		
	応用物理実験	2					4																		
	確率統計	1							2																
	応用数学Ⅰ	2							2	2															
	応用数学Ⅱ	1							2																
	製図Ⅰ	2			2	2																			
	製図Ⅱ	1					2																		
	加工実習	1			2																				
	機構学	1			2																				
	シーケンス制御	1					2																		
	基礎電磁気学	1						2																	
	電磁気学	2							2	2															
	電子回路	2							2	2															
	電気回路Ⅰ	2					2	2																	
	電気回路Ⅱ	1							2																
	電動アクチュエータ	1								2															
	機械加工	1					2																		
	材料力学	1								2															
	工業力学	2								2	2														
	ロボット工学	1										2													
計測工学	2								4																
制御工学Ⅰ	2									2														学修単位	
制御工学実験	2																							4	
パワーエレクトロニクス	1											2													
電気電子工学実験	2												4												
設計製図	2									2														学修単位	
CAD/CAM	1											2													
材料学	1											2													
熱/流体工学	1																							2	
必修科目	情報処理基礎	2	2	2																					
	プログラミングⅠ	1		2																					
	プログラミングⅡ	2			2	2																			
	プログラミングⅢ	1					2																		
	オブジェクト指向プログラミング	1							2																
	電子計算機基礎	2					2	2																	
	論理回路	2					2	2																	
	計算機ネットワーク	1							2																
	情報工学実験	2								4															
	電子情報実験	2									4														
	情報理論	2											2												学修単位
	離散数学	2									2	2													
	数値計算法Ⅰ	1									2														
	数値計算法Ⅱ	1											2												
	データ構造とアルゴリズム	1									2														
	計算機システム	1										2													
	オペレーティングシステム	1												2											
	ソフトウェア工学	1																							2
	計算機アーキテクチャ	2													2	2									
	信号処理	1																							2
	通信工学	1												2											
	マルチメディア工学	1																							2
	情報通信実験	2																							4
卒業研究	7																							4	
必修科目修得小計	87	4	4	8	8	18	20	28	24	28	28														
選択科目	制御工学Ⅱ	1																						2	
	デジタル通信	1																						2	
	短期インターンシップ	1								2															
	制御情報工学基礎A	1								2															
	制御情報工学基礎B	1									2														
選択科目修得小計	2 以上								4	以上															
専門科目修得合計	89 以上	4	4	8	8	18	20	28	24	28	28														

出典：シラバス 平成 18 年度制御情報工学科

資料5—1—②—4

平成18年度教育課程表

専門科目		制御情報工学科										
授業科目	単位数	1年		2年		3年		4年		5年		備考
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
専門共通基礎	制御情報工学概論	1	2									
	化学実験	2			4							
	応用物理Ⅰ	2				2	2					
	応用物理Ⅱ	2				2	2					
	応用物理実験	2					4					
	確率統計	1						2				
	応用数学Ⅰ	2						2	2			
	応用数学Ⅱ	1						2				
	製図Ⅰ	2		2	2							
	製図Ⅱ	1				2						
	加工実習	1		2								
	機構学	1		2								
	シーケンス制御	1				2						
	基礎電磁気学	1					2					
	メカトロニクス系	電磁気学	2					2	2			
電子回路		2					2	2				
電気回路Ⅰ		2				2	2					
電気回路Ⅱ		1					2					
電動アクチュエータ		1						2				
機械加工		1				2						
材料力学		1					2					
工業力学		2						2	2			
ロボット工学		1								2		
計測工学		2						4				
制御工学Ⅰ		2							2		学修単位	
制御工学実験		2								4		
パワーエレクトロニクス		1								2		
電気電子工学実験		2								4		
情報系		設計製図	2						2			学修単位
	CAD/CAM	1							2			
	材料学	1							2			
	熱/流体工学	1								2		
	情報処理基礎	2	2	2								
	プログラミングⅠ	1	2	2								
	プログラミングⅡ	2		2	2							
	プログラミングⅢ	1				2						
	オブジェクト指向プログラミング	1					2					
	電子計算機基礎	2				2	2					
	論理回路	2				2	2					
	計算機ネットワーク	1					2					
	情報工学実験	2						4				
	電子情報実験	2							4			
	情報理論	2								2	学修単位	
離散数学	2						2	2				
数値計算法Ⅰ	1							2				
数値計算法Ⅱ	1								2			
データ構造とアルゴリズム	1						2					
計算機システム	1							2				
オペレーティングシステム	1								2			
ソフトウェア工学	1									2		
計算機アーキテクチャ	2								2	2		
信号処理	1									2		
通信工学	1							2				
マルチメディア工学	1									2		
情報通信実験	2									4		
卒業研究	7									4	10	
必修科目修得小計		87	4	4	8	8	18	20	28	24	26	28
選択科目	制御工学Ⅱ	1								2		
	デジタル通信	1									2	2単位以上修得
	短期インターンシップ	1						2				
	制御情報工学基礎A	1						2				4年編入生のみ履修可
制御情報工学基礎B	1							2			(I、II群から2単位以上修得)	
選択科目修得小計		2以上						4		以上		
専門科目修得合計		89以上	4	4	8	8	18	20	110	以上		

出典：シラバス 平成18年度制御情報工学科

資料5-1-②-5

平成17年度 短期インターンシップ報告会プログラム

制御情報工学科 短期インターンシップ報告会 平成17年度 (4S 20名)

平成17年9月7日(水) 対象クラス 3S、4S 会場 D4教室
 13時～ 出欠確認
 13時 5分～ 学科長あいさつ 総部先生

No	学生	企業名	所在地	期間	備考
1		西研グラフィックス(株)佐賀工場	佐賀県神埼郡三田川町	7/21～29	
2		ココロ・ウエストジャパンログック(株)	高橋市	8/23～26	
3		(株)インフォグラム	福岡市	7/25～8/6	
4		三菱重工(株)名古屋航空宇宙システム製作所	名古屋市	8/1～8/12	
5		(株)佐賀鉄工所	佐賀市	8/2～8/10	
6		古野電気(株)	兵庫県西宮市	8/1～8/12	
7		東プレ九州(株)	久留米市田主丸町	8/22～30	
8		京セラ(株)鹿児島国分工場	鹿児島県国分市	8/22～26	
9		東レ(株)愛知工場	名古屋市	8/2～11	
10		(株)イシワ・ミッドマテリアル淡路工場	兵庫県南あわじ市	7/25～8/5	
11		(株)三松	筑紫野市	8/22～26	
12		旭化成ケミカルズ(株)水島製造所	筑紫野市	7/25～8/12	
13		広島アルミニウム工業(株)	岡山県倉敷市	8/22～30	
14		(株)牧野フライス製作所	広島市	8/22～26	
15		富士通サポート&サービス(株)	山梨県富士河口湖町	8/18～29	
16		NHK福岡放送局	福岡市	7/25～29	
			福岡市	8/1～5	

13時36分～ 補足説明 4S担任 福田

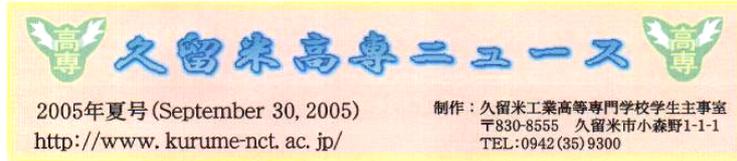
出典：平成17年度 制御情報工学科
 短期インターンシップ報告書抜粋

資料 5—1—②—7

五つの J A B E E 教育プログラム認定書

久留米高専ニュース 2005年夏号 (September 30, 2005) -1面-

©久留米高専学生主事室 2005 第48号



JABEE (日本技術者教育認定機構) 認定

久留米工業高等専門学校 専攻科主事 笹栗信也

昨年10月～12月にかけて本校の5学科の教育プログラムがJABEEの審査を受けました。その審査結果が5月中旬に発表され、5つのプログラムとも無事に認定されました。5つのプログラムとは、機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、制御情報工学プログラム、生物応用化学プログラム、材料工学プログラムで、それぞれの学科の本科4、5年と専攻科1、2年からなる4年間の教育プログラムです。JABEEは「高等教育機関で行なわれている教育活動の品質が満足すべきレベルにあること、また、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力 (Minimum Requirement) の養成に成功していること」を認定する機関です。今年JABEEが技術者教育の同等性を国際的に相互承認するワシントン協定に加盟したことにより、JABEEの認定がそのまま国際基準と認められるため、本校の全ての教育プログラムが国際水準にあることとなります。



昨年度のJABEE審査では、大学及び高専の84のプログラムが認定され、そのうち高専のプログラムは17校22プログラムでした。また、現在まで26の高専のプログラムが認定されていますが、ほとんどの場合が1高専、1プログラムの認定であり、本校のように5学科のプログラム全てが認定された高専はありません。このように5つのプログラムが認定されたことは、教職員や学生諸君の努力のたまものです。しかし、認定期間は

最長でも5年ですので、継続して認定を維持していくには、絶えず教育プログラムを改善していかなければなりません。そのためには、教職員及び学生の一丸となった取り組みが必要ですので協力をお願いします。

認定の開始年度は2004年度からで、2004年度以降の本校専攻科の各プログラム修了者がJABEE認定の対象者になります。プログラム修了生は、技術者の国家資格である技術士の第一次試験が免除され、申請により「技術士補」の免許を得ることができます。その後、所定の修習を積んで、二次試験に合格すれば、「技術士」の資格が得られます。「技術士」は、科学技術に関する高度な応用能力を備えていることを国が認定するものです。



機械工学プログラム認定書



電気電子工学プログラム認定書



制御情報工学プログラム認定書



出典：久留米高専ニュース48号からの抜粋

資料5—2—①—1

平成18年度準学士課程シラバス：制御情報工学科4年「計測工学」

平成18年度 久留米高専 制御情報工学科 4年 シラバス(授業計画)

授業科目名		計測工学				担当教員	江崎 昇二			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	2	
授業の目的 メカトロ系エンジニアが経験する数学モデル導出に関する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力を養う。										
到達目標 1. メカトロ系の数学モデルを導出できる。 2. メカトロ系の数学モデルのパラメータを計測することができる。							JABEEプログラム目標 C-1			
学習内容 1. SI単位とその主な計測方法 2. 運動方程式(直線運動、回転運動、電気回路の微分方程式とアナロジー) 3. 線形化 4. 振子の特性計測(運動方程式、周期とパラメータの関係、対数減衰率とパラメータの関係、ポテンショメータのインターフェース回路製作、慣性モーメントおよび粘性係数の計測) 5. DDモータの特性計測(インターフェース回路製作、トルクー入力電圧特性計測、線形摩擦トルク係数計測、慣性モーメント、電気的時定数計測)										
教材および参考図書 パソコン、ダイレクトドライブモータ、振子、回路部品(それぞれ1セット/2人) テキスト(プリント配布)										
授業の進め方と履修上の注意 メカトロ系の制御系設計に必要な運動方程式導出およびそのパラメータ計測方法を講義し、制御工学I、IIで用いるDDモータおよび振子を用いた実験を行い、理解を深める。 回路製作は1セット/2人の実験装置を用いて実際に配線作業を行う。 また、各パラメータの計測結果は整理して提出させ、簡単な口頭試問を行う。 関連科目 応用物理、機械力学、電気回路										
評価方法 定期試験は100点満点、追・再試験は80点満点とする。 平常点は、課題提出状況(時間内:3点,次回:2点,以降:1点)により評価する。 評価は、試験結果80%、平常点20%として100点満点に換算し、60点以上を合格とする。										

出典：平成18年度シラバス冊子

資料5—2—①—2

平成18年度準学士課程シラバス：材料工学科5年「環境工学」

平成18年度 久留米高専 材料工学科 5年 シラバス(授業計画)

授業科目名		環境工学			担当教員	重松 浩気			
期間	後期	授業形態	講義、フィールドワーク	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
授業の目的 京都議定書に見られるように環境問題への取り組みは地球規模で21世紀の経済、政治、文化などに大きな影響を及ぼすであろう。本講座では、講義のほか、筑後川の9か所の pH 測定、電気伝導度の測定、空気浮遊物の測定、酸性雨の測定などフィールドワークを行いながら、環境問題を身近な自分自身に関わる問題として捕えるように工夫した。									
到達目標 (1) 筑後川のいくつかの場所で採取した河川水の pH、電気伝導度などの調査など、環境を知るには地味で、息の長いフィールドワークが必要であることを実感できる。 (2) フィールドワークを通じて調査方法やデータのまとめ方を知る。 (3) 現在、地球上で進んでいる環境問題を知り、その原因を大まかに発表することができる。また、自分が1日生活するとどのくらい CO ₂ ガスを発生するか計算した結果から、地球温暖化の問題を自分自身の問題として捉える。 (4) プレゼンテーションの準備(調査、企画など)が出来る。							JABEE プログラム目標 A		
〔授業内容〕 1. 酸性雨、地球温暖化、環境ホルモン、ダイオキシンについてのグループ学習(4ヶ月) 2. 受講学生各人が一日当たり排出する CO ₂ 量(1ヶ月)レポート提出 3. 筑後川の両筑橋から下田大橋まで9ヶ所の取水をして、pH と電気伝導度を調査する。 4. 地球温暖化やごみ処理に関するビデオ学習。レポート提出(次週提出) 5. 鉄、アルミニウム、ペットボトル製品のリサイクル化と問題点。レポート提出 8. 久留米ごみ処理場の見学。レポート提出 9. 筑後川の pH、電気伝導度調査のまとめと討論。レポート提出 10. いろいろな環境破壊についてグループプレゼンテーション									
教材および参考図書 環境科学の基礎(御代川 貴久夫 著、培風館)、参考図書:地球と環境の化学(岩波講座、22)									
授業の進め方と履修上の注意 講義はむしろ少なく、フィールドワークが多い。調査方法、資料収集方法、データのまとめ方考察などをさせる。ビデオ学習、見学会、調査結果のクラス討論会やプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは基本的に一人で持ち時間 15 分。									
評価方法 (1) フィールドワークに参加したか、その後、pHや電気伝導度を測定をしデータをまとめたか(50点) (2) 5つのレポートを期限までに提出したか(20点) (3) プレゼンテーションの総合評価(まとめ方、発表力、質問に対する解答など)(30点)									

出典：平成18年度シラバス冊子

資料5—2—①—3

平成18年度準学士課程シラバス：制御情報工学科2年「英語Ⅱ」

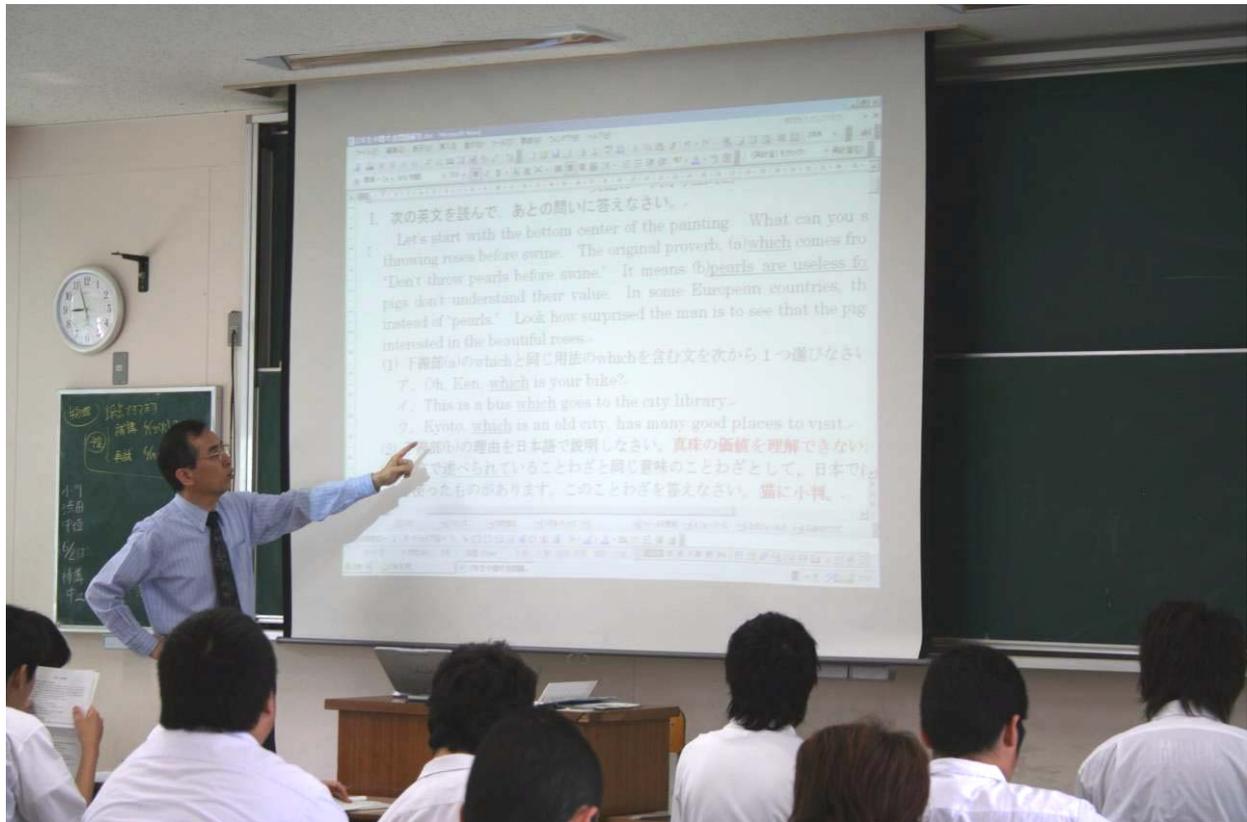
平成18年度 久留米高専 制御情報工学科 2年 シラバス(授業計画)

授業科目名		英語Ⅱ				担当教員	江島孝則・ボシール			
期間	通年	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	3	
授業の目的 英語Ⅰや基礎英文法で学んだ内容をもとに、さらに高度な英語表現の学習とネイティブ・スピーカーによる会話の授業を通して、4技能をバランスよく発展させる。										
到達目標 日本語と英語の構造上の差異を理解し、基本的な英語で自らを表現できるようになること。							JABEEプログラム目標			
<p>学習内容</p> <p>検定教科書「英語Ⅱ」テキストを用いて、文法事項の学習、リーディング、リスニングの練習を行う。後期は外国人英語教員による英会話が行われる。</p> <p>異文化に触れながら、受け身の現在完了、部分否定、知覚動詞＋目的語(物など)＋過去分詞、未来完了、仮定法過去完了、現在完了進行形、I wish+仮定法、助動詞＋完了形、同格表現などを学習する。</p> <p>後期は英会話でスピーキング、リスニング能力の向上を行う。</p>										
<p>教材および参考図書</p> <p>MILESTONE English Course (Keirinkan)</p>										
<p>授業の進め方と履修上の注意</p> <p>前期授業では、テキストに添って授業を進めるので、事前にテキストを学習して、意味が分からない、新出単語は辞書で調べておくこと。後期の英会話では積極的に発話するように心掛けることが大切である。</p>										
<p>評価方法</p> <p>前期授業は中間考査、期末考査及び授業中の小テスト、課題等で評価する。後期授業は授業中の小テスト、期末考査等で評価する。英語Ⅱの評価は前期と後期を総合して100点法で評価する。</p>										

出典：平成18年度シラバス冊子からの抜粋

資料5-2-①-4

プロジェクターを利用した講義の様子：制御情報工学科2年「英語Ⅱ」



資料5-2-②-2

平成17年度第18回学科長委員会資料

授業改善専門部会の設置について

(平成18年2月2日学科長委員会で教務主事報告済)

教務委員会規程第8条により、授業改善専門部会を設置する。

1. 目的

授業改善に関する下記の事項について調査、検討する。その内容は、教務委員会に報告するものとし、同委員会において審議する。

- (1) 授業計画に関する事項
- (2) 授業評価に関する事項
- (3) その他授業改善に関する事項

2. 構成

○中畠裕之助教授（教務主事補、生物応用化学科）

福田かおる助教授（教務主事補、一般文科）

高橋正郎助教授（教務主事補、一般理科）

前田専攻科主事補

平川企画主事補（H. 18. 4. 1から）

（○印：部会長）

出典：平成17年度第18回学科長委員会資料

資料5-2-②-3

平成17年度授業評価アンケート用紙

平成17年度前期 学生による授業評価アンケート

()年 ()学科 科目名 ()

※ 以下、A, B, Cの質問に対して、該当する項目に付された○を黒く塗りつぶしてください。

A あなたはこの授業にどのように取り組みましたか。(複数選択可)

- 1 授業中、熱心に説明を聞いた。
- 2 授業の予習をよくした。
- 3 授業の復習をよくした。
- 4 関連する内容を自主的に勉強した。
- 5 授業中、ノートやメモをとった。
- 6 授業にほとんど欠席せずに出席した。
- 7 授業の内容を十分に理解できた。

B あなたはこの授業をどのように思いましたか。(複数選択可)

- 1 教科書やプリント等の教材が適切であった。
- 2 演習、課題はよく工夫されたものであった。
- 3 先生は十分に授業の準備をしていた。
- 4 先生は熱意をもって授業をしていた。
- 5 質問をしやすくするなど、授業に双方向性をもたせる工夫があった。
- 6 授業に適度なユーモアがあった。
- 7 半期を通した授業全体の構成は適切であった。
- 8 授業はわかりやすかった。
- 9 この授業内容に興味をもてた。
- 10 この授業によって、調べる力がついた。
- 11 この授業によって、考える力がついた。
- 12 総合的に良い授業だったと思う。

C この授業についての要望があれば選んでください。(複数選択可)

- 1 先生の声聞き取りやすくしてほしい。
- 2 板書を読みやすくしてほしい。
- 3 演習、課題の内容を工夫してほしい。
- 4 学生に対する言動に気を付けてほしい。
- 5 授業の準備を十分にしてほしい。
- 6 もっとわかりやすく説明してほしい。
- 7 もっと質問の機会を増やしてほしい。
- 8 授業の進度が速すぎる。
- 9 授業の進度が遅すぎる。
- 10 授業のレベルが高すぎる。
- 11 授業のレベルが低すぎる。
- 12 授業の開始時間を守ってほしい。
- 13 授業の終了時間を守ってほしい。
- 14 休講を少なくしてほしい。
- 15 先生からの連絡が確実に伝わるようにしてほしい。
- 16 先生にもっと連絡をとりやすくしてほしい。

※ アンケートの裏は自由記述欄のみのため省略

資料 5—2—③—2

平成 17 年度卒業研究発表会プログラム (抜粋)

平成 17 年度 制御情報工学科 創成講座(卒業研究)発表会

日時：平成 18 年 2 月 27 日(月) 8:55~16:00

場所：D1、D2 教室

発表時間(発表/質疑)： 10分/5分 (発表者1名)
13分/7分 (発表者2名)
25分/10分 (発表者3名)

時計：

人数	1 鈴	2 鈴(発表終了)	3 鈴(質疑終了)
1 名	7 分	10 分	15 分
2 名	10 分	13 分	20 分
3 名	20 分	25 分	35 分

<プログラム>

[学科長挨拶及び注意事項] (D1 教室出席者全員集合)

8:55- 9:05 学科長挨拶(綾部 教授)； 諸注意事項(丸山 教授)

×カトリック系研究関連 D1 教室

[セッション 1] 司会：赤坂 教授； 時計：河津 技術専門職員

9:15- 9:30 3D-CAD による地形モデルの作成(池田 篤)

9:30- 9:45 自由曲面の CAD/CAM(浦山 裕子)

9:45-10:00 CAD/CAM による固定 5 軸加工(藤瀬 憲則)

10:00-10:15 工程設計データベースの構築(菅蒲 浩太)

10:15-10:25 休憩

[セッション 2] 司会：川口 教授； 時計：池田 篤

10:25-11:00 自動果実袋掛け機の 3 次試作((1)袋口封止機構の再試作、(2)機構の総合組立)
(永田 賢範、吉岡 晃治、アブドゥル ラヒムビン)

11:00-11:15 3D 表示による折り紙の折り方提示プログラムの改良(その 2)(伊藤 慎二)

11:15-11:30 PIC マイコンを用いた赤外線リモートコントローラの製作(宇土 絃生)

11:30-11:45 インターネットによる遠隔監視と TV 電話システムの考察(中津留 勇)

11:45-12:00 高品位オーディオシステムへの制御手法の応用(中山 恒明)

12:00-13:00 昼休み

[セッション 3] 司会：福田 教授； 時計：伊藤 慎二

13:00-13:20 ロボットアームの逆運動学解析に関する研究(塚本 誠、本田 晃平)

13:20-13:40 剛体の 3 次元運動シミュレーション(梅野 圭吾、本田 祐也)

13:40-14:00 4 相式軸方向双歯対面形スイッチドリラクタンスモータの試作(佐藤 昭太、縄野 優介)

14:00-14:20 風車負荷が可変で定電力供給が可能な風力発電システムの検討(田中 雅宏、堺 靖貴)

14:20-14:30 休憩

[セッション 4] 司会：江頭 助教授； 時計：中津留 勇

14:30-14:50 自動ラインカー駆動部の再設計と加工実習用モータドライバ製作と動作確認
(塚崎 隆一、行武 剛志)14:50-15:10 制御情報工学科 2 年生の加工実習に用いるガバナ製作キットの開発
(園分 佐友里、山口 慎平)

資料5-3-①-1

久留米工業高等専門学校学則第13条及び第14条

第13条 学年ごとの授業科目及びその単位数は、別表第1のとおりとする。

- 2 各授業科目の単位数は、30単位時間の履修を1単位として計算するものとする。
- 3 各授業科目については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算することができる。
 - (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前第1及び第2号の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は、60単位を超えないものとする。
- 4 前2項の規定にかかわらず、卒業研究の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 5 別表第1に規定するもののほか、特別活動を年間30単位時間以上実施するものとする。
(他の高等専門学校における授業科目の履修)

第13条の2 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項に関し必要な事項は、別に定める。
(高等専門学校以外の教育施設等における学修等)

第13条の3 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

- 2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。
- 3 第1項に関し必要な事項は、別に定める。
(学年の課程の修了又は卒業の認定)

第14条 各学年の課程の修了又は卒業を認めるにあたっては、平素の成績を評価して行うものとする。

- 2 前項に関し必要な事項は、別に定める

出典：学生便覧 p.7

資料5—3—①—2

久留米工業高等専門学校における単位の取扱いに関する規程

(平成18年2月2日制定)

- 第1条 本校学則第13条に定める授業科目の単位数の取扱いは、本規程による。
- 第2条 卒業に要する修得単位数は167単位以上とする。
- 第3条 必修科目は、各学年においてすべて履修し単位を修得しなければならない。
- 第4条 選択科目は、学則別表第1に従い卒業に必要な単位を修得しなければならない。
- 第5条 第3条及び第4条に定める単位の合計が167単位以上となるように履修し、単位を修得しなければならない。

附 則

1. この規程は、平成18年2月2日から施行する。
2. 久留米工業高等専門学校における単位の取扱いに関する規程（平成14年4月1日施行）は、この規程制定の日から廃止する。
3. 平成16年度末における仮進級者の未修得科目については、卒業までに単位を修得するものとする。
4. 平成14年度から平成16年度の編入プログラムの単位を修得した者は、以下の特例を設ける。
 - (1) 卒業時もしくは進路変更時に編入プログラムの単位を一般科目（選択）に読み替える場合がある。
 - (2) 第5学年を修了し、高等専門学校設置基準の卒業要件を満足する者については卒業を認める場合がある。
5. 平成16年度以前の在學生において当該學生が第5学年に在籍し、高等専門学校設置基準に定める卒業要件167単位は満足するが、学則に定める卒業に必要な必修科目の単位が不足する者で次の各号を全て満足した者は、単位修得に配慮する。
 - (1) 第5学年における必修科目に未修得科目がない者
 - (2) 特別活動を5分の4以上出席した者
 - (3) 前号においては、公欠を含むものとする。

出典：久留米高専規則集第6章「学生」

資料5-3-①-3

久留米工業高等専門学校における学業成績の評価
並びに単位の認定及び及落に関する規程

(平成18年2月2日制定)

第1章 総論

(目的)

第1条 この規程は、久留米工業高等専門学校学則第14条第2項の規定に基づき、学業成績評価及び学年課程の修了又は卒業の認定等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

第2章 受講及び履修

第2条 当該学年の受講及び履修は、学則第13条に定める教育課程表（以下「教育課程表」という）に基づき必修科目及び選択科目を受講履修する。

- 2 選択科目の受講については、予め校長に選択科目履修届を提出し受講するものとする。
- 3 各科目とも開講時数の5分の4以上出席した者は、履修と認める。ただし、授業担当教員が履修上、特別の事情があると判断した場合は履修を認めないことができる。
- 4 遅刻及び早退は3回をもって欠課1回とする。

第3条 授業に遅刻、早退又は欠席した（する）者で、その理由が次の各号の一に該当すると校長が認めた者については、受講と認める。

- (1) 忌引きの場合
- (2) 出席停止（懲戒を除く）の場合
- (3) 公共交通機関障害による場合
- (4) 学校行事へ参加した場合
- (5) 校長が認めた行事へ学校代表として参加した場合
- (6) その他やむを得ない事情と校長が認めた場合

第4条 前条の規定により授業に遅刻、早退又は欠席した場合は、補講を受けることができる。

第3章 試験

第5条 試験は、定期試験によるものの他随時に行うことができる。

第6条 定期試験は、前期中間試験、前期末試験、後期中間試験及び後期末試験とする。

第7条 定期試験は、該当科目の授業計画書（以下「シラバス」という。）に従って実施するものとする。

第8条 第3条に規定する事由もしくは疾病により定期試験を受験することができなかつた者で、本人の願い出により校長が認めた場合は追試験を受けることができる。

2 疾病を理由に追試験の願い出を提出する場合は、原則として医師の診断書を添付するものとする。

第9条 第3条の事由に基づく追試験の成績は、100%を限度とする。

2 出席停止（懲戒を除く）とならない疾病による追試験の成績は、80%を限度とする。

第10条 追試験の願い出は、別に定める様式とする。

第11条 試験中不正行為を行った者の当該試験期間中の試験成績は0点とし、不正行為後の当該試

験期間中の受験は認めないものとする。なお、第8条の適用は認めない。

2 前項以外の理由で停学を受け、試験を受けられなかった者の停学期間中の試験成績は0点とする。

第4章 成績の評価

第12条 第2条の規定により履修と認められた者については、定期試験及び適宜行う試験の成績並びに平素の学習成績を総合評価して行うものとする。

第13条 成績の評価は、該当科目のシラバスに従って実施し、その評価は100点法で行うものとする。

第5章 成績の再評価

第14条 第1学年から第4学年に在学する者で、次の各号に掲げる基準の全てに該当する者は、及落査定会議の議を経て成績の再評価を受けることができる。

- (1) 学則における当該学年の当該年度に修得すべき科目について、第2条に定める規定により全科目履修と認められた者
- (2) 学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位のうち、不足する単位数が10単位以内かつ5科目以内である者
- (3) 学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位のうち、成績の評価が39点以下の単位数が3単位以内又は2科目以内である者
- (4) 当該年度の特別活動を5分の4以上出席した者

なお、第3条の規定を準用する。

第15条 成績の再評価は、原則として学年末の学校が指定する期間内に当該科目担当教員が実施する。

2 当該年度における成績の再評価は原則として1回とする。

第16条 再評価における成績の評価は、60点を限度とする。

2 再評価となった科目の成績は、再評価前の成績と比較して得点の高い方とする。

第6章 学年末成績

第17条 学年末成績は、再評価の成績を加えた成績とする。

第18条 学年末成績順位は、必修科目の単位加重平均により算出する。

第19条 学年末成績の評価は、第4章及び第5章の規定に基づき、次の4段階（A、B、C及びD）で評価する。

- (1) A：100点以下80点以上
- (2) B：79点以下70点以上
- (3) C：69点以下60点以上
- (4) D：59点以下

第7章 単位の修得

第20条 成績の評価が60点以上で当該科目担当教員が単位を認定した科目について、単位の修得を認める。

第8章 学年課程の修了

第21条 学年課程の修了は、次に掲げる基準の全てに該当する者に対し、及落査定会議又は卒業査定会議の議を経て校長が当該学年課程の修了を認める。

- (1) 学則における当該学年の当該年度に修得すべき単位を全て修得した者
- (2) 特別活動を5分の4以上出席した者
なお、第3条の規定を準用する。
- (3) 学年課程の修了に際しては、他の高等専門学校及び他学科で取得した単位のうち及落査定会議又は卒業査定会議で修得と認められた単位を卒業時まで30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第9章 進級

第22条 進級は、第1学年から第4学年に在籍する者で第21条の規定により学年課程の修了をした者について、及落査定会議の議を経て校長が次の学年への進級を認める。

第10章 卒業

第23条 卒業は、第5学年に在籍する者で第21条の規定により当該学科の課程を修了し所定の単位を修得した者について、卒業査定会議の議を経て校長が卒業を認める。

第11章 原級留置

第24条 第21条の規定により学年修了を認められなかった者は、すべて原級にとどめる。

第25条 原級にとどめられた者は、原則として入学年度の当該学年の教育課程表に示す学年課程の修了に必要な科目を再履修するものとする。

2 休学の場合を除き、同一学年に2回を超えて留まることはできない。

附 則

1. この規程は、平成18年2月2日に制定し、平成18年3月31日までを試行期間とし、平成18年4月1日から施行する。
2. 試行期間中に改正すべき事由が生じた場合には、施行日までに改正を行う。
3. ただし、平成16年度以前の在学生については、当該在学生が卒業するまでの間、原級者の再履修に関する教育課程表は、個別に再編成するものとする。
4. 平成14年4月1日施行「久留米工業高等専門学校学業の単位の認定及び学年進級等に関する規程」第10条に定める平成16年度以前入学者の仮進級者に関する取扱いについては、同規程の廃止にかかわらず次のとおりとする。
 - (1) 平成16年度までに仮進級した者に対しては、以下の特例を設ける。
 - ① 平成16年度末において未修得科目については、すべて再試験とする。
 - ② 再試験の時期、回数は問わないものとする。
 - ③ 前項における再試験には、実技、実験、実習、レポート等の再評価を含むものとする。
 - (2) 平成17年度末において、第2学年から第4学年に在籍し、前学年までにおける必修科目の未修得がある者で、次の各号を全て満足した者については、仮進級を認めることがある。

- ① 当該学年における必修科目の未修得単位がない者
 - ② 特別活動を5分の4以上出席した者
なお、新規程第3条の規定を準用する。
- (3) 前学年までにおける未修得科目は、第5学年修了までに修得するものとする。
5. 久留米工業高等専門学校学業の単位の認定及び学年進級等に関する規程（平成14年4月1日施行）は、この規程制定の日から廃止する。

出典：久留米高専規則集第6章「学生」からの抜粋

資料5-3-①-5

久留米工業高等専門学校卒業・修了査定会議規則

(設置)

第1条 本校に、学生の本科卒業又は専攻科修了査定に関する事項を審議するため、久留米工業高等専門学校卒業・修了査定会議（以下「査定会議」という。）を置く。

(組織)

第2条 査定会議は、本科又は専攻科授業担当の本校の教授、助教授、講師（常時勤務する者に限る。）、事務部長及び学生課長をもって組織する。

2 校長が必要と認めた場合は、その他の者を出席又は列席させることができる。

(運営)

第3条 校長は、査定会議を招集し、その議長となる。

2 議長に事故があるときは、教務主事はその職務を代行する。

(審議事項)

第4条 査定会議は、学生の卒業又は修了に関する事項を審議する。

(事務)

第5条 査定会議の事務は、学生課教務係において処理する。

附 則

1 この規則は、平成18年1月12日から施行する。

2 久留米工業高等専門学校卒業・修了査定委員会規則（平成13年4月1日制定）は、この規則制定の日から廃止する。

出典：久留米高専規則集第2章「会議・委員会」

資料5—3—①—6

平成17年度及落査定会議案内文書

平成18年 3月 1日

教 員 各 位

校 長

平成17年度 本科1～4年及落査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。

なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

- 1 日 時 平成18年3月6日（月）^{15に変更}~~±6~~時00分から
- 2 場 所 大会議室
- 3 議 題
(1) 平成17年度 本科1～4年及落査定について

出典：学生課起案文書

資料5—3—①—7

平成17年度卒業査定会議案内文書

平成18年3月6日

教員各位

校長

平成17年度 本科5年卒業査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。

なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

- 1 日 時 平成18年3月10日（金）16時00分から
 - 2 場 所 大会議室
 - 3 議 題
- (1) 平成17年度 本科5年卒業査定について

出典：学生課起案文書

資料 5—3—①—8

平成 17 年度再評価期間

久留米高専ニュース 2005年秋号 (December 22, 2005) -10面-

© 久留米高専学生主事室 2005 第

平成17年度学年歴

1 月		2 月		3 月	
日	曜	日	曜	日	曜
1	日	元旦	1	水	5年成績締切
2	月		2	木	
3	火		3	金	後期授業終了
4	水	仕事始め	4	土	
5	木		5	日	
6	金		6	月	後期定期試験(1~4年、~2/14,7日間)
7	土		7	火	(5年、~2/10,5日間)
8	日		8	水	1~4年再評価期間(14日まで)
9	月	成人の日、開寮(12:00)	9	木	専攻科2年長期インターンシップ報告会
10	火	後期授業再開	10	金	5年卒業査定
11	水		11	土	建国記念の日
12	木		12	日	
13	金		13	月	5年特別教育期間 (~3/14)
14	土	TOEIC検定試験	14	火	専攻科1年研究論文中間発表会・成績締切
15	日		15	水	1~4年特別教育期間(~3/14)
16	月		16	木	学年末休業 (~3/31)
17	火		17	金	再評価成績締切(12:00)
18	水	吉謝美佐子公演会(後援会主催)	18	土	開寮(15:00)
19	木		19	日	学力入学試験
20	金		20	月	入試業務のため休校
21	土	推薦入学試験	21	火	卒業式、修了式
22	日		22	水	専攻科2年成績締切
23	月		23	木	1~4年及落査定(再評価)
24	火		24	金	本科1~4年成績締切
25	水		25	土	
26	木		26	日	
27	金		27	月	
28	土		28	火	専攻科2年修了査定
29	日		29	水	
30	月		30	木	
31	火	金曜日の授業	31	金	
4~9日 全国高専体育大会(冬季)ラグビー予備会の開催は学生会と協議		5年の特別教育期間には追再試、卒研試験を含む		春季休業、入学式、始業式は後日審議	

久留米高専ヴィジュアル・デザイン・ワーキングスタッフの募集 機械工学科 藤田 雅俊



学生の皆さんは、学校の出版・広報物を見てどんなことを感じますか？
 現在、日本中の大学・高専がそれぞれの特徴を活かした変革に取り組んでいます。それに伴い、学校から発信される情報は大変重要な意味を持つようになってきました。
 学校には様々な出版・広報物がありますが、残念ながら本校の情報はバラバラで、わかりやすさや統一感に欠けていると思われます。例えば、現在の校章は40年来親しまれてきたものですが、原版である清刷りは失われ、コピーを重ねたため不鮮明なものとなっており、使い方にも校章を大切にすることを意識が感じられません。
 そこで、教務主事の指示のもと、久留米高専の出版・広報物でのヴィジュアル・デザインのルールを、学生の皆さんと一緒につくろうということになりました。リニューアルする出版・広報物に関しては、その表紙の作成も行います。グラフィック・デザインやタイポグラフィーに興味のある学生の方は、是非、藤田まで名乗りを上げてください。自分たちの手で学校のイメージを変えてみませんか。

出典：久留米高専ニュース第49号

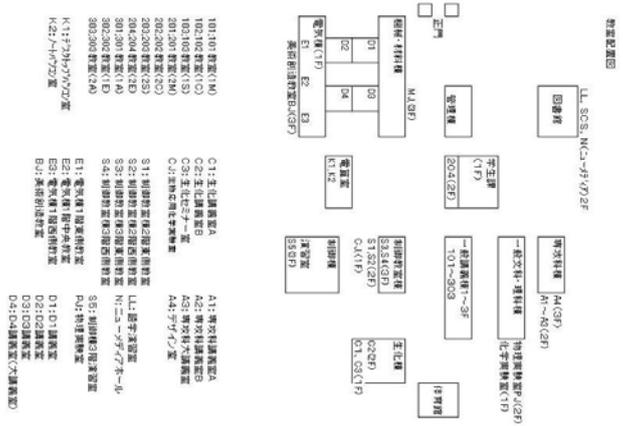
資料5-4-①-1 (1/2)

年 度	科目	平成17年度 後期時間割						
		1	2	3	4	5	6	7
1 年	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
2 年	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
3 年	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
4 年	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
5 年	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII
	基礎 電気	電気回路 I	電気回路 II	電気回路 III	電気回路 IV	電気回路 V	電気回路 VI	電気回路 VII

資料5-4-①-1 (2/2)

平成17年度 後期時間割

学年	曜日	水							金								
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1年	機械	英語I	数学II	機械加工実習	英語II	数学III	英語III	数学IV	英語IV	数学V	英語V	数学VI	英語VI	数学VII	英語VII	数学VIII	英語VIII
	電気	倫理/社会	地球史B	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法
	化学	プロパティ	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法
2年	機械	英語I	数学II	機械加工実習	英語II	数学III	英語III	数学IV	英語IV	数学V	英語V	数学VI	英語VI	数学VII	英語VII	数学VIII	英語VIII
	電気	倫理/社会	地球史B	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法
	化学	プロパティ	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法
3年	機械	英語I	数学II	機械加工実習	英語II	数学III	英語III	数学IV	英語IV	数学V	英語V	数学VI	英語VI	数学VII	英語VII	数学VIII	英語VIII
	電気	倫理/社会	地球史B	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法
	化学	プロパティ	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法
4年	機械	英語I	数学II	機械加工実習	英語II	数学III	英語III	数学IV	英語IV	数学V	英語V	数学VI	英語VI	数学VII	英語VII	数学VIII	英語VIII
	電気	倫理/社会	地球史B	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法
	化学	プロパティ	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法
5年	機械	英語I	数学II	機械加工実習	英語II	数学III	英語III	数学IV	英語IV	数学V	英語V	数学VI	英語VI	数学VII	英語VII	数学VIII	英語VIII
	電気	倫理/社会	地球史B	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法	電気電子工学	基礎英法
	化学	プロパティ	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法	基礎英法



資料5-4-①-2 (1/2)

年	曜日	平成18年度 前期時間割																										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9									
		月			火			水			月			火			水											
		1時限 8:40~9:25			2時限 9:25~10:20			3時限 10:20~11:15			4時限 11:25~12:10			5時限 13:00~13:45			6時限 13:55~14:40			7時限 14:50~15:35			8時限 15:45~16:30			9時限 16:40~17:25		
2年	物理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	電気	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1年	物理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	電気	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5年	物理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	電気	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
4年	物理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	電気	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
3年	物理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	電気	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2年	物理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	電気	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1年	物理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	電気	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9

資料 5—4—①—3 (1/2)

平成 17 年度後期学年暦

久留米高専ニュース 2005年夏号 (September 30, 2005) - 6面 -

© 久留米高専学生主事室 2005 第 48号

平成17年度
学年暦

後 期		10 月		11 月		12 月	
日	曜	本学科・専攻科		日	曜	日	曜
1	土	学校説明会 (福岡)		1	火	1	木
2	日			2	水	2	金
3	月	後期授業開始		3	木	3	土
4	火			4	金	4	日
5	水			5	土	5	月
6	木			6	日	6	火
7	金	前期定期試験成績締切		7	月	7	水
8	土	専攻科 (後期) 入試		8	火	8	木
9	日			9	水	9	金
10	月	体育の日		10	木	10	土
11	火			11	金	11	日
12	水			12	土	12	月
13	木			13	日	13	火
14	金			14	月	14	水
15	土	学校説明会・見学会 (久留米)		15	火	15	木
16	日			16	水	16	金
17	月			17	木	17	土
18	火			18	金	18	日
19	水			19	土	19	月
20	木			20	日	20	火
21	金			21	月	21	水
22	土			22	火	22	木
23	日			23	水	23	金
24	月			24	木	24	土
25	火			25	金	25	日
26	水			26	土	26	月
27	木			27	日	27	火
28	金			28	月	28	水
29	土			29	火	29	木
30	日			30	水	30	金
31	月			31	木	31	土
9, 10日		プログラミングコンテスト大会 (米子)		19~22日		九州地区高専体育大会 (冬季) ラグビー	
						冬季休業 (12/25~1/7)	
						1日 全国高専ロボットコンテスト (両国)	
				16日		防災訓練 (HRを授業終了後に移動, HR時から実施) 学生大会の日時は学生会と協議 1月~3月の学年暦は再審議する	

(本号掲載記事の無断転載を禁止します)

資料5-4-①-3 (2/2)

平成17年度後期学年暦

久留米高専ニュース 2005年秋号 (December 22, 2005) -10面-

© 久留米高専学生主事室 2005 第49号

平成17年度学年暦

1 月		2 月		3 月	
日	曜	日	曜	日	曜
1	日	元旦	1	水	5年成績締切
2	月		2	木	
3	火		3	金	後期授業終了
4	水	仕事始め	4	土	
5	木		5	日	
6	金		6	月	後期定期試験(1~4年, ~2/14, 7日間)
7	土		7	火	(5年, ~2/10, 5日間)
8	日		8	水	1~4年及落査定
9	月	成人の日、開寮(12:00)	9	木	専攻科2年長期インターンシップ報告会
10	火	後期授業再開	10	金	5年卒業査定
11	水		11	土	建国記念の日
12	木		12	日	
13	金		13	月	5年特別教育期間(~3/14)
14	土	TOEIC検定試験	14	火	専攻科1年研究論文中間発表会・成績締切
15	日		15	水	1~4年特別教育期間(~3/14)
16	月		16	木	学年末休業(~3/31)
17	火		17	金	再評価成績締切(12:00)
18	水	古謝美佐子公演会(後援会主催)	18	土	閉寮(15:00)
19	木		19	日	学力入学試験
20	金		20	月	入試業務のため休校
21	土	推薦入学試験	21	火	卒業式、修了式
22	日		22	水	専攻科2年成績締切
23	月		23	木	1~4年及落査定(再評価)
24	火		24	金	本科1~4年成績締切
25	水		25	土	
26	木		26	日	
27	金		27	月	
28	土		28	火	専攻科2年修了査定
29	日		29	水	
30	月		30	木	
31	火	金曜日の授業	31	金	
4~9日 全国高専体育大会(冬季)ラグビー予選会の開催は学生会と協議		5年の特別教育期間には追再試、卒研試験を含む		春季休業、入学式、始業式は後日審議	

久留米高専ヴィジュアル・デザイン・ワーキングスタッフの募集 機械工学科 藤田 雅俊

学生の皆さんは、学校の出版・広報物を見てどんなことを感じますか？
 現在、日本中の大学・高専がそれぞれの特徴を活かした変革に取り組んでいます。それに伴い、学校から発信される情報は大変重要な意味を持つようになってきました。

学校には様々な出版・広報物がありますが、残念ながら本校の情報はバラバラで、わかりやすさや統一感に欠けていると思われます。例えば、現在の校章は40年来親しまれてきたものですが、原版である清刷りは失われ、コピーを重ねたため不鮮明なものとなっており、使い方にも校章を大切にしている意識が感じられません。

そこで、教務主事の指示のもと、久留米高専の出版・広報物でのヴィジュアル・デザインのルールを、学生の皆さんと一緒につくろうということになりました。リニューアルする出版・広報物に関しては、その表紙の作成も行います。グラフィック・デザインやタイポグラフィに興味のある学生の方は、是非、藤田まで名乗りを上げてください。自分たちの手で学校のイメージを変えてみませんか。



(本号掲載記事の無断転載を禁止します)

出典：久留米高専ニュース第48号、第49号

資料5—4—①—4

平成18年度第4回学科長委員会資料

(平成18年6月22日学科長委員会で審議済)

平成18年度 国内工場見学旅行の実施計画

■ 国内工場見学旅行の目的

- ・工場、研究所等を直接見学し、学校で学ぶことの重要性を再認識させるとともに、日本の工業界の持つ、優れた技術を見聞し、将来の進路を考える機会を与える。
 - ・日本の歴史、文化、自然に触れる機会をつくる。
 - ・非日常体験を通して、自己を見つめ直す。
 - ・団体行動を体験し、級友との相互理解を深める。

■ 実施要項（細目は別に定める）

- ・国内工場見学旅行に限る。
- ・4年生を対象とし、学校行事として実施する。特別の事情がない限り参加とする。
- ・各クラス別に計画し、各クラスの引率は担任を含め3名とする。
- ・実施時期は9月26日（火）～30日（土）の4泊5日以内とする。
- ・工場、研究所、博物館、史跡等を五ヶ所以上（内、工場及び研究所三ヶ所以上）見学する。
- ・予算は積立金の範囲内（12万円以内）ですべて納まるように配慮し、残金は返金する。

■ 今後のスケジュール

- 5月 各学科実施計画立案・専門学科引率者（各学科2名）決定（5.26迄）
- 6月 一般理科・文科より引率者5名決定（6.9迄）
実施要領・各学科実施計画審議（教務委員会、学科長委員会）
救急救命講習会（予定）
- 7月 保護者からの承諾書提出（各学科）
- 9月 実施（26日（火）～30日（土）の間で4泊5日以内、各学科）
- 10月～12月 学生アンケート、反省会（引率教員、教務委員会）

出典：平成18年度第4回学科長委員会資料

資料 5 - 4 - ② - 2

久留米工業高等専門学校学生相談室規則

(設置)

第 1 条 本校に、学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 相談室は、学生の就学に伴う一身上の諸問題について相談に応じ、適切な助言、援助を行いもって、学生の健全な学園生活に資することを目的とする。

(業務)

第 3 条 相談室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生個々人の諸問題に係る相談、助言及び援助に関すること
- (2) 前号の規定に必要な各種の検査及び調査報告に関すること
- (3) 学生相談について本校教職員の理解を深めるための研修会及び講演会に関すること
- (4) その他前条の目的達成に必要な事項

(組織)

第 4 条 相談室に、次の職員を置く。

- (1) 室長
- (2) カウンセラー
- (3) 相談員
- (4) 相談補助員

(室長)

第 5 条 室長は、本校教官のうちから、校長が任命する。

- 2 室長は、校長の命を受け、相談室を総括する。
- 3 室長の任期は、2 年とし再任を妨げない。ただし、室長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(カウンセラー)

第 6 条 カウンセラーは、学生の相談に関する専門の知識及び経験を有する者から、校長が委嘱する。

- 2 カウンセラーの任期は、1 年とし再任を妨げない。
- 3 カウンセラーは、相談室の業務に従事する。

(相談員)

第 7 条 相談員は、学生相談に関する専門知識及び経験を有する者から、校長が任命する。

- 2 相談員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。
- 3 相談員は、相談室の業務に従事する。

(相談補助員)

第 8 条 相談補助員は、本校の看護婦をもって充てる。

- 2 相談補助員は、カウンセラーを補佐するとともに、相談室の補助的業務を処理する。

(相談室職員等の責務)

第 9 条 相談室職員及び相談業務に関わった教職員は、職務上知り得た個人的な秘密を他に漏らしてはならない。

(事務)

第 10 条 相談室の事務は、学生課学生係において処理する。

(雑則)

第 11 条 この規則に定めるもののほか、相談室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

出典：久留米高専規則集第 6 章「学生」

資料5—4—②—3

平成18・19年度 クラブ顧問一覧(体育局)

(平成18年3月28日)

	体育局	代表顧問	顧問
1	陸上競技部	志賀	矢野・田中大・宮本・富岡・永野
2	柔道部	小宮	大崎・馬越・平野
3	剣道部	木寺	越地・松尾・原田
4	弓道部	中野	福田幸・笈木・川口
5	空手部	高松	櫻木
6	硬式野球部	渡邊	廣尾・熊丸・酒井・青山 平川・楢・大串・奥山
7	バレーボール部(男女)	高橋・金城	山崎・江島・笹栗
8	バスケットボール部(男)	山本郁	黒木・中畑・泉本・山本稔
9	バスケットボール部(女)	中坊	福田か・野坂
10	テニス部	小田	江頭・川越・赤坂・池田
11	ラグビー部	江崎	米永・中寫
12	ハンドボール同好会	藤田	江崎・中寫
13	合気道部	中島	松永・山本稔
14	水泳部	田中慎	後藤・綾部・中畑
15	サッカー部	橋村	松井・原・谷・石井・重松
16	バドミントン部	龍頭	大岡・中武・濱上・津田
17	卓球部	久保	丸山・前田・平元
18	サイクリング愛好会	中尾	東島
19	ソフトテニス愛好会	辻	森・伊藤・長田
20	フットサル愛好会	平暮	宮崎

出典：学生課学生係資料

資料5-4-②-4

平成18年度 技術コーチ依頼者一覧

番号	クラブ名	コーチ氏名	略 歴
1	空 手 部		山本吉野園勤務 日本空手協会 六段 日本空手協会久留米支部忠武館師範
2	弓 道 部		鹿児島高等農林教官 農林水産省（昭和57年退官） 全日本弓道連盟 教士六段
3	茶 道 部		裏千家準教授（茶名：宗美） 昭和53年資格取得
4	卓 球 部		平成5,6年全日本選手権大会フォーティ ーの部優勝 国際審判員 公認レフェリー C級スポ ーツ指導員
5	英 会 話 部		久留米高専非常勤講師（英語）
6	吹 奏 楽 部		(株)沢井製薬勤務 くるめシティーブラス （ホルン奏者） H12.5 合歓バンド指揮者クリニック参加 H12.12 九州吹奏楽連盟指揮者セミナー 参加
7	合 気 道 部		合気道三段 西日本文化サークル、BS サークル、 祥平塾久留米道場指導中
8	華 道 愛 好 会		華道家元池坊三瀧支部所属 職役華督(本 部中央委員)
9	硬 式 野 球 部		
10	柔 道 部		柔道六段
11	バドミントン部		2005年（大2）久留米大学九州地区 リーグ団体3位 九州・中国・四国地区大会団体戦準優勝 シングルベスト8 福岡県総合（一般）ダブルスの部 準優勝

出典：学生課学生係資料

外部イベント等への支援

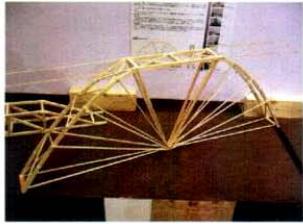
 久留米高専で課外活動に頑張っている学生も大勢います。そんな学生の活動の一部を紹介します。

高等専門学校ロボットコンテスト
2005九州沖縄地区大会 学生主事 松井 悟



平成17年度の高専ロボコン九州沖縄地区大会は有明高専の運営で、11月13日(日)に荒尾市民体育館で開催されました。今年の競技課題は“大運動会”と銘打たれ、まず手動ロボットが“梯子くぐり・平均台走行・ハードル越え”の3種類の障害物をクリアした後、自動ロボットにバトンを渡し、垂直な壁面をよじ登ってバトンをゴールの穴に差し込むまでの時間を競うというものでした。10高専20台のマシンが参加した地区大会の様子は11月23日(祝)にNHK総合テレビで放映されましたのでご存知の方も多いと思いますが、課題の難易度が高くゴールに挑戦できたのは優勝した鹿児島高専のみ、という状況でした。本校からも、らせん形のHelix、三日月形のクレセント、というユニークなボディを持つ2台のロボットが出場しましたが、競技中にコントローラーの不調や駆動系の歯車が滑るなどのトラブルが発生し、十分にその実力を披露出来ないまま2回戦までに敗退しました。残念ながら全国大会出場4チームの選には洩れましたが、Helixが本田技研工業特別賞を受賞しました。ここ数年全国大会入賞を果たしていませんので、来年こそは倦土重来を期したいものです。

全国デザインコンペティションに参加して 機械工学科四年 二江貴也



優勝校(豊田高専)の作品

私たちは、11月18、19日に兵庫県明石市で開催された第二回全国高専デザインコンペティションの構造部門に参加しました。このコンペティションは構造、環境、プロポーザル(新しい避難施設の提案)の三部門から成る設計競技会で、ロボコン、プロコンに次ぐ高専の3大コンペティションに位置づけられています。私たちが参加した構造部門は規定(橋のパーツは一つあたり10×10×300(mm)以内。自重は300g以内etc...)に従って1mの間隔をつなぐ木製の橋を製作して、その性能を競うものでした。この会は各高専の建築・土木系の学生の参加が主で機械工学科から参加したのは我々だけでした。そのため他チームから注目を集めたのですが、勉強内容の違いや模型製作の経験不足により惨敗でした。ちなみに結果は優勝校(豊田高専)が200kgの荷重を載せたのに対し、私たちは25kgです。このような結果ではありましたが、製作者としては予想した荷重を載せることができ十分満足しています。また何よりもこの経験によりモノ造りへの熱い気持ちを改めて感じる事ができました。自分たちで設計し、製作したものが壊れるまでを見る経験は大きな衝撃を与えてくれます。はじめは、単に面白いと興味をひくだけでしたが、徐々になぜ?どうして?と疑問がわいてきて、それを解決するためにいろいろなことが知りたくなりました。この気持ちがモノ造りをやっていく上で大変重要なものなのだとよくわかる体験でした。今回の経験を生かして来年も参加したいと思っています。皆さんも来年は都城で開催されるのでぜひ挑戦してみてください。

クラブ紹介～吹奏楽部
 吹奏楽部顧問 宮崎浩一



吹奏楽部は、学校行事での演奏はもちろんのこと、学外でも活発に演奏活動を行っています。吹奏楽部の加盟している吹奏楽連盟が毎年開催する催しでは、7月の「吹奏楽コンクール・大学の部」、9月の「くるめ音楽祭」、1月の「New Year Band Festival」に出演しています。この他、外部から依頼されて演奏することもあります。今年も、小森野校区公民館から依頼され、8月22日(日)に小森野小学校において開催された「小森野校区夏まつり」に出演しました。「ミッキー・マウス・マーチ」や「見上げてごらん夜の星を」などを演奏し、小森野校区の子供から年輩の方まで楽しんでいただきました。また、久留米吹奏楽連盟から依頼され、12月11日(日)に久留米六角堂広場で開催された「第1回くるめ光の祭典・ほとけきファンタジーフェスティバル Brass Music Day・久留米吹奏楽連盟創立50周年記念・くるめ吹奏楽 WAVE」に他4団体と共に出演しました。「ウィンター・ワンダーランド」、「クリスマス・トゥデー」といったクリスマスの曲や、「キラキラ星変奏曲」、「宝島」を演奏しました。冬の野外での演奏でしたが、寒さに負けず精一杯演奏し、広場に集まった久留米市民の皆様楽しんでいただきました。



出典：高専ニュース第49号

資料5-5-②-1

教育目標と科目の対応表
表 専攻科の教育目的/教育目標に対応した授業科目

教育目的/教育目標	一般科目/専門基礎科目/専門科目	必修/選択	機械電気システム専攻	物質工学専攻			
工学の基礎科目	専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	地球環境と現代生物学			
			現代物理学	現代物理学			
		選択	応用数理Ⅰ	応用数理Ⅰ			
			応用数理Ⅱ	応用数理Ⅱ			
			応用数理Ⅲ	応用数理Ⅲ			
			量子力学	量子力学			
統計力学及び熱力学	統計力学及び熱力学						
物性化学	物性化学						
先端技術、高度情報化に対応する科目	専門基礎科目	必修	応用情報処理演習	応用情報処理演習			
		選択	応用情報処理演習	応用情報処理演習			
	専門科目	必修	画像工学	画像工学			
		選択	先端工学特論	先端工学特論			
			弾塑性力学	有機反応化学			
			応用流動工学	有機構造化学			
			生産加工学	生体機能分子学			
			移動現象論	生体物質化学			
			計算力学	化学工学特論			
			設計システム工学	高分子材料特論			
			メカトロニクス工学	応用物理化学			
			システム制御工学	真空工学			
			センサー工学	機能材料学			
			生体情報工学	材料組織制御			
			半導体電力変換工学	材料組織学特論			
			応用電磁気学	表面処理工学			
			デジタル信号処理	材料強度学			
			プラズマ工学	無機材料学			
			国際化に対応する科目	一般科目	必修	実践英語Ⅰ	実践英語Ⅰ
						実践英語Ⅱ	実践英語Ⅱ
実践英語Ⅲ	実践英語Ⅲ						
選択	環境倫理学	環境倫理学					
	工学倫理	工学倫理					
	産業財産権特論	産業財産権特論					
創造的研究開発能力の育成に関する科目	専門科目	必修	技術英語	技術英語			
	一般科目	必修	産業デザイン演習	産業デザイン演習			
	専門科目		創造工学実験	創造工学実験			
	専攻科研究論文		専攻科研究論文				
総合科目	専門科目	必修	専攻科インターンシップ	専攻科インターンシップ			

資料5-5-②-2

専攻科ガイダンス資料 (抜粋)

2-2 専攻科の授業科目一覧

(1) 一般科目及び専門基礎科目(JABEEプログラム各コース共通)

(注)2年後期の講義はすべて集中講義.

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	学 期 別 配 当				備 考	
			1 年 次		2 年 次			
			前 期	後 期	前 期	後 期		
一 般 科 目	必 修	実 践 英 語 I	演習	1	1			
		実 践 英 語 II	演習	1		1		
		実 践 英 語 III	演習	2			2	
		環 境 倫 理 学	講義	2		2		
		産 業 デ ザ イン 演 習	演習	2	2			
		工 学 倫 理	講義	2			2	
	一 般 科 目 必 修 単 位 計			10	3	3	4	
	選 択	産 業 財 産 権 特 論	講義	2	2			4単位以内
		専 攻 科 特 論 一 般 I	講義又は演習	2		2		
		専 攻 科 特 論 一 般 II	講義又は演習	2			2	
一 般 科 目 選 択 単 位 計			6	2		2		
専 門 基 礎 科 目	必 修	地 球 環 境 と 現 代 生 物 学	講義	2	2			
		現 代 物 理 学	講義	2	2			
		応 用 情 報 処 理 演 習	演習	2		2		
		専 門 基 礎 科 目 必 修 単 位 小 計			6	4	2	
	選 択	応 用 数 理 I	講義	2	2			10単位以上修得
		応 用 数 理 II	講義	2		2		
		応 用 数 理 III	講義	2			2	
		量 子 力 学	講義	2		2		
		物 性 化 学	講義	2	2			
		画 像 工 学	講義	2	2			
		応 用 情 報 処 理	講義	2		2		
		統 計 力 学 及 び 熱 力 学	講義	2			2	
		専 攻 科 特 論 専 門 I	講義	2			2	
	専 攻 科 特 論 専 門 II	講義	2			2		
	専 門 基 礎 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計			20	6	6	2	6
専 門 基 礎 科 目 開 設 単 位 計			26	10	8	2	6	
一 般 科 目 、 専 門 基 礎 科 目 開 設 単 位 合 計			42	15	13	6	8	

出典：平成18年度専攻科ガイダンス資料 P5

資料 5-5-③-1

専攻科インターンシップ資料

平成 18 年度 久留米高専専攻科 物質専攻 2 年 シラバス(授業計画)

授業科目名		専攻インターンシップ			担当教員	専攻科主事及び担当教員																	
開講時期	後期	授業形態	実習	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	7														
授業の目的 「本学科+専攻科」の7年間で学んだ工学的知識や技術を実践の場においてどの程度応用できるかを企業等での長期間の体験実習を通じて学生に理解させることを目的とする。各学生が企業から真摯に評価を受けることで、学生の自己啓発や専攻科の教育改革を行うための最重要科目の位置付けとなる。																							
到達目標 ○ 技術が社会に及ぼす影響・効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解 ○ 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察する能力 ○ 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力 ○ 日本語による論理的な記述力、口頭発表、討議などのコミュニケーション能力 ○ 自主的、継続的に学習できる能力							JABEE プログラム目標 G-1 F-2																
授業内容 攻科2年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務を行う。予めインターンシップ担当教官が引き受け実施機関の用意しているプログラムを検討・調整しておき、そのプログラムに従って実習する。 例えば、 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 機械部品などの組み立て・製作</td> <td style="width: 50%;">8. 実験・試験・測定・データ整理</td> </tr> <tr> <td>2. 設計・製図・図面の修正</td> <td>9. ワード・エクセルによる文書作成</td> </tr> <tr> <td>3. 制御回路の組み立て・修理</td> <td>10. 製品の品質検査</td> </tr> <tr> <td>4. 操作説明書の作成</td> <td>11. 計算プログラム作成</td> </tr> <tr> <td>5. CADによる図面作成</td> <td>12. 報告書および最終報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>6. グラフィクスの作成</td> <td>13. インターンシップ報告会の準備と口頭発表</td> </tr> <tr> <td>7. 穴あけ・切削・溶接などの加工</td> <td></td> </tr> </table>										1. 機械部品などの組み立て・製作	8. 実験・試験・測定・データ整理	2. 設計・製図・図面の修正	9. ワード・エクセルによる文書作成	3. 制御回路の組み立て・修理	10. 製品の品質検査	4. 操作説明書の作成	11. 計算プログラム作成	5. CADによる図面作成	12. 報告書および最終報告書の作成	6. グラフィクスの作成	13. インターンシップ報告会の準備と口頭発表	7. 穴あけ・切削・溶接などの加工	
1. 機械部品などの組み立て・製作	8. 実験・試験・測定・データ整理																						
2. 設計・製図・図面の修正	9. ワード・エクセルによる文書作成																						
3. 制御回路の組み立て・修理	10. 製品の品質検査																						
4. 操作説明書の作成	11. 計算プログラム作成																						
5. CADによる図面作成	12. 報告書および最終報告書の作成																						
6. グラフィクスの作成	13. インターンシップ報告会の準備と口頭発表																						
7. 穴あけ・切削・溶接などの加工																							
教材および参考図書 なし																							
授業の進め方と履修上の注意 インターンシップ受け入れ機関を提示し、その中から、担当教官と学生が相談の上、学生の希望と諸条件を考慮して、配属先の引き受け機関を決定する。実施時期は10月中旬から2月上旬までの間で、期間は2ヶ月以上4ヶ月以内、企業あるいは研究機関などにおいて実際の業務に従事する。ただし、12月中旬の大学評価・学位授与機高7試験期間1週間は除く。担当教官は、時折、実施機関を訪問して、学生の状況を把握するとともに、実施機関の引き受け責任者と連絡を密にする。学生は、一ヶ月ごとに報告書を担当教官に提出する。インターンシップ終了後直ちに、学生は最終報告書および実施機関の引き受け責任者が記入・封印した評定書を提出する。																							
評価方法 複数のインターンシップ担当教官により次の割合で成績評価を行う。報告書20%、実施機関の評定書40%、報告会40%として総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。																							

出典：平成18年度シラバス冊子からの抜粋

専攻科インターンシップ実績

専攻科インターンシップ受け入れ先(H15-H17)

平成15年度	平成16年度	平成17年度
16名	17名	20名
8名	8名	3名
(株)イズミ (株)インコーポレーテッド (株)ワイビーエム (株)栄電舎 (株)三松 (独)食品総合研究所 (独)食品総合研究所 アイテムラボ システムラボ ノリタケ工業(株) 高木鉄工(株) 高木鉄工(株) 新栄精工(株) 第一施設工業(株) 日米コム(株) (独)産業総合研究所 (独)産業総合研究所 (独)産業総合研究所 九州大学先端物質化学研究所 月星化成(株) 第一毛織(株) 第一毛織(株) 日米コム(株)	武田自動車販売(株) イズミフオートグラム (株)栄電舎 (株)香春製鋼所 株式会社ロジックワイビーエム 株式会社メモック 株式会社メモック システムラボ 高木鉄工 高木鉄工 ながすなケ工業 ノリタケ工業 空蘭工業大学 第一施設工業(株) 翼システム(株) 産総研 産総研 産総研 昭栄化学(株) 第一毛織(韓国) 第一毛織(韓国) 月星化成(株) 福岡県食品研究所	栄電舎 ロジック・リサーチ システムラボ 独立行政法人産業技術総合研究所 ヨシモトホールディングス ジュビライエム 牧野アビス ワイヤエム 佐賀鉄工所 シンボリックテック 日米コム ノリタケ・スーパーアグレッシブ 日米コム ロジック・リサーチ TDK三隈川工場 ノリタケ・スーパーアグレッシブ 栄電舎 電子工業 武田自動車 独立行政法人産業技術総合研究所 福岡県工業技術センター 共栄資源管理センター
機電機物	機電機物	機電機物

資料5-5-③-4

サマーレクチャーの開講実績

サマーレクチャー年度別開催状況

年度	開催校	テーマ	期間	開催状況
15	久留米工業高等専門学校	タンパク質～理学的理解から工業的理解まで	H. 15. 8. 25～8. 29	18名(北九1, 佐世保1, 八代7, 本校9)
16	久留米工業高等専門学校 八代工業高等専門学校	「最近の機械加工」～主に歯車の加工を中心として～ エネルギー変換の仕組み	H. 16. 8. 9～8. 12 H. 16. 8. 2～8. 6	14名(八代3, 本校10) 本校から10名参加
17	久留米工業高等専門学校 八代工業高等専門学校 熊本電波工業高等専門学校	メカトロニクスの基礎と応用 初級英語学習者のためのTOEIC講座 デザイン能力向上のための「開発工学」	H. 17. 8. 1～8. 5 H. 17. 7. 25～7. 29 H. 17. 8. 8～8. 12	35名(八代4, 本校31) 本校から1名参加 本校から1名参加
18	八代工業高等専門学校	システム開発能力向上のためのマイコンシステム工学	H. 18. 7. 24～7. 28	本校から1名参加

資料 5 - 5 - ③ - 6

久留米市内単位互換協定校による「共同講義」開催

昨年 6 月、久留米市内にある 5 つの学校により単位互換協定の締結が行われ、学生諸君は、他の学校の授業を履修し、所属する学校の単位として認定ができるようになりました。その制度を利用し、昨年度約 20 名の学生さんたちが他の学校で授業を受講しました。今年度も同様に単位互換による授業が開講されていますが、後期には、その学校が所在している「久留米」についてもっと学生諸君に知ってもらおうと、この久留米市内大学等单位互換協定に参加している 5 つの学校と久留米市が連携して「共同講義」を開催することになりました。

今回は、「久留米の歴史とくらし」をテーマとして開講します。開催要項は下記のとおりです。興味のある学生諸君の参加を待っています。

【授業科目】

共同講義（久留米の歴史とくらし）

【開講日程】

	開講日時	講義テーマ	担当者
1	10月15日(土) 9:00~12:10	「高良山と磐井」の反乱	高士與市(久留米信愛女学院短期大学名誉教授)
2	10月29日(土) 9:00~10:30	未定	久留米市役所
	10:40~12:10	高齢者の介護問題と福祉コミュニティづくり	保坂恵美子(久留米大学教授)
3	11月5日(土) 9:00~10:30	私のまちの歴史と文化財	久留米市役所文化財保護課
	10:40~12:10	久留米の行財政	世利洋介(久留米大学教授)
4	11月12日(土) 9:00~10:30	少子社会と家族の変化	野口房子(聖マリア学院短期大学教授)
	10:40~12:10	医療における草木の癒しとボランティア	内海文子(聖マリア学院短期大学非常勤講師)
5	11月19日(土) 9:00~10:30	からくり人形と巖右衛門(田中久重)の話	井川秀信(久留米工業大学助教授)
	10:40~12:10	歴史的町並みと町作り(草野町)	大森洋子(久留米工業大学教授)
6	11月26日(土) 9:00~10:30	久留米の野鳥について	東島光雄(久留米工業高等専門学校教授)
	10:40~12:10	久留米の歴史	池畑裕樹(久留米大学助教授)
7	12月3日(土) 9:00~12:10	地場の技術と産業振興	藤田雅俊(久留米工業高等専門学校助教授)

【開講会場】

六ツ門大学(左図参照)

※駐車場はありませんので、必ず公共交通機関を利用してください。

【出願手続】

履修や出願手続き等については、所属大学の窓口にお問合せください。

【受講定員】

60名(定員になり次第受付を終了します)



資料 5 - 5 - ③ - 8

学修単位の認定

(4) 本校専攻科以外の教育施設等における学修の単位認定について

〔平成 13 年 5 月 24 日 専攻科委員会審議〕

〔平成 14 年 1 月 17 日 学科長委員会審議〕

本校学則第 13 条及び「久留米工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程」第 2 条に定める本校専攻科以外の教育施設等における学修（以下「特別学修」という）の単位認定について、次のとおり定める。

1. 特別学修とは、本校専攻科在籍中に行う下記の各号に掲げる学修をいう。
 - (1) 大学等における学修
 - (2) その他文部科学大臣が別に定める学修を校長が教育上有益と認めた別表 1 に定めるもの
2. 特別学修を行おうとする者は、所定の特別学修許可願に、関係書類を添えて校長に提出し許可を受けなければならない。校長はこの願い出が教育上有益と認めるときは、これを許可するものとする。
3. 特別学修を行い単位の認定を受けようとする者は、下記の各号に掲げる区分に応じ、必要書類を添え校長に申請しなければならない。
 - (1) 大学等における学修をし単位修得した者
 - イ 当該大学長が交付する単位修得証明書又は成績証明書
 - ロ 特別学修単位認定願
 - ハ その他学校が必要と認める書類
 - (2) 文部科学大臣認定の技能審査等により学修した者
 - イ 当該学修を証明する合格証書の写し等又は成績を証明するもの
 - ロ 特別学修単位認定願
 - ハ その他学校が必要と認める書類
4. 特別学修の単位認定は学則第 13 条に基づき校長が行う。大学等以外で認定できる試験及び単位数は、別表 1 の通りである。但し、専攻科修了に必要な単位数の単位として認定できるのは、前項の(1)と(2)合わせて 4 単位以内とする。

別表 1 特別学修の単位（大学以外）

試験の種類	級・点数	認定単位	認定科目
工業英語能力検定試験	3 級	1 単位	専攻科特論
	2 級	2 単位	

5. 特別学修の単位認定は専攻科修了年度の最終学期に行う。また、別表 1 に対しては級の最上級に対して行い、本学科で既に単位取得している場合は、既認定単位数を差引いた単位を認定する。
6. 本事項は平成 14 年 4 月 1 日より実施する。

資料5-5-③-9

フォーラム実績 (抜粋)

平成15年度久留米高専フォーラム等実施状況

事業名	講演等の内容	開催日	開催場所	参加人員
第5回久留米高専産学民連携講習会	特許の流通と検索 (1)特許の検索 (2)特許の流通	4月25日	久留米高専	19
第5回久留米高専産学民連携講演会	デフレと中小企業	5月30日	久留米高専	76
第24回久留米高専産学民連携フォーラム	最新のセラミックス材料 (1)燃焼合成法による多孔質Ti ₂ C-Ti系化合物の合成 (2)セラミックレーザーの開発	6月20日	久留米高専	91
第25回久留米高専産学民連携フォーラム	食品に含まれる抗菌物質の有効利用 (1)キチン・キトサンの科学、特にキトサンの抗菌性と その有効利用 (2)夢の抗菌物質としての乳酸菌バクテリオシン	7月12日	久留米高専	54
第26回久留米高専産学民連携フォーラム	最新FA(ファクトリーオートメーション)事例の紹介 (1)工場自動化の現状と将来 (2)モーションコントロールにおける汎用シケンの優位性と同期運 転制御と制振制御を行ったシステムについて (3)多軸駆動電動射出成形機圧力制御での位置同期制御法	10月23日	久留米高専	84
第6回久留米高専産学民連携講習会	JAVA言語プログラミング講習会	10月28日	久留米高専	11
高専と大学の市民社会	環境と市民社会	11月1日	久留米大学	
第27回久留米高専産学民連携フォーラム	最近の送配電技術について (1)低風圧電線の開発 (2)住宅盤の技術開発	11月14日	久留米高専	137
第13回高専フォーラム	都城高専の地域連携を目指す取り組み	12月6日	都城高専	
第28回久留米高専産学民連携フォーラム	結び目が結ぶ世界 (1)21世紀センサ・アクチュエータに係る結び目理論の学問紹介 (2)ロープ結びの講習	12月12日	久留米高専	51
第6回久留米高専産学民連携講演会	グッドデザイン賞と近年のデザインの動向	1月30日	久留米高専	76
第7回久留米高専産学民連携講演会	知識社会における地域企業の重要性を考える —世界から明日の久留米が見える—	2月10日	久留米商工会館	71

資料5-5-③-10

先端工学特論資料

平成18年度 久留米高専専攻科 機械・電気システム工学専攻(電気電子工学コース)1年 シラバス

授業科目名		先端工学特論			担当教員	池田 隆			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
授業の目的 本科目は、学生が先端技術や工学的・工業的諸問題及びそれらが影響を与えている社会問題等に関心を高め、工業技術者としての視野を広めることを目的とする。									
到達目標 先端技術、工学的・工業的諸問題、及びそれらが影響を与える社会問題等に関心を持ち、工業技術者としての視野を広める。						JABEE プログラム目標 D、F、G			
授業内容 ①放送大学特別講義(ビデオ)と②学内外における特別講義・特別講演、等で構成されている。講演などでは福祉問題、環境問題、エネルギー問題、地域企業の先端技術、人文・社会問題、専門及び専門関連分野等の中から、自主的に興味のある学術・技術的題目を選んで聴講する。①のビデオ学習のレポートは、15回のレポートの内8編以内を受付け、学生には前期授業時間割に従って15回開催を通知する。②は随時、専攻科に開催の案内をし①②とも毎回、所定の報告書を担当員へ提出する。									
教材および参考図書 特別講義・特別講演等での配布資料等。									
授業の進め方と履修上の注意 専攻科ガイダンスに示された報告書式にまとめ、レポートを提出する。									
評価方法 (再試験の有無とその評価方法も記載する。) レポートの内容を教育目的から、A:7点、B:6点、C:5点、D:4点の4段階に評価する。その累積点が60点を越えることが必要である。									

出典：平成18年度シラバス冊子からの抜粋

資料5-6-①-1 (1/2)

講義、演習、実験、実習の単位数の割合

授業科目		授業形態	単位数	学期別配当				備考		
				1年次		2年次				
				前期	後期	前期	後期			
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	演習	1						
		実践英語Ⅱ	演習	1	1					
		実践英語Ⅲ	演習	2		2				
		環境倫理学	講義	2	2					
		産業デザイン演習	演習	2	2					
		工学倫理	講義	2		2				
	一般科目必修単位計			10	3	3	4			
	選択	産業財産権特論	講義	2	2			4単位以内		
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2		2				
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2			2			
一般科目選択単位計			6	2		2				
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2						
		現代物理学	講義	2	2					
		応用情報処理演習	演習	2		2				
		専門基礎科目必修単位小計			6	4	2			
	選択	応用数理解Ⅰ	講義	2	2			10単位以上修得		
		応用数理解Ⅱ	講義	2		2				
		応用数理解Ⅲ	講義	2			2			
		量子力学	講義	2		2				
		物性化学	講義	2	2					
		画像工学	講義	2	2					
		応用情報処理	講義	2		2				
		統計力学及び熱力学	講義	2			2			
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2			2			
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2			2			
		専門基礎科目選択開設単位小計			20	6	6		2	6
		専門基礎科目開設単位計			26	10	8		2	6
一般科目、専門基礎科目開設単位合計			42	15	13	6	8			

出典：専攻科ガイダンス資料（平成18年度） P5

資料5-6-①-1 (2/2)

授業科目		授業形態	単位数	学期別配当				備考
				1年次		2年次		
				前期	後期	前期	後期	
必修	創造工学実験	実験	2	2				
	技術英語	演習	1			1		
	先端工学特論	演習	1		1			
	専攻科研究論文	実験	10	1	2	7		学位申請等論文
	専攻科インターンシップ	実習	7				7	
専門科目必修単位小計			21	3	3	8	7	
専門科目 選択	弾塑性力学	講義	2	2				12単位以上 修得
	応用流動工学	講義	2		2			
	生産加工工学	講義	2			2		
	移動現象論	講義	2		2			
	計算力学	講義	2				2	
	設計システム工学	講義	2			2		
	メカトロニクス工学	講義	2			2		
	システム制御工学	講義	2	2				
	センサー工学	講義	2		2			
	機械工学特論	集中講義	2	2				
	電気電子工学特論	集中講義	2	2				
	制御情報工学特論	集中講義	2	2				
専門科目選択開設単位小計			24	10	6	6	2	
専門科目開設単位計			45	13	9	14	9	
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)			81	26	20	20	15	
修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)			65単位以上					

※機械工学プログラムは、本コースと本科4・5年課程からなる。

出典：専攻科ガイダンス資料（平成18年度） P6

資料5-6-①-2

専攻科インターンシップ資料

1. 実施要項

1.1 インターンシップの目的

本科目は、「本学科+専攻科」の最終科目として設定しており、「本学科+専攻科」の7年間で学んだ工学的知識や技術を実践の場においてどの程度応用できるかを企業等での長期間の体験実習を通じて学生に理解させることを目的としています。

専攻科では各学生が企業から真摯に評価を受けることで、学生の自己啓発や専攻科の教育改革を行うための最重要科目として位置付けております。

1.2 インターンシップ実施時期および期間

実施時期は専攻科2年後期の10月中旬から2月初旬までで、期間は2ヶ月以上4ヶ月以内とします。ただし12月中旬に学位授与機構認定試験があるため、その期間1週間はインターンシップ実施期間から除きます。

1.3 修得単位

後期7単位

1.4 インターンシップ実施内容

専攻科2年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務

1.5 インターンシップ実施のための組織

実施にあたり、本校にインターンシップ調整責任者（教員）を置き、実施機関に引受責任者を置く。それぞれの任務は下記のとおりである。

- ・ 調整責任者（本校教員）；
 - (1) 実施機関、学生及び指導教員との連絡・調整
 - (2) 実施機関の紹介及び訪問（実施期間中随時）
 - (3) 成績評価（専攻科主事室教員も含む）
- ・ 引受責任者（各実施機関）；
 - (1) 目的にそった学生の指導
 - (2) 学生が提出した報告書の検印及び評定書の提出

1.6 成績の評価

調整責任者は、以下の内容から総合的に評価する。

- (1) 報告書
- (2) 評定書
- (3) 報告会

出典：専攻科インターンシップの手引き（平成18年度版）P2

資料5-6-①-3

産業デザイン演習資料

平成18年度 久留米高専専攻科 全専攻1年 シラバス(授業計画)

授業科目名	産業デザイン演習				担当教員	藤田 雅俊			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
授業の目的 商品企画から商品サーベイ、商品研究、市場化を踏まえた実際の商品化提案までのプロセスをグループ単位での演習により修得する。社会的に要求される商品を自ら求め、そのニーズに相応しい商品を技術解析、情報収集を基にして具体化する。グループでの作業により、計画的、地継続的に仕事を進める責任感を養い、最終的なプレゼンテーションでの資料のまとめ方、口頭発表能力、コミュニケーション能力を高める。									
到達目標 商品化のデザイン作業が、生産技術の応用であることを踏まえ、商品の企画から最終デザインまでのプロセスを理解、修得し、技術とデザインのあり方を学習する。商品デザインのプロセスを理解した上で、自ら技術及びこれを応用した商品の企画を行う。本科での専攻の異なるメンバーによるグループワークを基本として、専門性や志向性の異なるメンバー同士がコミュニケーションをとり、プレゼンテーションを行う。						JABEE プログラム目標 A1～3 D E F			
授業内容 第1週；オリエンテーション（授業の進め方／評価方法等のガイダンス） 第2週；商品企画対象の選定 第3週；商品化プロセス調査1 第4週；商品化プロセス調査2 第5週；商品化プロセス調査3（発表） 第6週；商品化企画演習1（要素技術の調査） 第7週；商品化企画演習2 第8週；商品化企画演習3（中間発表） 第9週；商品化企画演習4 第10週；商品化企画演習5 第11週；商品化企画演習6 第12週；プレゼンテーション1 第13週；プレゼンテーション2 第14週；講評及び評価 第15週；課題レポート									
教材および参考図書 教材は適宜資料を配付									
授業の進め方と履修上の注意 授業における商品デザインの講義、商品提案スタディ、テーマレポートを総合的に行う。									
評価方法 商品化プロセス調査 20% 演習課題 50%（相互評価を含む） 課題レポート 30%									

出典：平成18年度シラバス冊子からの抜粋

資料5-6-②-1 (1/2)

創造工学実験資料

平成18年度 久留米高専専攻科 機械・電気システム工学専攻 1年 シラバス(授業計画)

授業科目名		創造工学実験			担当教員	廣尾靖彰、橋村真治、田中大、青山洋一、長田芳裕、福田幸一、小田幹雄			
開講時期	前期	授業形態	実験	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	2
授業の目的 工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行い、自主性、創造性ならびに行動力の向上を目的とする。									
到達目標 1. 自主的な実験企画を行い、遂行し、結果を考察できる。 2. 成果報告書に技術報告書としてまとめることができる。 3. 成果を要約し所定の時間内に発表できる。							JABEEプログラム目標 D-2 E F G-1		
授業内容 1. スケジュール説明・プレゼンテーション技法指導・安全指導 2. 計画発表資料作成 3. 計画発表 4. 実験装置図作成 5. 実験装置製作・実験 6. 成果報告要旨作成、発表資料作成 7. 成果発表会 8. 成果報告書作成									
教材および参考図書 資料を配付する。旋盤、フライス盤、のこ盤、電気計測器を設置。 基本電気部品類は常備。研究者総覧、カタログ類。									
授業の進め方と履修上の注意 入学前に各自が希望するテーマを3項目提出し、担当教員による審査後テーマを決定する。 各自で装置・実験方法を企画し、計画発表会にて説明、必要があれば変更を行う。 その後、装置製作のための物品購入請求を行い、目的の実験を行う。専門分野についての指導は本校教職員全員が対応する。実験結果は成果発表会で要旨(A4・1枚)をもとに報告し、成果報告書(A4・8～14枚)を提出する。自主的に行動することが大切である。									
評価方法 テーマについて30% (独創性、難易度)、実験装置の完成度20%、報告書30% (調査量、技術文書表現力)、プレゼンテーション20% (発表手順、発表資料、発表技術、発表時間)。なお、評価が60点未満の場合、成果報告書の提出期限後一ヶ月以内に追加実験などを行い、成果報告書の再提出により、60点を限度として学年末成績評価で追認することがある。									

出典：平成18年度シラバス冊子からの抜粋

資料5-6-②-1(2/2)

平成18年度 久留米高専専攻科 物質工学専攻 1年 シラバス(授業計画)

授業科目名		創造工学実験			担当教員	津田 祐輔・伊藤 義文			
開講時期	前期	授業形態	実験	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	2
授業の目的 生物応用化学に関するテーマを自主的に企画・立案し、遂行した後、プレゼンテーション報告書、(必要に応じて)特許にまとめる能力を身につける。									
到達目標 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる能力の育成							JABEEプログラム目標 F		
授業内容 1. プロポーザルの提出及び説明(開始約一ヵ月後) 2. 進捗説明会及びアドバイス(毎週) 3. 成果のプレゼンテーション(期末) 4. 報告書提出(期末)									
教材および参考図書 これまでの創造工学実験報告書(製本している)。 創造工学・特許に関する文献など。									
授業の進め方と履修上の注意 教官はアドバイスをするに留め、企画・立案、実験器材・材料の発注、実験、まとめ、(特許作成)まで全て学生の自主性に任せる。									
評価方法 実験の進捗(50%)、発表(25%)、論文(25%)を2教官の平均点で評価する(必要に応じ各専門分野の教員を加える)。不適当な場合には特別教育期間などを利用し、再実験を行なう。 評価基準 : 60点以上を修得とする									

出典:平成18年度シラバス冊子からの抜粋

資料5-6-②-2

産業デザイン演習資料

産業デザイン演習・調査課題評価シート

専攻
番号
名前

評価シート.1

評価項目	グループ No.				
1. 独自性					
2. 市場性					
3. 技術的説得力					
4. 発展性					

評価点 項目ごとに5点満点

1. 独自性：商品の着想、新しさ、提案内容のオリジナリティがあるか？
2. 市場性：商品販売先についての説得力はあるか？
3. 技術的説得力：商品化にあたっての技術的裏付けは確かか？
4. 発展性：提案商品をベースにした将来性はあるか？
5. 意匠性：使用する環境にふさわしい形のあり方を追求しているか？

出典：産業デザイン演習プロセス評価

資料 5 - 7 - ① - 1

専攻科研究論文の学生の配置 (抜粋)

平成16年度 専攻科研究論文配置表

機械・電気システム工学専攻 1年

氏名	出身学科	題目	指導教員
	電気	無線移動通信における非対称通信方式の研究	大崎、中島(勝)
	電気	磁気マルチパイプレータを用いた電流センサ	池田、南里
	機械	自動車の小型化に関するデザインと技術の変遷についての研究	藤田
	電気	単共振信号を用いた音声の聴取能力推定に関する研究	池田
	機械	ホブ切り歯車の歯形誤差に関する研究	廣尾、櫻木、永野
	電気	スクロールディスプレイへの文字、画像情報表示の研究	中島(勝)
	電気	ジュール加熱制御回路のプリント基板作成	江崎
	機械	マイクロ水平軸風車のフィールド実験	中武、田中(大)
	機械	潤滑油添加剤による境界摩擦低減法	松井、廣尾
	電気	デバイスシミュレータの開発	長田
	機械	ボルト・ねじ締結における信頼性向上に関する研究	橋村、廣尾、原田
	制御	超電導ロータリアクチュエータの試作と制御	中尾
	機械	低速型二軸サンドミルの粉砕性能に関する研究	藤、松永
	機械	マイクロ水平軸風車用ブレードに関する研究	中武、田中(大)
	電気	予測符号化における予測係数の条件に関する検討	黒木
	電子制御	端子不完全接続による電気火災の加速試験法の開発	青山
	電気	気体による散乱現象を利用したレーザービーム品質の測定に関する研究	宮崎
	機械	風力を利用した海水淡水化装置の開発	田中(大)、中武
	機械	三重管式熱交換器の伝熱促進と性能評価	松水
	電子制御	神経回路網を用いた任意形状の輪郭線検出に関する研究	小田
	制御	ニューロンの量子計算によるネットワークモデル	前田
	機械	薄板構造における微小変形と大変形の判別法に関する解析的研究	原田、橋村、中尾

物質工学専攻 1年

氏名	出身学科	題目	指導教員
	材料	3元系鉄族金属合金の電析挙動解明	矢野、田中(慎)
	材料	多合金白鉄の高機能化に関する研究	笹栗
	生化	ゴム分解微生物に関する研究	笈木
	生化	貴金属類の膜抽出に関する研究	梶
	物質	地衣類の耐性に関する研究	中島(裕)
	生物	イネにおける有用遺伝子の構造および発現の解析	大岡、富岡

資料5-7-①-2

技術職員の配置表

久留米工業高等専門学校職員組織状況表 (平成18年4月1日現在)

職別	事務職員		学生職員		専任職員		兼任職員		非常勤職員		計	専任職員	兼任職員	非常勤職員	計
	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任					
事務職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
学生職員															
専任職員															
兼任職員															
非常勤職員															
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

区分	事務職員		学生職員		専任職員		兼任職員		非常勤職員		計	専任職員	兼任職員	非常勤職員	計
	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任	主任					
事務職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
学生職員															
専任職員															
兼任職員															
非常勤職員															
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

資料 5 - 8 - ① - 1

久留米工業高等専門学校専攻科における単位の修得に関する規程

(平成 18 年 3 月 16 日制定)

(目的)

第 1 条 この規程は、久留米工業高等専門学校学則第 5 3 条第 3 項の規定に基づき、専攻科の修了に必要な単位の修得について定めることを目的とする。

(修了に要する単位数)

第 2 条 専攻科の修了に要する単位数は、65 単位以上とする。ただし、専攻科の単位を修得し修了するには学則第 4 9 条別表 3 に示す機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の各系（以下「コース」という。）のいずれかを履修しなければならない。

第 3 条 機械・電気システム工学専攻及び物質工学専攻のコースは、以下のとおりとする。

機械・電気システム工学専攻：機械工学コース，電気電子工学コース，制御情報工学コース
物質工学専攻：生物応用化学コース，材料工学コース

(他大学等での単位の修得)

第 4 条 前条の規定にかかわらず、他の大学等において修得した単位は、6 単位を限度に一般科目選択の専攻科特論一般 I、II 又は専門基礎科目選択の専攻科特論専門 I、II の修得単位として置換えることができる。ただし、この場合も専門基礎選択科目 10 単位以上、専門選択科目 12 単位以上修得しなければならない。

(他コースの修得)

第 5 条 単位の修得にあたっては、他コースの選択科目を、4 単位を限度として修得することができ、修了に要する単位として認めることができる。

附 則

1. この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2. 久留米工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程（平成 15 年 4 月 1 日制定）は、この規程制定の日から廃止する。
3. この規則は平成 18 年度入学者から適用し、平成 17 年度以前入学者の単位の修得に関しては、なお従前の例による。

資料5-8-①-2 (1/2)

久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績
の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程

(平成18年3月16日制定)

第1章 総論

第1条 この規程は、久留米工業高等専門学校学則第53条第3項の規定に基づき専攻科における学業成績の評価及び修了に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

第2章 受講及び履修

第2条 当該学年の受講及び履修は、学則第49条に定める教育課程表に基づき必修科目及び選択科目を受講履修する。

2. 選択科目の受講については、予め、校長に選択科目履修届を提出し受講するものとする。
3. 各科目とも開講時数の5分の4以上出席した者は、履修と認める。ただし、授業担当教員が履修上、特別の事情があると判断した場合は履修を認めないことができる。
4. 遅刻及び早退は3回をもって、欠課1回とする。

第3条 授業に遅刻、早退又は欠席した者で、その理由が次の各号の一に該当すると校長が認めた者については、受講と認める。

- (1) 忌引きの場合
- (2) 出席停止（懲戒を除く）の場合
- (3) 公共交通機関障害による場合
- (4) 学校行事へ参加した場合
- (5) 校長が認めた行事へ学校代表として参加した場合
- (6) その他やむを得ない事情と校長が認めた場合

第4条 前条の規定により授業に遅刻、早退又は欠席した場合は、補講を受けることができる。

第3章 試験

第5条 試験は、定期試験によるものの他適宜行うことができる。

第6条 定期試験は、該当科目の授業計画書（以下「シラバス」という。）に従って実施するものとする。

資料5-8-①-2 (2/2)

第7条 試験中不正行為を行った者の当該試験期間中の試験成績は0点とし、不正行為後の当該試験期間中の受験は認めないものとする。なお、第8条の適用は認めない。

2 前項以外の理由で停学を受け、試験を受けられなかった者の停学期間中の試験成績は0点とする。

第8条 第3条に規定する事由により定期試験を受験することができなかった者は、本人の願い出により校長が認めた場合は追試験を受けることができる。

第9条 追試験の願い出は、別に定める様式とする。

第4章 成績の評価

第10条 第2条の規定により履修と認められた者の成績の評価は、該当科目のシラバスに従って実施し、100点法で行うものとする。

第11条 学年末成績の評価は、次の4段階（A, B, C, D）で評価する。

- A 80点以上
- B 79点以下70点以上
- C 69点以下60点以上
- D 59点以下

第5章 単位の修得

第12条 単位の修得は、成績の評価が60点以上で当該科目担当教員が単位を認定した科目について、単位の修得を認める。

第6章 専攻科課程の修了

第13条 専攻科課程の修了は、久留米工業高等専門学校学則及び久留米工業高等専門学校専攻科における単位の修得に関する規程に基づき、専攻科修了認定に関する査定会議の議を経て校長が行なう。

附 則

1. この規程は、平成18年4月1日から施行する。
2. 久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程（平成15年4月1日制定）は、この規則制定の日から廃止する。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到に係る状況） 準学士課程では、本校準学士課程の教育目的及び目標に沿って、必修科目、選択科目が配置された教育課程が編成されており、必修科目及び選択科目の必要単位数を修得することにより、教育目的及び目標の達成が確認できる。

準学士課程5年生に対しては、年度末に全教員参加のもとで、卒業査定会議を実施する。卒業査定会議では、卒業査定資料をもとに卒業に相応しい学力、能力の修得について審議し、卒業認定を行っている（資料6-1-①-1、1-①-2、訪問調査時に提示）。

準学士課程1年生から4年生に対しては、全教員参加のもとで、年度末に2回の及落査定会議を実施している。1回目の及落査定会議では、（1）当該学年の所定の単位を全て修得し、特別活動への必要参加時間を満たした学生の進級の審議、（2）未修得の単位数が、規定された単位数または科目数以下の学生に対する再評価資格の可否の審議を行う。再評価対象学生については、再評価期間中に試験などを実施して再評価を行う。再評価終了後、2回目の及落査定会議を全教員参加のもとで実施し、所定単位の修得を審議、確認し進級を認める（資料6-1-①-3、1-①-4、訪問調査時に提示）。

専攻科課程では、準学士課程と同様に、本校専攻科課程の教育目的及び目標に沿って、一般科目、専門基礎科目、専門科目が配置された教育課程が編成されており、教育課程に示された必要単位数を満たすことにより、教育目的及び目標の達成ができる。

専攻科は機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻に分けられ、機械・電気システム工学専攻はさらに機械工学コース、電気電子工学コース、制御情報工学コースの3コース、物質工学専攻は生物応用化学コース、材料工学コースの2コースに分けられる。専門科目の選択科目については、専門性を深めるために各コースで履修すべき科目を定め、かつ最低修得単位数を指定しており、専攻科生は適切に選択科目を修得している。全教員参加のもとで修了査定会議を年度末に開催し、専攻科学生の修了の審議を行っている。修了査定会議では、学業成績一覧表などの資料に基づき、修了までに必要な単位修得の規定に従って、学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力がふさわしいと認められたものに対して修了認定を行っている（資料6-1-①-5、1-①-6、訪問調査時に提示）。

（分析結果とその根拠理由） 準学士課程、専攻科課程ともにそれぞれの課程での教育目的及び目標が明確に定められ、準学士課程では学年末に全教員参加のもと卒業査定会議と2回の及落査定会議を開催し、また、同様に専攻科課程でも修了査定会議を開催し、各課程での教育目的及び目標の達成状況を評価、確認しており、適切な取組が行われていると判断できる。

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況) 準学士課程及び専攻科課程の学年平均の原級率は、数パーセントである(資料6-1-②-1、訪問調査時に提示)。また、専攻科修了者の学位取得率はほぼ100%である。

準学士課程では、5年に学科ごとの卒業研究発表会を実施し、全学生が研究発表または卒業制作発表を行っている(資料6-1-②-2、訪問調査時に提示)。専攻科課程では、各専攻ごとに、1年では専攻科研究論文の中間発表会を、2年では複数教員が評価する最終的な研究発表会を行っている(資料6-1-②-3、1-②-4、訪問調査時に提示)。また、多くの学生が学協会などの外部の研究発表会でも研究成果の発表を行っている(資料6-1-②-5)。

準学士、専攻科のいずれの課程においても、就職希望者は、ほぼ100%就職し、進学希望者についても、ほぼ100%進学している状況である。

(分析結果とその根拠理由) 準学士課程及び専攻科課程の過去の進級率は100%に達してはいないが、卒業研究、卒業制作などの成果や就職先、進学先の状況などから教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況) 準学士課程、専攻科課程の就職に関しては、ほとんどが各学科の専門に関連した企業に就職している(資料6-1-③-1)。進学に関して、準学士課程卒業生の進学先は本校専攻科または工学系の国立大学であり、専攻科課程修了生の大学院進学先も工学系の国立大学がほとんどである。これらの進路状況から、教育の成果や効果が上がっていると判断できる(資料6-1-③-2)。

(分析結果とその根拠理由) 準学士課程の各学科・専攻科課程の各専攻における進学率・就職率は高い水準となっている。準学士課程での卒業研究並びに専攻科課程での専攻科研究論文、学協会などでの研究発表などの成果も上げている。このような結果から、教育の成果や効果は上がっていると判断できる。

観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況) 平成17年度の準学士課程卒業生を対象とした教育目的の達成度に関する自己評価アンケート結果では、語学・数学・物理・化学などの一般基礎科目、各学科の専門科目とも、知識が身についたと自己評価する学生が大勢を占めており、本校の教育目的・目標に則した教育がなされ、教育成果が上がっていると判断できる(資料6-1-④-1)。また、専攻科課程においても同様に修了生対象の自己評価アンケート結果から、同様の判断を下している(資料6-1-④-2、1-④-3)。

(分析結果とその根拠理由) 準学士課程卒業並びに専攻科課程修了時の教育目的の達成度に関する自己評価アンケートの項目の中に、学習達成度に関する項目を設定しており、学生には、本校並びに各学科の教育目的に照らし合わせ、学習到達度を判断することができるよう配慮されている。

おおむね身についたという結果が得られており、本校が設定する教育目的・目標に妥当性があり、教育成果は上がっている。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況） 卒業生・修了生の就職先への企業訪問及び卒業生に対するアンケート調査を学科ごとに実施している（資料6-1-⑤-1、1-⑤-2）。また、平成17年度においては、卒業時、修了時に卒業生並びに修了生に対して教育目的の達成度に関する自己評価アンケートを実施した（資料6-1-④-1、1-④-2）。その結果から準学士課程の卒業生及び専攻科修了生はいずれも、学校の意図する学力や資質、能力についておおむね、修得できていることが分かった。

（分析結果とその根拠理由） 卒業生、修了生へのアンケートが継続的に実施されており、就職先企業からも意見聴取が実施されている。それらの結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点） 準学士課程1年から4年に対する及落査定会議を二度開催し、学生が各学年で身に付ける学力や能力の達成度をきめ細かく判断し、その達成状況を評価する取組を行っている。

準学士課程、専攻科課程のいずれの課程においても、就職希望者及び進学希望者のほぼ100%が就職及び進学している。さらに、競争率の高い企業や大学、大学院に多くの就職、進学の実績があり、本校の教育が十分寄与していると判断できる。

（改善を要する点） 該当なし。

（3）基準6の自己評価の概要

準学士課程及び専攻科課程の各課程において、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力に関する教育目的及び目標が明確に定められている。年度末に全教員参加のもと、準学士課程については卒業査定会議及び2回の及落査定会議を開催し、専攻科課程については修了査定会議を開催することにより、各課程の教育目的及び目標の達成状況を評価、確認しており、適切な取組が行われている。

準学士課程及び専攻科課程の学年平均の原級率は、数パーセントであり、各学年や卒業・修了時においてほとんどの学生が適切な学力や能力を身に付けていると判断できる。また、準学士課程では学科ごとに5年生の卒業研究発表会を実施し、専攻科課程では専攻科研究論文の中間発表会及び最終発表会を実施しており、研究成果から教育の成果や効果が上がっていると判断できる。さらに、就職先の企業などや進学先の大学などの実績から、教育の目的において意図している実践的技術者が養成されており、教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

準学士課程卒業時及び専攻科課程修了時の学生に対する教育目的の達成度に関する自己評価アンケートにより、学生の学習達成度を調査している。本アンケート結果より、学生自身が、学力などがおおむね身についたと自己評価しており、本校が設定する教育目的・目標が妥当であり、学校の意図す

る教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

企業などで仕事に従事している、または大学などに在籍している卒業生や修了生に対して、本校在学時に身に付けた学力や能力などに関してアンケート調査が実施されており、また卒業生や修了生を受け入れている企業からも意見聴取が実施されている。これらの結果から判断しても、教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

資料 6 - 1 - ① - 1

準学士課程卒業査定会議開催通知

平成 18 年 3 月 7 日

教 員 各 位

校 長

平成 17 年度 本科 5 年卒業査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。
なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

- 1 日 時 平成 18 年 3 月 10 日（金） 16 時 00 分～
- 2 場 所 大会議室
- 3 議 題
(1) 平成 17 年度 本科 5 年卒業査定について

出典：卒業査定会議の開催通知メール

資料 6 - 1 - ① - 3

準学士課程及落査定会議開催通知

平成 18 年 3 月 3 日

教 員 各 位

校 長

平成 17 年度 本科 1 ～ 4 年及落査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。

なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

- 1 日 時 平成 18 年 3 月 6 日（月） 15 時 00 分～
- 2 場 所 大会議室
- 3 議 題
(1) 平成 17 年度 本科 1 ～ 4 年及落査定について

平成 18 年 3 月 16 日

教 員 各 位

校 長

平成 17 年度 本科 1 ～ 4 年及落査定会議（第 2 回）
の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。

なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

- 1 日 時 平成 18 年 3 月 22 日（水） 13 時 00 分から
- 2 場 所 大会議室
- 3 議 題
(1) 平成 17 年度 本科 1 ～ 4 年及落査定（再評価）について

出典：及落査定会議の開催通知メール

資料 6 - 1 - ① - 5

専攻科課程修了査定会議開催通知

平成 1 8 年 2 月 2 4 日

各委員 殿

議 長

平成 1 7 年度 専攻科修了査定会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので御出席くださるようお知らせします。

なお、欠席される方は事前に教務係へ連絡してください。

記

- 1 日 時 平成 1 8 年 2 月 2 8 日（火） 1 5 時 3 0 分～
- 2 場 所 大会議室
- 3 議 題
(1) 平成 1 7 年度 専攻科 2 年修了査定について

出典：専攻科修了査定会議の開催通知メール

資料 6 - 1 - ② - 3

専攻科研究論文評価方法（物質工学専攻発表評価）

H 1 7 年 度 専 攻 科 物 質 工 学 専 攻 材 料 工 学 コ ー ス 専 攻 科 研 究 論 文 発 表 評 価

実施日：平成17年 9月 21日（水）

評価教員の氏名（ ）

各項目の評点： 0～10点（40点満点で評価・集計）

JABEE		B-3		D-1	D-3	
No.	学生氏名	評価項目				小計
		要旨内容構成	発表態度	プレゼン用資料	質疑応答	
		研究目的に対する実験結果・考察の適切さ、図・写真等の配置等	発声・発音、原稿棒読み、スクリーン上の指示、興味を引く発表等	資料の構成、文字、色使い、図等の見易さ等	質問内容の理解、適切な応答	
1						

出典：専攻科物質工学専攻研究論文発表評価用紙

資料6-1-②-5

学協会等の外部における研究発表一覧

年度	講演題目 発表者と共同研究者	学会・講演会名 開催年月
15年度	側鎖に多分岐構造を有する可溶性ポリイミド(1) 桑原廉枋, 津田祐輔	第40回化学関連支部合同九州大会 平成15年7月
	側鎖に多分岐構造を有する可溶性ポリイミド(2) 内藤公貴, 上野泰弘, 桑原廉枋, 津田祐輔	第40回化学関連支部合同九州大会 平成15年7月
	地衣類の耐凍性に関する遺伝学的研究 橋本誠, 小林靖典, 松尾諒, 中嶋裕之	日本地衣学会第2回大会 平成15年8月
	地衣類の耐塩に関する遺伝学的研究 澤田和敬, 大淵麻利衣, 中嶋裕之	日本地衣学会第2回大会 平成15年8月
	アクリジン類およびアクリドン類の DNA チップ用蛍光試薬としての応用に関する検討 江頭由季, 鎌田吉之助, 富永洋一, 又賀駿太郎, 鳥井昭美	第9回高専シンポジウム 平成16年1月
	地衣類の耐凍性に関する遺伝学的研究 小林靖典, 中嶋裕之, 橋本誠	第9回高専シンポジウム 平成16年1月
	地衣類の耐塩性に関する遺伝学的研究 大淵麻利衣, 中嶋裕之, 澤田和敬	第9回高専シンポジウム 平成16年1月
	PCR増幅を利用したELISAの高感度化 井上真由子, 富岡寛治	第6回化学工学会学生発表会 平成16年3月
	内城菌を利用した生ごみ処理 竹之内めぐみ, 富岡寛治, 保母暁史	第6回化学工学会学生発表会 平成16年3月
	側鎖にデンドロンを有するポリイミド 桑原廉枋, 津田祐輔	日本化学会第84回春季年会 平成16年3月
	脂肪族骨格を有する可溶性ポリイミドの合成と物性 桑原廉枋, 津田祐輔, 上野泰弘, 内藤公貴	日本化学会第84回春季年会 平成16年3月
16年度	ヒートパイプを用いた太陽熱蒸留器の屋内実験 田中真人, 田中大, 中武靖仁, 平暮国男	第41回本伝熱シンポジウム 平成16年5月
	1,2,5-オキサジアゾロピリジン類の DNA チップ用蛍光標識試薬への応用 渡辺奈々, 鎌田吉之助, 富永洋一, 又賀駿太郎, 鳥井昭美	第10回高専シンポジウム 平成17年1月
	2-置換-9-アミノアクリジンのラネー合金を用いた還元反応 村山美優紀, 富永洋一, 鎌田吉之助, 又賀駿太郎, 鳥井昭美	第10回高専シンポジウム 平成17年1月
	密閉型二軸混合機の混合特性に関する研究 亀井貴史, 権藤豊彦, 森哲夫, 藤道治	第7回化学工学会学生発表会 平成17年3月
	燃焼合成を利用したFe-Si化合物の作製 山本孝行, 吉富俊之, 久保基一郎, 馬越幹男	第10回高専シンポジウム 平成17年1月

出典：学協会等の外部における研究発表実績を集計

資料 6 - 1 - ③ - 1

平成 17 年度就職先一覧

平成 17 年度卒業生(本学科)の就職先企業

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
九州旅客鉄道(株)	中部電力(株)	コマツ西日本(株)	(株)シーテック	日本磁力選鉱(株)
(株)JAL シミュレーターエンジニアリング	ソニーセミコンダクタ九州(株)	翼システム(株)	旭化成ケミカルズ(株)	東プレ(株)
第一精工(株)	(株)富士通九州システムエンジニアリング	(株)JAL航空機整備成田	(株)再春館製薬所	(株)三松
大久保歯車工業(株)	三菱電機ビルテクノサービス(株)	オリンパスシステムズ(株)	(株)東洋新薬	高周波熱錬(株)
日本精工(株)	出光興産(株)徳山製油所	東芝機械(株)	昭栄化学工業(株)	東洋鋼鈹(株)
矢崎総業(株)	九州旅客鉄道(株)	(株)ニコン	(株)テクノ月星	(株)東研サーモテック
日本磁力選鉱(株)	福岡市消防本部	(株)ウチダ	(株)日田天領水	コベルコ科研(株)
大和製罐(株)	日本事務器(株)	(株)安川電機	森永乳業(株)	(株)九州INAX
三菱重工業(株)高砂製作所	松下エコシステムズ(株)	(株)信興テクノミスト	(株)ジャパンバイオプロダクツ	(株)三松
三菱重工業(株)広島製作所	名糖産業(株)	村田機械(株)	(株)岡部マイカ工業所	(株)トクヤマ
三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所	(株)アミック	日本アイ・ビー・エム(株)	丸東産業(株)	富士電機リテイルシステムズ(株)
三菱重工業(株)長崎造船所	東芝メディカルシステムズ(株)	ソニーイーエムシーエス(株)		
九州武蔵精密(株)	(株)日立メディコ	矢崎総業(株)		
(株)浅野歯車工作所	エクサ通信(株)	日本信号(株)		
日本たばこ産業(株)	大分キャノン(株)	マツダ(株)		
アイシン精機(株)	(株)JAL航空機整備成田	(株)ラック		
以下, 省略		以下, 省略		

平成 17 年度修了生(専攻科)の就職先企業

機械・電気システム工学専攻			物質工学専攻
(株)NTT ファシリティーズ	トヨタ自動車九州(株)	(株)ロジック・リサーチ	(株)アイ・ケイ・ケイ
(株)INAX	(株)カンセツ	(株)日立超LSIシステムズ	中央発条工業(株)
TOWA(株)	(株)ケンウッドエンジニアリング	(株)牧野フライス製作所	東レエンジニアリング(株)
エコー電子工業(株)			

出典：平成 18 年度学校要覧 P38

資料 6 - 1 - ③ - 2

平成 17 年度進学先一覧

平成 17 年度卒業生(本学科)の編入学先大学

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
九州工業大学工学部	熊本大学工学部	東京工業大学工学部	熊本大学工学部	九州工業大学工学部
熊本大学工学部	九州工業大学工学部	筑波大学第三学郡情報学類	広島大学生物生産学部	東北大学工学部
宮崎大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	東京工業大学生命理工学部	長崎大学工学部
佐賀大学理工学部	広島大学工学部第二類	広島大学工学部	九州大学工学部	豊橋技術科学大学工学部
豊橋技術科学大学工学部	長崎大学工学部	山口大学工学部	北九州市立大学国際環境工学部	熊本大学工学部
琉球大学工学部	東北大学工学部	佐賀大学理工学部	熊本大学理学部	長岡技術科学大学機械創造工学課程
		島根大学総合理工学部	お茶の水女子大学理学部	九州大学工学部
			豊橋技術科学大学工学部	

平成 17 年度卒業生(本学科)の本校専攻科入学者数

機械工学科	電気工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
9	6	8	10	4

平成 17 年度修了生(専攻科)の入学先大学院

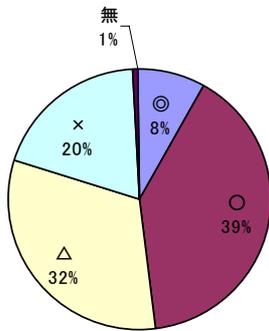
機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
九州大学大学院	九州大学大学院
九州工業大学大学院	九州工業大学大学院

出典：平成 18 年度学校要覧 P38

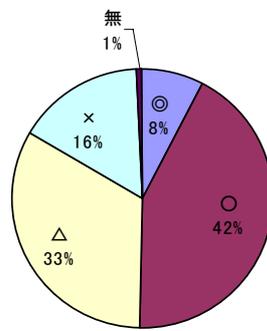
資料 6-1-④-1 (2/2)

平成 17 年度教育目的の達成度に関する自己評価アンケート集計結果 (準学士課程)

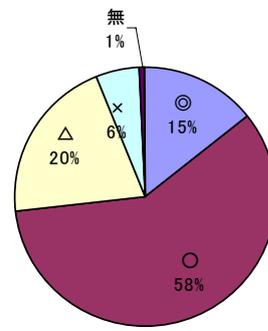
質問01 学校教育理念の認識



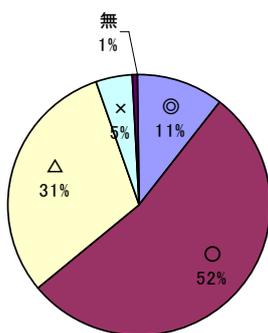
質問02 学科教育目標の認識



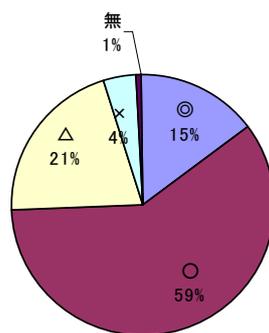
質問03 自主活動の習慣の向上



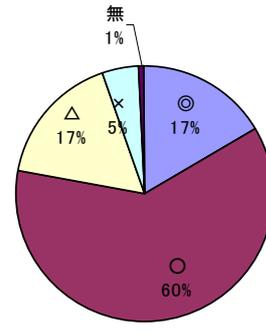
質問04 広い視野と豊かな心の涵養



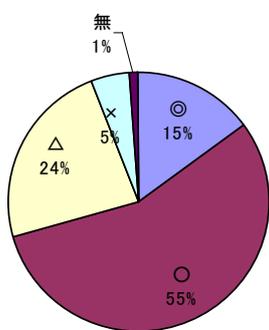
質問05 自然科学の知識の習得



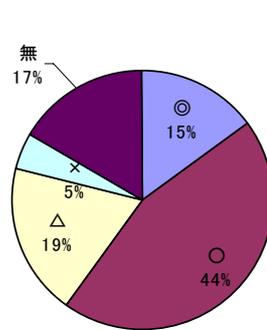
質問06 専門科目の知識の習得



質問07 問題解決能力の向上



質問08 技術者としての素養の習得

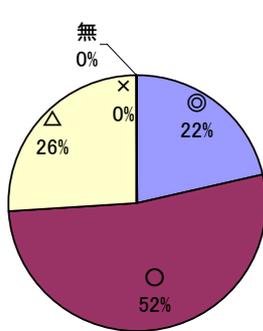


出典：平成 18 年度第 1 回学科長委員会資料

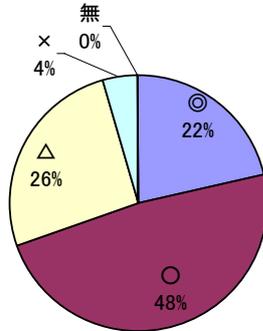
資料 6-1-④-2

平成 17 年度教育目的の達成度に関する自己評価アンケート集計結果（専攻科課程）

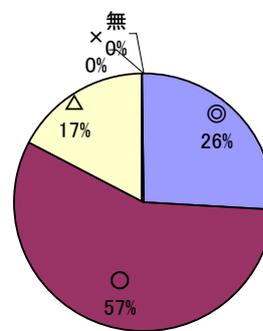
質問01 学校教育理念の周知



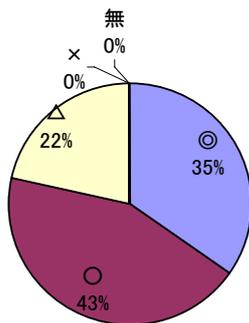
質問02 専攻科教育目標の周知



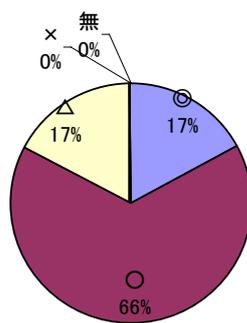
質問03 自主活動の習慣の向上



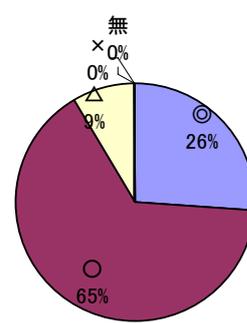
質問04 広い視野と豊かな心の涵養



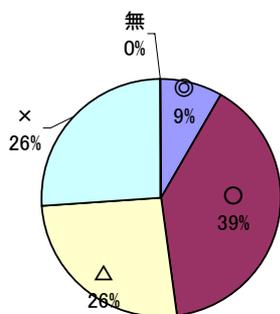
質問05 最新技術に対応する能力の向上



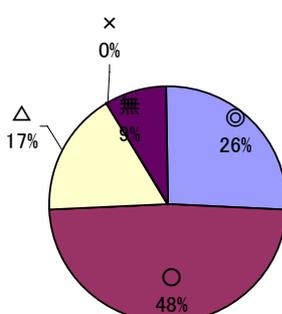
質問06 IT技術の問題解決への利用能力



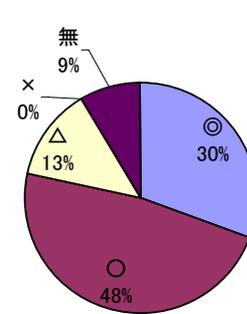
質問07 英語のコミュニケーション能力の向上



質問08 技術や手法を考える能力の向上



質問09 技術者としての素養の習得



出典：平成 18 年度第 1 回学科長委員会資料

資料 6 - 1 - ④ - 3 (1 / 2)

専攻科学生へのアンケート調査

専攻科学生へのアンケート調査の集計結果 (入学時)

専攻科生アンケート回答 (1 年生 28 名)

平成 16 年 6 月 22 日調査

以下の各質問項目について、該当する記号を○で囲んで下さい。「その他」の場合は () 内に具体的に記入して下さい。

1. 専攻科に入学した経緯はどれですか。
 - A 専攻科第一志望であった。(32.1%)
 - B 大学編入に合格したが、専攻科を選んだ。(0%)
 - C 大学編入に失敗したため。(50.0%)
 - D 高専卒での就職が思うようにならなかった。(10.7%)
 - E その他。(3.6%)

2. 専攻科に入学した理由は何ですか。(複数回答可)
 - A 高専の特徴を生かした実践的教育。(57.1%)
 - B 大学に比べ重複した授業が少ない。(25.0%)
 - C 先端的教育プログラム。(10.7%)
 - D 大学編入するより就職に有利と考えた。(25.0%)
 - E 大学編入するより大学院進学に有利と考えた。(17.9%)
 - F 地元にいってもっと勉強したかった。(35.7%)
 - G 推薦入学制度があったから。(10.7%)
 - H 経済的に学費が安い。(67.9%)
 - I その他 (0.0%)

3. 実際に専攻科へ入学して教科内容は一口に言ってどう思いますか。
 - A 満足している。(14.3%)
 - B やや満足している。(25.0%)
 - C 普通である。(35.7%)
 - D やや不満である。(25.0%)
 - E 非常に不満である。(0.0%)

D, E の不満理由 ()

4. 授業科目について答えて下さい。
 - A 基礎学力の充実を図る科目を増やす。(28.6%)
 - B 狭くても、もっと深く専門的にする。(17.9%)
 - C 広く、色々な分野が勉強できるようにする。(28.6%)
 - D このままで、ほぼよい。(17.9%)
 - E その他。(7.1%)

5. 専攻科研究論文について尋ねます。
 - A 充実して取組んでいる。(35.7%)
 - B ほぼ満足している。(32.1%)
 - C 面白くないが、仕方なくやっている。(7.1%)
 - D その他。(17.9%)

6. 本校の教育理念は、「自立の精神と独創性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」です。下記の技術者として必要な能力に対し自己評価すると、現在、A, B, C, D, E のどれに該当しますか。

- [1] 地球的視点から多面的に物事を考える能力。
A ある, B ややある, **C 普通**, D あまりない, E ほとんどない
(3.6%) (39.3%) (42.9%) (10.7%) (3.6%)
- [2] 技術が社会・自然に及ぼす影響を理解し、その責任を自覚できる能力。
A ある, **B ややある**, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(7.1%) (46.4%) (42.9.7%) (3.6%) (0%)
- [3] 数学、自然科学、IT などを応用できる能力。
A ある, **B ややある**, **C 普通**, **D あまりない**, E ほとんどない
(3.6%) (32.1%) (32.1%) (32.1%) (0%)
- [4] 専門の知識・技術を問題解決に応用できる能力。
A ある, **B ややある**, **C 普通**, D あまりない, E ほとんどない
(7.1%) (39.3%) (39.3%) (14.3%) (0%)
- [5] 高専での勉学を応用し、社会的要求を解決するための企画・設計力。
A ある, B ややある, **C 普通**, D あまりない, E ほとんどない
(3.6%) (42.9%) (50.0%) (3.6%) (0.0%)
- [6] 論理的な表現力、及び国際的に通用する語学基礎能力。
A ある, B ややある, C 普通, **D あまりない**, E ほとんどない
(3.6%) (21.4%) (32.1%) (42.9%) (0.0%)
- [7] 自発的、継続的な自己学習能力。
A ある, B ややある, **C 普通**, D あまりない, E ほとんどない
(3.6%) (35.7%) (46.4%) (14.3%) (0.0%)
- [8] 与えられた制約下で計画的に実験を進め、まとめる能力。
A ある, B ややある, **C 普通**, D あまりない, E ほとんどない
(7.1%) (32.1%) (39.3%) (17.9%) (3.6%)
- [9] 積極性・意欲はあるほうですか？
A ある, **B ややある**, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(7.1%) (42.9%) (35.7%) (14.3%) (0.0%)
- [10] 協調性はあるほうですか？
A ある, B ややある, **C 普通**, D あまりない, E ほとんどない
(17.9%) (35.7%) (42.9%) (0.0%) (3.6%)

7. 前項の質問で、A=5, B=4, C=3, D=2, E=1 とすると、10 の質問の合計は何点ですか。

33.2

 点

8. 専攻科の入学に関してどう思っていますか。

- A よかったと思う。(64.3%)
B 大学編入が良かった。(7.1%)
C 就職したほうが良かった。(14.3%)
D その他。(14.3%)

9. 専攻科を充実させる為の要望や改善すべき点を、学生の立場で書いて下さい。

資料 6 - 1 - ④ - 3 (2 / 2)

専攻科学生へのアンケート調査の集計結果 (修了時)

専攻科生アンケート回答 (2 年生 23 名)

平成 18 年 2 月 9 日調査

以下の各質問項目について、該当する記号を○で囲んで下さい。「その他」の場合は () 内に具体的に記入して下さい。

1. 専攻科に入学した経緯はどれですか。
 - A 専攻科第一志望であった。(39.1%)
 - B 大学編入に合格したが、専攻科を選んだ。(0%)
 - C 大学編入に失敗したため。(52.2%)
 - D 高専卒での就職が思うようにならなかった。(8.7%)
 - E その他。(0%)

2. 専攻科に入学した理由は何ですか。(複数回答可)
 - A 高専の特徴を生かした実践的教育。(56.5%)
 - B 大学に比べ重複した授業が少ない。(21.7%)
 - C 先端的教育プログラム。(8.7%)
 - D 大学編入するより就職に有利と考えた。(21.7%)
 - E 大学編入するより大学院進学に有利と考えた。(17.4%)
 - F 地元にいってもっと勉強したかった。(21.7%)
 - G 推薦入学制度があったから。(4.3%)
 - H 経済的に学費が安い。(56.5%)
 - I その他 (8.7%)

3. 実際に専攻科へ入学して教科内容は一口に言ってどう思いますか。
 - A 満足している。(13.0%)
 - B やや満足している。(30.4%)
 - C 普通である。(34.8%)
 - D やや不満である。(17.4%)
 - E 非常に不満である。(4.3%)

D, E の不満理由 ()

4. 授業科目について答えて下さい。
 - A 基礎学力の充実を図る科目を増やす。(39.1%)
 - B 狭くても、もっと深く専門的にする。(34.8%)
 - C 広く、色々な分野が勉強できるようにする。(26.1%)
 - D このままで、ほぼよい。(8.7%)
 - E その他。(4.3%)

5. 専攻科研究論文について尋ねます。
 - A 充実して取組んでいる。(39.1%)
 - B ほぼ満足している。(52.2%)
 - C 面白くないが、仕方なくやっている。(8.7%)
 - D その他。(0%)

6. 本校の教育理念は、「自立の精神と独創性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」です。下記の技術者として必要な能力に対し自己評価すると、現在、A, B, C, D, E のどれに該当しますか。

- [1] 地球的視点から多面的に物事を考える能力。
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(4.3%) (34.8%) (52.2%) (8.7%) (0%)
- [2] 技術が社会・自然に及ぼす影響を理解し、その責任を自覚できる能力。
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(17.4%) (56.5%) (21.7%) (4.3%) (0%)
- [3] 数学、自然科学、IT などを応用できる能力。
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(4.3%) (21.7%) (65.0%) (28.7%) (0%)
- [4] 専門の知識・技術を問題解決に応用できる能力。
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(0%) (43.5%) (47.8%) (8.7%) (0%)
- [5] 高専での勉学を応用し、社会的要求を解決するための企画・設計力。
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(4.3%) (30.4%) (39.1%) (21.7%) (4.3%)
- [6] 論理的な表現力、及び国際的に通用する語学基礎能力。
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(0%) (4.3%) (39.1%) (52.2%) (4.3%)
- [7] 自発的、継続的な自己学習能力。
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(8.7%) (17.4%) (52.2%) (17.4%) (4.3%)
- [8] 与えられた制約下で計画的に実験を進め、まとめる能力。
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(8.7%) (56.5%) (34.8%) (0%) (0%)
- [9] 積極性・意欲はあるほうですか？
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(34.8%) (43.5%) (21.7%) (0%) (0%)
- [10] 協調性はあるほうですか？
A ある, B ややある, C 普通, D あまりない, E ほとんどない
(39.1%) (34.8%) (17.4%) (8.7%) (0%)

7. 前項の質問で、A=5, B=4, C=3, D=2, E=1 とすると、10 の質問の合計は何点ですか。

34.6

 点

8. 専攻科の入学に関してどう思っていますか。

- A よかったと思う。(87.0%)
B 大学編入が良かった。(8.7%)
C 就職したほうが良かった。(0%)
D その他。(4.3%)

9. 卒業生にお聞きします。

専攻科では JABEE の各プログラムコースの目標とは別に次の 2 点を教育目標に掲げています。

1. 先端技術、高度情報化及び国際化に対応できる技術者の育成
2. 創造的研究開発能力の育成

この目標に対し、あなたはどの程度目標を達成できたと思いますか。

- A 大体達成できている。(52.2%)
B あまり達成できていない。(34.8%)
回答なし (13.0%)

10. 上記であまり達成できていないと答えた人は、達成できていないところはどんなところですか。

11. 専攻科を充実させる為の要望や改善すべき点を、学生の立場で書いて下さい。

出典：専攻科学生へのアンケート調査の項目と集計結果

資料 6 - 1 - ⑤ - 1

企業訪問一覧

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
機械工学科	なし	日産自動車(株)	九州武蔵精密(株) 日本精工(株) いすゞエンジニアリング(株) アイシン精機(株) トヨタテクニカルディベロップメント(株)
電気電子工学科	なし	(株)日立メディコ 日本ビクター(株) 日立ピアメカニクス(株)	(株)三社電機製作所 大阪ガス(株) 日本電産(株) TOWA(株) (株)日立メディコ (株)三菱電機ビルテクノサービス(株) 東海旅客鉄道(株) (株)明電舎
制御情報工学科	なし	オリンパスシステムズ(株) DTS(株) 京セラミタジャパン(株) 新日本石油化学(株) 日産ディーゼル(株)技術研究所 ソニーEMCS(株)幸田テック JM エンジニアリング(株) (株)森精機製作所	JSR エンジニアリング(株) 三菱重工プラント建設(株) 矢崎総業(株) (株)サトー (株)インフォグラム 大電(株) NTT カスタマーサービス(株) (株)三松
生物応用化学科	JSR(株) 三菱化学(株) 東亜合成(株) 三洋化学(株)	なし	フジファインテック(株) ヤクルト本社(株) 国菊酒造 ダイセル化学工業(株)
材料工学科	東伸熱工(株) 永乳業(株) (株)エム・シー・エス 九州武蔵精密(株) 昭栄化学工業(株) 荒木窯業(株) (株)アスカコーポレーション (株)フクネツ	東伸熱工(株) 大阪製鐵(株) 東亜工機(株) (株)アスカコーポレーション	なし

出典：企業訪問実績を集計

資料 6 - 1 - ⑤ - 2 (1 / 3)

制御情報工学コース卒業生教育目標達成度評価アンケート

久留米高専制御情報工学コース卒業生教育目標達成度評価アンケート (指導者用)

下記の項目について本コース卒業生〇〇〇〇君が入社した時点での評価をお願いします。以下の設問にある能力を身に付けていたかどうかについての回答をお願いします。回答は、それぞれの間に対し、下の選択肢①～⑤を選択してください。

- 回答欄 ①十分、身についていた
 ②十分ではないが、素養はあった
 ③あまり身についていなかった
 ④まったく身についていなかった
 ⑤これまでの職務では必要とされなかったので、評価不能

[学習能力・倫理観・知識に関する設問]
 ださい)

回答 (①～⑤のいずれかに○をつけてく

1. 継続的に学習する能力	①	②	③	④	⑤
2. 技術者としての倫理観	①	②	③	④	⑤
3. 数学に関する知識	①	②	③	④	⑤
4. 物理に関する知識	①	②	③	④	⑤
5. 化学に関する知識	①	②	③	④	⑤
6. 確率・統計に関する知識	①	②	③	④	⑤
7. 機械工学に関する知識	①	②	③	④	⑤
8. 材料学に関する知識	①	②	③	④	⑤
9. 設計製図に関する知識	①	②	③	④	⑤
10. 制御工学、計測工学に関する知識	①	②	③	④	⑤
11. 情報工学に関する知識	①	②	③	④	⑤
12. プログラミングに関する知識	①	②	③	④	⑤
13. アプリケーション (ワープロ、表計算ソフトなど) に関する知識	①	②	③	④	⑤
14. 電気工学、電子工学に関する知識	①	②	③	④	⑤
[課題探索・問題解決能力に関する設問]					
15. 新たな問題点を発見する能力	①	②	③	④	⑤
16. 問題点を分析し、解決するための手法や手順を企画する能力	①	②	③	④	⑤
17. 与えられた手法や手順に従い問題点を解決する能力	①	②	③	④	⑤
18. グループで作業を行なう能力	①	②	③	④	⑤
[結果報告に関する設問]					
19. 状況や結果を、分析、考察する能力	①	②	③	④	⑤
20. プレゼンテーション能力	①	②	③	④	⑤
21. ディスカッション能力	①	②	③	④	⑤
22. 英語での基礎的なコミュニケーション能力	①	②	③	④	⑤

[その他の意見等]

1～22 の選択肢で身に付けておく必要が高いとお考えになっている能力をお答えください (複数回答可)

()

1～22 の選択肢で身に付けておく必要が低いとお考えになっている能力をお答えください (複数回答可)

()

1～22 の選択肢以外で、身に付けておく必要があると思われる能力がありましたらお答えください

()

資料 6 - 1 - ⑤ - 2 (2 / 3)

久留米高専制御情報工学コース卒業生教育目標達成度評価アンケート (卒業生用)

A の各項目については、入社した時点での自己評価をお願いします。B の各項目については現時点での意見、要望を記入してください。なお、A の回答欄の①～⑤は、下記のとおりです。

- 回答欄 ①十分、身についていた
 ②十分ではないが、役には立った
 ③あまり身についていなかった
 ④まったく身についていなかった
 ⑤これまでの職務では必要とされなかったの、評価不能

A. 教育目標達成度

[学習能力・倫理観・知識に関する設問]
 ださい)

回答 (①～⑤のいずれかに○をつけてく

- | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 継続的に学習する能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 2. 技術者としての倫理観 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 3. 数学に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 4. 物理に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 5. 化学に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 6. 確率・統計に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 7. 機械工学に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 8. 制御工学、計測工学に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 9. 材料学に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 10. 設計製図に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 11. 情報工学に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 12. プログラミングに関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 13. アプリケーション (ワープロ、表計算ソフトなど) に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 14. 電気工学、電子工学に関する知識 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| [課題探索・問題解決能力に関する設問] | | | | | |
| 15. 新たな問題点を発見する能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 16. 問題点を分析し、解決するための手法や手順を企画する能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 17. 与えられた手法や手順に従い問題点を解決する能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 18. グループで作業を行なう能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| [結果報告に関する設問] | | | | | |
| 19. 状況や結果を、分析、考察する能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 20. プレゼンテーション能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 21. ディスカッション能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 22. 英語での基礎的なコミュニケーション能力 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

B. 卒業後の意見、要望

就職して、最も役に立った教科はなんですか? (複数回答可)

()

在校中に、もっと勉強しておけばよかったと思う教科は何ですか? (複数回答可)

()

在校中に、もっと重点的にやって欲しかった教科は何ですか? (複数回答可)

()

在校中に、開講して欲しかった教科は何ですか? (複数回答可)

()

本科 5 年の卒業研究は必要だと思いますか?

()

資料 6-1-⑤-2 (3/3)

制御情報工学コース卒業生教育目標達成度評価アンケート集計結果

アンケート用紙項目番号		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	
項目		数学	物理	化学	確率統計	機械工学	制御工学	材料学	設計製図	情報工学	プログラム	電気工学	
専攻科+本科	自己評価	回答①	1	2	1	1	2	2	1	2	1	1	1
		回答②	7	1	1	3	4	3	2	5	4	3	3
		回答③	1	3	2	2	1	1	3	0	2	2	2
		回答④	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		回答⑤	1	5	7	5	4	5	5	4	4	5	5
	指導者評価	回答①	4	1	0	1	1	2	1	0	4	1	0
		回答②	2	3	3	2	2	2	2	3	3	5	2
		回答③	1	1	1	2	3	3	2	2	1	2	3
		回答④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		回答⑤	3	5	6	5	4	3	5	5	2	2	5

アンケート用紙項目番号		13	1	2	15	16	17	18	19	20	21	22	
項目		アプリ	継続力	倫理観	問題発見	企画力	問題解決	協調性	分析力	プレゼン	討論	英語	
専攻科+本科	自己評価	回答①	2	2	2	1	1	1	5	1	1	1	0
		回答②	5	6	7	8	5	9	5	5	2	3	4
		回答③	2	2	1	1	4	0	1	3	6	6	1
		回答④	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	2
		回答⑤	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4
	指導者評価	回答①	4	5	4	4	3	3	2	2	1	2	1
		回答②	5	2	4	4	4	5	7	6	6	4	1
		回答③	1	3	2	2	3	2	0	2	2	4	1
		回答④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		回答⑤	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	6

出典：制御情報工学コース卒業生教育目標達成度評価アンケート用紙と集計結果

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 準学士課程に対する総括的な学習を進めるためのガイダンスは、入学時に実施される説明会並びに入学後に実施する合宿研修(1泊2日)において実施されている(資料7-1-①-1、訪問調査時に提示)。特に、合宿研修では後期中等教育機関(高等学校)と高等教育機関である高等専門学校の相違を、学習指導面並びに学校生活面について内容を十分に指導し、学生の自覚を促している(資料7-1-①-2、1-①-3)。専攻科学生に対しては、入学時に各コースの履修の手引きを配布し、専攻科主事・主事補よりガイダンスが実施されている(資料7-1-①-4、訪問調査時に提示)。

また、入学後の学習を行う上での重要な情報は、年度初めに学生全員に配布される学生便覧(資料7-1-①-5、訪問調査時に提示)や定期的(隔週)に開催される担任会において各学級担任に伝えられ、学級担任から確実に学生に伝達される体制が整えられている(資料7-1-①-6、1-①-7、訪問調査時に提示)。学級担任によるホームルームでは、学習遂行に重要な情報が伝達されるとともに、学生からの様々な相談、疑問及び悩みなどには、学級担任が適切な助言を行っている。

学生の学習上の相談・助言に対する支援体制としては、学級担任の他に科目担当教員が、昼休みや放課後に適宜対応している。また、学生がいつでも教員へ連絡が取れるように、各教員には携帯電話が配布され常時所持し、迅速な対応ができる体制を整えている。さらに、学生が教員を訪問しやすいように、教員室の学科ごとの集約化が図られている。

(分析結果とその根拠理由) 本校では入学当初のガイダンス、並びに入学後の毎週開催されるホームルームを通して、学生が学習を進めるために必要な情報の伝達及び相談・助言する体制が整備され、機能している。

観点7-1-②： 自主的学習環境(例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。)及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況) 学生が分からない点を自主的に調べ、レポート作成のための資料調査を可能とするため、図書館には9万冊以上の参考書・文献・雑誌・視聴覚メディアなどの蔵書が用意されている(資料7-1-②-1)。また、放課後や土曜日でも図書館の利用ができるように、平日は9時から20時まで、土曜日は9時から17時まで開館している。図書館には、学習スペースとしてのホールがあり、多くの学生が学習及び文献調査の場所として利用している。

学生を福利厚生面で支援するための福利厚生施設「ウェーブホール(売店・食堂を含む)」は、8時から19時まで利用可能であり、食堂・購買部としての利用以外に学習の場としても機能している(資料7-1-②-2)。ウェーブホールは、学生主事を理事長とし、各学科教員及び学生、事務管理職を理事として構成された厚生会により運営方針などが決定されている(資料7-1-②-3)。

学生の学習及びコミュニケーションスペースとして、機械材料専門棟の玄関ホール及び相談コーナー(各階段横)、生物応用化学科棟の玄関ホール及びリフレッシュコーナー、制御情報工学科棟玄関ホールなどがあり、専攻科棟の玄関ラウンジ及び学生控室もこれに当たる。

校内の各施設には、至るところに情報コンセントが整備され、学生は各自のパソコンを使用して自由にインターネットにアクセスし、授業に関連する情報収集を行うことができる。共同利用の情報端末機は、総合情報センター及び図書館に整備されている(資料7-1-②-4)。

(分析結果とその根拠理由) 本校においては、学生を主体とした学習並びに福利厚生施設などの生活環境は十分に整備されており、その利用実績は高く、学生のための校内環境は整っている。

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ(例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。)が適切に把握されているか。

(観点到に係る状況) 学生の意見を汲み上げる制度としては、学生の生活環境などに関する意見と授業に関する意見の汲み上げの二つに大別される。学生の生活環境に関する意見は、学生会が代議員会などを通じて学生の意見を汲み上げ、年2回開催される学生大会で審議の上、決議されたものを学校側への要望書として学生主事に提出する(資料7-1-③-1、訪問調査時に提示)。その際、資格試験や検定試験などに対する要望も受け付けており、卒業後の資格認定に関するサービスも適宜行っている。要望書に対しては、学生主事・学生主事補が学生会中央執行委員会役員と懇談し対応している。学生主事・学生主事補と学生会役員との懇談会は、必要に応じて適宜実施している(資料7-1-③-2)。

授業に関する学生の意見は、授業評価アンケート及び準学士課程卒業生・専攻科課程修了生に実施する学生支援アンケートとして汲み上げられ、それぞれ授業改善専門部会及び企画主事室にて集計・分析されている。その結果はFD会議において全教員に報告され、授業改善及び学習支援に利用されている(資料7-1-③-3、1-③-4)。

(分析結果とその根拠理由) 学生の要望に対する学校側としての体制は整っている。学生主事・学生主事補と学生会中央執行委員会役員との懇談などにより、学生の生活環境に関する要望に対する学校側の対応、また考え方の説明などは的確に行われている。学生の授業に対する意見に対しては、授業評価アンケート及び学生支援アンケート結果を授業改善専門部会及び企画主事室にて集計・分析し、授業改善と学習支援に役立てている。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況) 資格試験や検定試験の受講支援体制としては、TOEIC、電気主任技術者などの資格試験受講の支援体制がある。これらの資格試験や検定試験に関しての学生への案内は、学生課掲示板及び学級担任を通じて行っているほか、学生便覧に本校卒業後に取得可能な資格を掲載している(資料7-1-④-1)。TOEICについては、平成12年度に全国高専でもっとも早く団体受験制度を取入れ、年2回の試験を実施するとともに、賛助会員として学生が受験しやすい環境づくりに努めている(資料7-1-④-2)。また、昭和41年より第2種及び第3種電気主任技術者の免状取得認定校になっている(資料7-1-④-3)。資格試験受験の支援業務につ

いては、学生課が一元管理しており、募集ポスターの掲示、受験料処理業務などを行っている。また、外国留学のための制度については特に存在しないが、外国留学を希望する学生に対しては、学級担任や英語科教員が随時相談に応じ、本校の単位履修指導などで最大限の支援を行っている。

(分析結果とその根拠理由) 学生に関わる資格試験などはすべて学生課を通じて掲示板などを利用して公表すると同時に、担任会を通じて各学級担任から積極的に案内している。TOEICに関しては年2回本校で実施し、例年受験者数も多い。

観点7-1-⑤： 特別な学習支援が必要な者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況) 本校では、毎年数名の外国人留学生、高等学校からの編入生及び他高専からの転入生の受け入れを行っている(資料7-1-⑤-1、1-⑤-2)。外国人留学生に関しては、全員学生寮に入居させ、同一学級の学生1名をチューターとして配置して学習上の問題や文化の違いに対して必要な生活面での支援を行っている(資料7-1-⑤-3)。また留学生には、留学生の学級担任が指導教員として配置され、外国人留学生委員会とともに授業履修などの指導を行っている。高等学校からの編入生及び他高専からの転入生に対しては、各学科で編入生・転入生に対する別な科目を設定・実施することで支援している(資料7-1-⑤-4)。さらに、障害のある学生に対しては、バリアフリー化などの施設整備とともに、通学から就学上の問題及び進路相談まで、学級担任ばかりでなく関係教職員が全面的にバックアップしている。いずれの場合も、学習上の相談・助言に対しては学級担任が適宜対応を行っている。

(分析結果とその根拠理由) 本校では、留学生、編入生及び転入生の履修科目の違いによる本校学生との格差を早い時期に解消するなどの努力を行い、留学生並びに編入生、さらには障害のある学生が学習を進める上で不利益を生じない配慮をしており、その支援体制は整備されている。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況) 本校における学生の課外活動の特徴は、伝統的に自主性を重んじてきたことであり、課外活動を統括する学生会の中央執行委員会を学生主事室が助言・指導する体制で運営を行っている。学生会の主な委員会としては代議委員会(各クラス代議員により構成された審議、議決機関)と中央執行委員会(執行機関)があり、最高議決機関としては年2回実施の学生大会がある。体育系クラブ及び文化系クラブは、学生会中央執行委員会のもとに組織され、中央執行委員会で各クラブの予算案などを作成し、学生大会で決定している。また、クラスマッチを始め、音楽祭や高専祭(文化祭や体育祭)などのイベントでは、学生が自主的に毎回学生大会で各実行委員会を設立して運営に当たっている(資料7-1-⑥-1、訪問調査時に提示)。本校のクラブは、体育系クラブと文化系クラブの二つに分類される(資料7-1-⑥-2)。体育系クラブには、ラグビー部、野球部、サッカー部など20クラブあり、文化系クラブには、茶道部やロボコン部、プロコン部など20クラブがある。ロボコン部やプロコン部はNHK主催のロボットコンテストやプログラミングコンテストなどに学校代表として出場している(資料7-1-⑥-3)。近年始まったデザインコ

ンペティションなどについては、学生係及び担任を通じて案内し、学生の希望により参加を支援している。これらすべては、原則として学生による自主的な運営活動で行われている。

これらの活動をより円滑にするために、学生主事室を中心とした教職員による支援体制が整備されている（資料7-1-⑥-2）。体育系クラブには複数のクラブ顧問が配置され、必要に応じて、外部コーチも導入している（資料7-1-⑥-4）。クラブには部室を配置して円滑な活動を促進しており、運営面では後援会からの資金援助を受けている（資料7-1-⑥-5）。

（分析結果とその根拠理由） 学生の課外活動の支援は、学生の自主的な運営による学生会を学生主事室が助言・指導する体制で行っている。学生会中央執行委員会の下部組織である体育系及び文化系クラブには、複数名のクラブ顧問教員を配置して、学生のクラブ活動の指導及び支援を円滑に行っている。これらの学生のクラブ活動及び課外活動の支援体制は充実しており、十分に機能している。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点到に係る状況） 入学科及び授業料免除、学生支援機構奨学金などの学生の経済面に関する支援については、担任会を通じて各学級担任から学生に案内している（資料7-2-①-1、訪問調査時に提示）。これら授業料免除及び奨学金申請の採択は、規則に基づいて厚生補導委員会で審議の上決定している（資料7-2-①-2）。各種奨学金については学生支援機構以外にも地方公共団体及び民間団体が実施するものがあり、現在は二百人弱の学生が奨学金の貸与を、百数十人の学生が授業料免除の支援を受けている（資料7-2-①-3）。

学生の生活面では、看護師が保健室に常駐し、怪我などの応急処置や健康相談を行っているほか、学生のメンタル面でのサポートは、学生相談室と学級担任が連携しながら、積極的に学生の指導・相談を行っている。学生相談室などでの対処が困難な場合は、非常勤の精神科医とカウンセラーに専門的な対応を依頼する体制を整えている（資料7-2-①-4）。学生相談室では年間百件程度の相談を受けている（資料7-2-①-5）。校内で生じる各種ハラスメントに対しては、セクシャル・ハラスメントから一歩進め、新たにキャンパス・ハラスメントの防止に関する規則を定めて、ハラスメントに関する防止及び苦情相談を受ける体制を整えている（資料7-2-①-6）。

（分析結果とその根拠理由） 本校では、公的・私的な奨学金制度の斡旋や授業料免除など、経済面での学生支援を積極的に行う体制を整えており、その支援体制は機能している。また、学生の生活面での指導や助言、メンタル面でのサポート体制についても、学生相談室、学級担任、看護師、精神科医及びカウンセラーが円滑に連携を取って、ケアする体制が整えられ、機能している。

観点7-2-②： 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

（観点到に係る状況） 本校では外国人留学生委員会を設置し、毎年若干名の外国人留学生を受け入れている。外国人留学生の生活面での指導は、全員学生寮に入居させ、寮の直日直教員が随時相談に応じる体制をとっているほか（資料7-2-②-1）、留学生指導教員を各留学生に配置し、留学生と同じ学級の日本人学生1名をチューターに指名し、文化の違いによって発生する生活面での

戸惑いや疑問などに対していつでも対応できるよう配慮している（資料7-2-②-2）。また、宗教面での食事の問題に対処するために、寮内で自炊できる体制を整えている。さらに、留学生に対する支援事項として、冬休みの集中講義として日本事情に関する講義を開講するとともに、日本の文化や産業に触れさせるための研修旅行を実施している（資料7-2-②-3、2-②-4）。

障害を持つ学生に対しては、快適な学校生活を送ることができるよう、校内の建物出入口にスロープを設置し、階段部分へのエレベーターや昇降設備が整備されている（資料7-2-②-5）。

（分析結果とその根拠理由） 留学生に対しては、外国人留学生委員会が担当し、担当教員及び学生のチューターを配置し、各部署が留学生の学習・生活面に配慮し、有効に機能している。また、障害のある学生に対しては建物の各所でバリアフリー化が整備されている。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点到に係る状況） 本校の学生寮は、管理寮として位置づけられ、寮務主事室の支援体制のもと、寮生で組織された寮生会が中心に自主的な運営を行っている（資料7-2-③-1、2-③-2）。寮生に対しては、寮務主事室を中心に生活指導が行われ、毎月1回の寮務委員会で、学生の入退寮を含めて寮の管理運営について検討している（資料7-2-③-3）。学生寮には、学習室や製図室、集会室が設置され、集会室は寮生会の運営に関する打合せなどに利用されるほかにレクリエーションの場としても有効に活用されている。学習室や製図室は適宜有効に利用されている。また、学生の居室には情報コンセントが設置されており、インターネットを利用して学習上の情報を収集することができる。寮の日課表には学習時間が設定され（資料7-2-③-4）、宿日直教員は朝晩の2回の点呼、各部屋の施錠・開錠及び来客の対応を行う以外に適宜巡回して学習指導を行うことで、学生寮を生活の場としてばかりでなく勉学の場として有効に運用している。また寮内行事として、新入生の上級生との対面式や成人式などが催されるほか、寮生会主導による寮生会総会や寮祭が毎年実施されている。

（分析結果とその根拠理由） 学生寮における学生の生活面の指導や相談などの実務は、寮務主事が中心となって宿日直教員とともに行っている。また、学生寮の運営管理については定期的に寮務委員会を開催するなど学生の生活及び勉学を支援する体制が整えられ、機能している。

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点到に係る状況） 進路指導に関しては、入学時から卒業生の進路状況の説明を実施し、低学年から工場見学旅行を行い、4年生の段階で学級担任による個別の進路希望調査、進路指導を行っている。また、5月には全学年において保護者と学級担任による面談の機会を設定している（資料7-2-④-1）。各学科には就職主任が配置されており、就職を希望する学生に対しては、求人情報が就職主任から掲示板に掲示されるとともにホームページ上にも案内されている（資料7-2-④-2）。会社からの募集要項などの事務的な書類は、学生課学生係が一括して管理している。就職主任は、5年学級担任と連携して学生・保護者に対する助言を行い、適切な就職先の選定に配慮している。また、学科間を越えた就職に関する情報交換の場として、就職主任からなる就職担当委員会が設置され、学生の就職活動が円滑に実施できる体制が整備されている（資料7-2-④-3、

2-④-4、訪問調査時に提示)。

また、専攻科への入学及び大学への編入学を希望する学生に対しては、学級担任が学生、場合によっては保護者との面談を実施するなどして進路決定を支援している(資料7-2-④-5)。

毎年の学生の就職及び進学の見路指導の体制は上記のように、十分に整備され機能している。さらに、就職に関する支援体制として、本人と就職希望会社との間の連絡、調整を就職主任が責任をもって行っている。学生に対しては、4年生の2月頃に就職試験のためのSPI試験を学校で実施し(資料7-2-④-6)、4年生の3月～5年生の4月にかけて各学科の就職主任と5年生学級担任が連携して就職ガイダンス及び就職試験における面接指導を行っている(資料7-2-④-7、訪問調査時に提示)。また、就職主任は企業訪問を行い、求人状況や本校卒業生の能力、新入社員に要求される能力などについての聞き取り調査を行っている。企業訪問の旅費については久留米高専後援会より援助を受けている(資料7-2-④-8)。

学生の進学に関する指導については、各学科5年生の学級担任が行い、事務的な窓口として学生課教務係が入試要項・入学案内などの書類を一括管理している。また、教務主事室及び学生課教務係を中心として、様々な大学からの説明会の場を設けている(資料7-2-④-9)。

(分析結果とその根拠理由) 学生の進路指導に関しては、まず5年生の学級担任が学生あるいは保護者との面談などを実施して細やかな指導を行い、就職や進学の見路に応じて5年生の学級担任、就職主任及び学科長で適切に指導する体制が整っている。事務的な手続きなどに関しては学生課学生係と教務係が対応しており、学級担任や就職主任と連携を取り、円滑な運営がなされている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校の優れた点は、教育理念に基づいて伝統的に学生の自立の精神を尊重し、学級担任を含めた学生主事室を中心とした組織によって、学生自身の生活面や課外活動面の活動を支援している点である。本支援体制は、学生の自立心と責任感を育成し、外部からの卒業生の評価は高い。また、本支援体制の成果は、以前のNHKロボットコンテストの成績や近年のプログラミングコンテストの成績からも把握できる。

(改善を要する点) 該当なし。

(3) 基準7の自己評価の概要

本校では、入学当初のガイダンス並びに毎週開催されるホームルームを通して、学生が学習を進めるために必要な情報の伝達及び相談・指導する体制が整備されている。また、学生が学習及び生活する上での校内環境も十分に整備されている。

学生の生活面での要望に対する学校側としての支援体制は、学生主事室を中心に学級担任によって整えられ、学生会中央執行委員会役員との懇談などを通して校内環境の改善に努めている。また、授業に対する学生の意見は、授業評価アンケート及び学生支援アンケートを授業改善専門部会及び企画主事室にて実施し、その集計・分析結果が授業改善と学習支援に役立てられている。学生の資格試験などに関わる支援は、資格試験などに関する案内を学生課から掲示板などで公表するとともに、担任会を通じて学級担任からも積極的に案内している。

留学生、編入生及び転入生に対しては、履修科目の違いによる本校学生との格差を早い時期に解消

するために個別の科目を設けるなどの努力を行い、留学生や編入生、転入生が学習上で不利益を生じないよう配慮している。特に、留学生への対応は外国人留学生委員会が担当し、担当教員及び学生のチューターを配置することで、留学生の学習・生活面に配慮している。

学生の課外活動に対する支援体制は、学生の自主的な運営による学生会を学生主事室が助言・指導し、体育系及び文化系クラブには複数名のクラブ顧問を配置してクラブ活動の指導・支援を円滑に行っている。

学生への経済面の支援体制は、公的・私的な奨学金制度の斡旋や授業料免除などを積極的に行うよう担任会を通じて案内し、各学級担任が直接的な相談・指導を行っている。また、怪我などの応急処置や健康相談ばかりでなく、近年の悩み多き学生を生活面やメンタル面でサポートするために、学生相談室、学級担任、看護師、精神科医及びカウンセラーによりケアする体制を整えている。さらに、障害のある学生に対しては建物の各所でバリアフリー化やエレベーターの設置などの校内整備により対応している。

学生寮における生活面の指導や相談などの実務は、寮務主事が中心となって宿直教員とともにっており、学生寮の運営管理は定期的開催される寮務委員会で対応し、学生の生活及び勉学を支援する体制が整えられている。

学生の進路指導に関しては、5年生の学級担任が学科の就職主任と連携しながら学生あるいは保護者と面談などを実施して、きめ細かな相談・助言を行い、就職や進学希望に応じて5年生の学級担任、就職主任及び学科長が適切に指導する体制が整っている。

資料7-1-①-2

1年生合宿研修における学習ガイダンス資料

H18.4.22

■久留米高専とは

- ・入学後、1週間の高専の印象
- ・久留米高専の沿革 伝統の重み、旧制→工業短大→新制→専攻科設立（学校要覧）
卒業生の活躍
- ・高専制度
- ・久留米高専の理念
「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」
- ・高専の授業、定期試験（カリキュラム、教務規程等）
- ・課外活動
- ・多様な進路
就職（求人数、実践的技術者としての期待）
進学（専攻科、大学）

■新入生に望むこと

- ・自立の精神—中学校とは大きく異なる、勉強方法を見つける、工夫をする
(具体例を挙げて説明)
- ・基礎学力の充実—「読み書きソロバン」
- ・プロフェッショナルなエンジニアを目指す
(プロスポーツ、音楽家を例に説明—見華やかだが、地道な)
基礎訓練を怠らない、知恵と工夫、切磋琢磨
- ・冒険心
- ・人と交わる、自然に触れる、本を読む

■日常の心掛け

- ・授業は真剣勝負
授業を重視、中学校とは異なる、学習塾に頼らない、出来ればアルバイトをしない、
- ・勉強方法の確立
内容が段々と高度になれば、日頃の勉学の積み重ねがなければ、ついていけなくなる
受験勉強とは異なる勉強方法を各自が工夫する—重要なポイントの把握、分からないことを粘り強く考える、五感を働かせる
- ・対話を大切に
友人、保護者、教員、学生相談室
- ・連絡は掲示板、書類は自分で書く、規則は学生便覧参照
「生徒」ではなく、「学生」

出典：教務主事新入生合宿研修メモ

資料 7 - 1 - ① - 3

1 年生合宿研修における学校生活ガイダンス資料

新入生の皆さん、久留米高専への入学おめでとうございます。難関を突破した努力に敬意を表しますと共に、15歳の年齢で工学の道を選ばれた事を、同じ道を歩む先輩として大いに歓迎します。

私は、学生主事を務める 機械工学科の 松井 と申します。

学生主事：学生諸君の厚生補導（学生生活を送るために必要な環境を整え、この秩序を維持する為の指導を行う）。

中畑、龍頭、橋村、後藤、笈木の先生方と一緒に指導にあたりますので、いつでも相談に来て下さい。

【生活指導の基本方針】

本校は、大学や短期大学と同様高等教育機関に位置付けられております（すなわち、皆さんは同じ年の人達より3年早く専門性の高い技術を修得する学校に入学された訳で）、中学校や高等学校における“生徒”とは異なり、新入生の諸君も“学生”として処遇いたします。“生徒”であれば、学習や生活に向合う姿勢については教員が指導し、これに従えばよいのですが、学生には“自立”すなわち、“自主的に学習すること”及び“己で生活を律すること”の双方が要求されます。久留米高専の学生生活に対する指導も、学生諸君の自主性を尊重し、自立心を養う事を基本方針としています。従って、校則も、学習や課外活動を支障なく行えるよう、教育機関としての規律と秩序を維持する為に必要な、最小限の項目のみが定めてあります。高等学校などに比べると規制が緩く（細かいことまで定めていない）、何でも自由にやっていたらと誤解をしている人も一部いるようですが、本校では条文化していない事項については、学生諸君が自分の立場を考慮し、自己規制できるのを前提にしていますので、この点を誤解のないよう充分認識しておいて下さい。自分で規制する事の方がはるかに困難です。

一昨年までは、学校が混乱していた事もあり、未成年学生の飲酒や喫煙、また自動車やバイクの乗り回しなどでルール違反がかなり見られました。また、このような風潮が久留米高専の良き伝統だと、見当違いの考えを後輩に伝える学生もいましたが、これは誤りです。学生は自己規制が出来ずに規則違反を犯すと自分で責任を取らなければなりません、生徒に対しては指導で臨みますが、学生には訓告・停学・退学といった懲戒処分が課せられます。我々も、反社会的な人間性を疑われるような行為には厳しく対処する方針です。

本校には学則・学生準則を基本として種々の内規が定められていますので、学生便覧をしっかりと読んでおいて下さい。（学校生活を送る上で必要な届出なども書いてあります。）

【課外活動について】

高専は5年間の一貫教育であり、大学受験の為に時間を取られることがなく、知育・体育・徳育のバランスを保ちつつ、実践的な技術者を育成できるという特長を持っています。この体育・徳育の部分で学生会活動は大いに意義があるものと判断し、クラブ活動への参加は大いに奨励しています。本校には学生会の自主的な運営を基本とし、全教員が顧問として指導するクラブが体育系・文科系それぞれに20づつあります。また本校ではこの他に高専祭や、クラスマッチ、音楽祭など多くの学生会行事が行われますので、積極的に参加することで、学科や学年の垣根を越えて多くの友人を作ることをお勧めします。

【周知事項】

1. 車両通学：一年生は自転車のみ使用可（防犯登録、学校への通学登録、シール貼付）
バイク・自動車 ①原則として公共交通機関による通学が困難な場合（通学距離4km以上）、②原付を含め自動二輪車は2年生から、自動車は4年生から、③免許取得後3ヶ月以上経過していること、④寮生のバイク、自動車の持ち込みは原則禁止。
2. 最近では携帯電話やインターネットを使った、友達同士のメールのやりとりの中で、冗談のつもりで書いた事が、結果的に“集団的ないじめ”になる事例も生じている。（相手の立場や心情に充分気を配るように）
3. 3年生までは制服着用厳守
4. アルバイト：（社会学習）全面禁止ではないが、深夜、危険作業、酒食を伴う接客等は禁止、届出制
5. 盗難事件が年十数回発生：特に1・2年生が被害に会う例が多い、殆どが財布などを鍵の掛かかっていない部屋に放置していた。（貴重品、高額の現金は持参しない。）

普通に学校生活を送っていれば全く問題はない。

現在、高専の卒業生に対する企業の評価は非常に高い（基礎学力、積極性、実践力）

進学に関しても、国立大学への3年次編入、専攻科からの大学院進学：受入数増加

学習と課外活動などの両立に勤しみ、伸び伸びと学生生活楽しんで頂き、逞しい技術者に育って頂きたい。

出典：学生主事：平成18年度新入生合宿研修 学生主事講話メモ

(H18, 4/22 於：国立夜須高原青少年自然の家)

資料7-1-①-6

学級担任会名簿

- ◆教務主事 馬越
- 教務主事補 中武、宮崎、江頭、中畷、田中慎、福田か、高橋
- ◆学生主事 松井
- 学生主事補 橋村、後藤、笈木、中畑、龍頭
- ◆寮務主事 櫻木
- 寮務主事補 黒木、小田、楢、矢野、中坊
- ◆専攻科主事 笹栗
- 専攻科主事補 藤田、池田、前田、伊藤、奥山

◆学級担任教員

学科	学年				
	1	2	3	4	5
機 械 工 学 科	高 橋	廣 尾	中 尾	平 簪	田中大
電 気 電 子 工 学 科	大 串	越 地	原	宮 崎	長 田
制 御 情 報 工 学 科	龍 頭	谷	丸 山	川 口	江 崎
生 物 応 用 化 学 科	辻	木 寺	石 井	森	笈 木
材 料 工 学 科	小 宮	米 永	平 野	山本郁	矢 野

学科	学年	
	1	2
機 械 ・ 電 気 工 学 専 攻	藤 田	前 田
物 質 工 学 専 攻	伊 藤	奥 山

出典：平成18年度各種委員会委員名等一覧表（抜粋）

資料7-1-②-1

図書館蔵書冊数

平成18年3月31現在

区分	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・体育	語学	文学	計
和書	3,491	4,360	5,185	4,013	20,730	25,238	384	2,927	3,818	12,086	82,232
洋書	274	175	143	109	3,530	4,426	128	37	1,888	2,764	13,474
合計	3,765	4,535	5,328	4,122	24,260	29,664	512	2,964	5,706	14,850	95,706

* 視聴覚資料 495

出典：庶務課図書係資料

資料7-1-②-2

Wave Hall (学生食堂) 利用状況

久留米高専食堂利用者数

平成16年度

月別	利用者数	営業日数	1日当たり利用者数
4月	1,802名	21日	85.81名
5月	1,714名	18日	95.22名
6月	2,020名	22日	91.82名
7月	1,908名	21日	90.86名
8月	791名	22日	35.95名
9月	775名	20日	38.75名
10月	1,705名	20日	85.25名
11月	1,089名	21日	51.86名
12月	1,542名	20日	77.10名
1月	1,282名	19日	67.47名
2月	1,197名	19日	63.00名
3月			
合計	15,825名	223名	70.96名

久留米高専食堂利用者数

平成17年度

月別	利用者数	営業日数	1日当たり利用者数
4月	1,461名	21日	69.57名
5月	1,548名	21日	73.71名
6月	1,489名	21日	70.90名
7月	1,010名	22日	45.91名
8月	837名	21日	39.86名
9月	1,151名	20日	57.55名
10月	1,340名	22日	60.91名
11月	1,154名	18日	64.11名
12月	1,307名	20日	65.35名
1月	1,232名	19日	64.84名
2月	952名	19日	50.11名
3月			
合計	13,481名	224名	60.18名

出典：学生課学生係食堂利用者数調

資料 7-1-②-3 (1/3)

厚生会会則及び役員名簿

久留米工業高等専門学校厚生会会則

(目的)

第1条 久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生及び教職員に対し、校内における福利厚生
の充実を図るため、本校内に久留米工業高等専門学校厚生会（以下「本会」という。）を置く。

(事業)

第2条 本会は、前条の目的を達成するために、福利施設等において次の事業を行う。

- 一 食堂・喫茶に関する事業
- 二 学用品・日用品その他の物品の販売に関する事業
- 三 自動販売機による物品の販売に関する事業
- 四 理容に関する事業
- 五 その他学生及び教職員の福利厚生に関する事業

(事業の委託)

第3条 本会は、前条の事業を他の者に委託して行うことができる。

(会員)

第4条 本会の会員となることができるのは、本校の学生及び教職員とする。

(会員資格の喪失)

第5条 会員は、次の事由によってその資格を喪失する。

- 一 卒業・修了又は退学等により学生でなくなったとき
- 二 転出又は退職等により教職員でなくなったとき

(役員)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- 一 理事長 1 名
- 二 理事 若干名
- 三 監事 3 名

(理事長)

第7条 理事長は、学生主事をもって充てる。

2 理事長は、会務を総括し、本会を代表する。

3 理事長に事故ある時は、あらかじめ理事長の指名する理事がその職務を代行する。

(理事)

第8条 理事は次の者をもって充てる。

- 一 各学年から選出された学生各 1 名
- 二 各学科等から選出された教官各 1 名
- 三 事務部長
- 四 庶務課長及び学生課長

(監事)

第9条 監事は次の者をもって充てる。

- 一 理事長が、教官のうちから指名した者 1 名
- 二 理事長が、学生のうちから指名した者 1 名
- 三 会計課長

2 監事は、本会の会計を監査する。

(役員任期)

第10条 第8条第1号及び第2号並びに前条第1項第1号及び第2号による役員となった者の任期は1年とし、再任は妨げない。ただし、欠員により選出された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員報酬)

第11条 役員は無報酬とする。

(理事会)

第12条 本会に、理事長及び理事をもって組織する理事会を置く。

2 理事会は、本会の最高決議機関とし、理事長が召集しその議長になる。ただし、理事の3分の2以上から、書面をもって会議開催の目的事項を示して理事会召集の請求があったときは、臨時に理事会を召集しなければならない。

出典：厚生会会則

資料7-1-②-3 (2/3)

久留米工業高等専門学校厚生会会則つづき

(審議事項)

第13条 理事会は、次に掲げる事項について審議する。

- 一 本会の運営に関する基本事項
- 二 事業の新設及び改廃報告に関する事項
- 三 事業計画及び事業報告に関する事項
- 四 予算及び決算に関する事項
- 五 会則の改廃に関する事項
- 六 その他重要な事項

(議事)

第14条 理事会は、その構成員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(経費)

第15条 本会の経費は、寄付金、協賛金その他の収入をもって充てる。

(協賛金)

第16条 会員は、入会時に協賛金として500円を納付するものとし、既納の協賛金は返還しない。

- 2 協賛金の納入時期は、学生にあつては入学のとき、職員にあつては、職員となったときとする。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第18条 本会の事業計画及びこれに伴う予算は、理事長が作成し、毎会計年度開始前に理事会の承認を経てこれを会員に公表する。

(事業報告及び収支決算)

第19条 本会の収支決算は、理事長が作成し、事業報告書とともに、監事の監査を経た後、理事会の承認を経て半期毎にこれを会員に公表する。

(会員の意見を聴くための措置)

第20条 理事長は、事業について会員の意見を聴くものとする。

- 2 会員は、本会事業に関し意見等がある場合は、随時理事長及び理事に申し出ることができる。

(事務)

第21条 本会に関する事務は、学生課学生係において処理する。

附 則

- 1 この会則は、平成13年12月13日から施行する。
- 2 この会則施行後、最初の第8条第1項第1号及び2号並びに第9条第1項第1号及び第2号による役員の任期は、第10条の規定にかかわらず平成14年3月31日までとする。

出典：厚生会会則

資料7-1-②-3 (3/3)

久留米工業高等専門学校厚生会役員名簿

役員名	学年・所属・職名等	氏名	備考
理事長	学生主事	松井 悟	
理事	1年 生物応用化学科		学生
理事	2年 制御情報工学科		学生
理事	3年 機械工学科		学生
理事	4年 電気電子工学科		学生
理事	5年 材料工学科		学生
理事	1年 専攻科(機電)		学生
理事	2年 専攻科(物質)		学生
理事	一般科目(文科)	米 永 正 敏	教員
理事	一般科目(理科)	山 本 稔	教員
理事	機 械 工 学 科	松 永 崇	教員
理事	電 気 電 子 工 学 科	高 松 政 利	教員
理事	制 御 情 報 工 学 科	丸 山 延 康	教員
理事	生 物 応 用 化 学 科	森 哲 夫	教員
理事	材 料 工 学 科	笹 栗 信 也	教員
理事	事 務 部 長	金 子 馨	事務
理事	庶 務 課 長	陶 山 政 美	事務
理事	学 生 課 長	牛 尾 憲 一	事務
監事	制 御 情 報 工 学 科	綾 部 隆	教員
監事	5年 制御情報工学科		学生
監事	会 計 課 長	樋 口 正 一	事務

出典：厚生会役員名簿

資料7-1-②-4

総合情報センターのサーバ及び端末

	型式	スペック	端末数
K1教室 (デスクトップ)	富士通 FMV-6266T7	CPU PentiumII 266MHz メモリ 64M HDD 6G	50台
K2教室 (ノートパソコン 室)	IBM ThinkPadA22	CPU PentiumIII 800MHz メモリ 128M HDD 20G	50台
プリンタ	モノクロレーザー EPSON LP-8700		2台
サーバ	IBM xSeries 200	CPU PentiumIII 933MHz メモリ 320M HDD 20G	1台

出典：総合情報センター資料

資料7-1-③-2

学生主事及び学生主事補と学生会中央執行委員会役員と懇談会議事録

日時：2005年6月15日16:30～

場所：小会議室

(学生大会での学校への要望事項と回答)

1. 個人用ロッカーを導入してほしい。
→予算の問題があるので直ぐには難しいが、教務主事サイドと前向きに検討する。
2. 更衣室にエアコンを入れてほしい。
→教室にエアコンが無いのに更衣室へのエアコン導入は難しい。
3. バイクの通学制限を解除してほしい。
→バイクなどの車両通学は、基本的に公共交通機関での通学が困難な者に対して許可していることであり、制限の許可はできない。
4. 教室に時計を入れてほしい。
→予算の問題があるので旧には難しいが、教務主事サイドと前向きに検討する。
5. 教室にゴミ箱を入れてほしい。
→本件はすでに検討事項であり、導入の予定である。

(学生会から学校への要望事項と回答)

1. 高専祭のときにコココーラおよびレッドバロン(バイク販売店)をスポンサーにして良いか?コココーラは高専祭での清涼飲料水の独占販売、レッドバロンはバイクの展示会を行いたいとのこと。
→高専祭は基本的に営利目的で無く、許可には検討の必要がある。
2. インターネットホームページに高専祭の宣伝をしたい。
→HPの管理部門である総合情報センターの意見もあるので検討する。
3. クラスマッチの日程を1日半ではなく、半日で3日間行わせてほしい。
→授業時間確保との問題があり、教務主事サイドを検討する。
4. 教室の電気・LANの改修をしてほしい。
→教室の電源やLANコンセントを壊しているのは学生であり、学生側でいたずらをしなくならなくては改修しても意味が無い。

(学生主事サイドから学生会への要望事項)

1. 本年度本校が担当する高専体育大会でのボランティアを募ってほしい。
→6/25までに確保できる人数を滝沢君から連絡する。
2. クラブについて、現在活動をしていないクラブがあり、整理統合を御願いたい。
→学生会でも問題になっているのですぐに検討する。
3. 顧問配置の問題もあり、新規クラブの設立についてある程度の設立条件を提案したい。
→学校に従うので、設立条件をおって提案頂きたい。

以上

出典：学生主事室議事録

資料7-1-③-3

平成17年度前期 学生による授業評価アンケート

()年 ()学科 科目名 ()

※ 以下, A, B, Cの質問に対して, 該当する項目に付された○を黒く塗りつぶしてください

A あなたはこの授業にどのように取り組みましたか。(複数選択可)

- 1 授業中, 熱心に説明を聞いた.
- 2 授業の予習をよくした.
- 3 授業の復習をよくした.
- 4 関連する内容を自主的に勉強した.
- 5 授業中, ノートやメモをとった.
- 6 授業にほとんど欠席せずに出席した.
- 7 授業の内容を十分に理解できた.

B あなたはこの授業をどのように思いましたか。(複数選択可)

- 1 教科書やプリント等の教材が適切であった.
- 2 演習, 課題はよく工夫されたものであった.
- 3 先生は十分に授業の準備をしていた.
- 4 先生は熱意をもって授業をしていた
- 5 質問をしやすくするなど, 授業に双方向性をもたせる工夫があった.
- 6 授業に適度なユーモアがあった.
- 7 半期を通した授業全体の構成は適切であった.
- 8 授業はわかりやすかった.
- 9 この授業内容に興味をもてた.
- 10 この授業によって, 調べる力がついた.
- 11 この授業によって, 考える力がついた.
- 12 総合的に良い授業だったと思う.

C この授業についての要望があれば選んでください。(複数選択可)

- 1 先生の声聞き取りやすくしてほしい.
- 2 板書を読みやすくしてほしい.
- 3 演習, 課題の内容を工夫してほしい.
- 4 学生に対する言動に気を付けてほしい.
- 5 授業の準備を十分にしてほしい.
- 6 もっとわかりやすく説明してほしい.
- 7 もっと質問の機会を増やしてほしい.
- 8 授業の進度が速すぎる.
- 9 授業の進度が遅すぎる.
- 10 授業のレベルが高すぎる.
- 11 授業のレベルが低すぎる.
- 12 授業の開始時間を守ってほしい.
- 13 授業の終了時間を守ってほしい.
- 14 休講を少なくしてほしい.
- 15 先生からの連絡が確実に伝わるようにしてほしい.
- 16 先生にもっと連絡をとりやすくしてほしい.

出典：平成17年度 学生による授業評価アンケート用紙

資料7-1-③-4

学生支援に関するアンケート

該当する回答を丸で囲んで下さい。

1. 質問に行って教えてもらう、演習やテストで間違ったところを再度説明してもらう、勉強のしかたをアドバイスしてもらう、などの学習支援を受けることができましたか？

<input type="radio"/> 十分に受けることができた	<input type="radio"/> ある程度受けることができた
<input type="checkbox"/> あまり受けることができなかった	<input type="checkbox"/> 全く受けることができなかった
2. 実験、実習、卒業研究で適切な指導を受けましたか？

<input type="radio"/> 適切な指導を受けた	<input type="radio"/> ある程度適切な指導を受けた
<input type="checkbox"/> 指導が十分ではなかった	<input type="checkbox"/> 全く受けることができなかった
3. 進学または就職に関するガイダンス、進路指導を受けることができましたか？

<input type="radio"/> 十分受けることができた	<input type="radio"/> ある程度受けることができた
<input type="checkbox"/> 不十分だった	<input type="checkbox"/> ほとんどなかった
4. 自習を行う学習環境（教室、図書室、研究室などの施設や設備）に満足しましたか？

<input type="radio"/> 十分満足できた	<input type="radio"/> ある程度満足できた
<input type="checkbox"/> あまり満足できなかった	<input type="checkbox"/> 全く満足できなかった
5. 図書館においてある本、参考書、雑誌に満足しましたか？

<input type="radio"/> 十分満足できた	<input type="radio"/> ある程度満足できた
<input type="checkbox"/> あまり満足できなかった	<input type="checkbox"/> 全く満足できなかった
6. クラブ活動や学生会活動などの課外活動での学校側の支援や助言に満足しましたか？

<input type="radio"/> 十分満足できた	<input type="radio"/> ある程度満足できた
<input type="checkbox"/> あまり満足できなかった	<input type="checkbox"/> 全く満足できなかった
7. 困った事や悩み事があるときに相談できる教職員はいましたか？ いた場合には教職員の役職名を記入して下さい(先生の個人名ではなく、担任、学生相談室教員、寮務事務員などの役職名を記入)

<input type="radio"/> 相談できる教職員がいた()	<input type="checkbox"/> いなかった
--------------------------------------	--------------------------------

■ 具体的な要望や意見がある場合に記入して下さい(裏にも記入可)。

出典：平成17年度 学生支援に関するアンケート用紙

資料7-1-④-1

本校卒業後に取得可能な資格

(1) 各種国家試験等本校卒業後受験可能(取得)資格(抜粋)

本校卒業後、受験又は取得可能な資格としては、下記のようなものがあります。

記

○毒物劇物取扱責任者 (一般・農業用・特定)	○電気主任技術者 (第一種・第二種・第三種)
○危険物取扱者(甲種・乙種・丙種)	○電気工事士
○作業環境測定士(一種・二種)	○陸上無線技術士
○エネルギー管理士(熱・電気)	○無線通信士
○ガス主任技術者 (甲種・乙種・丙種)	○情報処理技術者(5種類)
○環境計量士	○労働衛生コンサルタント
○公害防止(主任)管理者(13種類)	○労働安全コンサルタント(5種類)
○火薬類保安責任者(製造・取扱)	○衛生管理者(一種・二種)
○発破技師	○建設機械施行技師(一級・二級)
○消防設備士(甲種・乙種)	○放射線取扱主任者 (第一種・第二種)
○技術士・技術士補	○ボイラータービン主任技術者
○測量士補	

出典：学生便覧 P193

資料 7 - 1 - ④ - 2

TOEIC 受験者数の推移

年・月	受験者数(人)
平成 16 年 4 月	116
平成 17 年 1 月	145
平成 17 年 4 月	72
平成 18 年 1 月	93
平成 18 年 4 月	83

出典：学生課教務係資料

資料7-1-④-3

電気主任技術者資格認定に関する資料

(昭和四十一年十二月一日 第一一九九〇号 官 報)

○通商産業省告示第五百七十七号

電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令(昭和四十年通商産業省令第五十二号)第一条第一項の規定により、次の学校を認定する。

昭和四十一年十二月一日

通商産業大臣 三木 武夫

位 置

学校名および学部名

学科名

全日制
課程
または
定時制
課程
の別

認定に係る免状の種類

福岡県 久留米工業高等専門学校 電気工学科

第二種電気主任技術者
免状および第三種電気
主任技術者免状

出典：学生課教務係資料

資料7-1-⑤-1

平成18年度留学生名簿

平成18年4月現在

氏名(省略)	国籍	性別	学科	学年	編入年	備考
	マレーシア	男	機械工学科	5	平成16年度	マレーシア政府派遣
	スリランカ	男	機械工学科	5	平成16年度	国費留学生
	マレーシア	男	機械工学科	5	平成16年度	マレーシア政府派遣
	スリランカ	男	電気電子 工学科	4	平成17年度	国費留学生
	モロッコ	男	機械工学科	3	平成18年度	国費留学生

出典：学生課寮務係資料

資料7-1-⑤-2

編入学生の入学状況

年度	入学者数(人)
平成14年度	1
平成15年度	1
平成16年度	3
平成17年度	1
平成18年度	1

出典：学生課教務係資料

資料7-1-⑤-3

留学生のチューター及び指導教員一覧（留学生及び相談員学生の名前は省略）

平成18年度

留学生相談員氏名	学科 / 学年	留学生氏名	指導教員
	電気電子工学科3年		宮崎浩一
	機械工学科3年		中尾哲也

平成17年度

留学生相談員氏名	学科 / 学年	留学生氏名	指導教員
	機械工学科4年		田中大
	機械工学科4年		
	機械工学科4年		
	電気電子工学科3年		中島勝行

平成16年度

留学生相談員氏名	学科 / 学年	留学生氏名	指導教員
	電気電子工学科4年		高松政利
	制御情報工学科4年		前田道治
	材料工学科4年		田中慎一
	機械工学科4年		中武靖仁
	機械工学科4年		
	機械工学科4年		

出典：学生課寮務係資料

資料7-1-⑤-4

編入生・転入生向けの科目

編入生向け選択科目

年度	授業名	学年・学期	単位
機械工学科	機械工学概論	4年・前期	1
電気電子工学科	電気電子工学概論	4年・前期	1
制御情報工学科	制御情報工学 A・B	4年・前後期	2
生物応用化学科	生物応用化学概論	4年・前期	1
材料工学科	材料工学概論	4年・前期	1

転入生・編入学生への特別補習授業の一例

対象	年度	学科	実施補習名	備考
他高専からの3 年次転入生	平成18	制御情報	製図補講	12回に渡り補講
普通高校から4 年次編入生	平成13	制御情報	電気磁気学	
			情報処理(C言語)	
			製図補講	夏休み半日の1週間
他高専から物質 工学専攻科への 入学生	平成16	生物応用化学	応用物理、遺伝子・細胞工 学、微生物工学、工業英語	レポートにより学習 状況を確認
			応用数学、情報処理演習	代替科目履修
			化学工学	補講及び試問

出典：各学科教育課程表より作成

資料 7-1-⑥-2

平成 18 年度 学生会局・部指導教員一覧

文化局指導教員：中畑 体育局指導教員：龍頭

平成 18 年 4 月 1 日

	体育局	代表顧問	顧問
1	陸上競技部	志賀	矢野・田中大・宮本・富岡・永野
2	柔道部	小宮	大崎・馬越・平野
3	剣道部	木寺	越地・松尾・原田
4	弓道部	中野	福田幸・笈木・川口
5	空手部	高松	櫻木
6	硬式野球部	渡邊	廣尾・熊丸・酒井・青山・平川・楯・大串・奥山
7	バレーボール部(男女)	高橋・金城	山崎・江島・笹栗
8	バスケットボール部(男)	山本郁	黒木・中畑・泉本・山本稔
9	バスケットボール部(女)	中坊	福田か・野坂
10	テニス部	小田	江頭・川越・赤坂・池田
11	ラクビー部	江崎	米永・中嶋
12	ハンドボール同好会	藤田	江崎・中嶋
13	合気道部	中島	松永・山本稔
14	水泳部	田中慎	後藤・綾部・中畑
15	サッカー部	橋村	松井・原・谷・石井・重松
16	バドミントン部	龍頭	大岡・中武・濱上・津田
17	卓球部	久保	丸山・前田・平元
18	サイクリング愛好会	中尾	東島
19	ソフトテニス愛好会	辻	森・伊藤・長田
20	フットサル愛好会	平瀨	宮崎

	文化局	代表顧問	顧問
1	囲碁将棋部	永野	高松
2	英会話部	中島	江島・福田か
3	軽音楽研究部	津田	中坊
4	茶道部	楯	前田・辻・馬越
5	写真部	綾部	山崎
6	新聞文芸同好会	長田	米永
7	吹奏楽部	宮崎	池田・奥山・平元
8	美術部	藤田	宮本・櫻木
9	天文愛好会	松井	田中慎
10	ドイツ文化研究同好会	東島	笈木
11	華道愛好会	後藤	大岡・森
12	ピアノ愛好会	小宮	原田
13	卓上ゲーム愛好会	中畑	
14	模型同好会	平瀨	山本郁
15	プロコン同好会	黒木	丸山・中野
16	エコパワー愛好会	中武	福田幸・大崎
17	翔愛好会	中尾	田中大
18	自動車部	中尾	
19	ロボットコンテスト部	越地	大崎・熊丸・櫻木・福田・松井
20	ガーデニング愛好会	中嶋	越地・藤田

出典：学生課学生係資料

資料7-1-⑥-3

NHK ロボットコンテスト参加実績

テーマ	ロボット名	地区大会成績	全国大会成績
第1回1988年 乾電池カースピードレース	パッチンコロコロ号	なし	参加12校 準優勝
第2回1989年 オクトパス フットボール	コロコロスットン号	なし	参加20校 優勝
第3回1990年 ニュートロンスター	スットンノビノビ号	なし	参加62校 準優勝
第4回1991年 ホットタワー	ノビノビ久留久留号 ノビノビコットン号	優勝 2回戦敗退	ベスト8
第5回1992年 ミステリーサークル	ほいっとストーン BRIDG 号 久留久留ペッター号	優勝 ベスト8	ベスト8
第6回1993年 ステップダンス	CAN-RUN 車 IN'93 筑後大堰	3位 1回戦敗退	
第7回1994年 スペースフライヤー	ヴィントホーゼ ピンポイントアタッカー	1回戦敗退 1回戦敗退	
第8回1995年 ドリームタワー	カイザーリッヒエアパッヒェン BENGALS With 久高専	デザイン賞 2回戦敗退	1回戦敗退
第9回1996年 テクノカウボーイ	Bee-line 号 Turbulenz 号	1回戦敗退 準優勝	アイデア倒れ賞
第10回1997年 花開蝶来	W i s h e d e n	3回戦敗退 ベスト4アイデア賞	ベスト4優秀賞
第11回1998年 生命上陸	とま吉 MOSQUITO	3回戦敗退 2回戦敗退	
第12回1999年 ジャンプ・トゥー・ザ・フューチャー	弾君(ダンクン) とり吉	3回戦敗退 2回戦 アイデア賞	1回戦敗退
第13回2000年 ミレニアム・メッセージ	あしながおじさん ニューフロンティア	1回戦敗退 1回戦敗退	
第14回2001年 happy Birthday 39	轍-Wadachi- INDI 号	2回戦敗退奨励賞 2回戦敗退	
第15回2002年 プロジェクト BOX	P r o j e c t T ウォスフォート Ver3 03	1回戦敗退 1回戦敗退	
第16回2003年 鼎 (KANAE)	@ ヨークスクリュー	2回戦 アイデア賞 1回戦敗退	1回戦敗退
第17回2004年 マーブルラッシュ	Eye のチカラ code 4 0 0 0	1回戦敗退 1回戦敗退	
第18回2005年 大運動会	クレセント Helix	2回戦敗退 1回戦敗退特別賞	
第19回2006年 ふるさと自慢特急便			

出典：学生課学生係資料

資料7-1-⑥-3

プログラミングコンテスト参加実績

第7回（平成8年度）	課題、自由、競技部門 応募 競技部門 3位、自由部門 佳作
第8回（平成9年度）	課題、自由、競技部門 応募 課題部門 入賞、競技部門 3位
第9回（平成10年度）	課題、競技部門 応募 競技部門 優勝
第10回（平成11年度）	競技部門 応募
第11回（平成12年度）	競技、コンテンツ部門 応募
第12回（平成13年度）	競技部門 応募
第13回（平成14年度）	競技、自由部門 応募 競技部門 2回戦敗退、自由部門 敢闘賞
第14回（平成15年度）	競技、自由部門 応募 競技部門 3位
第15回（平成16年度）	課題、競技、自由部門 応募 競技部門 準優勝 自由部門 敢闘賞
第16回（平成17年度）	競技、自由部門 応募 競技部門 優勝 自由部門 敢闘賞

出典：学生課学生係資料

資料7-1-⑥-4

平成18年度 技術コーチ依頼者一覧

番号	クラブ名	コーチ氏名	略 歴
1	空 手 部		山本吉野園勤務 日本空手協会 六段 日本空手協会久留米支部忠武館師範
2	弓 道 部		鹿児島高等農林教官 農林水産省（昭和57年退官） 全日本弓道連盟 教士六段
3	茶 道 部		裏千家準教授（茶名：宗美） 昭和53年資格取得
4	卓 球 部		平成5,6年全日本選手権大会フォーティ ーの部優勝 国際審判員 公認レフェリー C級スポ ーツ指導員
5	英 会 話 部		久留米高専非常勤講師（英語）
6	吹 奏 楽 部		(株)沢井製薬勤務 くるめシティーブラス （ホルン奏者） H12.5 合歓バンド指揮者クリニック参加 H12.12 九州吹奏楽連盟指揮者セミナー 参加
7	合 気 道 部		合気道三段 西日本文化サークル、BS サークル、 祥平塾久留米道場指導中
8	華 道 愛 好 会		華道家元池坊三瀧支部所属 職役華督(本 部中央委員)
9	硬 式 野 球 部		
10	柔 道 部		柔道六段
11	バドミントン部		2005年（大2）久留米大学九州地区 リーグ団体3位 九州・中国・四国地区大会団体戦準優勝 シングルベスト8 福岡県総合（一般）ダブルスの部 準優勝

出典：学生課学生係資料

資料7-1-⑥-5

学生活動経費支援補助費

平成17年度 後援会 資料			
支出の部			
科 目	予算額	決算額	内 容
学生部活動・課外活動補助費	16,024,680	10,896,083	
英語弁論大会	130,000	16,400	
ロボットコンテスト参加	800,000	757,179	
高専祭補助	240,000	204,180	
プロコン大会参加	600,000	396,470	
各種発表等経費	40,000	0	学会発表
医薬品	60,000	48,645	
外部コーチ謝金	1,000,000	0	14名程度（交付金にて処理）
クラブ指導費	0	0	17年度休止
文化・技術系活動推進経費	2,000,000	1,428,298	ホンダ燃費、デザインコンテスト等
学生活動補助	500,000	352,742	校内美化・校内ロボコン物品購入
全国高専体育大会分担金	231,840	231,840	
九州地区高専体育大会分担金	322,840	322,840	
九州地区高専夏季体育大会補助	3,350,000	2,993,140	交通費、宿泊費
全国高専夏季体育大会補助	2,700,000	903,650	近畿地区（全国大会への出場減）
九州地区高専冬季体育大会補助	700,000	485,800	
全国高専冬季体育大会補助	1,200,000	870,750	神戸（1回戦のみ）
出場選手強化指導費	1,350,000	1,175,595	合宿、遠征指導費
高専体育大会準備費	300,000	206,750	
特定種目大会	500,000	501,804	弓道等

出典：庶務課後援会資料

資料7-2-①-2

久留米工業高等専門学校厚生補導委員会規則

(平成17年6月2日制定)

(設置)

第1条 本校に学生の厚生補導に関する事項を審議するため、久留米工業高等専門学校厚生補導委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学生主事
- (2) 学生主事補
- (3) 教務主事補から1名
- (4) 寮務主事補から1名
- (5) 専攻科主事補から1名
- (6) 学級担任教員の中から各学年毎に1名
- (7) 各専門学科教員の中から学科毎に1名
- (8) 一般科目教員の中から2名(文化系、理科系、からそれぞれ1名)
- (9) 学生課長

(委員長)

第3条 委員会の委員長は、学生主事とする。

2 委員長に事故があるときは、学生主事補が、その職務を代行する。

(運営)

第4条 委員長は、委員会を招集しその議長となる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(審議事項)

第6条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 規律の保持及び賞罰に関する事項
- (2) 課外活動教育に関する事項
- (3) 個人及び集団指導に関する事項
- (4) 集会(始業式、終業式)、催物及び出版掲示に関する事項
- (5) 奨学資金に関する事項
- (6) 厚生環境に関する事項
- (7) 入学料、授業料及び寄宿料の免除に関する事項
- (8) 入学料及び授業料の徴収猶予に関する事項
- (9) 健康管理に関する事項
- (10) 特別講演及び報告会に関する事項
- (11) 「久留米高専ニュース」に関する事項
- (12) その他学生の厚生補導に関する事項

(事務)

第7条 委員会の事務は、学生課学生係で処理する。

附則

1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。

2 久留米工業高等専門学校厚生補導委員会規則(昭和39年4月1日制定)は、この規則制定の日から廃止する。

附則

1 この規則は、平成17年6月2日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

2 久留米工業高等専門学校学生厚生補導委員会規則(平成13年4月1日施行)は、この規則制定の日から廃止する。

3 久留米工業高等専門学校文化・体育促進委員会規則(平成13年4月1日施行)はこの規則制定の日から廃止する。

4 久留米高等専門学校学生賞罰委員会規則(平成13年4月1日施行)はこの規則制定の日から廃止する。

出典：久留米工業高等専門学校 規則集

資料7-2-①-3

平成17年度奨学生数一覧

名 称	人 数	内 訳						
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科 1年	専攻科 2年
日本学生支援機構	130	12	28	29	20	33	3	5
福岡県教育文化奨学財団	15	11	1	3	対象外	対象外	対象外	対象外
福岡市教育振興会	8	0	3	3	1	1	対象外	対象外
福岡市地域改善対策奨学金	1	0	0	0	0	1	対象外	対象外
久留米市奨学生	2	0	1	1	対象外	対象外	対象外	対象外
八女市大坪奨学生	1	0	1	0	対象外	対象外	対象外	対象外
うきは市奨学会	1	1	0	0	0	0	対象外	対象外
筑後市奨学金	2	0	1	1	対象外	対象外	対象外	対象外
筑紫野市奨学金	1	0	0	1	0	0	対象外	対象外
大川市奨学金	1	0	0	0	1	0	対象外	対象外
広川町鶴寿奨学金	1	0	0	0	0	1	対象外	対象外
筑穂町就学奨励資金	1	0	0	0	0	1	対象外	対象外
日田市奨学金	1	0	0	0	0	1	対象外	対象外
鹿児島県育英財団	1	1	0	0	0	0	対象外	対象外
福岡市母子寡婦福祉資金	3	0	0	1	1	1	対象外	対象外
佐賀県母子寡婦福祉資金	1	0	1	0	0	0	対象外	対象外
吉田学術教育振興会	8	1	1	1	0	5	対象外	対象外
古岡奨学会	2	1	0	1	対象外	対象外	対象外	対象外
二又教育文化振興奨学会	2	0	1	0	1	0	対象外	対象外
あしなが育英会	3	0	0	0	2	1	0	0
北田奨学会	2	0	0	0	0	2	対象外	対象外
ニビキ育英会	1	0	0	1	0	0	対象外	対象外
柳川ロータリークラブ奨学金	2	0	0	1	0	1	対象外	対象外
島崎奨学会奨学金	1	0	0	0	1	0	対象外	対象外
合計	191							

出典：学生課学生係資料

資料7-2-①-3

平成15、16、17年度奨学生数一覧

名 称	15年度	16年度	17年度
日本学生支援機構(第一種)	133	144	130
福岡県教育文化奨学財団	3	4	15
福岡市教育振興会	7	10	8
福岡市地域改善対策奨学金	1	1	1
久留米市奨学生	4	3	2
八女市大坪奨学生	2	2	1
うきは市奨学会	0	0	1
筑後市奨学金	3	2	2
筑紫野市奨学金	1	1	1
大川市奨学金	1	1	1
広川町鶴寿奨学金	3	1	1
筑穂町就学奨励資金	1	1	1
日田市奨学金	2	2	1
鹿児島県育英財団	0	0	1
福岡市母子寡婦福祉資金	4	4	3
佐賀県母子寡婦福祉資金	0	1	1
吉田学術教育振興会	3	4	8
古岡奨学会	1	1	2
二又教育文化振興奨学会	1	2	2
あしなが育英会	4	3	3
北田奨学会	2	2	2
ニビキ育英会	2	1	1
柳川ロータリークラブ奨学金	2	2	2
島崎奨学会奨学金	1	2	1
大宰府奨学金	1	1	0
鳥栖市育英資金	1	0	0
福岡県地域改善対策奨学金	2	1	0
穂波町育英資金	1	1	0
三潁町奨学金	1	1	0
吉井町奨学金	1	1	0
志摩町奨学資金	0	1	0
緒方記念科学振興財団	1	0	0
合計	187	200	191

出典：学生課学生係資料

資料7-2-①-4

17年度学生相談室名簿及びスケジュール

学内相談員

学生相談室長	平元 道雄	一般文科教授
学生相談員	中尾 哲也	機械工学科講師
	大崎 邦倫	電気工学科助手
	中野 明	制御情報工学助手
インターカー	野田 美恵	看護師

学外相談員

スケジュール

精神科医	1名	久留米大学精神科医	隔週月曜日	4時間
カウンセラー	1名		毎週金曜日	5時間
臨床心理士	1名		毎週水曜日	4時間

出典：学生相談室資料

資料7-2-①-5

17年度学生相談室カウンセリング受診件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成10年	0	2	3	1	0	3	5	16	11	5	1	0	47
平成11年	0	5	2	1	0	4	4	6	4	3	1	0	30
平成12年	0	4	6	4	0	7	18	20	14	21	10	0	104
平成13年	3	18	4	6	0	4	6	4	7	3	2	0	57
平成14年	3	18	4	8	0	6	8	6	9	4	2	0	64
平成15年	6	16	20	13	4	10	16	8	4	13	3	2	115
平成16年	0	0	15	9	0	0	2	4	4	6	6	0	50
平成17年	3	7	9	22	0	16	13	9	10	10	6	0	105

出典：学生相談室資料

資料7-2-①-6

久留米工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止に関する規則

(平成18年 4月 6日制定)

(目的)

第1条 この規則は、キャンパス・ハラスメントが、教育の条件である個人としての基本的人権を侵害する行為であることに鑑み、久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるキャンパス・ハラスメントを現在及び将来にわたって防止し、もって、本校のすべての学生及び教職員が両性の本質的平等に基づく個人として尊重され、かつその就学、就労、教育及び研究のための快適で良好なふさわしい環境を維持することを目的とする。

(キャンパス・ハラスメントの定義)

第2条 「キャンパス・ハラスメント」とは、セクシュアル・ハラスメント及びその他のハラスメントをいう。

(1) セクシュアル・ハラスメント 他人に不快を感じさせる性的な言動

(2) その他のハラスメント セクシュアル・ハラスメントには当たらないが、他人の意 識に反し、かつ繰り返される不適切な言動

(キャンパス・ハラスメントの禁止)

第3条 本校の学生及び教職員は、その就学、就労、教育及び研究に関連してキャンパス・ハラスメントを行ってはならない。

(不利益取扱いの禁止)

第4条 本校の学生及び教職員は、キャンパス・ハラスメントを拒否し、又はこれに対して抗議したこと、キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談を行いまた当該苦情相談に係る調査への協力をしたこと等キャンパス・ハラスメントに関して正当な対応をしたことによりいかなる不利益も受けない。

(校長の責務)

第5条 校長は、本校におけるキャンパス・ハラスメントを防止するため、次に掲げる事項を行わなければならない。

(1) 学生及び教職員が認識すべき事項に関する指針を作成し、これを学生及び教職員に周知させること。

(2) 学生及び教職員を指導して本校におけるキャンパス・ハラスメントを未然に防止し、かつ、キャンパス・ハラスメントに起因する問題の迅速な処理にあたること。

(3) 学生及び教職員に対して必要な研修を実施すること。

(4) 新たに教職員となった者及び新たに教職員を監督する地位にある者（以下「監督者」という。）となった教職員に対して必要な研修を実施すること。

(監督者の責務)

第6条 監督者は、監督すべき教職員の快適で良好な労働環境を維持するため、キャンパス・ハラスメントを未然に防止し、かつ、キャンパス・ハラスメントに起因する問題の迅速な処理に努めなければならない。

2 教員の監督者は教務主事、学生主事、寮務主事とし、職員の監督者は事務部長、各課長とする。

(苦情相談)

第7条 本校の学生及び教職員で、その就学、就労、教育及び研究に関連して、他の学生及び教職員（以下「加害者」という。）によってキャンパス・ハラスメントを受けた者（以下「被害者」という。）は、第8条に定める相談員に対し、苦情相談をすることができる。

(相談員)

第8条 本校の学生及び教職員によるキャンパス・ハラスメントに関する苦情相談を受ける者として、相談員を置く。

2 相談員は、校長が任命し、その名簿を作成して周知させるものとする。

3 相談員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

4 相談員の中に、相談員の互選による総括相談員を一人置く。

出典：久留米工業高等専門学校 規則集

資料 7 - 2 - ① - 6 続き

(相談員の責務)

第 9 条 相談員は、キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談があった場合には、その苦情相談を真摯に聴き取り、当該問題を被害者の意向にそって適切かつ迅速に解決するよう努めなければならない。

2 相談員は、苦情相談への対応にあたっては、原則として被害者と同性の相談員を含む 2 名以上であり、関係者のプライバシーや名誉その他の人権を尊重するとともに、苦情相談の過程で知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

3 相談員は、被害者の承諾を得た上で、相談の内容を書面に記録しなければならない。 4 相談員は、被害者が第 10 条の調査委員会への申立てを希望する場合は、すみやかに総括相談員を介して校長へ報告しなければならない。

(調査委員会の役割)

第 10 条 校長は、前条 4 項による総括相談員による申立てがあった場合には、委員を任命して調査委員会を発足させ、当該問題の迅速な解決にあたらなければならない。

2 調査委員会は次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事 (委員長を兼務する。)
- (2) 学生主事
- (3) 寮務主事
- (4) 学科長 1 名
- (5) 事務部長
- (6) 庶務課長
- (7) 学生課長

3 調査委員会は、事実関係の正確な把握に努め、申立ての意向にそって、和解・調停・警告・懲罰によるそれぞれの解決策を可及的すみやかに校長に報告しなければならない。

4 調査委員会は、被害者からの事情聴取を行う場合には、相談員を 1 名付き添わせるとともに、被害者がいかなる不利益も受ける事のないよう特に配慮しなければならない。

5 調査委員会は、関係者のプライバシーや名誉その他の人権を尊重するとともに、調査の過程で知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

6 調査委員会は、調査した内容を書面に記録して校長に報告するとともに、校長はこれを保管し、必要である場合を除いては何人もこれを閲覧できないものとする。 (事後措置等)

第 11 条 校長は、調査委員会の報告に基づき、和解・調停・警告・懲罰によるそれぞれの必要な措置を、調査委員会を介して講じなければならない。

2 「和解・調停」が不調に終わった場合には、校長は被害者の意向を確認して調査委員会に対して他の解決策を諮問するものとする。

3 申立てが加害者への処置を望まない場合でも、事案に鑑みて校長は加害者に対して被害者の名を開示せずに「警告」を発することができる。

4 「懲罰」が適当と認められる場合には、校長は、加害者が学生の場合は厚生補導委員会に諮問して答申を受け、加害者が教職員の場合は調査委員会の報告を受け、処置するものとする。

5 被害者及び加害者は、校長の措置に対して異議申立てをすることができる。

(事務)

第 12 条 キャンパス・ハラスメントに関する事務は、庶務課人事係が処理する。

(雑則)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、キャンパス・ハラスメントの防止に関し必要な事項は、別に校長が定める。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 6 日から施行し、平成 18 年 4 月 1 日から適用する。

出典：久留米工業高等専門学校 規則集

資料7-2-②-1

平成18年 4月分学生寮宿日直日割表

日	曜日	日直	宿直	日	曜日	日直	宿直
1		**	**	17	月	**	中野
2		**	**	18	火	**	丸山
3	月	**	**	19	水	**	小田
4	火	**	**	20	木	**	志賀
5	水	**	**	21	金	**	山本
6	木	**	**	22		櫻木	梶*
7	金	開寮	櫻木	23		笹栗	高橋
8		黒木	小田	24	月	**	谷*
9		矢野	梶	25	火	**	金城
10	月	**	中坊	26	水	**	矢野
11	火	**	櫻木	27	木	**	池田
12	水	**	黒木	28	金	**	江頭
13	木	**	原田	29		重松	中尾
14	金	**	長田	30		龍頭	渡邊
15		中畑	平元				
16		小宮	宮崎				

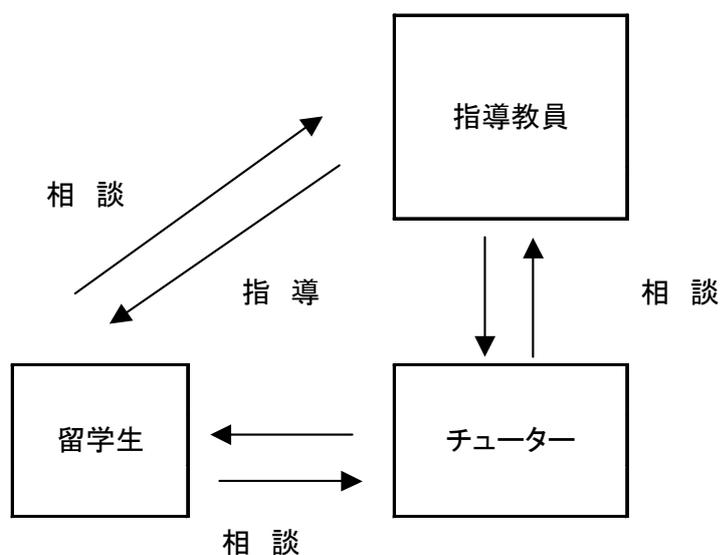
出典：学生課寮務係資料

資料7-2-②-2 留学生指導教員とチューター配置表

平成18年度 留学生指導教員とチューター配置表

外国人留学生氏名	学科	指導教員	チューター氏名
	機械工学科	中尾哲也	(3年機械工学科)
	電気電子工学科	宮崎浩一	(4年電気電子工学科)

留学生指導教員とチューターの配置表



出典：学生課寮務係資料

資料 7 - 2 - ② - 3

平成 17 年度外国人留学生に対する「日本事情」の講座のスケジュール

目 的	本校に在籍している外国人留学生に対して、「日本事情」の講義を行い、日本の生活習慣や文化に対する理解を深めさせる。		
日 程	10月15日(土)	9:00~12:00	13:00~17:00 (7時間)
	10月23日(日)	9:00~12:00	13:00~17:00 (7時間)
	11月12日(土)	9:00~12:00	13:00~17:00 (7時間)
	11月19日(土)	9:00~12:00	13:00~17:00 (7時間)
	合 計 4日間		(28時間)
第 1 日目			
午前	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・「日本語を楽しく読む本・中級」第7章 ・プロジェクト・ワークの内容検討 		
午後	<ul style="list-style-type: none"> ・聴解練習 ・「日本語を楽しく読む本・中級」第7章 ・指示語の使い方 		
第 2 日目			
午前	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語を楽しく読む本・中級」第8章 ・プロジェクト・ワーク ・リスニング・ストラテジーについて 		
午後	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語を楽しく読む本・中級」第8章 ・聴解練習 ・待遇表現 		
第 3 日目			
午前	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語を楽しく読む本・中級」第9章 ・速読練習 ・プロジェクト・ワーク 		
午後	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語を楽しく読む本・中級」第9章 ・聴解練習 ・プロジェクト・ワーク 		
第 4 日目			
午前	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語を楽しく読む本・中級」第10章 ・速読練習 ・プロジェクト・ワーク (発表練習) 		
午後	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語を楽しく読む本・中級」第10章 ・プロジェクト・ワーク (発表) 		

出典：学生課寮務係資料

資料7-2-②-4

平成17年度外国人留学生の実地見学旅行スケジュール

1. 目的

本校の外国人留学生に対し、日本の文化及び自然に対する理解を深める。

2. 見学先等

株式会社 三 松 (筑紫野市岡田 3-10-9(岡田工業団地内))
TEL (092) 926-4711 山本様
八丁原地熱発電所 (大分県玖珠郡九重町大字湯坪字八丁原)
TEL (0973) 79-2853 赤嶺様
九重森林公園スキー場(大分県玖珠郡九重町大字湯坪 612-1)
TEL (0973) 79-2200

3. 宿泊所

九州地区国立大学九重共同研修所
(大分県玖珠郡九重町湯坪字八丁原 600-1)
TEL (0973) 79-2617

4. 期日・日程

期 日:平成18年3月4日(土) ~3月5日(日) 1泊2日

9時50分集合 10時00分出発

日 程:3月4日(土)

久留米高専⇒11:00 三松(見学)⇒15:30 八丁原地熱発電所(見学)⇒宿舎

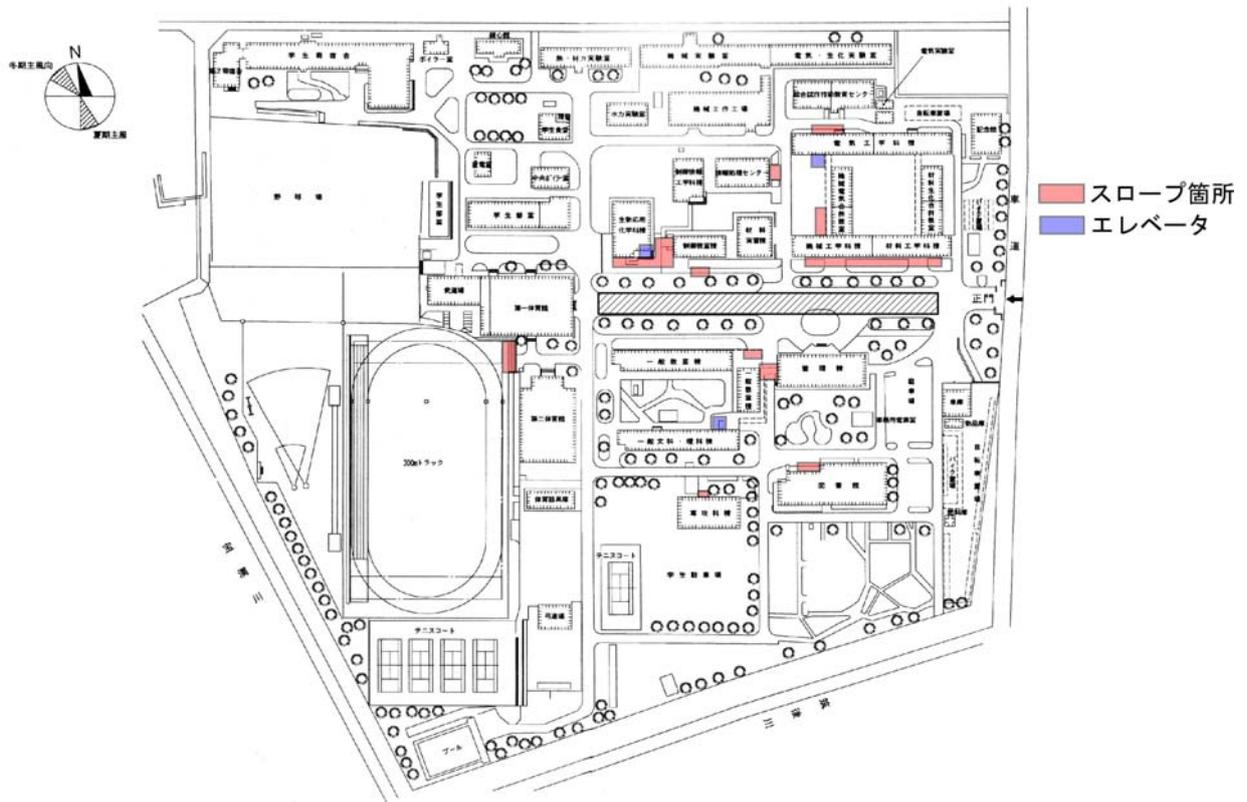
3月5日(日)

宿舎⇒9:30 九重森林公園スキー場⇒大分自動車道(九重IC)⇒鳥栖JCT⇒
久留米高専(18:00 予定)

出典：学生課寮務係資料

資料7-2-②-5

バリアフリー整備箇所



出典：学生便覧地図

資料 7 - 2 - ③ - 1

平成 1 8 年度 寮務主事室

寮務主事	櫻木 功
寮務主事補	中坊 滋一
寮務主事補	黒木 祥光
寮務主事補	小田 幹雄
寮務主事補	梶 隆彦
寮務主事補	矢野 正明
学生課長	牛尾 憲一
寮務係長	松永 幸大
寮務係	寺松 穂出
寮務係	黒岩 律子

出典：学生課寮務係資料

資料7-2-③-2

平成18年度 寮生会役員 (学生氏名は省略)

役員名	氏名	(科・学年)	号室
寮 長		(機械工学科 5年)	206
副 寮 長		(機械工学科 5年)	326
		(機械工学科 5年)	310
		(電気電子工学科 5年)	205
		(制御情報工学科 5年)	322
		(材料工学科 4年)	329
寮内LAN責任者(総)		(制御情報工学科 5年)	417
LAN副責任者(4階)		(制御情報工学科 5年)	435
LAN副責任者(3階)		(材料工学科 4年)	335
LAN副責任者(2階)		(電気電子工学科 5年)	207
文 化 委 員 (2名)		(機械工学科 4年)	327
		(電気電子工学科 4年)	226
会 計 (2名)		(専攻科 1年)	301
		(材料工学科 5年)	419 (1)
保健体育委員(3名)		(電気電子工学科 5年)	230
		(制御情報工学科 5年)	426
		(制御情報工学科 4年)	216
消 防 隊 長 副隊長		(機械工学科 5年)	307 (2)
		(生物応用化学科 4年)	233
班 長 (各階4名)		(専攻科 1年) 2A	217
		(電気電子工学科 5年) 2B	210
		(制御情報工学科 4年) 2C	228
		(電気電子工学科 5年) 2D	234
		(専攻科 2年) 3A	305
		(専攻科 2年) 3B	308
		(機械工学科 4年) 3C	314
		(機械工学科 4年) 3D	332
		(電気電子工学科 4年) 4A	405
		(専攻科 1年) 4B	407 (1)
		(制御情報工学科 5年) 4C	422
		(専攻科 2年) 4D	427

出典：学生課寮務係資料

資料7-2-③-3

平成18年度

寮務委員会名簿

- 寮務主事、〔寮務主事補〕
- 黒木（制御）、小田、梶、矢野（材料）、中坊（一般理科）
- 〔教務主事補（田中慎）〕、
- 〔学生主事補（中畑）一般文科〕、
- 〔専攻科主事補（藤田）〕、
- 廣尾（機械）
- 原、3年生担任、電気）
- 石井（生物）、
- 宮崎（4年生担任）
- 辻（1年生担任）、
- 谷（2年生担任）、
- 学生課長

出典：学生課寮務係資料

資料7-2-③-4

別表

日課表

起床	
清掃	7時30分～7時40分（休日は適宜の時間）
点呼	7時40分（休日 8時30分）
朝食	7時45分～8時30分（休日は8時30分～9時30分）
登校	
昼食	11時45分～12時45分
夕食	18時～19時30分（休日は17時30分～19時まで）
入浴	18時30分～21時55分 （1～3年生は21時まで） （休日及びその前日は22時25分まで）
点呼	22時（休日及びその前日は22時30分まで）
学習	21時～23時（1～3年生） 4・5年生及び専攻科生は自主学習
消灯	1～3年生は24時消灯。ただし、定期試験1週間前から試験終了日までは自主消灯とする。 4・5年生及び専攻科生は自主消灯

※休日とは土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に定める休日及び休校日等をいう。

出典：学生課寮務係資料

資料7-2-④-1

保護者面談スケジュール

公印省略

平成18年5月1日

保護者各位

久留米工業高等専門学校長
前田 三 男

学級保護者懇談会の開催について

拝啓 新緑の候益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、後援会定期総会の終了後に下記のとおり、保護者と学級担任教員との学級保護者懇談会を開催しますので、ご出席くださるようご案内申し上げます。

なお、総会会場で受付が終了した後來校された場合は、学生課で懇談会場をご案内いたしますので、学生課窓口へおいでくださるようお願いいたします。

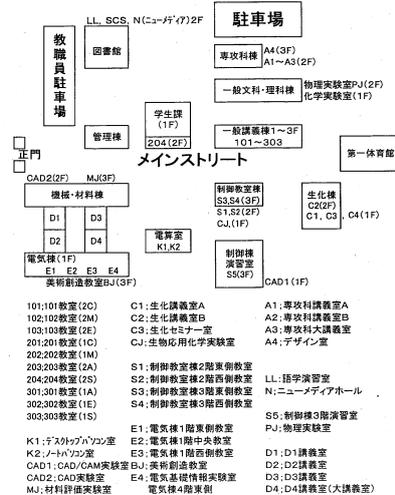
敬 具

記

開催期日 平成18年5月27日(土)13時30分～
場 所 久留米工業高等専門学校
各学科棟講義室(別紙参照)

ｸﾗｽ	担任	懇談等場所	ｸﾗｽ	担任	懇談等場所
1A	高橋	301教室(一般教室棟3階)	3C	石井	C4教室(生物応用化学科棟1階)
1E	大串	302教室(一般教室棟3階)	3M	平野	S2教室(制御教室棟2階)
1S	龍頭	303教室(一般教室棟3階)	4A	平達	E2教室(電気棟1階)
1C	辻	201教室(一般教室棟2階)	4E	宮崎	S3教室(制御教室棟3階)
1M	小宮	202教室(一般教室棟2階)	4S	川口	S1教室(制御教室棟2階)
2A	廣尾	CAD実験室(機械材料棟2階)	4C	森	C2教室(生物応用化学科棟2階)
2E	越地	103教室(一般教室棟1階)	4M	山本	D1教室(機械材料棟・電気棟の間)
2S	谷	204教室(一般共通棟2階)	5A	田中	美術創造教室B1(電気棟1階)
2C	木寺	101教室(一般教室棟1階)	5E	長田	D2教室(機械材料棟・電気棟の間)
2M	米永	102教室(一般教室棟1階)	5S	江崎	CAD/CAM実験室(制御情報工学科棟1階)
3A	中尾	D3教室(機械材料棟・電気棟の間)	5C	菱木	C1教室(生物応用化学科棟1階)
3E	原	電気基礎情報実験室(電気棟4階)	5M	矢野	E1教室(電気棟1階)
3S	丸山	S4教室(制御教室棟3階)			

教室配置図



出典：学生課学生係資料

資料7-2-④-2

求人企業一覧（学科別一例）

会社名	受付番号（募集学科）						
	A	E	S	C	M	機電	物質
日本システム通信（株）	1	1	1			1	
（株）アイティーシステムズ	1	1	1			1	
（株）創夢	1	1	1	1	1	1	1
（株）森精機製作所	1	1	1			1	
（株）ケーヒン	1	1	1	1	1	1	1
アプライトマテリアルズジャパン（株）	1	1	1			1	
（株）日本デジタル研究所	1	1	1	1	1	1	1
新生電子（株）	1	1	1		1	1	1
マルマテクニカ（株）	1	1	1			1	
帝国インキ製造（株）	1	1	1	1	1	1	1
（株）D T S	1	1	1	1	1	1	1
アドソル日進（株）	1	1	1	1	1	1	1
東京コンピュータサービス（株）	1	1	1	1	1	1	1
サンメイクジャパン（株）	1	1	1	1	1	1	1
（株）アルプス技研	1	1	1	1	1	1	1
（株）エム・イー	1	1	1			1	
いすゞエンジニアリング（株）	1	1				1	
日新製鋼（株）	1	1	1	1	1	1	1
コスモエンジニアリング（株）	1	1	1	1			
（株）日立メディコ	1	1	1		1	1	

出典：ホームページ上に掲載される求人企業一覧の一部

資料7-2-④-3

就職担当委員会の組織図

就職統括主任 生化 津田教授

事務担当

牛尾課長、榑崎主任

就職主任

機械	電気	制御	生化	材料	専攻
原田助教授	高松助教授	江崎助教授	伊藤教授	矢野助教授	前田助教授

出典：学生課学生係資料

資料7-2-④-5

学生の進学先大学の一覧

学科・専攻名	大学進学先
機械工学科	熊本大学 九州工業大学 宮崎大学 佐賀大学 豊橋技術科学大学 琉球大学
電気電子工学科	熊本大学 九州工業大学 豊橋技術科学大学 広島大学 長崎大学 東北大学
制御情報工学科	東京工業大学 筑波大学 豊橋技術科学大学 広島大学 山口大学 佐賀大学 島根大学
生物応用化学科	東京工業大学 お茶の水女子大学 九州大学 熊本大学 広島大学 豊橋技術科学大学 北九州市立大学
材料工学科	九州工業大学 九州大学 東北大学 長崎大学 熊本大学 豊橋技術科学大学 長岡技術科学大学
専攻科	九州大学大学院 九州工業大学大学院

出典：学生課学生係資料

資料7-2-④-6

S P I 試験スケジュール

平成17年12月 日

就 職 主 任 殿
1～4年クラス担任 殿
専 攻 科 1年担任 殿

就職統括主任
津 田 祐 輔

S P I 対策模擬試験の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので、周知方よろしく願いいたします。
つきましては、クラスの受験希望者を取りまとめていただき、12月21日（水）までに受験料（1名につき980円）を添えて学生係まで申込みくださるようお願いいたします。

記

日 時 平成18年1月13日（金）16：45～18：45（予定）

場 所 大ホール（D4講義室）

出典：学生課学生係資料

資料7-2-④-8

後援会からの進路指導旅費の予算

平成17年度後援会決算

【一般会計 決算】

収入の部					
区 分	予算額	決算額	過不足	備 考	
前年度繰越金	5,585,671	5,585,671	0		
会 費					
本科	26,059,200	25,717,600	-341,600	24,400円×1,068人(予算)	
専攻科	964,800	928,800	-36,000	14,400円×67人(予算)	
預金利息		82	82		
合 計	32,609,671	32,232,153	-377,518		

支出の部					
科 目	予算額	決算額	過不足	内 容	
学生部活動・課外活動補助費	16,024,680	10,896,083	5,128,597		
英語弁論大会	130,000	16,400	113,600		
ロボットコンテスト参加	800,000	757,179	42,821		
高専祭補助	240,000	204,180	35,820		
プロコン大会参加	600,000	396,470	203,530		
各種発表等経費	40,000	0	40,000	学会発表	
医薬品	60,000	48,645	11,355		
外部コーチ謝金	1,000,000	0	1,000,000	14名程度(交付金にて処理)	
クラブ指導費	0	0	0	17年度休止	
文化・技術系活動推進経費	2,000,000	1,428,298	571,702	ホタル燃費、デザインコンテスト等	
学生活動補助	500,000	352,742	147,258	校内美化・校内味コン物品購入	
全国高専体育大会分担金	231,840	231,840	0		
九州地区高専体育大会分担金	322,840	322,840	0		
九州地区高専夏季体育大会補助	3,350,000	2,993,140	356,860	交通費、宿泊費	
全国高専夏季体育大会補助	2,700,000	903,650	1,796,350	近畿地区(全国大会への出場減)	
九州地区高専冬季体育大会補助	700,000	485,800	214,200		
全国高専冬季体育大会補助	1,200,000	870,750	329,250	神戸(1回戦のみ)	
出場選手強化指導費	1,350,000	1,175,595	174,405	合宿、遠征指導費	
高専体育大会準備費	300,000	206,750	93,250		
特定種目大会	500,000	501,804	-1,804	弓道等	
課外教育補助費	3,940,000	3,684,946	255,054		
特別講演	2,000,000	1,946,044	53,956	後援会・学生会主催	
工場見学等	800,000	381,330	418,670	貸切バス借上等(実施予定回数増)	
学生会等活動費	700,000	667,950	32,050	学会出席1人4万円以内	
専攻科長期実習補助	400,000	677,022	-277,022	会社等から補助がないとき4万円以内 会社補助が減少	
留学生指導	40,000	12,600	27,400		
教育研究補助費	1,860,000	1,821,570	38,430		
非常勤講師	300,000	611,995	-311,995	追試等(数学等補講増)	
学生図書	700,000	700,965	-965		
教育研究集会	600,000	293,520	306,480	日本工学教員協会集会、団体会費のみ	
TOEIC試験経費	160,000	125,840	34,160		
サマーレクチャー補助	100,000	89,250	10,750	高専間交流(専攻科生)	
広報活動経費	960,000	1,144,920	-184,920	学校説明会、学校訪問、学校PR 久留米生涯学習マナビランド出展の為	
進路指導補助費	1,000,000	922,475	77,525	進路指導旅費20万円×5学科	
学生指導費	530,000	400,205	129,795		
クラス指導	300,000	270,000	30,000		
新入生合宿研修補助	110,000	106,745	3,255		
交通安全指導費	20,000	0	20,000		
厚生補助費	100,000	23,460	76,540		

出展：平成18年度後援会定期総会資料

資料7-2-④-9

大学の説明会スケジュール (抜粋)

平成17年度

月 日	大 学 名	時 間	場 所	対 象
4月15日	豊橋技科大	16:00～	D4 教室	4、5年、専攻科生
4月19日	九州工大大学院生命体 工学研究科	15:00～	専攻科大講義室	専攻科生
5月16日	早稲田代大学院情報生 産システム工学研究科	16:30～	専攻科大講義室	専攻科生
5月20日	九州大大学院総合理工 学研究院	15:00～	専攻科大講義室	専攻科生
5月	東工大生命理工学部			生物応用化学科5年
5月	長崎大国際学部			4、5年
5月	佐賀大農学部			生物応用化学科5年
6月	東京工大工学部・大学 院			4、5年、専攻科生
6月	佐賀大大学院理工学研 究科			専攻科生
6月	九州大学工学府			4、5年
7月6日	熊本大工学部	16:40～	D2 教室	4、5年
2月7日	早稲田代大学院情報生 産システム工学研究科	16:00～	専攻科大講義室	専攻科生

平成18年度

月 日	大 学 名	時 間	場 所	対 象
4月19日	豊橋技科大	15:30～	D4 教室	4、5年、専攻科生
4月21日	九州工大大学院生命体 工学研究科	14:40～	専攻科大講義室	専攻科生
4月28日	九州大大学院総合理工 学研究院	15:00～	専攻科大講義室	専攻科生
5月22日	熊本大工学部	13:00～	材料工学科会議室	材料工学科5年
5月25日	豊橋技科大	16:40～	D2 教室	4、5年、専攻科生

出典：学生課教務係資料

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

（観点到係る状況） 校地には、二つの体育館、運動場、テニスコート、野球場、プールなどの運動施設をはじめ、一般教室棟、一般文科・理科棟、各専門学科棟、専攻科棟などの校舎があり、それぞれに教室や実験室が整備されている（資料 8-1-①-1）。具体的には、一般教室棟に 1 年生及び 2 年生用の固定教室が 10 教室あり（資料 8-1-①-2、1-①-3）、1 年生及び 2 年生の授業は、原則的にこれらの教室で行われている。一般文科・理科棟には物理関連実験室、化学関連実験室、一般文科・理科の教員室があり（資料 8-1-①-4、1-①-5）、物理や化学の実験が行われている。機械・材料工学科棟には機械工学科関連実験室、演習室や材料工学科関連実験室と機械工学科、材料工学科の教員室があり（資料 8-1-①-6、1-①-7）、機械工学科と材料工学科の演習、実験及び授業が行われている。制御情報工学科棟には制御情報工学科教員室及び関連の実験室があり（資料 8-1-①-8）、制御情報工学科の学生実験などが行われている。制御教室棟には 4 講義室及び 1 階に生物応用化学科の実験室があり（資料 8-1-①-9）、制御情報工学科やその他の学科の授業及び生物応用化学科の実験が行われている。生物応用化学科棟には生物応用化学科教員室、実験室及び 2 講義室があり（資料 8-1-①-10、1-①-11）、生物応用化学科の授業や実験が行われている。電気電子工学科棟には、現在 3 講義室と電気電子工学科の教員室と関連実験室があり（資料 8-1-①-12、1-①-13）、授業と実験に使用されているが、耐震補強と施設改善のため今年度改修し、電気電子工学科及び制御情報工学科教員室の集約化を行い、パワーエレクトロニクス実験室や学生自習室、進路資料室、卒業研究室などを有する校舎とする予定である（資料 8-1-①-14、1-①-15）。

その他、各学科実験実習棟（資料 8-1-①-16～22）では、学生実験や卒業研究、専攻科の研究などが行われている。また機械工作実習工場（資料 8-1-①-23）では、他に類を見ない旋盤、NC 旋盤などの工作機械・装置が配置されており、これまで歯車の研究において卓越した成果を上げてきた。これを背景に機械工学科ばかりでなく他学科の機械工作実習が行われている。専攻科棟には 3 講義室、演習室、ゼミ室、実験室などがあり（資料 8-1-①-24）、専攻科の授業、演習、研究に使用されている。図書館棟の 1 階は、閲覧室とホールを備えた図書館となっており、2 階には語学演習室、SCS（スペース・コラボレーション・システム）、ニューメディアホールなどがある。図書館棟の東側部分は、書庫となっており、多数の書籍・学術雑誌を所蔵している（資料 8-1-①-25）。定員 210 名の学生寮は校内にあり、希望する学生が入寮することができる（資料 8-1-①-26～29）。

一般教室棟の全教室及び材料生化合併教室（D1、D2 教室）（資料 8-1-①-30）、機械電気併合教室（D3、D4 教室）（資料 8-1-①-31）には、液晶プロジェクターが整備され、ビデオやパソコンを使った授業などに活用されている。

以上の教室の面積及び収容者数を、資料 8-1-①-32 に示す。また、建物以外の主要設備は、資料に示すとおりである（資料 8-1-①-33、訪問調査時に提示）。

以上のように、教育課程を実現するのに十分な施設・設備が整備されており、各施設・設備とも授業や実習に有効に活用されている。

(分析結果とその根拠理由) 工業高等専門学校として必要な施設は、全部整っており、現在教育の目的を達成するために欠けているものはない。また、各教室、実験室、体育館、運動場、図書館、学生寮など、どの施設についても有効に活用されている。

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況) 校内LANの情報コンセントが、一般教室棟、一般文科・理科棟、各専門学科棟、専攻科棟などのほとんどの部屋及び図書館、学生寮などの施設にも設置されており、コンピューターがあれば、校内の多くの場所において、校内LAN及びインターネットにアクセスできる情報ネットワークが構築されている(資料8-1-②-1)。また、メールウィルスチェックとファイアウォールにより、セキュリティを確保するシステムとなっており(資料8-1-②-1)、その運用は総合情報センターで行っている。

この情報ネットワークを利用して、学生は、久留米高専ニュース、シラバス、時間割、就職・進学情報などのホームページからの閲覧やレポート提出、教員への質問を行っている(資料8-1-②-2)。一方教員は、この情報ネットワークを用いて、授業や卒業研究などでCADや有限要素法などのアプリケーションソフトを学生とともに使用したり(資料8-1-②-3)、学生にレポート課題を出したり、質問に対する回答、連絡などをメールで行っている。また文献検索システムもこの情報ネットワークを利用して、教員室、実験室などから容易に行うことができ、卒業研究などに大いに利用されている(資料8-1-②-4)。

さらに情報ネットワークの使用に必要な情報倫理教育は、全学科で行われている(資料8-1-②-5)。

(分析結果とその根拠理由) 校内の多くの場所に情報コンセントが設置されているので、パソコンがあれば簡単に校内情報ネットワークやインターネットにアクセスができる環境にあり、教員、学生とも多岐にわたり、有効に利用している。また、情報ネットワークは、十分なセキュリティ管理のもとに適切に運用されている。

観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況) 本校の歴史は長く、図書館には、学生の学習用図書から教員の研究用雑誌まで、9万冊以上の蔵書と500点近い視聴覚資料を有しており(資料8-2-①-1)、書庫には学術文献も多数所蔵している。平日は9時から20時まで、土曜日は9時から17時まで利用できるので(資料8-2-①-2)、学生や教員が活発に利用されている(資料8-2-①-3)。図書の検索は電子化され、容易に検索できるシステムとなっている(資料8-1-②-4)。さらに、外国語文献を含む広範囲な文献を対象とした文献検索及び複写サービスが完備しているので、文献も容易に入手することができる(資料8-2-①-5)。

購入する書籍については、各学科の教員からの推薦図書・雑誌、学生からの希望図書・雑誌などを

対象に、図書館長、図書館長補、図書主幹、各学科から選出された教員、教務・学生・専攻科主事補及び庶務課長から構成される図書委員会において審議される（資料 8-2-①-5）。また、学生図書委員との懇談会、図書館の入り口へのリクエストボックスの設置及びブックハンティング（10名程度の学生を募って書店に行き、その場で学生に、書籍を選定させる）などを実施して、学生の要望を直接汲み上げる配慮をしている（資料 8-2-①-6）。図書の購入実績を資料 8-2-①-7 に示す。さらに、現代の科学技術の急速な進展に対応するため、長岡科学技術大学と高専図書館とのコンソーシアムに積極的に参加して、各種の電子的資料の入手が可能な手段を導入している（資料 8-2-①-8）。

以上のように、本校の図書館は、必要な図書・学術雑誌など及びシステムが十分に整っており、また運営面でも様々な工夫がなされ、学生の満足度も高い（資料 8-2-①-9）。

（分析結果とその根拠理由） 蔵書などは、十分整っている。また図書などの購入は教員からの推薦、学生からの希望について、図書委員会で審議し、決定している。また現代の科学技術の急速な進展に対応するため、図書館コンソーシアムなどの電子ネットワークの活用を進めている。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点） 本校は、六十年余りの長い歴史を有しており、施設・設備は全般的に整っている。特に本校の特筆すべき研究分野である機械加工技術に関連する機械工作実習工場は、全国的に見ても優れた施設である。また図書館の蔵書・文献なども高等専門学校としては、充実している。さらに早くから導入した情報ネットワークも、十分な機能を有しており、有効に活用されている。

（改善を要する点） 該当なし。

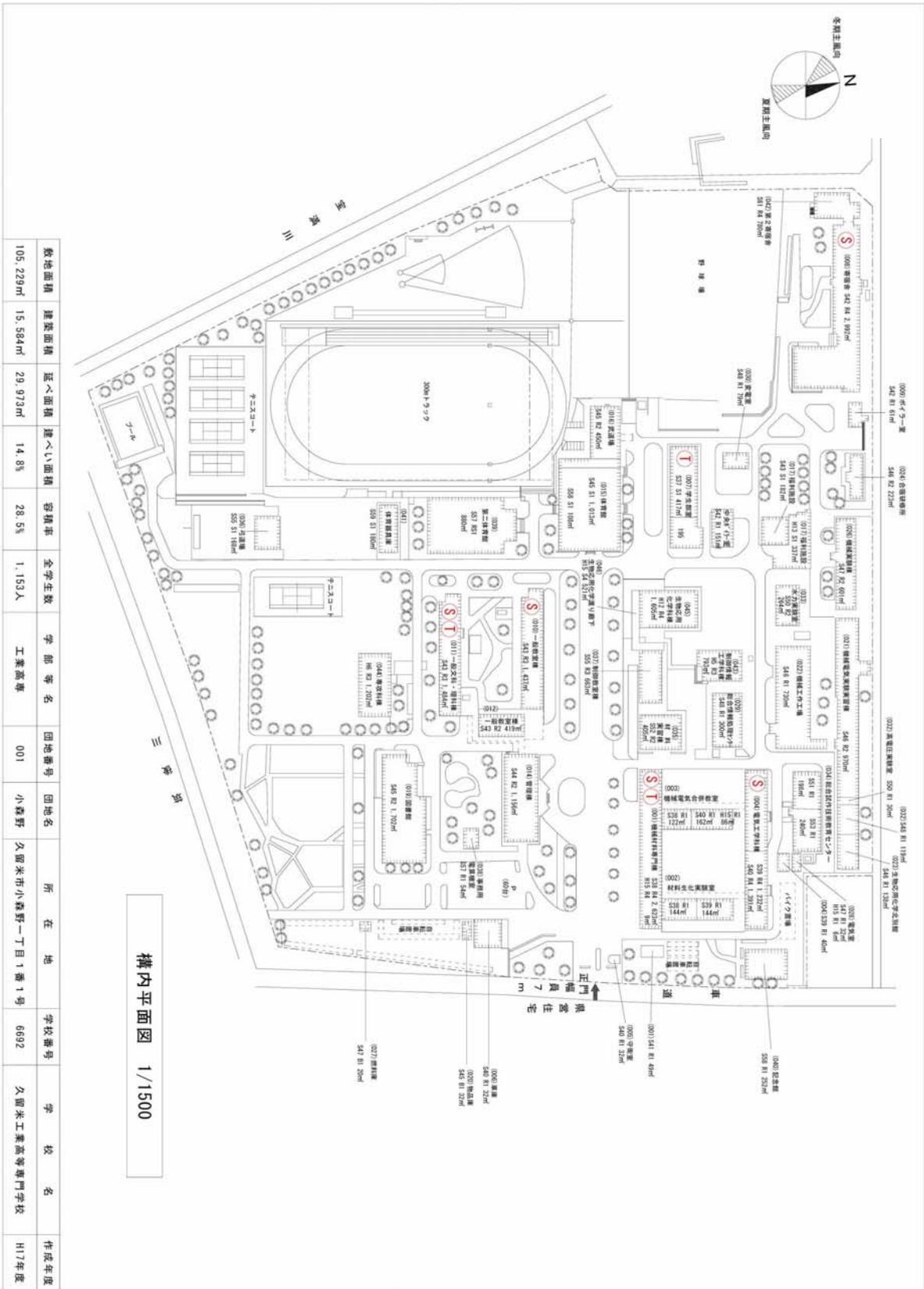
（3）基準 8 の自己評価の概要

一般教室棟、一般文科・理科棟、各専門学科棟、専攻科棟、実習工場、図書館、学生寮などの施設が設置されおり、教育課程を実現するのに必要十分な施設・設備が整備されている。特に、学生が十分な旋盤などの機械加工実習ができる機械工作実習工場は、全国の高等教育機関においても、ここまで充実した施設はなく、特に優れた施設である。さらに、校内 LAN の情報コンセントが、一般文科・理科棟、各専門学科棟、専攻科棟などの教室ばかりでなく、図書館や学生寮などにも設置されており、学生は各自のパソコンを使用して、必要な情報収集が行える環境を整えている。教員も情報コンセントやプロジェクターを利用して、講義・実験などの授業において学生の理解を助ける目的で利用をしている。

図書館には、学生の学習用図書から教員の研究用雑誌まで、9万冊以上の蔵書と500点近い視聴覚資料を有しており、さらに、図書館コンソーシアムに積極的に参加し、外国語文献を含む広範囲な文献を対象とした文献検索及び複写サービスが完備している。図書の購入に当たっては、教員からの推薦及び学生からの希望を審議した上で購入しており、学生からのニーズにも十分対応する体制を整えている。

資料 8-1-①-1
 国立大学法人等施設実態調査(様式2)

構内平面図



出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-2

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

一般教室棟平面図 (1階)



010

1 階 S=1/300 床面積 476㎡

棟名称	建築年	構造階数	面積区分			面積
			番号	名称	色区分	
一般教室棟	S 4 3	R 3	3 1	高等教育・研究施設		1,437㎡

整理番号 3 - 1 - 13

出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

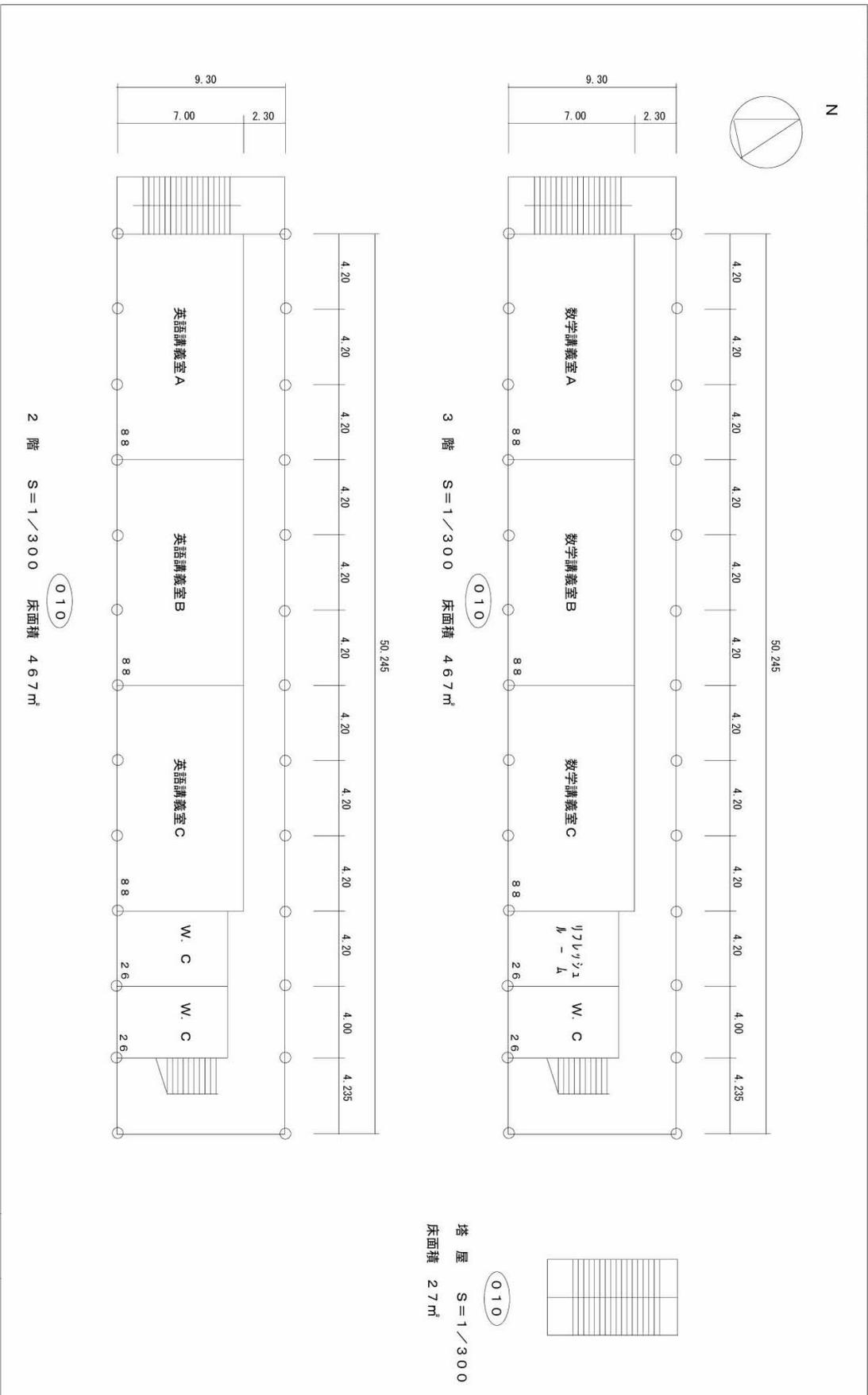
学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	010

資料 8-1-①-3

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

一般教室棟平面図 (2、3階)

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	010

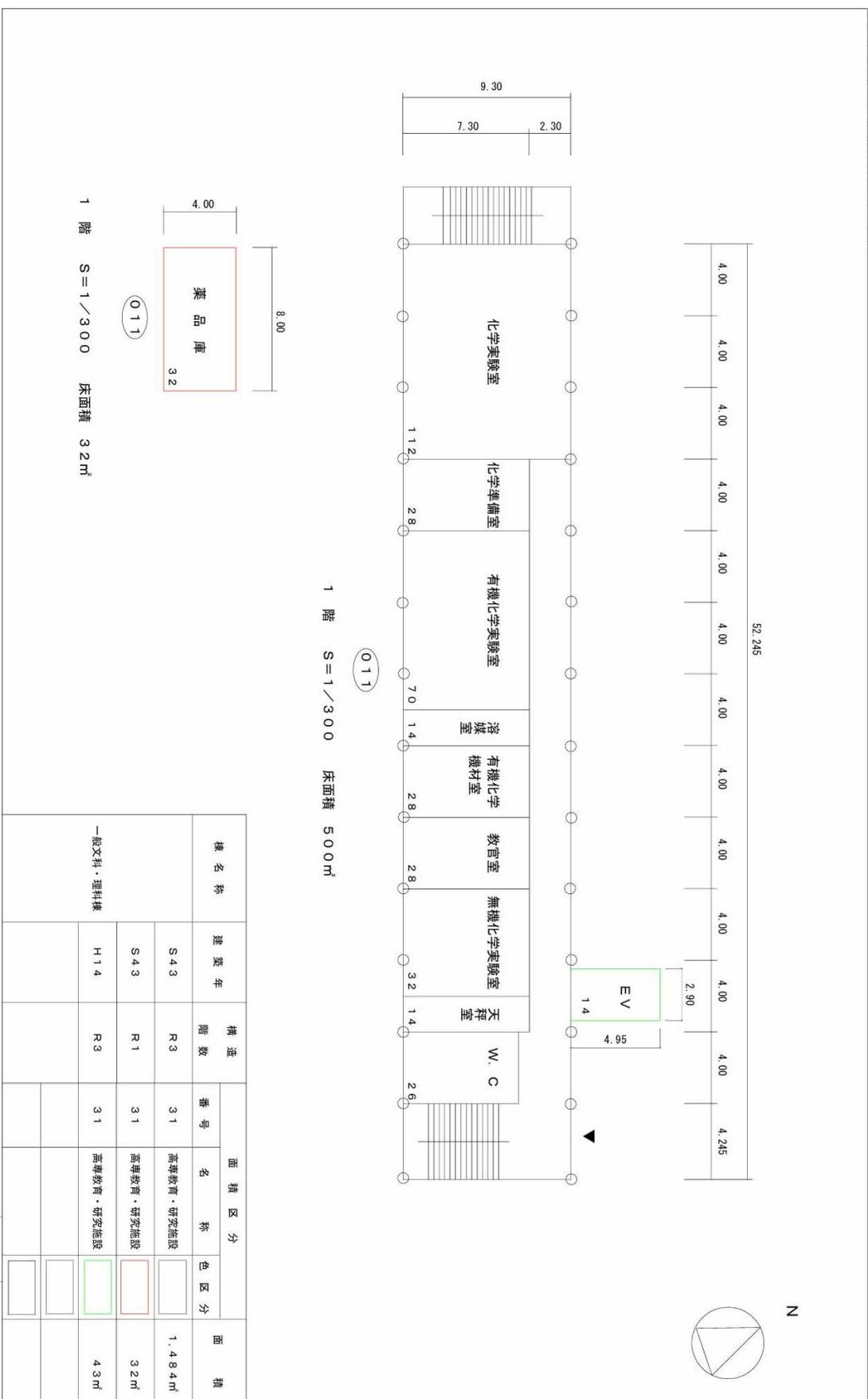


資料 8-1-①-4

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

一般文科・理科棟平面図 (1階)

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	011



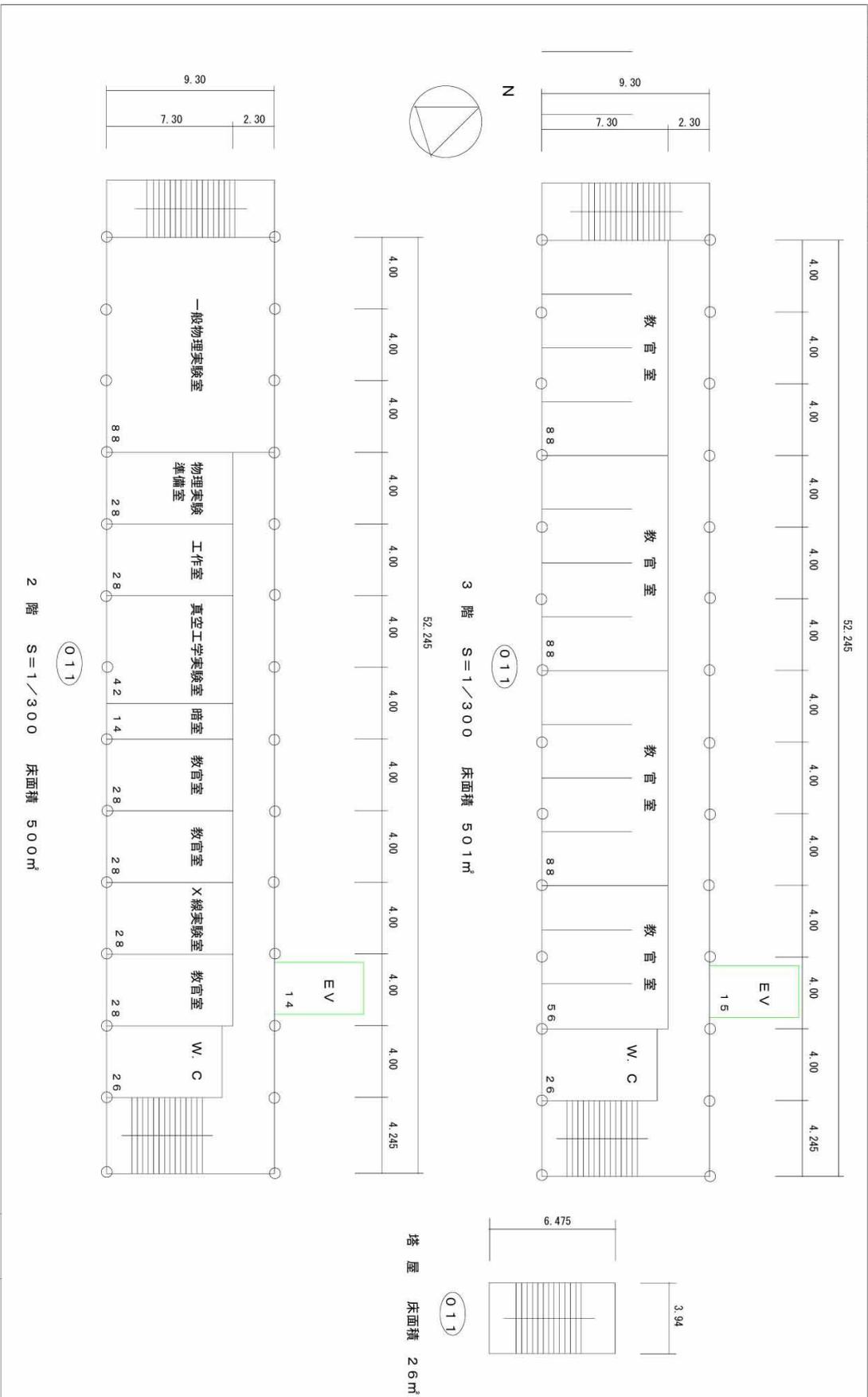
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-5

国立大学法人等施設実態調査(様式3)

一般文科・理科棟平面図(2、3階)

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6 6 9 2	久留米工業高等専門学校	0 0 1	小 森 野	0 1 1



整理番号 3 - 1 - 1 6

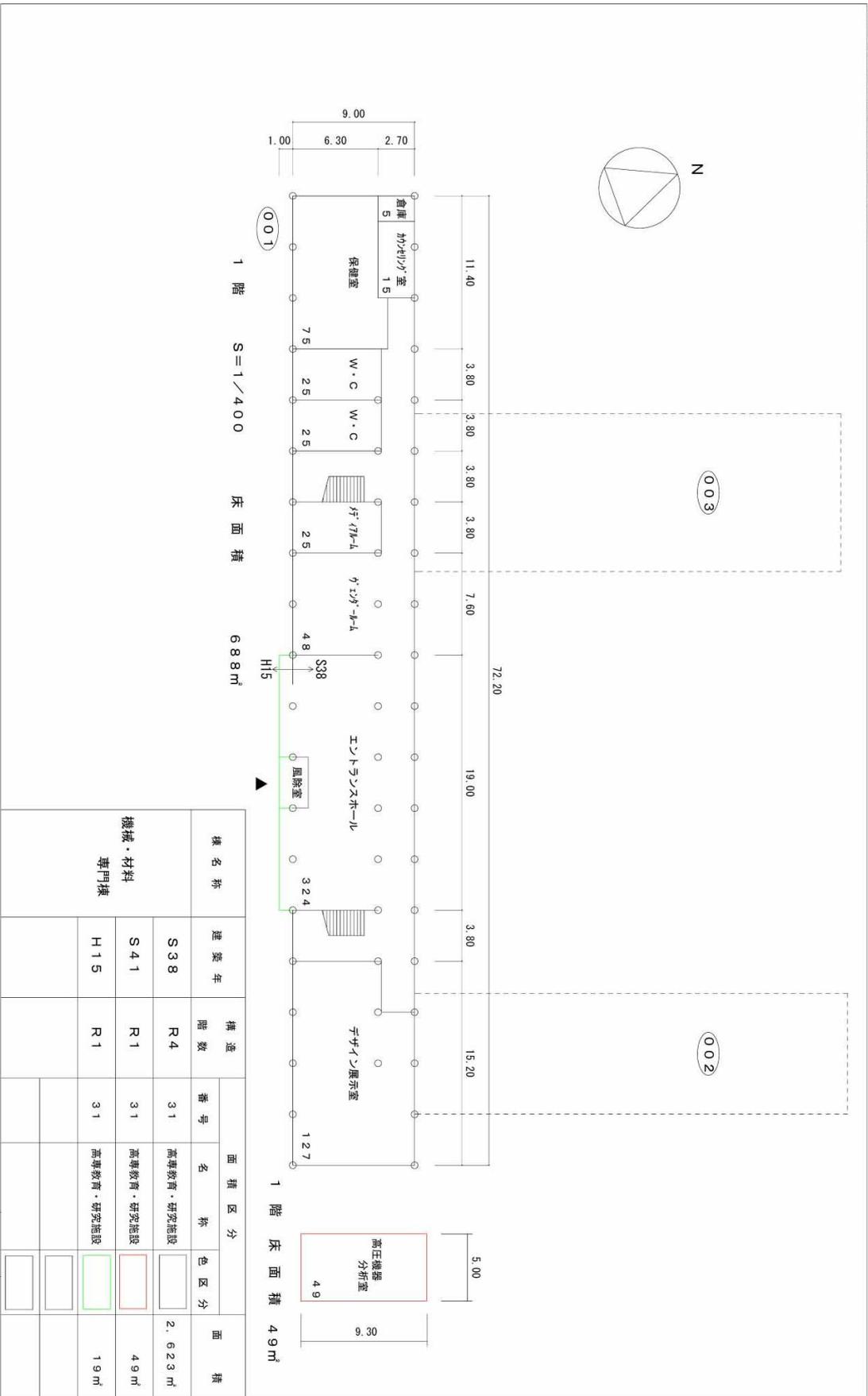
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-6

国立大学法人等施設実態調査(様式3)

機械・材料工学科棟(1階)

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野
			棟番号
			001



機 構 名 称	建 築 年	構 造 階 数	面 積 区 分		面 積
			番 号	名 称	
機械・材料 専門棟	S38	R4	31	高専教育・研究施設	2,623 m ²
	S41	R1	31	高専教育・研究施設	49 m ²
	H15	R1	31	高専教育・研究施設	19 m ²

整理番号 3-1-1

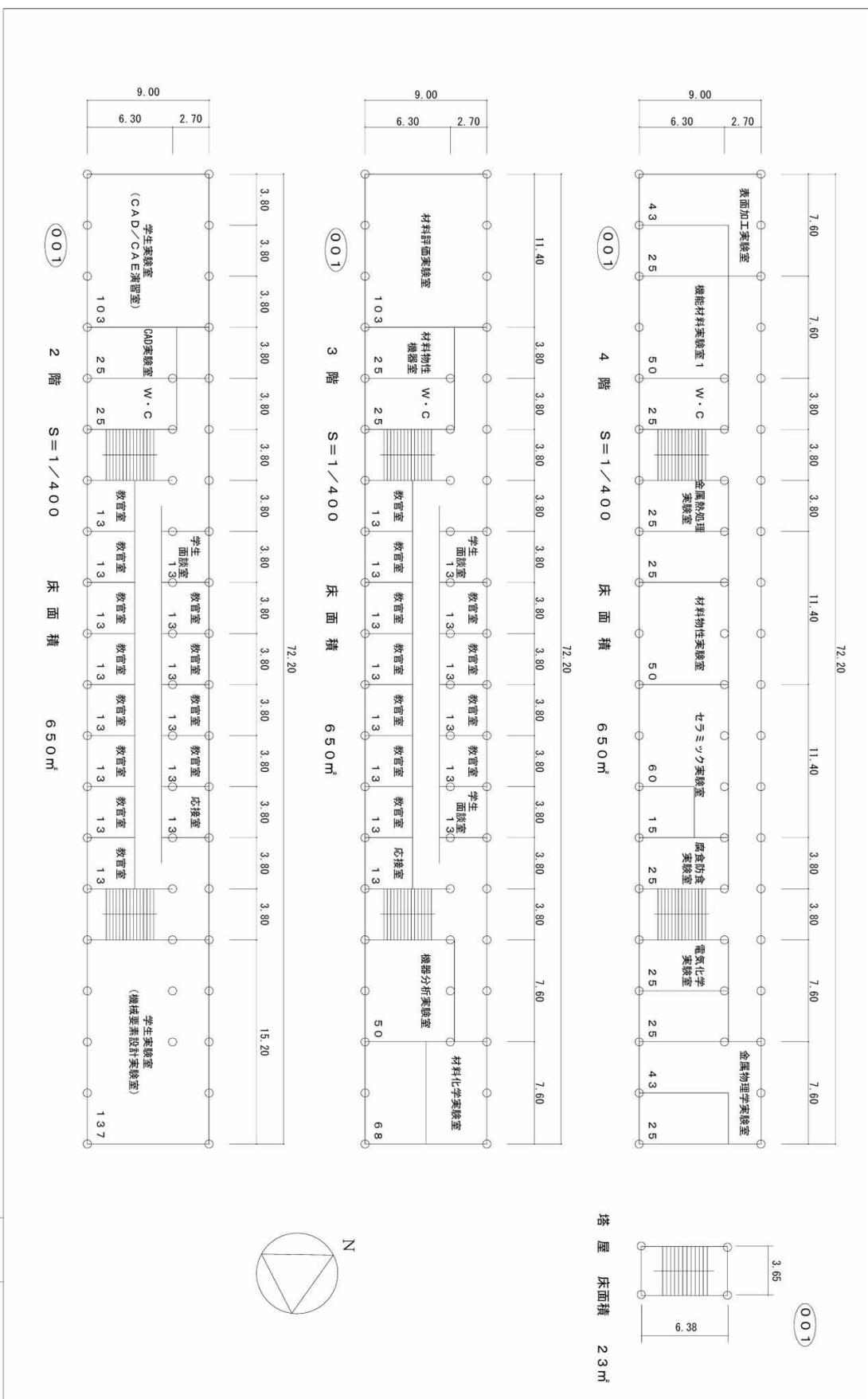
出典：平成17年度国立大学施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-7

国立大学法人等施設実態調査(様式3)

機械・材料工学科棟(2階～4階)

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	001



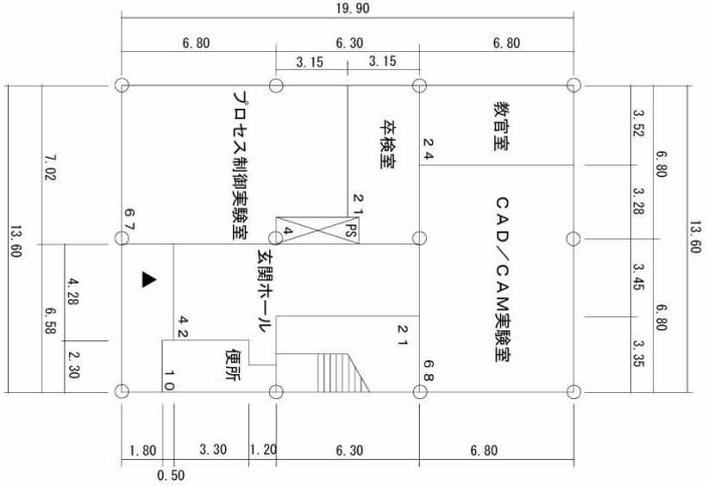
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-8

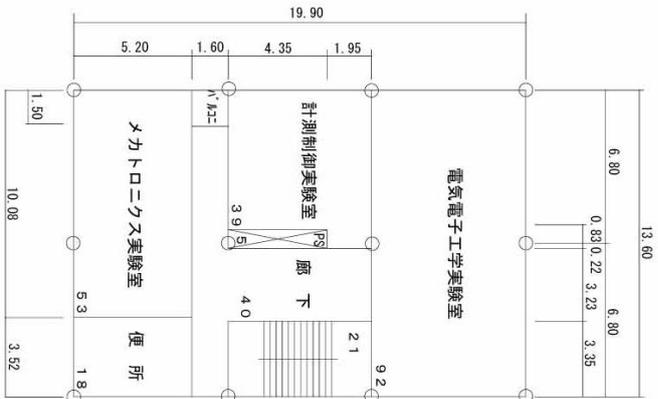
制御情報工学科棟平面図

国立大学法人等施設実態調査(様式3)

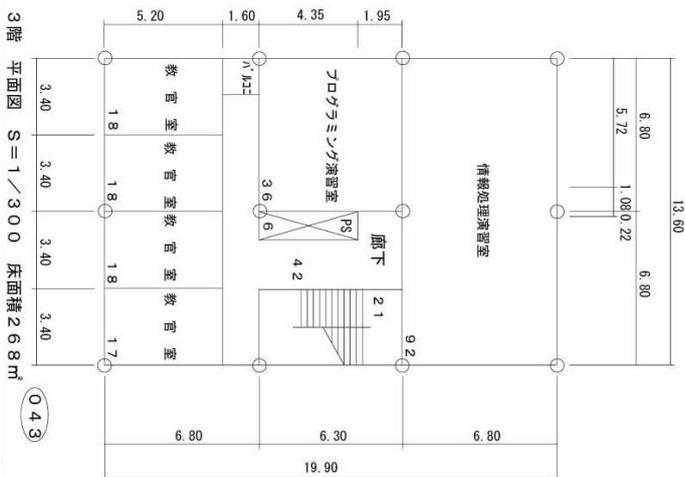
学校番号	学 校 名	所在地番号	所在地	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	043



1階 平面図 S=1/300 床面積 257㎡



2階 平面図 S=1/300 床面積 268㎡



3階 平面図 S=1/300 床面積 268㎡



棟名称	建築年	構造階数	面積区分			面積
			番号	名称	色区分	
制御情報工学科棟	H5	R3	31	高専教育・研究施設		793㎡

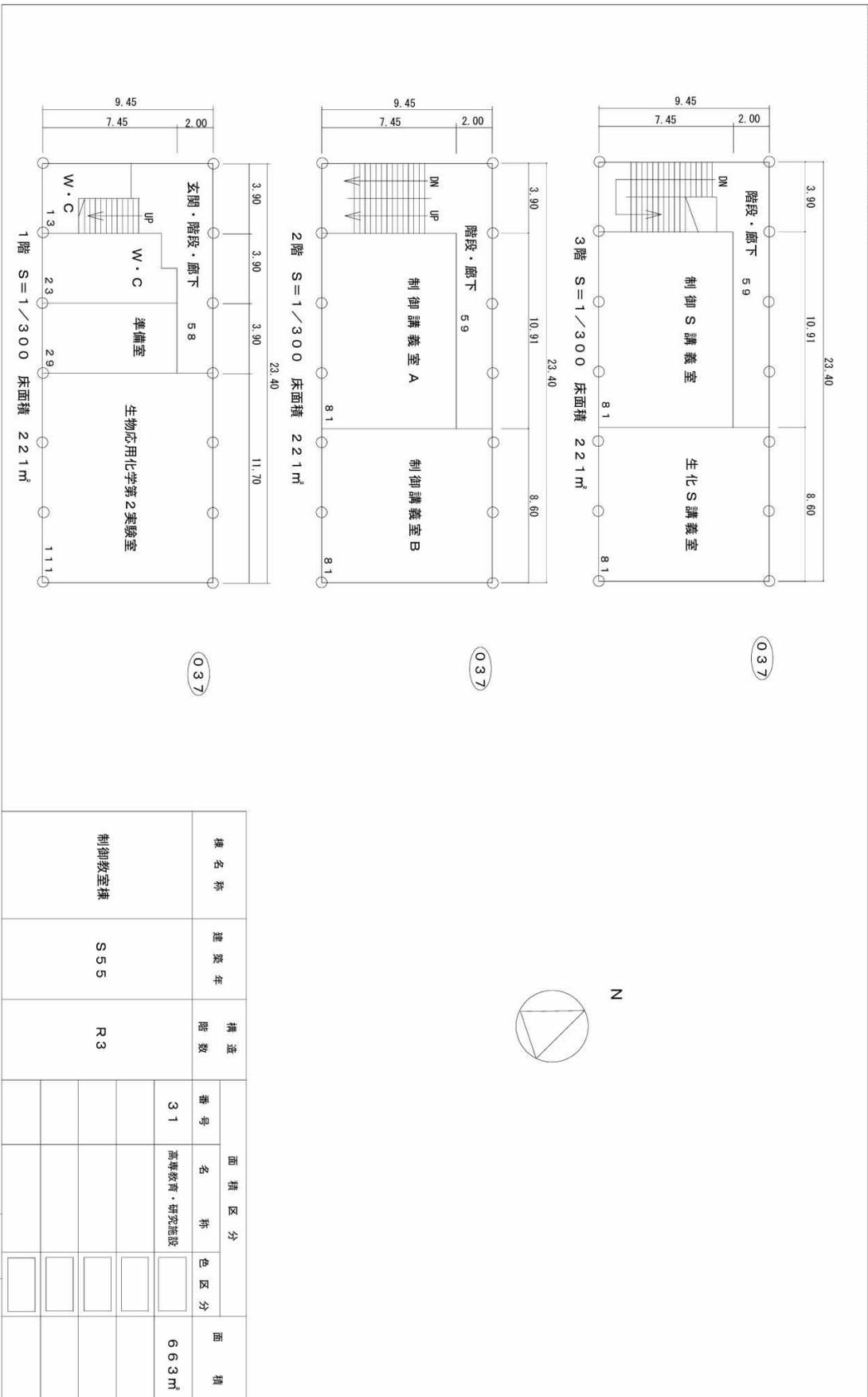
整理番号 3-1-46

出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-9

国立大学法人等施設実態調査(様式3)

制御教室棟平面図



模 名 称	建 築 年	構 造 階 数	面 積 区 分			面 積
			番 号	名 称	色 区 分	
制御教室棟	S 5 5	R 3	3 1	高等教育・研究施設		6 6 3 m ²

整理番号 3 - 1 - 39

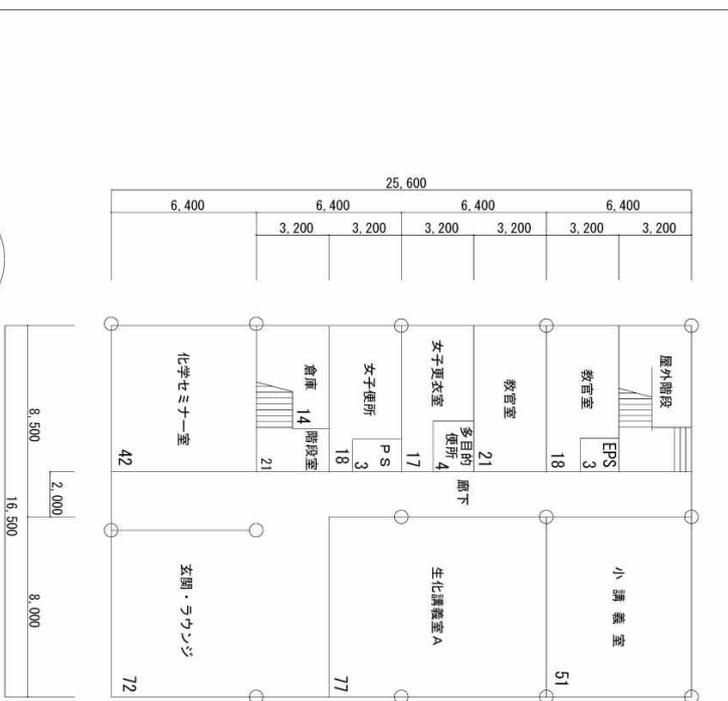
出典：平成 17 年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-10

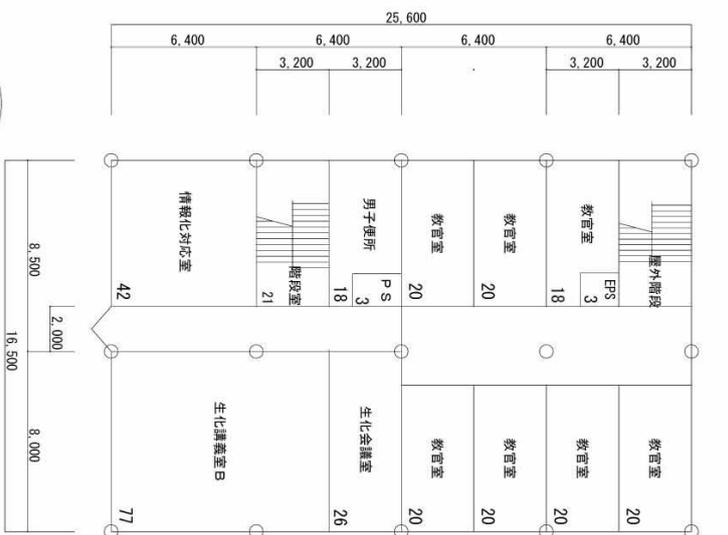
国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

生物応用化学科棟平面図 (1、2階)

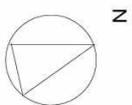
学校番号 6692	学 校 名 久留米工業高等専門学校	団地番号 001	団地名 小森野	棟番号 045
--------------	----------------------	-------------	------------	------------



1階 平面図 S=1/300 床面積 378㎡



2階 平面図 S=1/300 床面積 402㎡



棟名称	建築年	構造階数	面積区分			面積
			番号	名称	色区分	
生物応用化学科棟	H12	R4	31	高専教育・研究施設		1,605㎡

整理番号 3 - 1 - 48

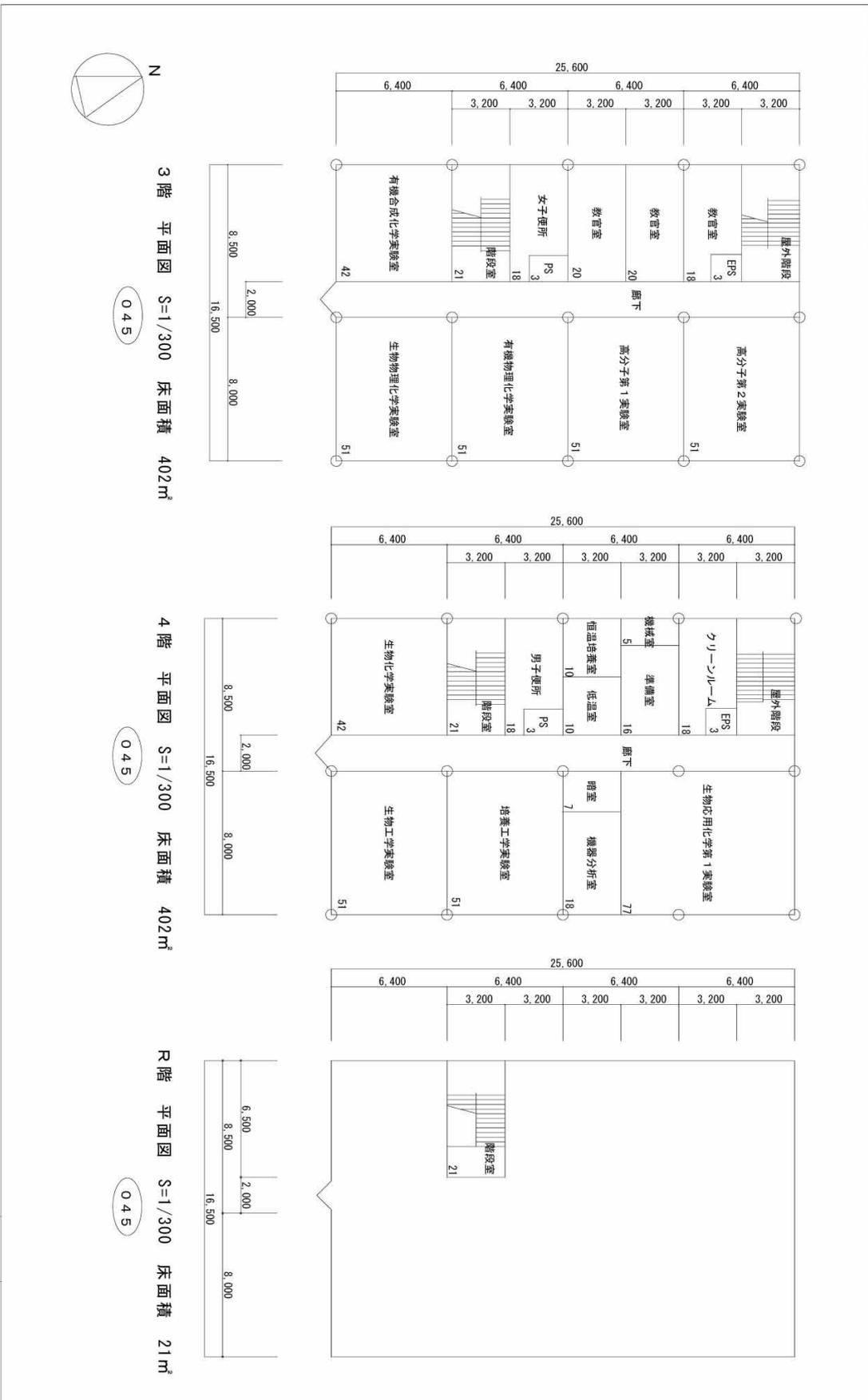
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-1 1

国立大学法人等施設実態調査(様式3)

生物応用化学科棟平面図(3、4階)

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	045



整理番号 3 - 1 - 49

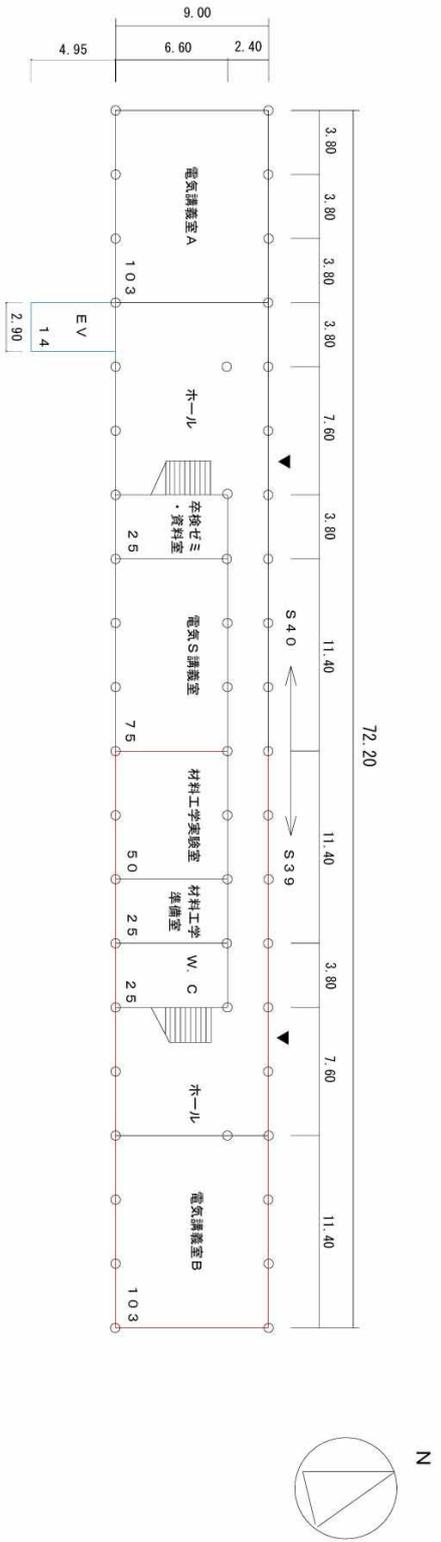
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-12

国立大学法人等施設実態調査(様式3)

電気電子工学科棟平面図(1階)

学校番号 6692	学校名 久留米工業高等専門学校	団地番号 001	団地名 小森野	棟番号 004
--------------	--------------------	-------------	------------	------------



004 1階 S=1/400 床面積
 S39 308㎡
 S40 342㎡
 H14 14㎡
 計 664㎡

004 1階 S=1/400 床面積
 8.00
 0.5
 薬品庫
 4.0
 1階 S=1/400 床面積 4.0㎡

構 造	面 積 区 分	色 区 分	面 積	構 造	建 築 年	構 造 階 数	面 積 区 分	
							番 号	名 称
電気工学科棟	S39	高専教育・研究施設	1,232㎡	R4	31	31	高専教育・研究施設	
	S39	高専教育・研究施設	4.0㎡	R1	31	31	高専教育・研究施設	
	S40	高専教育・研究施設	1,391㎡	R4	31	31	高専教育・研究施設	
	H14	高専教育・研究施設	5.7㎡	R4	31	31	高専教育・研究施設	

整理番号 3-1-5

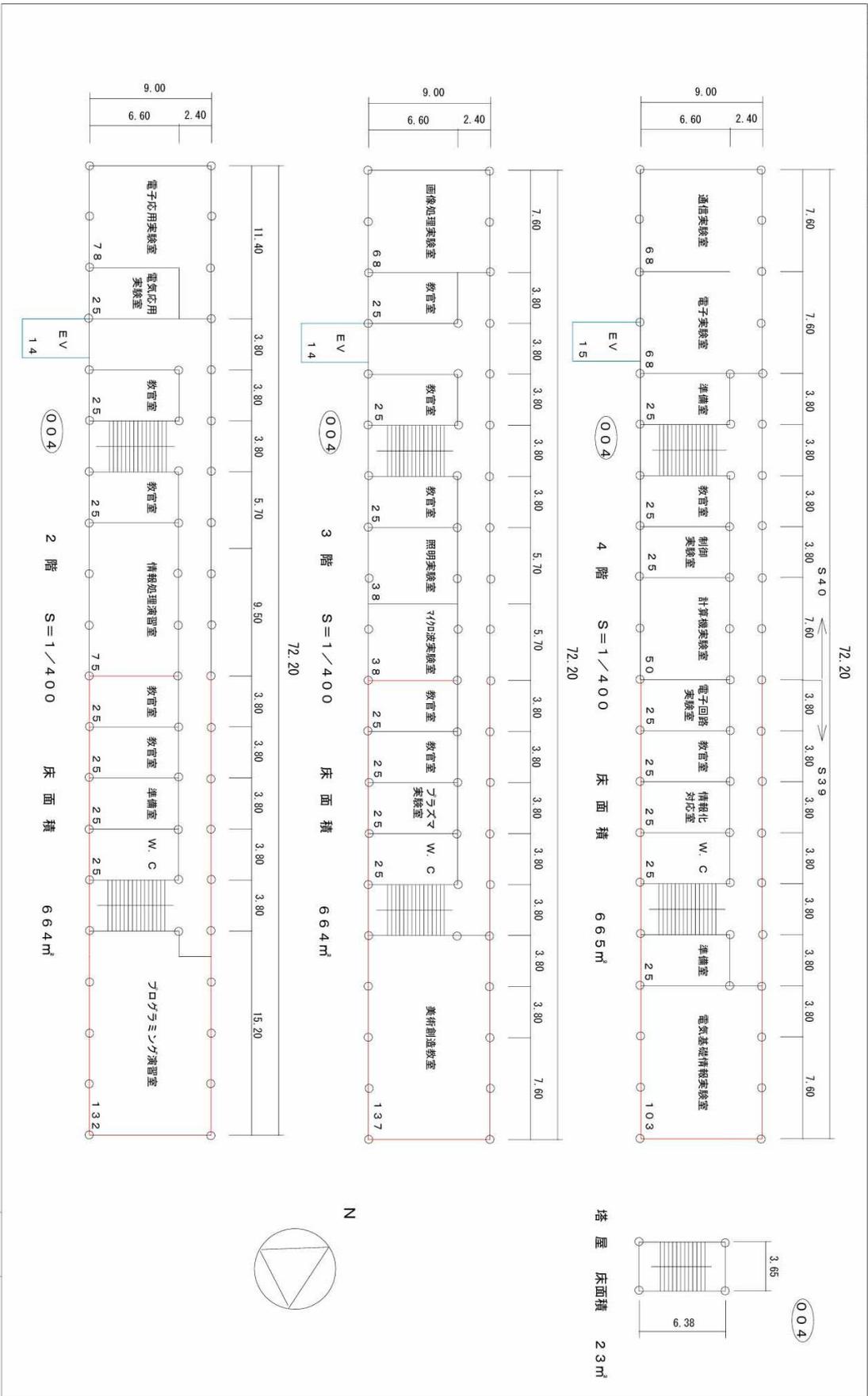
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-1 3

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

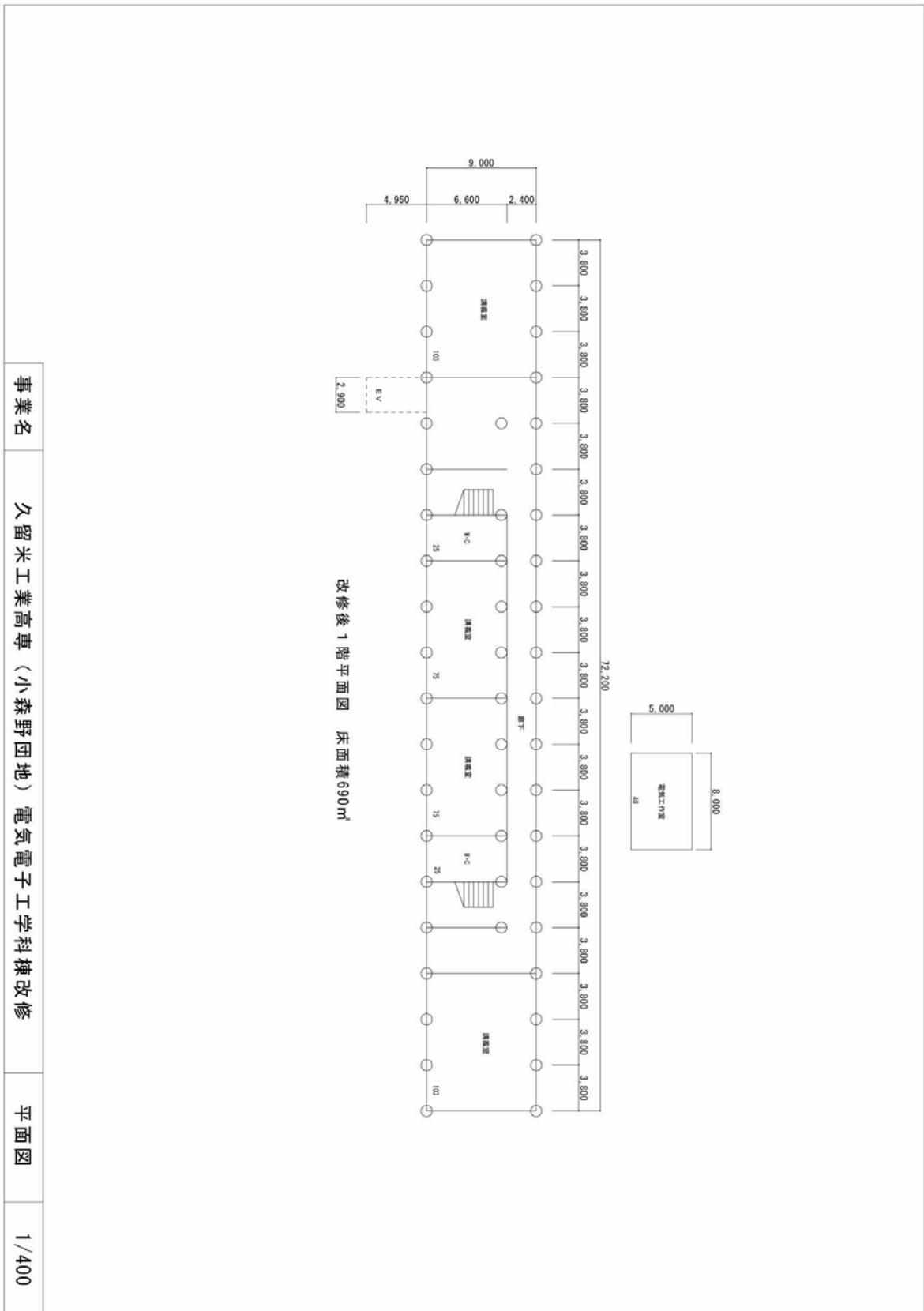
電気電子工学科棟平面図 (2階～4階)

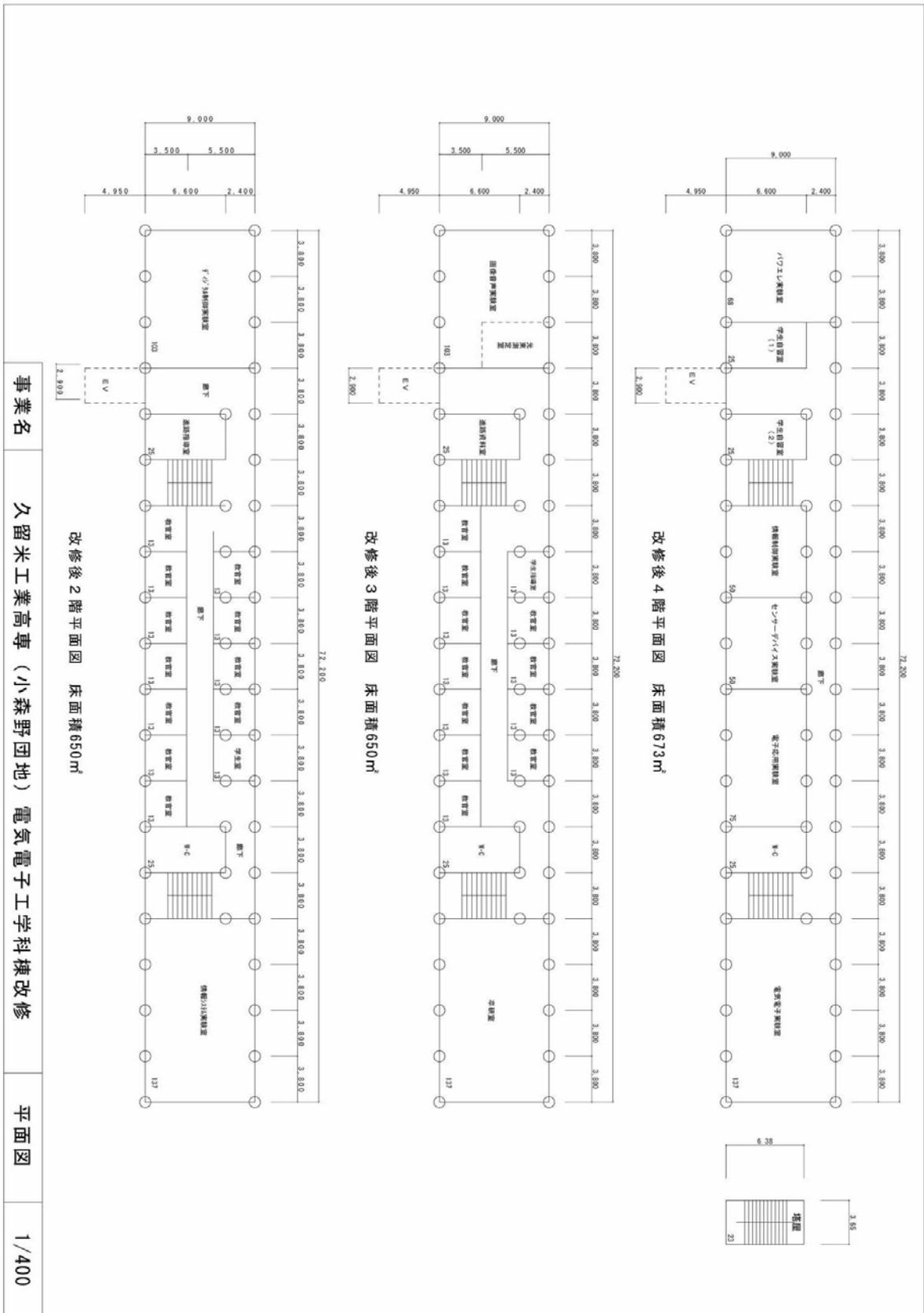
学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	004



出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

整理番号 3-1-6



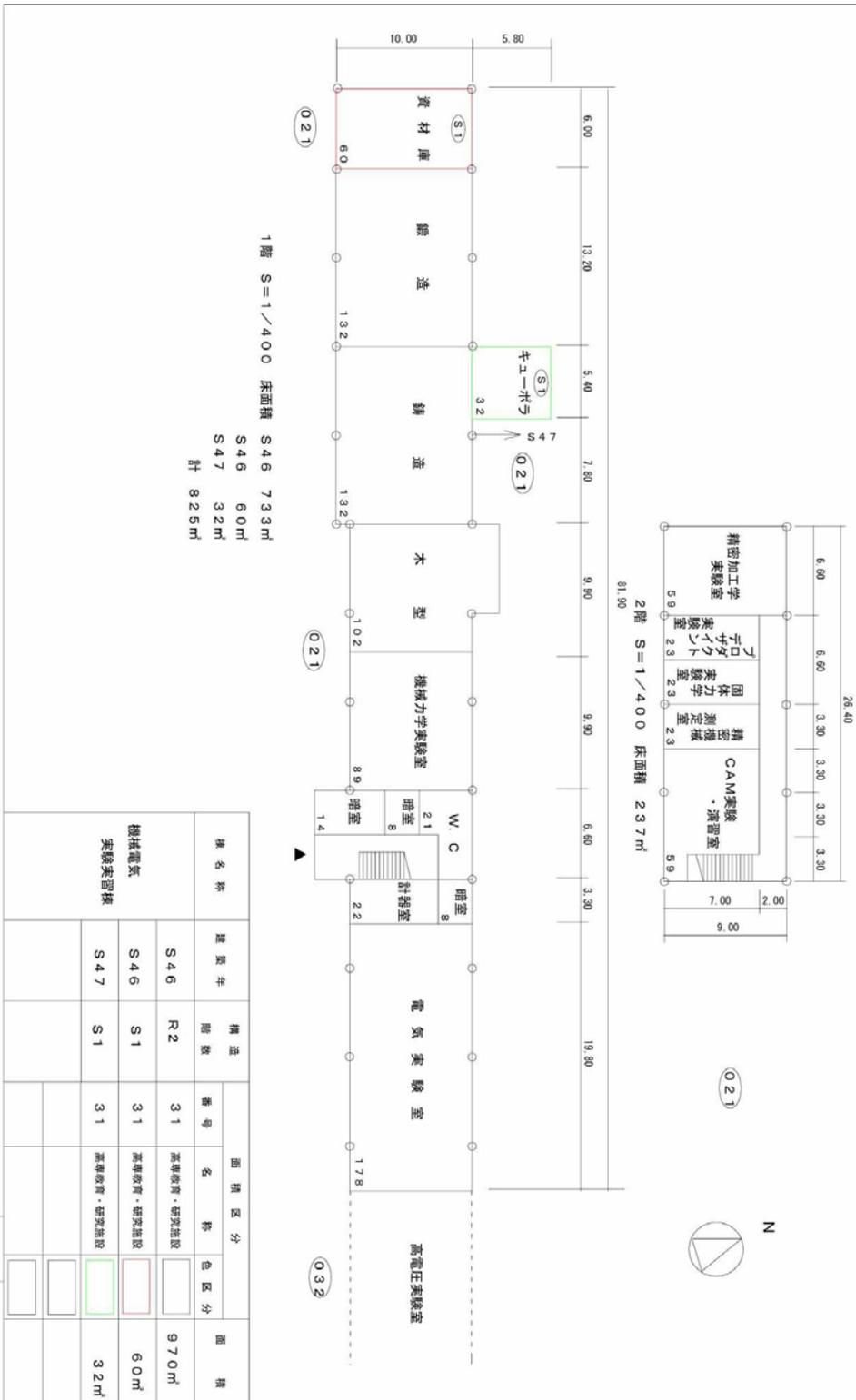


資料 8-1-①-16

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

機械電気実験棟平面図

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6 6 9 2	久留米工業高等専門学校	0 0 1	小 草 野	0 2 1



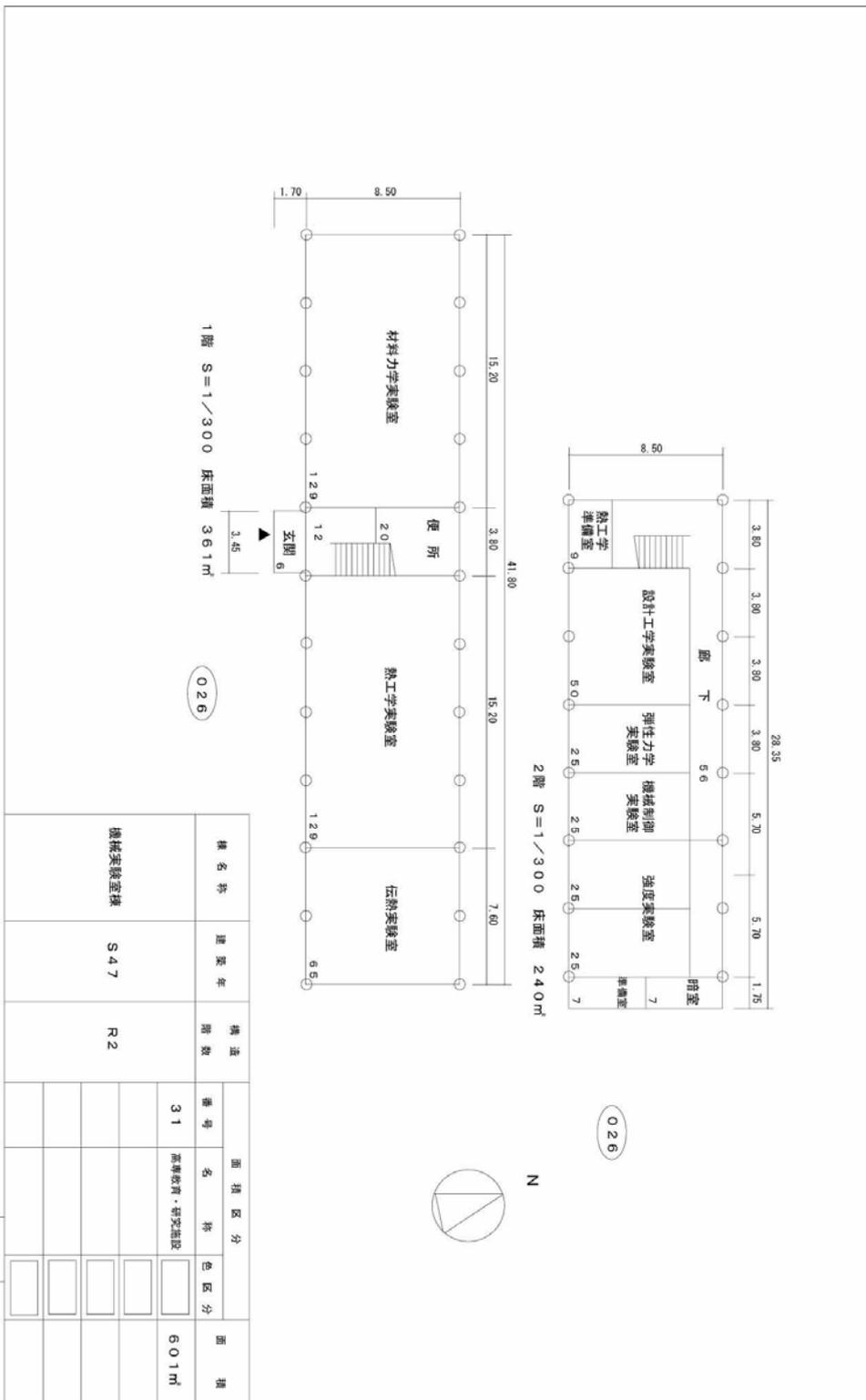
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

整理番号 3-1-25

資料 8-1-①-17

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

熱材力学実験室平面図



構名	建築年	構造階数	面積区分			面積
			番号	名称	色区分	
機械実験室棟	S47	R2	31	高専教育・研究施設		601㎡

築造番号 3-1-29

出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

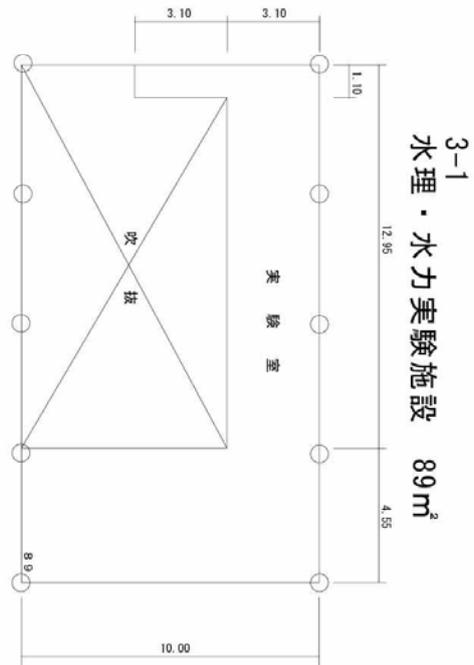
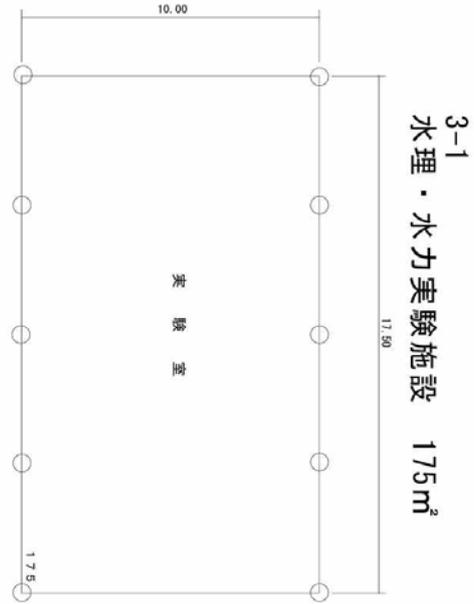
学校番号	学校名	所在地	所在地	棟番号
6092	久留米工業高等専門学校	001	小森野	026

資料 8-1-①-18

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

水力実験室平面図

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小 野 野	033



棟名称	建築年	構造階数	加算面積区分 3-1 264㎡			面積
			番号	名称	色区分	
水力実験室	S49	R2	31	高等教習・研究施設		264㎡

整理番号 3-1-35

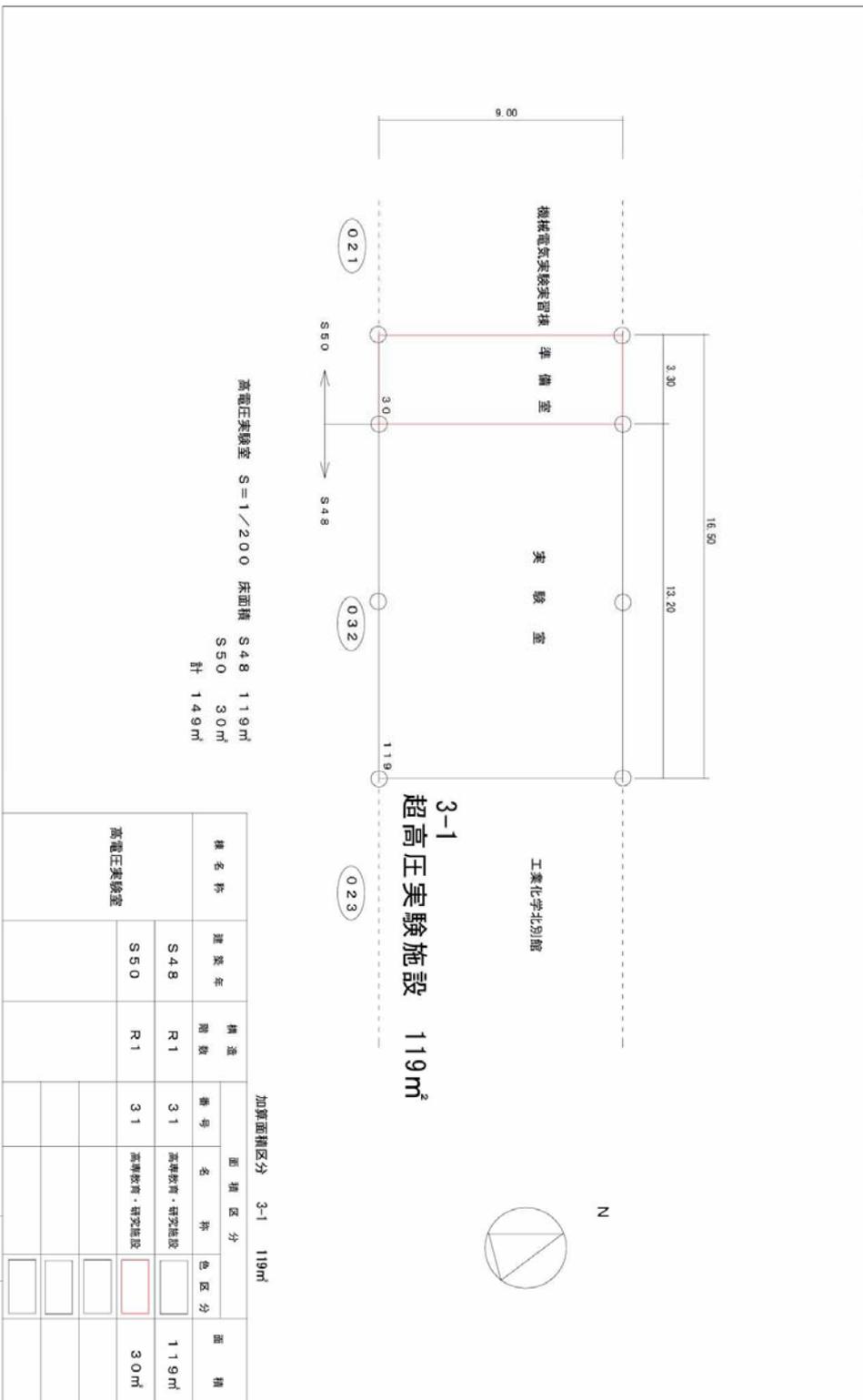
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-19

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

電気実験室平面図

学校番号	学 校 名	国地番号	田地名	棟番号
6592	久留米工業高等専門学校	001	小森野	032



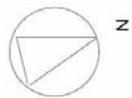
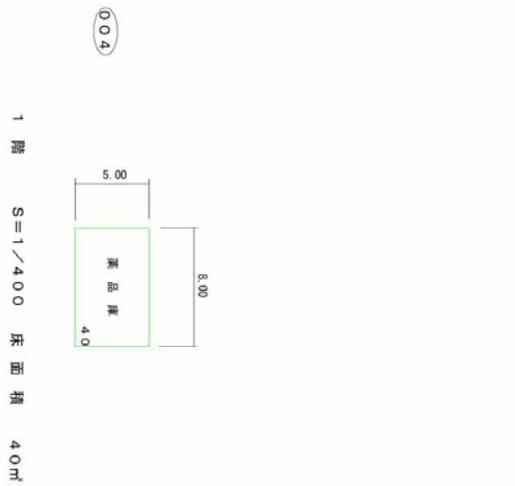
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-20

電気工学小実験室

国立大学法人等施設実態調査 (様式3)

学校番号	学 校 名	図地番号	図地名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小 島 野	004



棟名称	建築年	構造階数	面積区分			面積
			番号	名称	色区分	
電気工学科棟	S39	R4	31	高等教育・研究施設		1,232㎡
	S39	R1	31	高等教育・研究施設		40㎡
	S40	R4	31	高等教育・研究施設		1,391㎡
	H14	R4	31	高等教育・研究施設		57㎡

整理番号 3 - 1 - 5

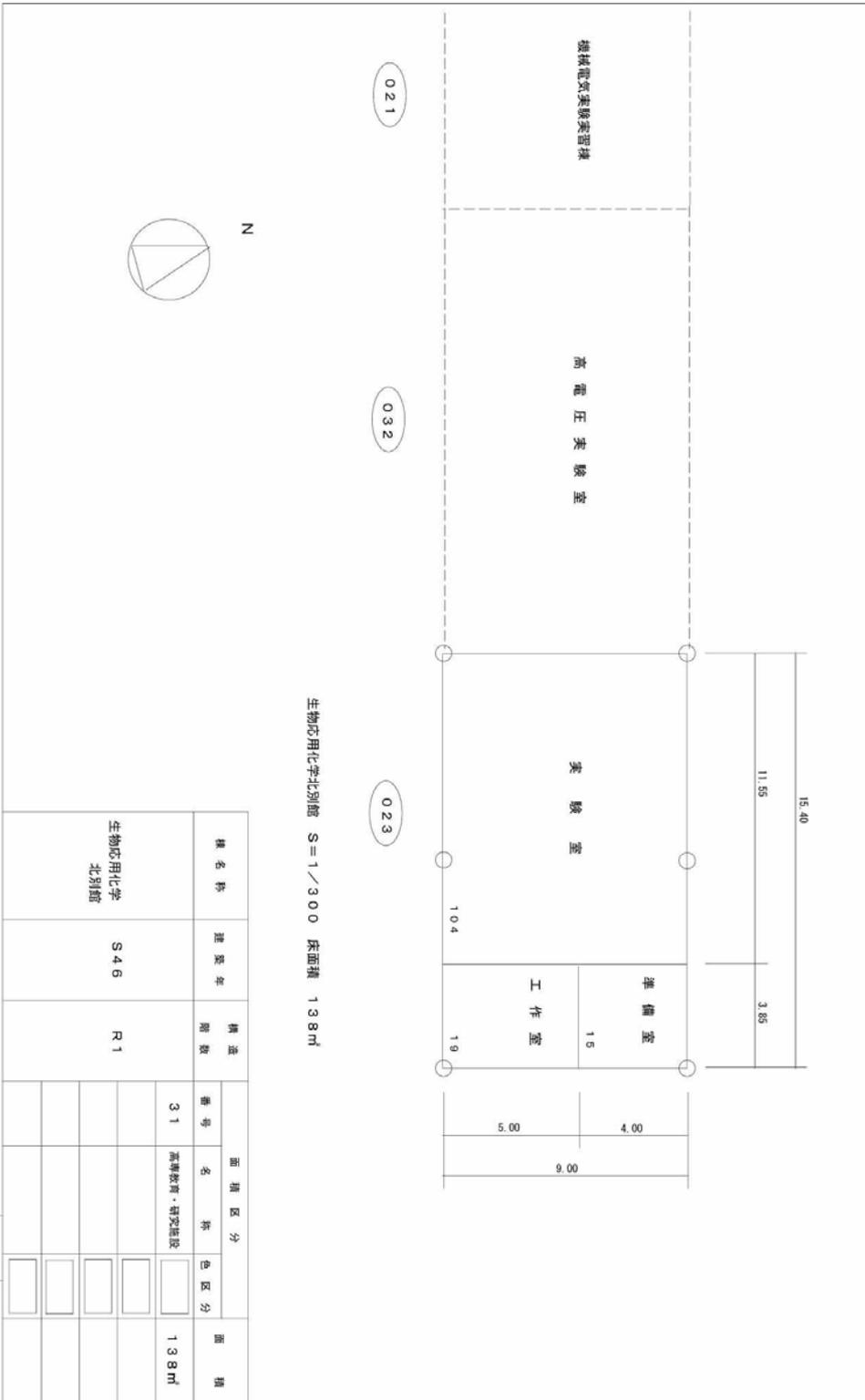
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-2 1

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

生化実験室平面図

学校番号	学 校 名	団地番号	団地名	棟番号
6692	久留米工業専門学校	001	小 野 野	023



棟名称	建築年	構造階数	面積区分			面積
			番号	名称	色区分	
生物応用化学北別館	S46	R1	31	高専教育・研究施設		138㎡

整理番号	3 - 1 - 27
------	------------

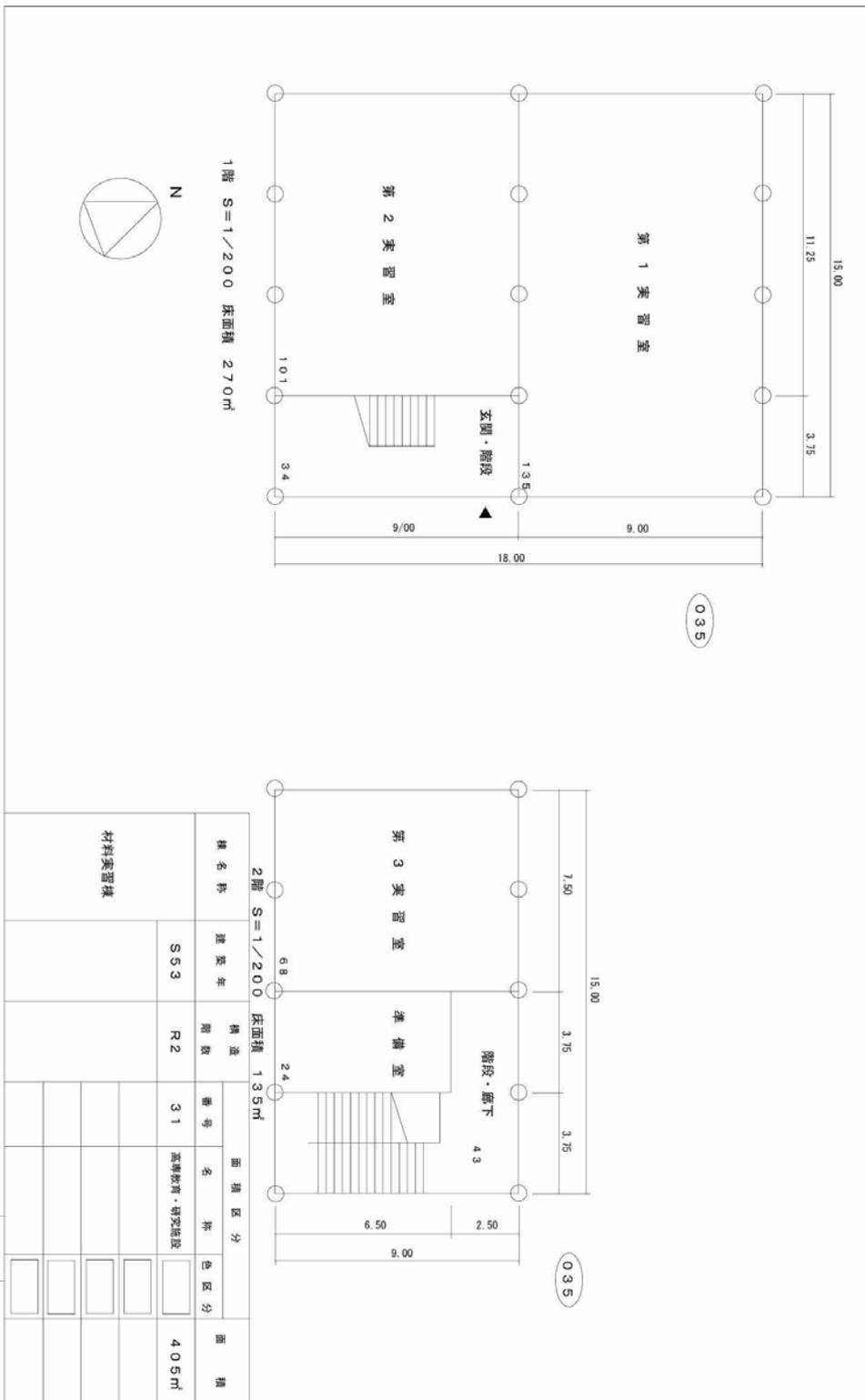
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-2 2

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

材料実習棟平面図

学校番号	学 校 名	国地番号	国地名	棟番号
6592	久留米工業高等専門学校	001	小森野	035



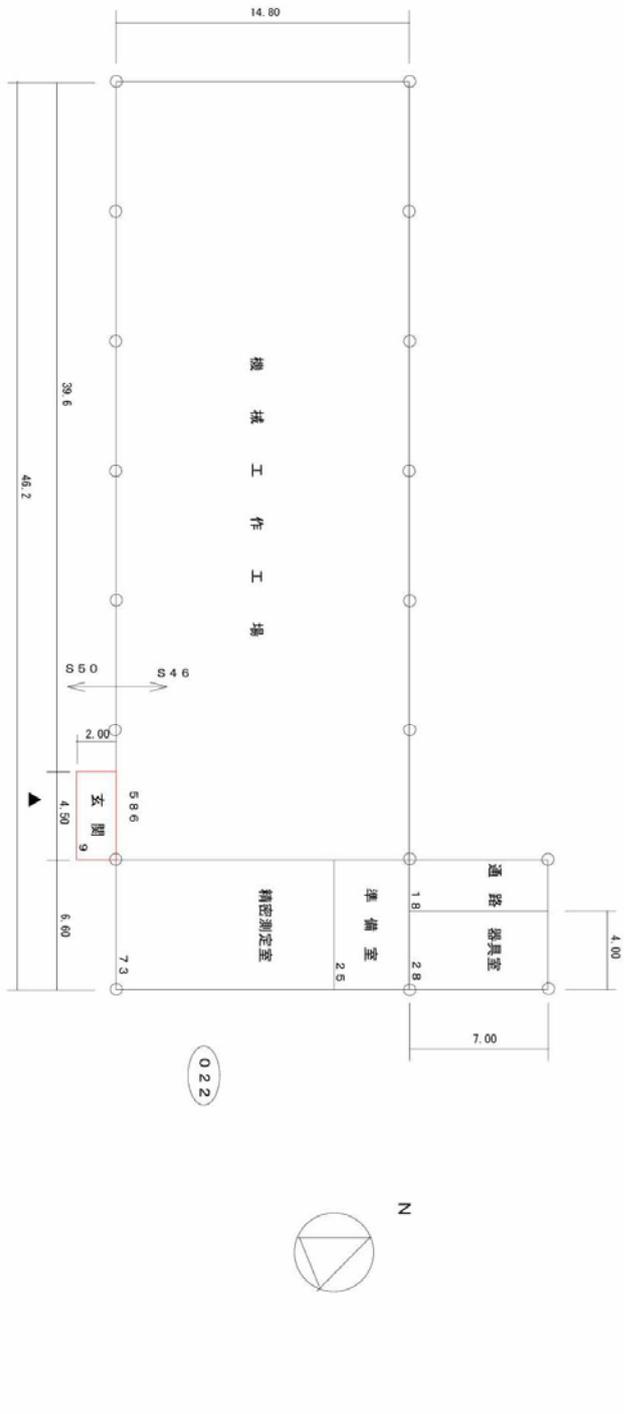
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-23

機械工作実習工場平面図

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

学校番号	学 校 名	図地番号	図地名	棟番号
692	久留米工業高等専門学校	001	小森野	022



機械工作工場 S=1/300 床面積 S46 730㎡
S50 9㎡
計 739㎡

棟名	建築年	構造階数	面積区分		面積
			番号	名称	
機械工作工場	S46	R1	31	高等教育・研究施設	730㎡
	S50	R1	31	高等教育・研究施設	9㎡

整理番号 3 - 1 - 26

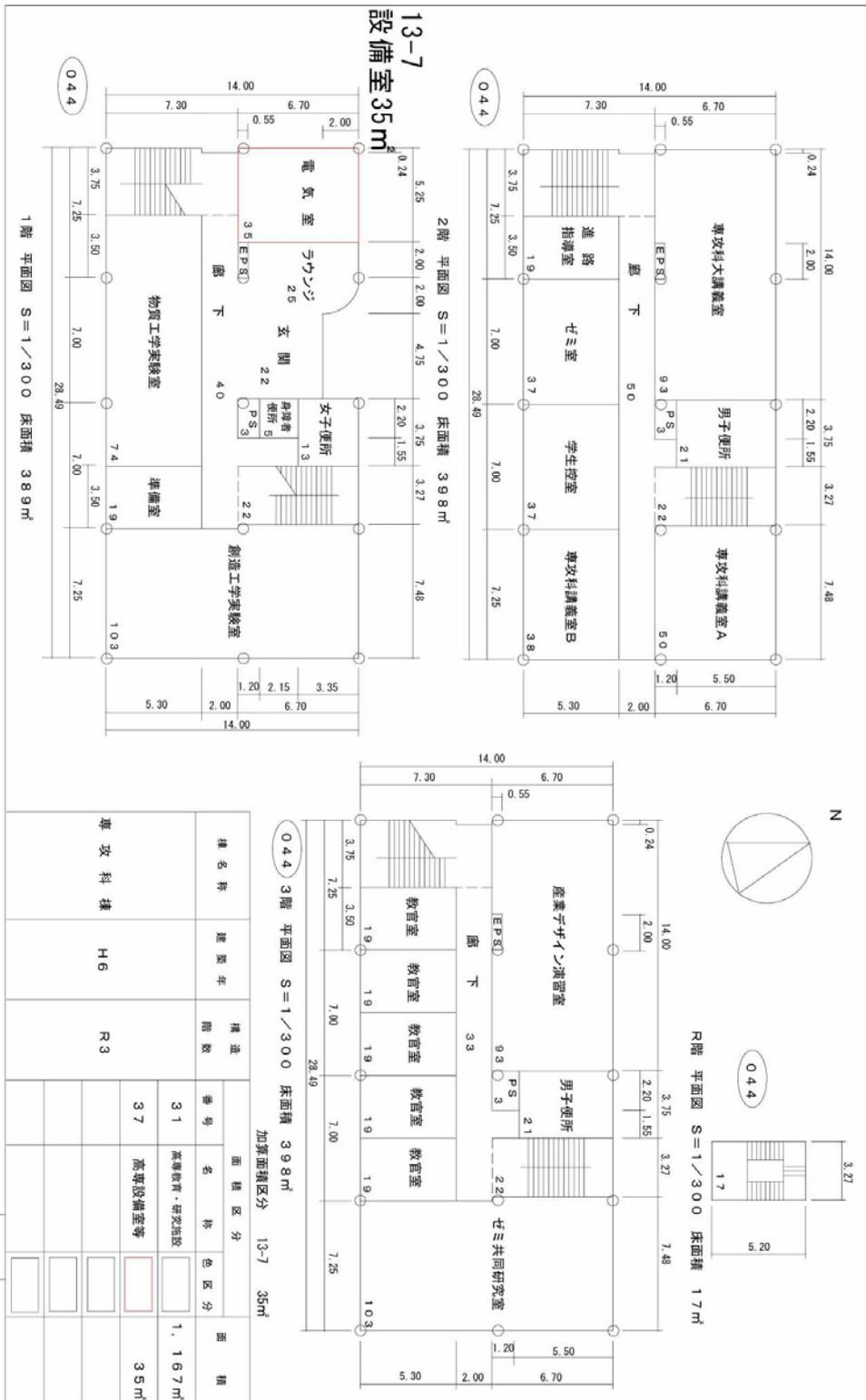
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-2 4

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

専攻科棟平面図

学校番号	学 校 名	所在地	所在地	棟番号
6 6 9 2	久留米工業高等専門学校	0 0 1	小 森 野	0 4 4



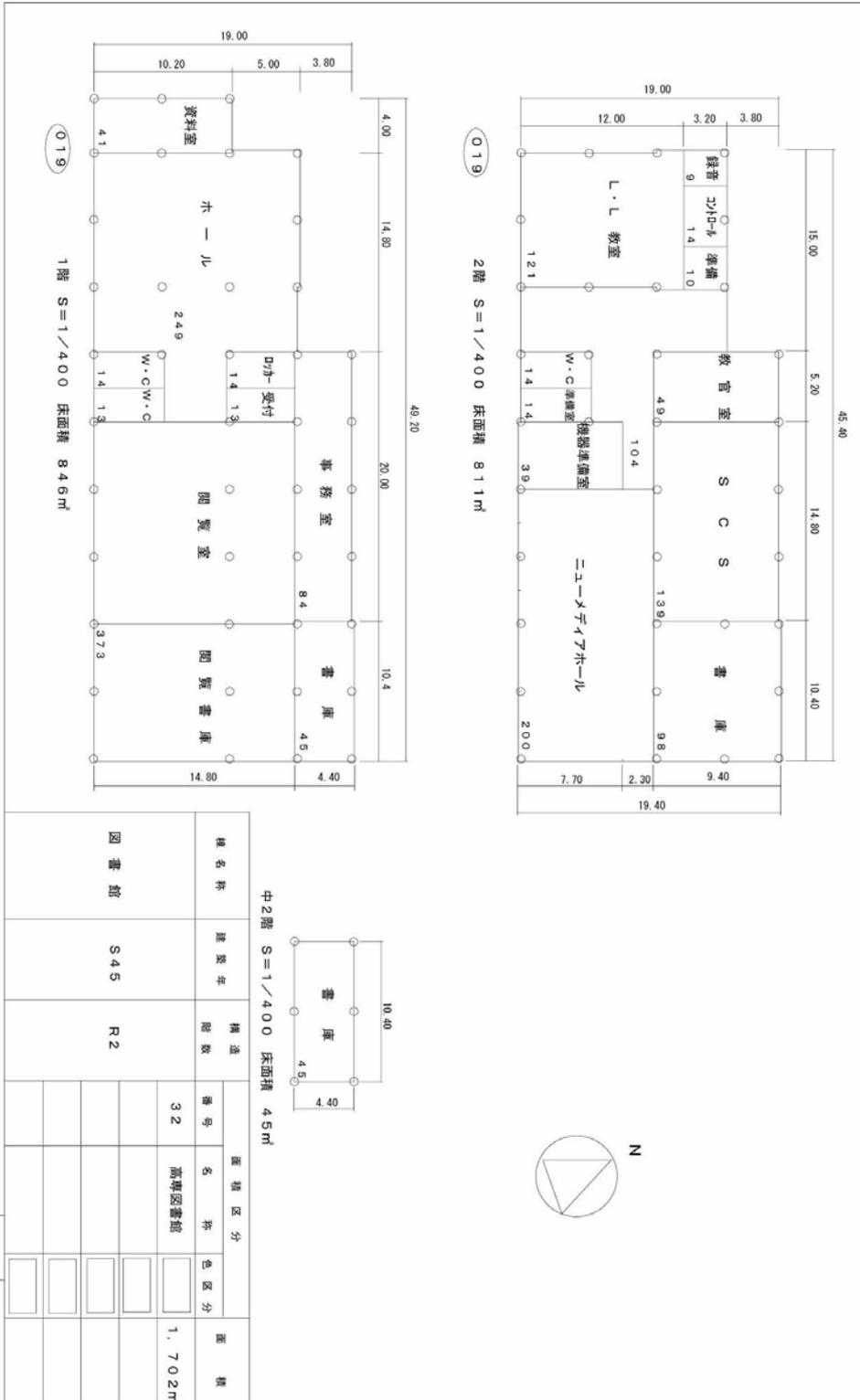
出典：平成 17 年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-25

国立大学法人施設実態調査 (様式 3)

図書館平面図

学校番号	学 校 名	国地番号	団体名	棟番号
6692	久留米工業高等専門学校	001	小 原 野	019



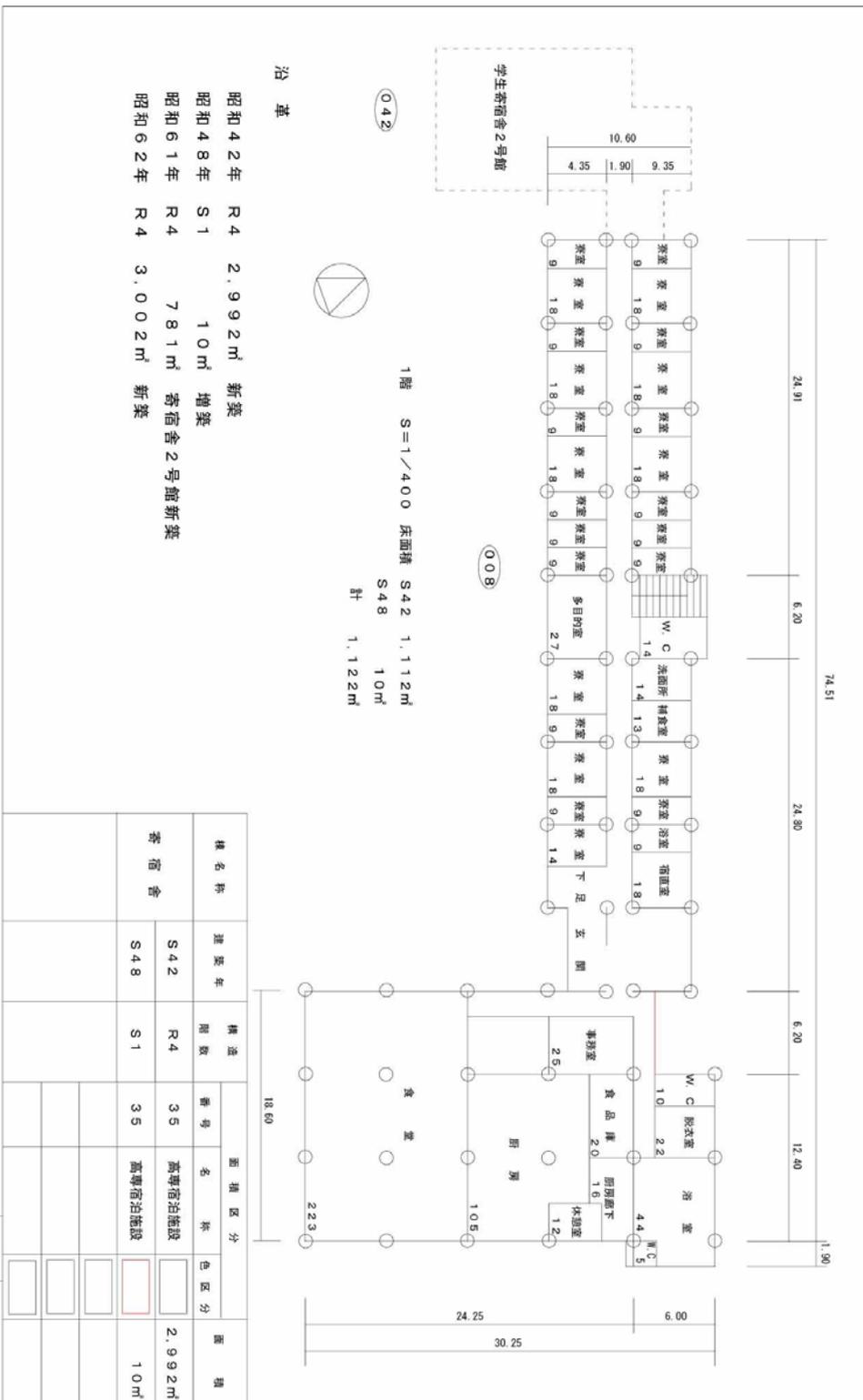
出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

資料 8-1-①-2 6

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

学生寮平面図 (1階)

学校番号	学校名	団地番号	団地名
6592	久留米工業高等専門学校	001	小森野
棟番号			
008			

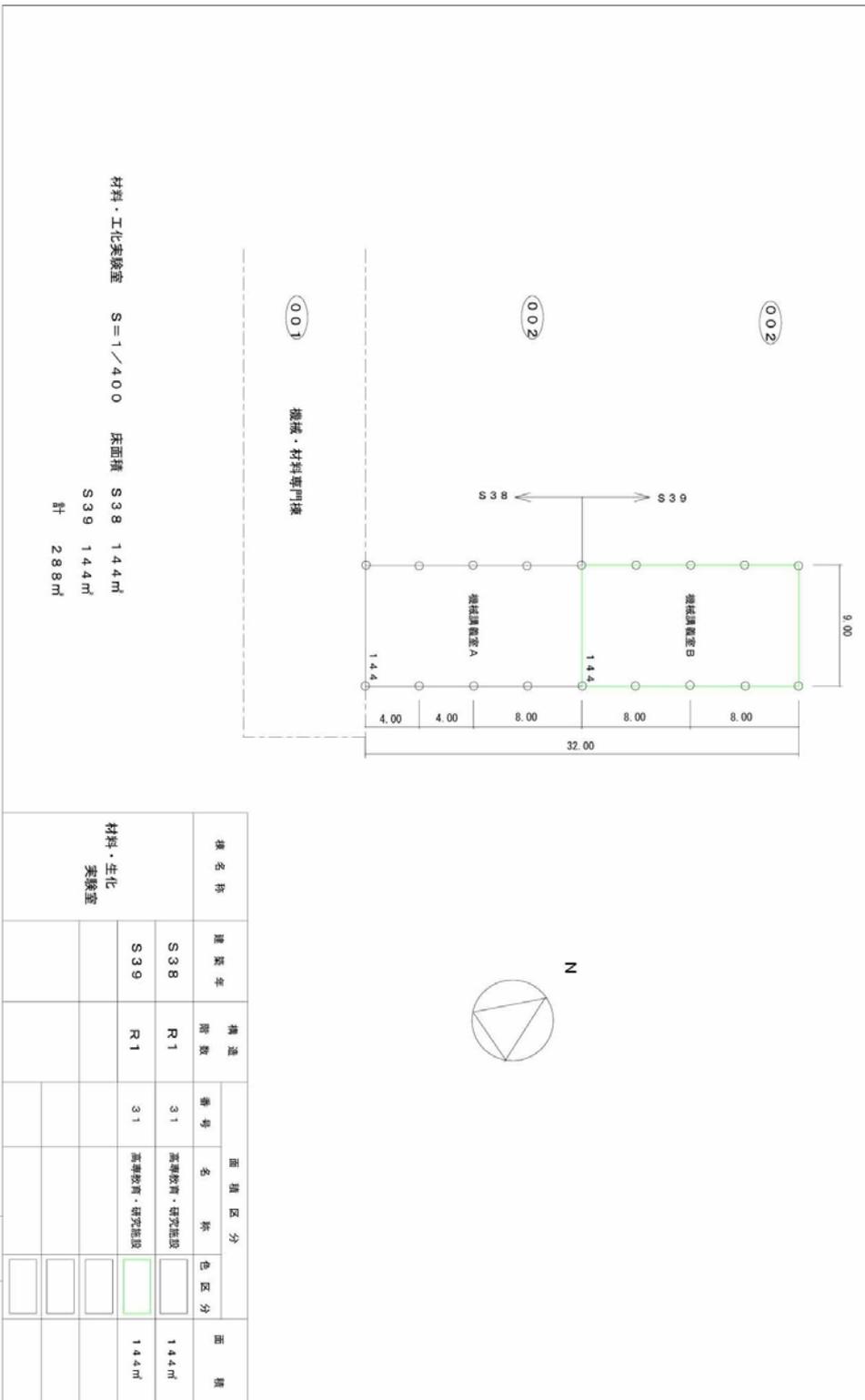


資料 8-1-①-3 0

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

材料生化合併教室 (D1、D2 教室)

学校番号	学 校 名	国地番号	国地名	棟番号
692	久留米工業高等専門学校	001	小 瀬 野	002



材料・工化実験室 S=1/400 床面積 S38 144㎡
S39 144㎡
計 288㎡

出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

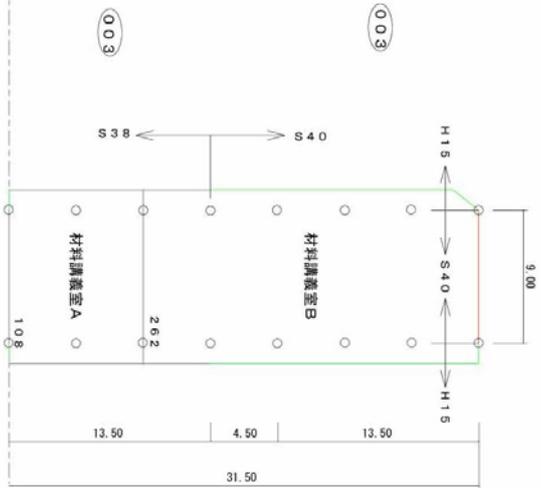
整理番号 3-1-3

資料 8-1-①-3 1

国立大学法人等施設実態調査 (様式 3)

機械電気合併教室 (D3、D4教室)

学校番号 6692	学 校 名 久留米工業高等専門学校	図地番号 001	図地名 小 森 野	棟番号 003
--------------	----------------------	-------------	--------------	------------



機械・材料専門棟

機械・電気合併教室 S=1/300 床面積
 S38 122㎡
 S40 162㎡
 H15 86㎡
 計 370㎡

棟名称	建築年	構造階数	番号	面積区分		備 考
				名称	色区分	
機械・電気合併教室	S38	R1	31	高等教育・研究施設	<input type="text"/>	122㎡
	S40	R1	31	高等教育・研究施設	<input type="text"/>	162㎡
	H15	R1	31	高等教育・研究施設	<input type="text"/>	86㎡
					<input type="text"/>	

整理番号 3-1-4

出典：平成17年度国立学校施設実態調査提出資料

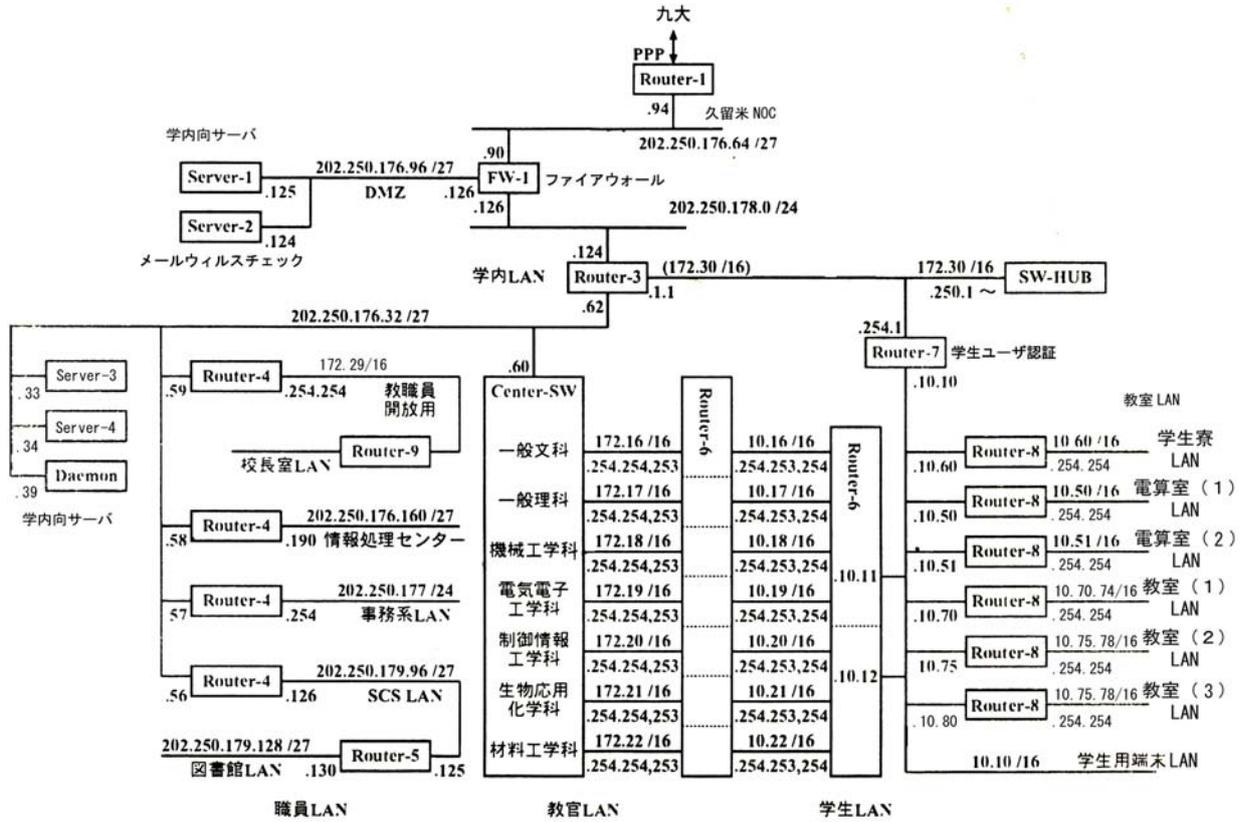
資料 8 - 1 - ① - 3 2

教室面積及び収容者数

教室名	面積 (m ²)	収容者数 (人)
科学セミナー講義室 1	88	64
科学セミナー講義室 2	88	48
科学講義室	88	88
英語講義室 A、B、C	各 88	各 88
社会講義室	93	48
数学講義室 A、B、C	各 88	各 88
デスクトップパソコン室(パソコン数：48)	75	48
ノートパソコン室(パソコン数：48)	100	48
生化講義室 A	77	42
生化講義室 B	77	45
生化セミナー室	42	26
生物応用化学実験室	111	48
生化 S 講義室	74	48
制御 S 講義室	87	46
電気講義室 B	103	90
電気 S 講義室	75	45
電気講義室 A	103	49
美術創造教室	137	60
語学演習室	121	52
ニューメディアホール	200	106
専攻科講義室 A	50	26
専攻科講義室 B	38	18
専攻科大講義室	93	48
制御棟 3 階演習室	92	48
物理実験室	88	50
機械講義室 A、B	各 144	各 126
材料講義室 A	81	54
材料講義室 B (大ホール)	202.5	190
CAD 演習室	103	48

資料 8 - 1 - ② - 1

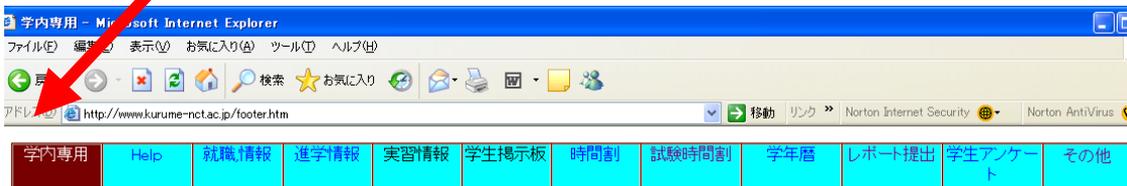
校内 LAN 構成図



出典：情報処理センター資料

資料 8 - 1 - ② - 2

本校ホームページの「学内専用」メニュー



出典：久留米工業高等専門学校 ホームページ

資料 8 - 1 - ② - 3

学内 LAN を利用するアプリケーションとその目的

科目名等	アプリケーション	授業・演習等	対象学科
機械要素設計実験 I (5 年前期)	CAD・CAE 統合ソフト	演習	機械工学科
機械要素設計実験 II (5 年後期)	CAD・CAE 統合ソフト	演習	機械工学科
卒業研究・専攻科研究	汎用有限要素法ソフト ANSYS	卒業研究	機械工学科および材料工学科
CAD 演習 (3 年前期)	2 次元 CAD ソフト DWGeditor	演習	機械工学科

資料 8 - 1 - ② - 4

文献検索システム画面

JDream II サービス
JST Document Retrieval system for Academic and Medical fields

- JDreamIIとは
 - 何が検索できますか
 - 利用可能なデータベース
 - 収録誌リスト
 - データベース更新情報
 - JDreamII 検索ガイド
 - 利用環境
 - Q&A
 - ▶ Your Collection 機能について
- JDreamII 利用の手続き
 - 料金表
 - 研修会
 - お問い合わせ
 - ▶ お問い合わせフォーム

JDreamII からのお知らせ (過去のお知らせ一覧)

- 医学・薬学予備集全文数据库無料トライアルキャンペーンを開始します。
- JDreamII に対応、「看護のための JDreamII 検索実践ガイド」好評発売中!! (2006年6月9日)
- サブヘディング検索が可能となりました。(2006年5月17日)

メンテナンス情報

- 現在予定されているメンテナンスはございません

<< JDreamII の機能追加・改善情報はこちら >>

IP接続で JDreamII IDとパスワードで JDreamII

[情報提供ホームへ] [JDreamII ニュース]

JST 科学技術振興機構
Alpha Science and Technology Agency

Copyright © 2003 JDream

出典：久留米工業高等専門学校 ホームページ

資料 8 - 1 - ② - 5

情報倫理教育の実施状況

学 科	科目名 (対象学年、実施時期)
機械工学科	情報処理基礎 (2年生対象、第1週)
電気電子工学科	プログラミング I (1年生、第1週～第4週)
制御情報工学科	情報処理基礎 (1年生対象、第1週～第2週)
生物応用化学科	情報化学 I (2年生対象、前期の第1 3週、後期) 情報処理演習 (4年生対象、第1週)
材料工学科	情報処理 I (1年生対象、第1週) 情報処理 II (2年生対象、第1週) 情報処理 III (4年生対象、第1週)

資料 8 - 2 - ① - 1

図書館蔵書数冊数

平成18年3月31現在

区分	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・体育	語学	文学	計
和書	3,491	4,360	5,185	4,013	20,730	25,238	384	2,927	3,818	12,086	82,232
洋書	274	175	143	109	3,530	4,426	128	37	1,888	2,764	13,474
合計	3,765	4,535	5,328	4,122	24,260	29,664	512	2,964	5,706	14,850	95,706

* 視聴覚資料 495

出典：庶務課図書係資料

図書館利用案内

2005riyou

1/3 ページ

久留米工業高等専門学校

図書館利用案内

■ 閲覧室への入室	■ 開館時間及び休館日	■ 開架図書	■ 貸出・返却
■ 蔵書検索 (OPAC)	■ レファレンス	■ 利用マナー	■ 雑誌・新聞

■ 閲覧室への入室

閲覧室の出入口には、ゲートがあります。これは、ブックディテクションシステムです。
貸出手続きをしないで図書を持ち出そうとすると、アラームがなりますので注意してください。
カバン等の持ち込みは自由ですが、学習に不要なものは出入口のロッカーを利用してください。

■ 開館時間及び休館日

月曜日～金曜日 9時～20時
土 曜 日 9時～17時
(※ 休業期間中は、平日は9時～17時まで、土曜日は、休館)
日曜日、祝日、開校記念日は休館

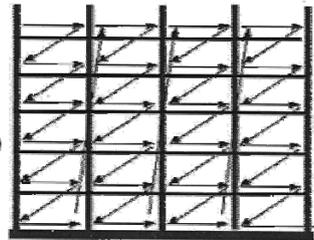
■ 開架図書

開架室の図書には、日本十進分類法により分類され、請求記号が付いています。
例えば、「数学の冒険 / イアン・ステュアート著」という図書には、下記のラベルが貼ってあります。

410	← 分類記号 (日本十進分類法による分類)
S	← 著者記号 (著者等のアルファベットの頭文字)
125	← 巻数表示 (同一分類・著者記号図書の受入れ順の番号)

禁帯出図書 (辞書、事典、参考図書、貴重図書等)
禁帯出図書コーナーには、背中に赤いラベルを貼った図書があります。
この図書は、館外貸出しをしませんので、閲覧室内のみ利用可能です。

閲覧室内の書架には、請求記号の
順番に図書が配架されています。
(右図の並びを参考にしてください。)



■ 貸出・返却・予約

● 貸出

	貸出冊数	貸出期間
学 生	3冊以内	1週間以内
教 職 員	10冊以内	3ヶ月以内
一般利用者	3冊以内	1週間以内

貸出希望図書に学生証(学生)、身分証明書(教職員)、図書利用カード(一般利用者)を添えて、
カウンターで係員に申し出てください。
なお、貸出図書が紛失もしくは行方不明になったら場合には、早急に図書館へ申し出てください。

資料 8 - 2 - ① - 3

入館者数及び貸出数

1. 入館者数

月	開館 日数	入 館 者 数				一般利 用者数 (内)	一日平 均入館 者数
		平 日		土曜日	合 計		
		時間内	時間外				
4	24	2,819	346	93	3,258	17	136
5	23	3,367	692	128	4,187	28	182
6	26	3,631	665	235	4,531	34	174
7	23	2,635	267	79	2,981	24	130
8	23	1,744	0	0	1,744	27	76
9	23	4,153	666	257	5,076	40	221
10	25	2,776	443	207	3,426	58	137
11	24	3,009	640	210	3,859	21	161
12	22	2,934	409	53	3,396	11	154
1	21	3,413	718	151	4,282	23	204
2	23	3,153	542	152	3,847	17	167
3	24	1,168	104	39	1,311	23	55
合計	281	34,802	5,492	1,604	41,898	323	149

2. 貸出数

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	専攻科 1 年	専攻科 2 年	教職員	一般利 用者	合 計
冊数	647	363	319	936	1,321	186	122	245	180	4,319
人数	443	270	204	625	774	118	65	154	96	2,749

資料 8-2-①-4

図書検索システム画面

久留米工業高等専門学校学 蔵書検索システム

[English Help 戻る](#)

表示件数 100 図書 登録順 所蔵を表示しない

検索 クリア

標題 AND

著者名 AND

出版者

分類 指定なし

請求記号 ISBN

検索 クリア

[【LINUS/NC OPAC】](#)

出典：久留米工業高等専門学校 ホームページ

資料 8 - 2 - ① - 5

図書委員会規則

[昭和 45 年 4 月 1 日制定]

第 1 条 久留米工業高等専門学校の図書の運用を円滑に行うため、図書委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 図書館長
- (2) 図書館長補
- (3) 図書主幹
- (4) 各学科等から各 1 名
- (5) 教務・学生・専攻科主事補から各 1 名
- (6) 庶務課長
- (7) その他校長が必要と認めた者

第 3 条 前条第 4 号、第 5 号及び第 6 号の委員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

第 4 条 委員会の委員長は、図書館長とする。

2 委員長に事故があるときは、図書館長補がその職務を代行する。

第 5 条 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

第 6 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 図書業務の運営に関する事項
- (2) 学生用図書の予算に関する事項
- (3) 学生用図書の選択に関する事項
- (4) 学生の読書指導に関する事項
- (5) その他委員長が必要と認めた事項

第 7 条 委員会の事務は、庶務課図書係で処理する。

附 則

1 この規則は、昭和 45 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行により、昭和 43 年 4 月 1 日付、久留米工業高等専門学校図書委員会規程は、これを廃止する。

附 則

この規則は、昭和 46 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、昭和 51 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 5 年 5 月 21 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

出典：久留米工業高等専門学校 規則集

資料 8 - 2 - ① - 6

平成 17 年度 第 1 回図書委員会議事録

日 時 平成 17 年 6 月 9 日 (木) 午後 3 時 30 分～午後 17 時
 場 所 図書館会議室
 出席者 江島委員長 (図書館長)、山崎 (図書館長補・図書主幹・理科)、中武 (教務主事補・機械)、後藤 (学生主事補・電気)、奥山 (専攻科主事補)、熊丸 (制御)、東内 (応化)、中山 (材料)、中畑 (文科)、陶山 (庶務課長)

審議事項等

1 委員紹介

議事に先立ち、委員長からの挨拶の後、平成 16 年度図書委員会等名簿 (資料 1) により各委員からの自己紹介があった。

2 行事予定表について

委員長から、平成 17 年度図書委員会行事予定表 (資料 2) により説明があり、図書係長から、図書系の年間スケジュールの補足説明があった。

3 学生用図書購入配分 (案) について

委員長から、平成 17 年度学生用図書購入費配分 (案) (資料 3) について、「予算委員会へは昨年度執行額 (後援会費含) 1,832,521 円 + α の 200 万円の要求を行っているが、昨年度の配分額 (1,166,000 円) の 1% 減で配分されると思われる。しかし、近年の書籍・雑誌類の値上がり等の影響を受け学生用図書資料の十分な整備が出来ないことから、後援会学生図書費 70 万円の内 50 万円を学生用図書購入費に繰込み、今年度の予算額を 1,666,000 円とし、各購入費の割合、各科への配分率は例年と同様にして、配分案を作成したので、審議願いたい。」との提案に対して、奥山委員から、「専門書は、一般書に比べ価格的に高いと思われる。専門と一般の学科配分比率は、この点について考慮されているとは思えない。」との発言に対し、委員長より「例年通りの比率で配分案を作成した。この比率がいつ決定され、適用され始めたか分からないが、見直しが必要であれば、今後検討することとし、出来れば今年度はこの案で承認して頂き、次回以降の委員会で検討していきたい。」との提案があり、これを了承した。

なお、図書係長から、「後援会費からの支出は図書購入費のみとし、雑誌類の購入については適応しないことです。ご了承願いたい。」との要望があり特に反対意見は無かった。

4 前期学生用図書購入の選定について

委員長から、「上記 3 の各学科配分額を参考に学科内で選定して頂き、平成 17 年度学生用図書リスト前期分 (資料 4) を、6 月 20 日 (月) までに図書係へ提出して頂きたい。」との提案があり、これを了承した。

5 指定図書について (資料 5)

委員長から、「指定図書制度は、これまでも何度か実施され、それなりの教育効果を上げてきていると思われるが、近年の図書購入費の減少ならびに書籍等の値上げにより予算内での購入が困難になっている。今年度の選定は見送りの方向でご了承願いたい。」との提案があり、これを了承した。

6 図書館だよりの発行について

委員長から、「昨年は 1 回の発行であった図書館だよりを、例年通り年 2 回の発行に戻したいのでよろしくお願いたい。については、図書館だより第 66 号の編集について (案) (資料 6/1-4) を作成したので検討願いたい。また、発行予定日までに時間が余らないのでご協力をお願いしたい。」との発言があり、以下のとおり了承された。

① 編集委員に山崎主幹、熊丸委員を選出した。

② 巻頭エッセイの執筆者を、機械工学科原田教員から、前田校長に変更し、依頼することとなった。

③ 経費削減の為に出来るだけ頁数を減らすために、新着図書案内を削除する。(新着図書案内は、随時、図書館ホームページに掲載しており図書館だよりに掲載する必要性は無い。)

7 その他

1. 上記 3 の審議中に、中山委員より「材料工学科選定の学生用雑誌「まてりあ」の購入について年間購読料が高騰した為、学科内で検討した結果、「金属」(アグネ技術センター)に変更したい。」旨の報告があり、図書係で対処することとなった。

2. 参考資料 (資料 7) を各委員に配布した。

委員長から、「予算配分方法が決定してはいないが、経費削減にともない、雑誌の購入については、出来れば重複を避け、教育研究に直接関係無いものは購入しない方向で検討する必要があるのではないか。」との発言があった。

3. 次回の図書委員会は、6 月 29 日 (水) 16 時 40 分から

出典：平成 17 年度 第 1 回図書委員会議事録

平成 17 年度 第 2 回図書委員会議事録

日 時 平成 17 年 6 月 29 日 (水) 午後 4 時 40 分～午後 17 時 30 分
 場 所 図書館会議室
 出席者 江島委員長 (図書館長)、山崎図書館長補 (図書主幹・理科)、中武 (教務主事補・機械)、後藤 (学生主事補・電気)、奥山 (専攻科主事補)、熊丸 (制御)、東内 (応化)、中山 (材料)、中畑 (文科)、陶山 (庶務課長)
 欠席者 なし

審議事項等

1 前期分学生用図書の選定について (資料 1-1~8)

委員長から、「平成 17 年度前期学生用図書購入リストが提出されたので、審議願いたい。」との提案があり、各学科の委員から選定理由及び補足説明が述べられ、審議の結果、全て購入することです承した。

2 図書館だよりの編集について (資料 2)

委員長から「図書館だより 66 号の作成進捗状況等について、報告願いたい。」との提案があり、山崎編集委員より、「『私の一冊』の原稿が未提出の学科については、提出願いたい。」との依頼があった。なお、委員長から、「期限内に発行、配布が出来るよう協力方よろしく願いたい。」との発言があった。

3 学生図書委員との懇談会について (資料 3)

委員長から「7月6日(水)13時15分から学生図書委員との懇談会を行う予定である。懇談会内容としては、①図書館に対する意見や要望について、②希望図書等について、③ブックハンティングについて、④その他、であるが、各委員より意見があれば伺いたい。」との提案があり、山崎委員より、「学生に対してアンケート調査を実施し、学生の要望等を調査することで、今後の学生用図書選定および、図書購入費配分率の見直しについての参考になると思われる。」との発言があり、審議の結果、今後検討することで、これを了承した。

4 ブックハンティングの実施について (資料 4)

委員長から「学生の読書意欲向上を目的として、ブックハンティングを実施する。学生図書委員との懇談会で説明を行い、学内に周知し一般学生にも参加してもらいたい。7月下旬に久留米市内の書店で実施する予定であるが、委員より意見があれば伺いたい。」との提案に対し、奥山委員より、「ブックハンティングについては、良いことだと思う。しかし、参加を希望する学生の中には、マニャクな傾向の図書を選書する者もいると思われる。また、実施方法としては、インターネットを利用することも可能ではないか。」という意見が述べられた。なお、具体的な実施要綱については、図書係が作成することで、これを了承した。

5 その他

- ・図書係長から、「平成 17 年度に導入にしている電子的資料 (資料 5) について、各学科内で次年度への継続について協議願いたい。各学科とも支障がない場合は、次年度も継続として取り扱うことで以降の事務処理を行いたい。なお、長岡技科大とのコンソーシアム内で、新規の資料導入の提案がなされた場合は、該当する学科に打診し、会計課と調整のうえ判断したい。」との提案があり、これを了承した。
- ・図書係長から、「学科長委員会で、平成 17 年度学生用図書購入費が 1,288,000 円で了承される見込みである。当初配分予定額の 1,166,000 円から 122,000 円の増額となるので、後援会費からの援助額 500,000 円を 378,000 円に削減したい。」と提案があり、これを了承した。

出典：平成 17 年度 第 2 回図書委員会議事録

図書委員会議事録（第3回）

- 1 日 時 平成17年10月6日（木）16時40分～18時00分
- 2 場 所 図書館会議室
- 3 出席者 図書館長江島孝則、図書館長補山崎有司、中武靖仁、奥山哲也、
熊丸憲男、中山 勝、中畑義明
欠席者 後藤雄治、東内秀機、庶務課長陶山政美

4 議 題

(1) 学生図書を選択について（資料1）

図書館長から学生用図書購入の選択についての審議依頼があった。このことについて図書係から後期分学生用図書購入リストの提出を各学科（8学科）に依頼してあったが、学科内での連絡・調整がおくれ材料工学科、一般文科、一般理科は未提出となった。図書館長から3学科に対して予算内で選択して早急に提出するように指示があり、提出された全学科リストについて、図書係で重複等について調査し各学科に確認、調整・整理がついてから購入したいとの発言がありました承された。

(2) 「図書館だより」の掲載事項について（資料2）

図書館長から巻頭エッセイは前回原稿依頼の折、前田校長から毎回執筆しても良いと伺っているので、校長に依頼する。審議の結果、読書のすすめについては、新任教員で執筆されていない制御情報工学科 中野明助手、材料工学科 矢野正明助手に依頼する。リレー連載については、学科順にしており今回は生物応用化学科である。なお副題<古典への誘い>は、古典の制約をはずし<〇〇への誘い>とし文学に限定せず技術書も含んだ古典とし執筆者にまかせることになった。私の一冊は、各学科から学生1人を選抜するよう各学科図書委員に依頼があった。原稿の締め切りは12月2日（金）とし、21日（水）学生配付の予定となった。

(3) 予算の学科配分に関する学生アンケートについて（資料3）

山崎図書館長補から作成したアンケートについて、基本は学生が図書館をどのような目的（理由）で、どのような形で利用しているかを知るための項目で作成したとの説明があった。本の利用に関する事項「次の本の中に、利用したことがある本はありますか」については、概略が分かれば良いため書名の列記はせず専門図書、一般文科系、一般理科系、雑誌の4分野とすることになった。変更等があったため修正した資料を全委員へ配付することになった。

(4) その他

山崎図書館長補から、「図書館だより」の原稿は、業者からある指定したソフトでの作成を要求されている。このソフトを2セット購入し図書主幹及び図書事務に設置使用することにしたいとの要望があり、要求することが了承された。

以上

出典：平成17年度 第3回図書委員会議事録

資料 8-2-①-7

図書等の購入実績（平成 17 年度）

区 分	冊 数	金 額
図 書	5 6 3 冊	2, 5 9 8 千円
雑 誌	8 2 7 冊	1, 2 8 1 千円

資料 8 - 2 - ① - 8

高専コンソーシアム参加状況

更新日:平成18年1月4日 / [電子ジャーナル部門](#)

平成18年度高専コンソーシアム参加状況一覧

○ 参加 × 不参加

		ACS	AIP/ APS	IEEE- ASPP	KANON	MathSciNet	Science Direct
40	阿南高専	×	○	×	○	×	×
41	高松高専	×	○	×	○	○	○
42	詫間電波高専	×	○	○	○	○	○
43	新居浜高専	○	○	○	○	○	○
44	弓削商船高専	×	×	×	○	○	×
45	高知高専	×	○	×	○	○	○
46	久留米高専	○	○	○	○	○	○
47	有明高専	×	○	×	○	○	○
48	北九州高専	○	○	○	○	○	○
49	佐世保高専	×	○	×	○	○	○
50	熊本電波高専	×	×	×	○×	×	○
51	八代高専	×	×	×	○	×	○
52	大分高専	○	○	×	×	○	○

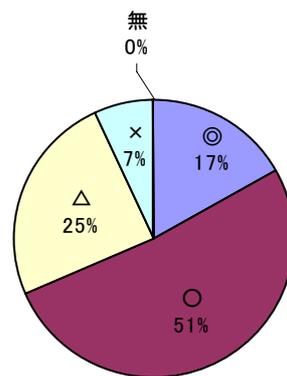
出典：長岡技術科学大学附属図書館ホームページ抜粋

資料 8 - 2 - ① - 9

図書館満足度（平成 17 年度卒業時の学生アンケート結果）

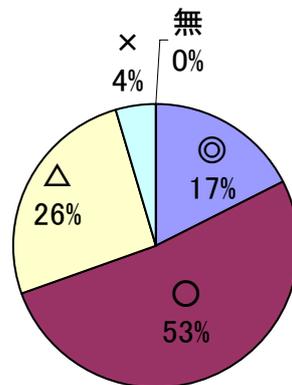
1. 本科卒業生

図書館設備の満足度



2. 専攻科修了生

図書館設備の満足度



出典：平成 18 年度第 1 回学科長委員会資料（抜粋）

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況) 平成14年度より授業評価委員会が中心となり、授業視察、学生の授業評価アンケート、授業担当教員の自己評価、授業担当教員と視察教員による授業改善会議を実施してきた。しかし、ホームページからの入力による学生の授業評価アンケートの回収に対する学生への周知と学生の協力が得られず(資料9-1-①-1)、実効性に乏しい改善システムであった。この問題点を解決するために、平成17年度に抜本的な見直しを行い、授業評価アンケートを匿名のマークシート形式による回答様式に変更した。実施形態も、授業担当教員が授業評価アンケートの主旨を学生に説明した後にアンケート用紙を配布し、その場での記入・回収する方法に改めた(資料9-1-①-2)。これにより、アンケートを実施した科目では、ほぼ全ての学生のアンケート用紙が回収され、アンケートの実効性をもたせることができた。この授業評価アンケートは、全教員を対象として実施されており、教務委員会の下部組織である授業改善専門部会で処理・集計される。その後、アンケート用紙は、教員のシラバス作成や授業改善へフィードバックするために、各授業担当教員に返却される(資料9-1-①-3)。アンケート結果を受けて教員は、自己評価報告書を教務主事に提出する。アンケートの集計結果と教員の自己評価報告書は、冊子にして教員に配布される。平成17年度は同一のアンケート用紙で実施したが、今年度についてはアンケートを取る科目の拡大、あるいは講義、演習、実験及び実習におけるアンケート内容の精査などを授業改善専門部会において検討している。

(分析結果とその根拠理由) 平成17年度に抜本的な見直しを行い、教務委員会及び授業改善専門部会を中心として教育の状況に関して点検・評価し、改善を図る体制が整備され、実施されている。

観点 9-1-②： 学生の意見の聴取(例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。)が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況) 学生を対象とする意見聴取としては、授業改善専門部会が実施する授業評価アンケート(資料9-1-②-1)と企画主事室が準学士課程の卒業生と専攻科課程の修了生に対して実施する教育目的の達成度評価に関する自己評価アンケート(資料9-1-②-2)がある。さらに学生会からの学習環境を含む学校に対する希望・要望(資料9-1-②-3)を聞く場を適宜設けている。

授業評価アンケートは、授業改善専門部会が結果の集計・分析を行い、その分析結果は、FD会議で全教員に報告されている(資料9-1-②-4)。また、学生の意見欄が設けられた授業評価アンケート用紙は各授業担当教員に返却され、学生の意見が教員に直接フィードバックされる。各授業担当教員は、授業科目の成績と授業評価アンケート結果を参考に、自己評価報告書を作成し、教務主事へ提出する。アンケート分析結果と授業担当教員の自己評価報告は、冊子として教員に配布される。また、準学士課程の卒業生及び専攻科課程の修了生に対して行う教育目的の達成度に関する自己評価アンケート(資料9-1-②-2)及び学生支援に関するアンケート(資料9-1-

②-5) は、企画主事室が集計・分析し、その分析結果は学科長委員会に報告されるとともにFD会議において全教員に公表されている。

学生会からの要望の聴取としては、学校側への要望書が学生会機関紙「覚醒」に掲載され、学生大会に諮られた後、学生主事に提出され、それをもとに学生主事室と学生会が適宜話し合いを行っている。その結果は関係主事にも伝えられて、授業改善及び学生の生活・学習環境の整備に反映されている。

(分析結果とその根拠理由) 学生の意見聴取が、学校主体の授業評価アンケート、教育目的の達成度に関する自己評価アンケート及び学生支援に関するアンケート、並びに学生会からの要望の聴取という形により実施されている。その結果は関連部署で集計・分析された後、教員に公表されるとともに、学科長委員会やFD会議に報告され、教育の改善に反映されている。

資料 9-1-②-4

FD会議案内

差出人:	宛先:
件名: 教員会議(第2回)・FD会議(第1回)の開催について(通知) 日時: Tue, 23 May 2006 14:45:32 +0900	
平成18年 5月23日	
教員各位	
校 長	
教員会議(第2回)及びFD会議(第1回)の開催について	
下記のとおり標記会議を開催しますので、ご出席くださるようお願いいたします。 なお、欠席される場合は事前に庶務係へご連絡ください。	
記	
◎教員会議(第2回)	
1 日 時	平成18年5月24日(水) 15時50分～
2 場 所	大会議室
3 議 題	添付ファイル(第2回教員会議次第)のとおり ※資料については、各自でプリントアウトのうえ、会議にご持参願います。
◎FD会議(第1回)	
1 日 時	平成18年5月24日(水) 教員会議終了後引き続き開催
2 場 所	大会議室
3 議 題	添付ファイル(第1回FD会議次第)のとおり

出典：FD会議開催案内メール

観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況) 本校の自己点検・評価は、平成4年度から始まり、外部協力者委員の意見を求めながら不定期に実施し、学科長委員会及び自己評価検討委員会で改善案を検討し実施してきた(資料9-1-③-1、訪問調査時に提示)。平成14年度には外部評価協力者会議と名称を変更して外部評価を実施した。さらに、平成18年度に規則を一部改正して外部評価委員会とし、現在、自己点検・評価を実施する準備を企画主事室が進めている(資料9-1-③-2、訪問調査時に提示)。また、各専門学科とも、第三者機関であるJABEEによる評価、認定を受けており

(資料9-1-③-3)、学校全体に対するものとは別の形で、第三者機関の意見を学科ごとに教育の改善に反映させている(資料9-1-③-4、訪問調査時に提示)。

さらに、JABEE申請の一環として、学科によってはアンケートによる卒業生並びに就職先からの意見聴取を行っている(資料9-1-③-5、訪問調査時に提示)。これらのアンケート結果は、教育目標や教育の状況をチェックするために、分析、検討中である。

(分析結果とその根拠理由) 自己点検・評価は平成4年度から継続して実施されており、点検結果に基づいて、学科長委員会及び自己評価検討委員会を中心に改善がなされてきた。今年度、企画主事室が外部評価を実施する準備を進めている。また、第三者機関であるJABEEによる認定も学科ごとに受けている。その一環として、学科によっては卒業生や就職先に対する意見聴取を行っている。

観点9-1-④： 各種の評価(例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況) これまで外部評価協力者会議による自己点検・評価結果は、学科長委員会及び自己評価検討委員会において検討、改善されてきた(資料9-1-④-1、訪問調査時に提示)。今年度は外部評価委員会における評価を受けて企画主事室が分析し、指摘内容に応じて関連部署との連絡調整を行う体制となっている。また、準学士課程の卒業生及び専攻科課程の修了生に対して行う教育目的の達成度に関する自己評価アンケートや学生支援に関するアンケートも企画主事室が集計・分析し、学校全体に関わることは、企画主事を通して学科長委員会で校長、教務主事を始めとする各主事や各学科長に報告され、教育の見直しに反映される体制となっている。

教育課程や教務規程の変更などの長期教育改善に向けた案の策定は、自己評価検討委員会との協議のもとに教務委員会で行い、学科長委員会でその案を審議、承認する体制となっている(資料9-1-④-2)。実施運用結果に対するアンケート調査は、企画主事室で企画し自己評価検討委員会の審議を経た後に、準学士課程の各学科や専攻科課程で実施される。その結果は企画主事室で集計・分析されて、自己評価検討委員会で点検・議論され、企画主事を通して校長、各主事や学科長委員会に報告される。学科長委員会で審議、指針決定の後、教務委員会に諮問する。各学科会議で提起された問題点や改善要望については、各学科の教務委員が教務委員会に、あるいは学科長が学科長委員会に提起し、それぞれの委員会で審議する。

授業改善に関しても教務委員会を中心に機能している(資料9-1-①-3)。授業評価アンケート項目作成、アンケートの集計・分析は、教務委員会のワーキンググループである授業改善専門部会で行われる。その分析結果は、教務委員会や学科長委員会に報告され、また、FD会議を通して各教員にフィードバックされている。アンケートの集計後、アンケート用紙を教員に返却し、各教員はそれを受けて授業に関する自己評価報告書(改善案)を教務主事に提出することになっている。教務主事室及び教務委員会が、この各教員が提出する自己評価報告書(改善案)から学校全体の改善状況を把握している。

(分析結果とその根拠理由) 継続的に自己点検・改善活動が実施されるシステム、また適切な時

期に外部評価を受けるシステムが構築されている。長期的な教育計画や授業改善についても各学科や学生の意見、要望を分析して改善するシステムが整備されている。

観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況) 学生からの授業評価アンケート(資料 9-1-①-2)を年2回実施し、教員は担当科目のシラバス作成、教材、進度、教授技術の改善に役立てている。アンケート項目の設定、アンケートの集計・分析は授業改善専門部会が行い、分析結果はFD会議などで全教員に報告される。また、アンケート用紙は集計後に授業担当教員に返却され、授業担当教員は成績評価とこのアンケート用紙に基づいて改善案を自己評価報告書に記載し、教務主事に提出する。自己評価報告書は、授業評価アンケート分析結果とともに冊子にして全教員に配布される(資料 9-1-⑤-1、訪問調査時に提示)。現在のところ、授業評価アンケートは全科目ではなく、授業改善専門部会が任意に抽出した授業科目について行っている。これには常勤だけでなく非常勤教員の授業科目も含まれている。今後は、年2回の授業アンケートのうち2回目(後期)のアンケートについては、可能な限り1回目(前期)に実施した授業科目とは異なる授業科目に対してアンケートを実施し、講義と実験、実習科目を分けてアンケート取ること、アンケート項目を絞ってアンケートを取る授業科目数を増やすことなどを検討している。以上のことを継続的に行うことによって、授業内容、教材、教授技術などが改善され、また自己評価報告書の公表によって個々の教員の授業改善状況が把握される。

(分析結果とその根拠理由) 授業改善専門部会が中心となり、学生による授業評価アンケートを実施し、アンケート用紙は授業担当教員に返却してアンケート分析結果とともに教員のシラバス作成や授業改善に役立てている。授業担当教員がどのような改善策を行ったか自己評価書を提出してもらい、学校として改善状況の把握に取り組んでいる。

観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況) 教員の多くは、専門分野の関係学協会への参加、講演発表や論文発表などの研究活動を通して最新の研究動向の把握を行っている(資料 9-1-⑥-1)。また、地域の企業を中心とした共同研究を積極的に行う(資料 9-1-⑥-2)ことによっても、最新の技術動向の把握に努力している。これら研究活動を通して得られた情報は、準学士課程の「卒業研究」や専攻科課程の「専攻科研究論文」の科目の研究テーマのみならず、適宜講義の中にトピックスとして情報提供されており、教員個人の学術的研究に偏ることなく教育の質的向上に努めている。また、専攻科課程の学生の多くは、研究成果の発表を学協会の講演大会で行っている。この中には、学協会から表彰を受ける学生もおり(資料 9-1-⑥-3、訪問調査時に提示)、教育の質的向上に寄与している。

(分析結果とその根拠理由) 教員の研究活動は十分行われており、学生の研究活動も活発に行われている。さらに、共同研究も精力的に行われており、研究活動が教育の質的向上に十分寄与している。

資料 9-1-⑥-1

研究成果発表件数一覧

学 科	平成 1 4 年度		平成 1 5 年度		平成 1 6 年度	
	論文・著書	講演	論文・著書	講演	論文・著書	講演
機械工学科	10	14	11	7	10	5
電気電子工学科	9	8	8	6	5	12
制御情報工学科	10	16	21	15	20	9
生物応用化学科	15	22	12	36	12	18
材料工学科	13	14	12	10	13	7
一般理科	2	0	0	1	1	0
一般文科	2	0	1	1	2	2
合 計	61	74	65	76	63	53

出典：久留米工業高等専門学校紀要

資料 9-1-⑥-2

共同研究件数一覧

学 科	平成 1 6 年度	平成 1 7 年度
機械工学科	10	7
電気電子工学科	4	4
制御情報工学科	5	3
生物応用化学科	10	12
材料工学科	4	2
合 計	33	28

出典：産学民連携推進センター資料

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

（観点に係る状況） 全教員参加のもと、FD会議が開かれ（資料 9-2-①-1、訪問調査時に提示）、教員の教育内容及び方法について資質の向上を図っている。高専機構が主催する研修会ばかりでなく、その他の機関で実施する研修会へも教職員を積極的に派遣しており（資料 9-2-①-2）、その一部をFD会議で報告し、全教員で情報の共有を図っている。昨年度は、数学の学力低下問題を取り上げ、中学校における現行の教育内容の把握を行い、本校での数学教育の授業時数が的確か否かの検討が行われた。また、臨床心理学の専門家による「現代の学生が抱える心理的問題と指導のしかた」に関する講演会も行った（資料 9-2-①-3、訪問調査時に提示）。

（分析結果とその根拠理由） 全教員参加のもと、組織的にFD会議が実施され、外部研修会の情報や教育上の問題点の認識を共有化することが図られ、教育の内容及び方法の改善を積極的に行っている。

資料 9-2-①-2

平成 17 年度校外研修参加件数	
学 科	件 数
校 長	2
機械工学科	8
電気電子工学科	7
制御情報工学科	11
生物応用化学科	9
材料工学科	6
一般理科	5
一般文科	4
合 計	52

出典：庶務課人事係資料

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況） F D会議で議論された内容のうち、教育課程表、教務規程、授業改善などや教育上の問題に関して緊急性を要するものは、教務主事主導のもと、教務主事室または授業改善専門部会が中心となってシラバスの充実や授業改善策などの検討を行い、教務委員会及び学科長委員会で審議・決定する（資料 9-1-①-3）。例えば、昨年度討議した数学の学力低下問題については、教務主事指示のもと、過去の入学者に対して実施していた数学学力診断テストと同じ試験問題を使用して、今年度入学者に対して実施することを立案し、教務委員会で審議して、学科長委員会で承認後実施した。その結果は、速やかに F D会議で全教員に対して報告され、数学の授業内容や関連する専門科目の授業内容などの見直しに反映させている（資料 9-2-②-1、訪問調査時に提示）。

（分析結果とその根拠理由） F D会議の討議内容をもとに、教務委員会が中心となって数学学力診断テストを実施し、調査結果を全教員に F D会議で再度周知する取組を行っており、教育の質の向上や授業の改善に積極的に取組んでいる。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点） 本校における自己点検・評価は、平成 4 年から継続して実施してきた。この点検システムの抜本的な見直しを平成 17 年度に行い、授業評価アンケートなど各種評価の結果を、教育の質の向上、改善に反映させるシステムが学校全体で整備されている。個々の教員においても、F D会議、外部研修及び教員の研究活動などを通して、個々の教員の質的向上を恒常的に図り、授業内容、教材、教授技術などの継続的な改善を行っている。

（改善を要する点） 該当なし。

(3) 基準9の自己評価の概要

平成17年度に抜本的な見直しを行い、教務委員会及び授業改善専門部会を中心として、教育活動の実態を示すデータや資料が収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備された。学生からの意見聴取としては、授業改善専門部会が実施する授業評価アンケート、企画主事室が実施する教育目的の達成度評価に関する自己評価アンケート、及び学生会からの要望の聴取が行われている。これらの結果は関連部署で集計・分析された後、教職員に公表されるとともに、学科長委員会やFD会議に報告され、教育の改善に反映されている。外部有識者の意見を、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映させるために、本校における自己点検・評価は、平成4年から継続して実施している。これらの各種評価結果を、教育の質の向上、改善に反映させるシステムが学校全体で整備されている。

個々の教員は、学生からの授業評価などの評価結果に基づいて、全教員参加のFD会議、外部研修、及び教員の研究活動などを通して、個々の教員の質的向上を図り、授業内容、教材、教授技術などの継続的改善を行っている。個々の教員の改善活動状況を自己評価報告書の公表によって学校として把握している。また、教育の質的向上を図るために、全教員が把握すべき内容に関しては、FD会議で情報の共有化を図り、組織的に教育の内容及び方法の改善を積極的に行っている。

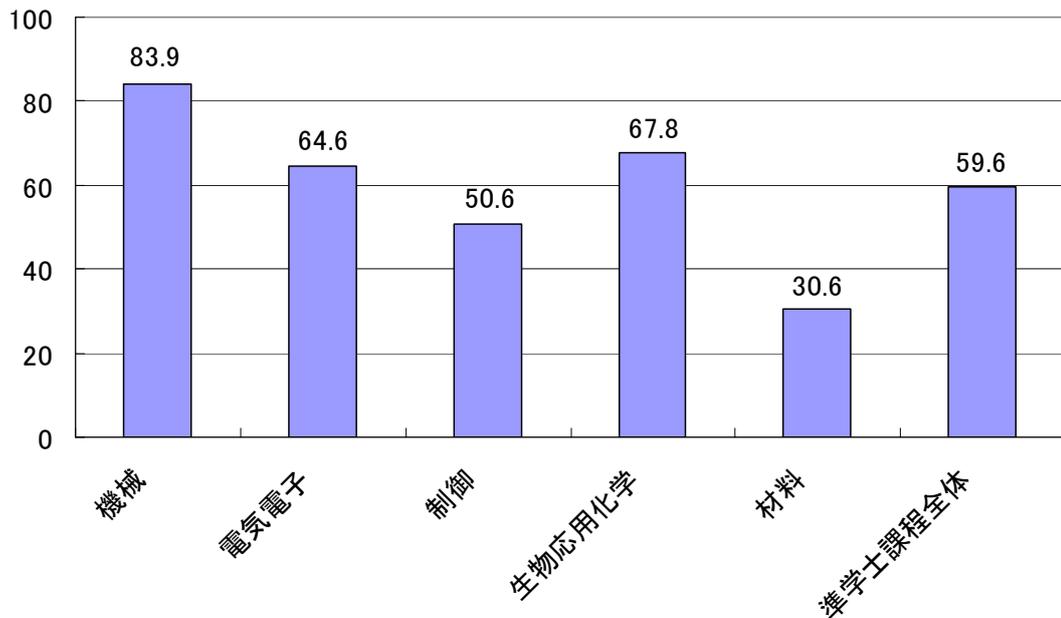
資料 9-1-①-1

学生による授業評価アンケート回収率（平成16年度前期）

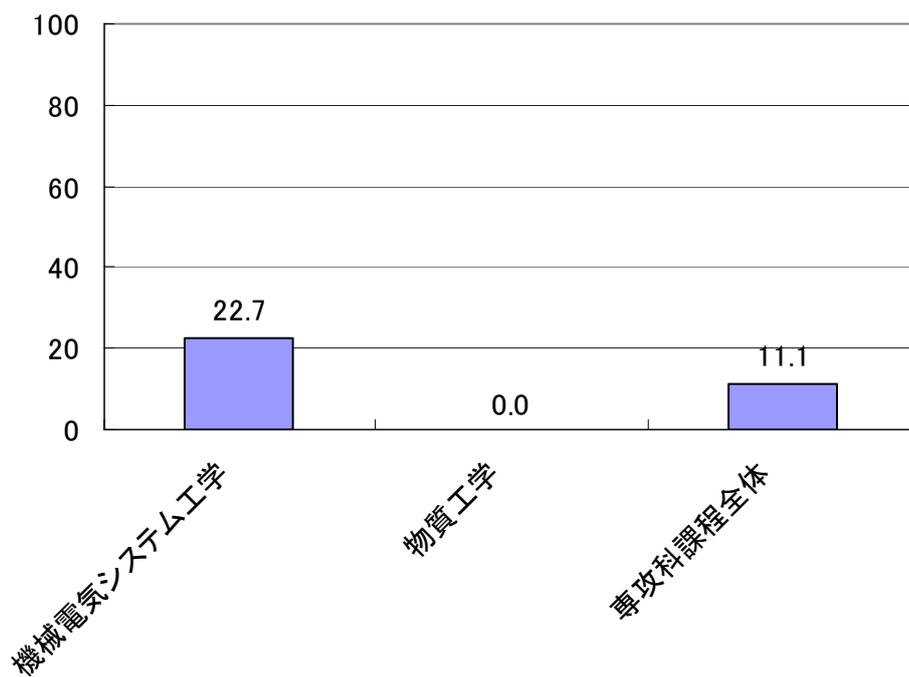
回答科目率 = 回答科目数 / 実施科目数

（ただし、回答が一枚でもあれば回答あり）

授業アンケート回答科目率（%）



授業アンケート回答科目率（%）



資料 9 - 1 - ① - 2

平成17年度前期 学生による授業評価アンケート

()年 ()学科 科目名 ()

※ 以下, A, B, Cの質問に対して, 該当する項目に付された○を黒く塗りつぶしてください

A あなたはこの授業にどのように取り組みましたか。(複数選択可)

- 1 授業中, 熱心に説明を聞いた.
- 2 授業の予習をよくした.
- 3 授業の復習をよくした.
- 4 関連する内容を自主的に勉強した.
- 5 授業中, ノートやメモをとった.
- 6 授業にほとんど欠席せずに出席した.
- 7 授業の内容を十分に理解できた.

B あなたはこの授業をどのように思いましたか。(複数選択可)

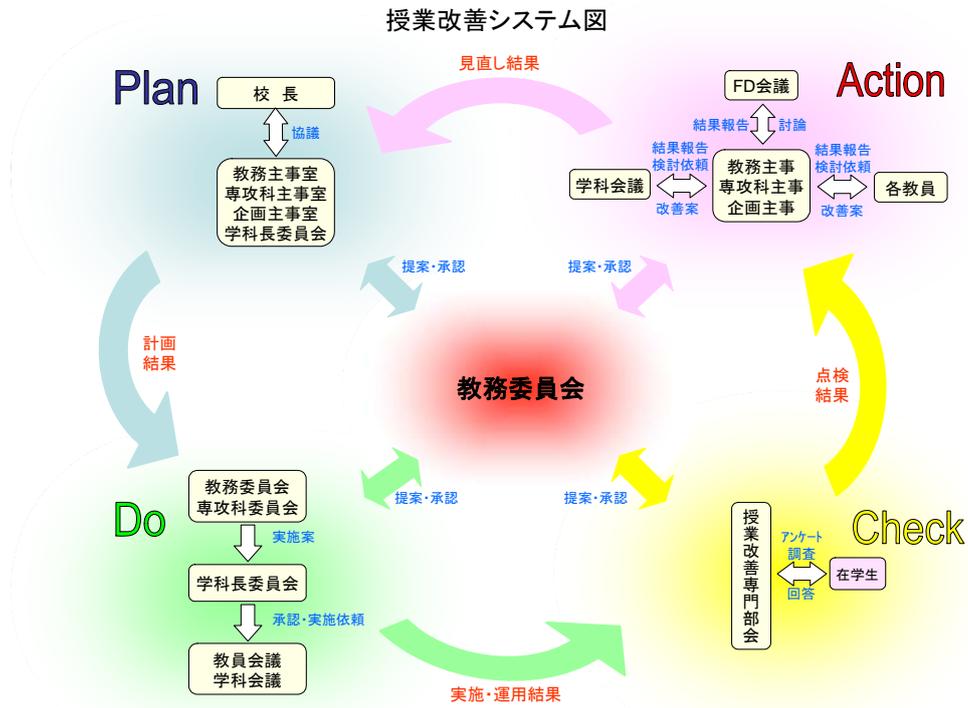
- 1 教科書やプリント等の教材が適切であった.
- 2 演習, 課題はよく工夫されたものであった.
- 3 先生は十分に授業の準備をしていた.
- 4 先生は熱意をもって授業をしていた.
- 5 質問をしやすくするなど, 授業に双方向性をもたせる工夫があった.
- 6 授業に適度なユーモアがあった.
- 7 半期を通した授業全体の構成は適切であった.
- 8 授業はわかりやすかった.
- 9 この授業内容に興味をもてた.
- 10 この授業によって, 調べる力がついた.
- 11 この授業によって, 考える力がついた.
- 12 総合的に良い授業だったと思う.

C この授業についての要望があれば選んでください。(複数選択可)

- 1 先生の声聞き取りやすくしてほしい.
- 2 板書を読みやすくしてほしい.
- 3 演習, 課題の内容を工夫してほしい.
- 4 学生に対する言動に気を付けてほしい.
- 5 授業の準備を十分にしてほしい.
- 6 もっとわかりやすく説明してほしい.
- 7 もっと質問の機会を増やしてほしい.
- 8 授業の進度が速すぎる.
- 9 授業の進度が遅すぎる.
- 10 授業のレベルが高すぎる.
- 11 授業のレベルが低すぎる.
- 12 授業の開始時間を守ってほしい.
- 13 授業の終了時間を守ってほしい.
- 14 休講を少なくしてほしい.
- 15 先生からの連絡が確実に伝わるようにしてほしい.
- 16 先生にもっと連絡をとりやすくしてほしい.

出典：平成17年度 学生による授業評価アンケート用紙

資料 9 - 1 - ① - 3



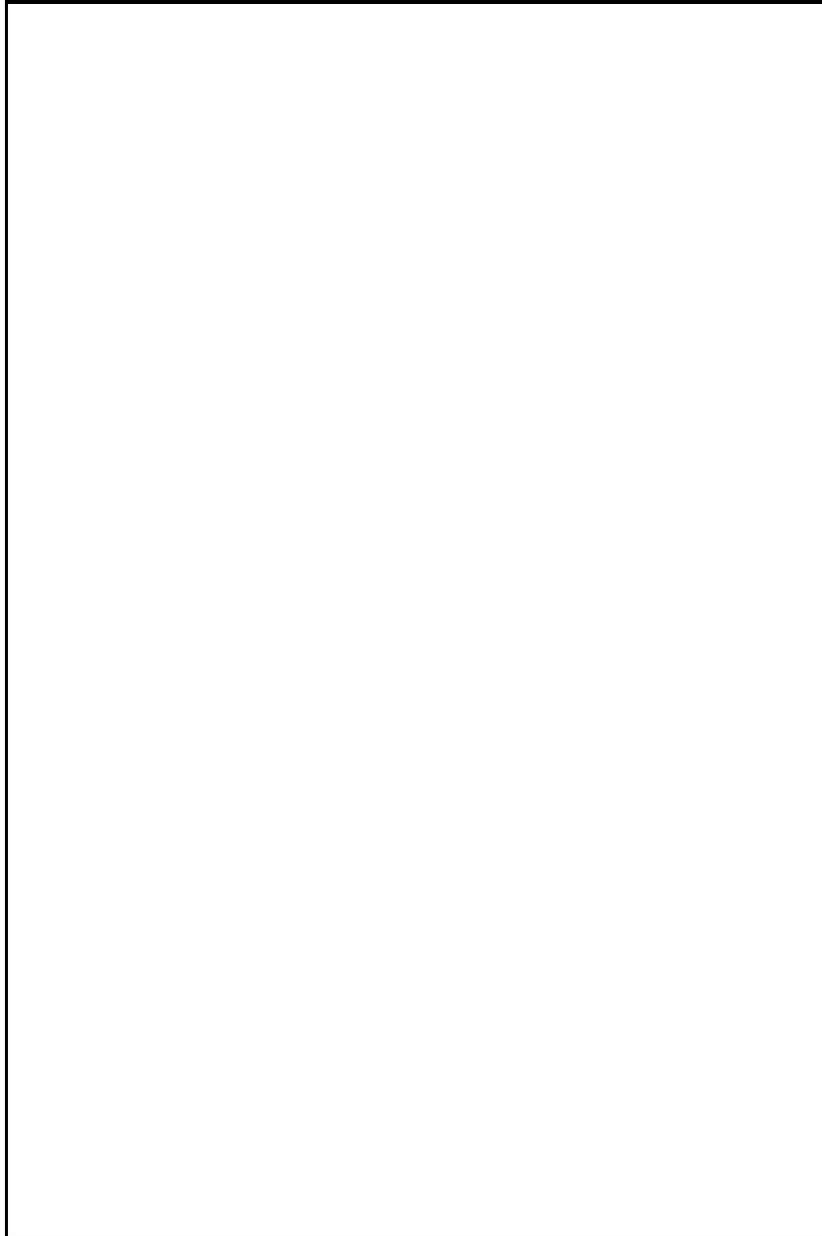
主事室: 主事と主事補の総称

出典: 平成 18 年度第 3 回学科長委員会資料

資料 9 - 1 - ② - 1

学生による授業評価アンケート

授業に関して感じたり思ったことがありましたら、以下に記入してください。



出典：平成 17 年度 学生による授業評価アンケート用紙

資料 9 - 1 - ② - 2

教育目的の達成度に関する自己評価アンケート

本校の教育理念

「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」

制御情報工学科の教育目標

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者の育成

教育理念、および学科の教育目標に関するアンケート調査です。該当する回答を丸で囲んで下さい。

(1) 本校の教育理念を知っていましたか？

- ◎ 十分知っていた ○ ある程度知っていた
△ あまり知らなかった × 全く知らなかった

(2) 制御情報工学科の教育目標を知っていましたか？

- ◎ 十分知っていた ○ ある程度知っていた
△ あまり知らなかった × 全く知らなかった

(3) 学校生活を通じて、社会のルールを遵守しながら自主的に行動する習慣が身についたと思いますか？

- ◎ 十分身についた ○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった × 全く身につかなかった

(4) 本校の授業(とくに一般科目の授業)を通して、広い視野と豊かな心が身についたと思いますか？

- ◎ 十分身についた ○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった × 全く身につかなかった

(5) 本校の授業を通して、数学・物理・化学等の自然科学に関する基礎学力が身についたと思いますか？

- ◎ 十分身についた ○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった × 全く身につかなかった

(6) 本校の専門科目の授業を通して、コンピュータ、メカトロニクス、情報工学に関する基礎的な専門知識と技術を身につけることができたと思いますか？

- ◎ 十分身についた ○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった × 全く身につかなかった

(7) 本校の授業を通して、工夫しながら問題を解決していく力が身についたと思いますか？

- ◎ 十分身についた ○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった × 全く身につかなかった

(8) 本校の授業や学校生活を通して、将来、社会に貢献できる技術者となるための素養が身についたと思いますか？

- ◎ 十分身についた ○ ある程度身についた
△ あまり身につかなかった × 全く身につかなかった

出典：教育目的の達成度評価に関する自己評価アンケート用紙

資料 9 - 1 - ② - 3

学生会からの要望事項リスト

1. 学生会からの要望事項
 - (1) 今年のインターンシップはどうなっているのか
 - ・高専祭の期間中対策会議を開催し、教員会議を経て学校としてどうするか決定する。
 - (2) ロッカーの件について、保護者懇談会でもロッカーの必要性が出されたと聞いているがどうなったのか。どうするつもりか、今のままなのか。
 - ・生物化学棟のロッカーの利用状況を見ているところである。
 - (3) 6月の後援会総会で、成績をGPAではなく点数で出して欲しいとの要望が出され、前向きに検討すると聞いていたがどうなったのか。
 - ・学校として、GPAとして表すことになっている。
 - (4) 最近警察が入っている時が多いがどうなっているのか。
 - ・盗難があった時や警察からのお願い事項で見えられることが多い。
 - (5) バイク置き場に排気量の大きいバイクが置けなくなっている。
 - ・検討したい。
 - (6) 校長不在時の責任者は誰か。
 - ・教務主事が校長代理となる。
 - (7) 学生会の学校での位置づけは。一度もらった回答が実行されていなかったり、曲がったりしている。
 - ・話し合いの場では対等と考えている。
 - (8) 学生会のHPを作成しアップロードしているが、外部から見られるようにアカウントを作って欲しい。
 - ・学生主事として、総合情報センターへお願いする。
 - (9) 執行委員会室にLANを引いて欲しい。
 - ・予算の問題だけだと思う、検討する。
 - (10) コピー機はいつ買えるのか。
 - ・2台のうち1台を貸与する方向で検討する。
 - (11) 機械材料棟の工事は何なのか知らせて欲しい。
 - (12) ウェイトトレーニング場の設備がなくなっている。買って買えると聞いていたが。
 - (13) 4年の時の科目が3年になっているのは何故か。
 - (14) 機械工学科の物理が無くなったのは何故か。
 - (15) 4年になったら高卒の資格があるということか。
 - ・久留米高専で、3年間でこの科目を何単位取ったという証明は出来る。
 - (16) 卒業すれば高専卒だが途中で退学した場合は、何年修了と言うことになるのか。
 - ・この場では回答できない。調べて回答する。
 - (17) 7月の行事は来年はどうするのか、高専大会と試験がダブることになるが。
 - ・現在検討中であり、決定したら連絡する。
 - (18) 海外インターンシップが無くなった場合、単位の代替え等どうするのか。
 - ・まだ何も決まっていない。決定したら公表する。
 - (19) 時間がないのに行事日程等決まっていないことが多すぎる。制度が変わりすぎて学生に不利になっている点が多すぎる。
 - (20) 志願者が減っているのは、在籍する学生の不満も一因ではないか。
 - (21) 4年の選択科目で分野別に区切られているが、昨年はなかった。留年した場合区分された分を再度取らなくてはならないのか。留年した人にはきちんと説明する必要があるのではなか。
 - ・まず担任の先生に相談したらどうか。教務主事には学生会から要望があったことを伝える。

出典：平成16年度学生会との打合せ議事録

資料 9 - 1 - ③ - 3

J A B E E 認定証

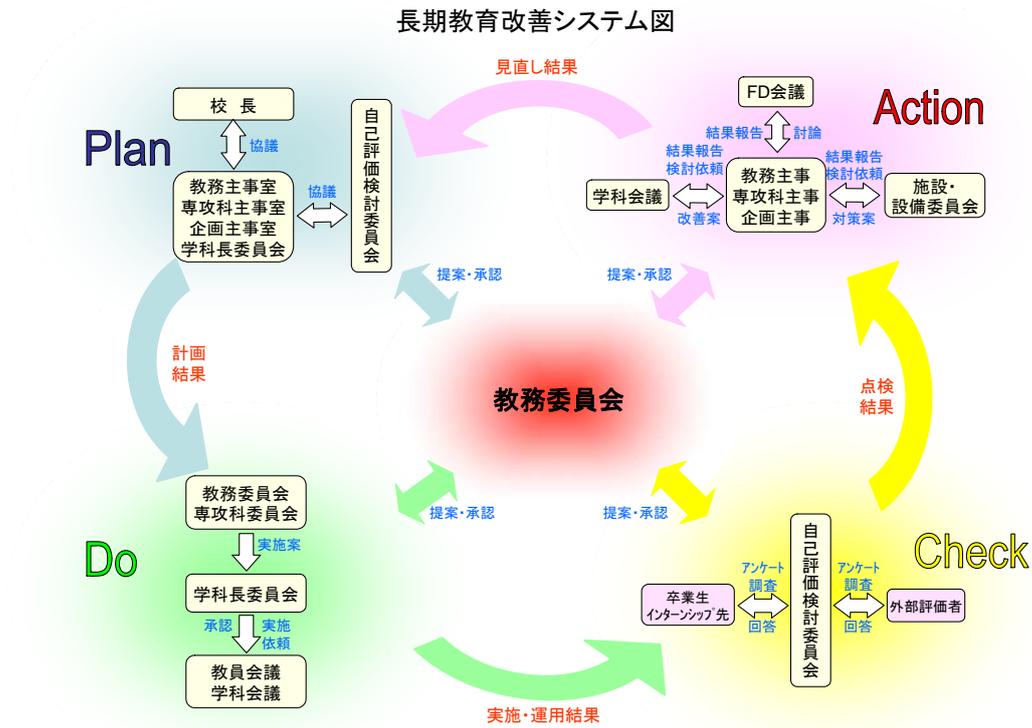


機械工学プログラム 電気電子工学プログラム 制御情報工学プログラム



生物応用化学プログラム 材料工学プログラム

資料 9 - 1 - ④ - 2



主事室: 主事と主事補の総称

出典: 平成18年度第3回学科長委員会資料

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況) 本校では、教育研究活動を将来にわたり安定して遂行するために必要な土地、建物などの資産を有している。また、未払いとなっている過大な債務は保有していない。これらのことは、平成17年度末の資産保有状況及び平成17年度の貸借対照表より分かる(資料10-1-①-1、1-①-2)。

(分析結果とその根拠理由) 本校は、教育研究活動を将来にわたって安定して遂行するために必要な資産を有しており、また未払いとなっている過大な債務はない。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況) 本校の教育研究活動を遂行する基本的な収入は、高専機構本部から送金される運営費交付金、施設整備費補助金のほか、授業料など(授業料、入学料、検定料)、財産貸付料などの収入であり、加えて奨学寄附金、共同研究、受託研究、科学研究費補助金などの外部資金がある(資料10-1-②-1)。

外部資金の確保については、学科長委員会で毎月の報告を行い、積極的に取り組んでいる(資料10-1-②-2、訪問調査時に提示)。

(分析結果とその根拠理由) 本校は、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な経常的収入が継続的に確保されている。その根拠は、運営費交付金により、学校運営に必要な基本的な経費が確保されていること、授業料、入学料、検定料などの経常的収入に加えて、外部資金が確保できていることである。ただし、毎年1%(効率化係数)削減されていく中で、今後さらなる収入の確保が必要になる。

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況) 本校では、予算配分の基本方針に関すること、教育研究費及び教育研究旅費の予算配分案に関すること、その他予算に関することは予算委員会で検討し、検討結果は、さらに学科長委員会に諮られ審議、決定された上で各学科の学科会議を通じ全教員に周知される。予算委員会は、主事、学科長、会計課長で構成し、高専機構本部から示された配分予算に対し、常勤教職員人件費等義務的経費を除き、教育研究経費、管理経費などの各項目について、所要見込額、実績額、必要事項などを調査の上、策定している。

(分析結果とその根拠理由) 本校は、高専機構本部から示された配分予算に基づき、支出に係る所要額などを調査の上、予算配分計画を策定、予算委員会で検討された予算配分案は、学科長委員会での審議を経て、教職員に明示している。

観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況） 本校においては、予算委員会及び学科長委員会で審議、決定された予算配分計画に基づき、予算を執行している。支出については、機構共通の財務会計システムにおいて毎月の締め作業を行い管理している。なお、平成17年度損益計算書を資料10-2-②-1に示す。

（分析結果とその根拠理由） 本校の支出については、機構共通の財務会計システムにおいて毎月の締め作業を行い管理している。過大な支出超過とはなっていない。

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況） 本校の資源配分の全体計画は、高専機構本部から示された配分予算に対し、常勤教職員人件費等義務的経費を除き、教育研究経費、管理経費などの各項目について、所要見込額、実績額、必要事項などを調査の上、策定している（資料10-2-③-1、訪問調査時に提示）。教育研究経費は、教育研究経費と基盤経費に大きく分類し、教育研究経費は、特別教育経費（産学民連携推進費、JABEE受審経費、メディア教育充実費など）、教育・研究経費などに、一方、基盤経費は、入試経費、印刷製本費、通信費、光熱水料、学生相談室経費、校内環境整備費などに分類し配分する（資料10-2-③-2、訪問調査時に提示）。

各項目の内容は、各主事、センター長などへ照会し、全校的なもの、重点的なものを取込んでいく。教育研究に直接必要な経費は、実績額及び配分基準などにより算定し、効果的な活用を図るため、教員ごとではなく学科などごとに配分している。

施設の営繕、改修のうち大規模施設整備については、本校の教育環境改善計画を基に施設概算要求を行っている。現在、平成17年度補正予算により、電気電子工学科棟校舎改修を進めており、これにより計画の専門棟は整備されることになる。

実験実習設備の今日化、高度化に向けた設備充実については、一定額の予算確保の必要があり、既定予算での確保が不十分である。教育研究特別経費などの要求を行ってはいるが、予算化が難しい現状である。

（分析結果とその根拠理由） 本校では、教育研究経費、管理経費などの各項目について、予算委員会及び学科長委員会の審議を経て学校の目的を達成するための必要経費を確保しており、適切に資源配分がなされているが、実験実習設備の今日化、高度化に向けた設備充実については、十分とは言えない。毎年1%（効率化係数）の削減もあり、今後、経費面での工夫が必要である。

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況） 法人の財務諸表などの公表については、独立行政法人通則法第38条の規定に基づき、本校を設置している独立行政法人国立高等専門学校機構として、平成16年度からの法人化に伴い、ホームページなどで公表されている。

（分析結果とその根拠理由） 財務諸表などは、独立行政法人国立高等専門学校機構として公表されている。

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況) 本校の財務会計の処理手順などについては、平成17年2月8日～10日に法人本部が契約している会計監査法人である中央青山監査法人の指導を受けながら執行してきた。平成18年1月18日～20日には独立行政法人国立高等専門学校機構の監事監査及び会計監査が行われた。会計監査の内容は、役務契約、外部資金の導入状況をはじめ本校の財務会計全般についてであり、財源の有効活用、今後の改善に向けた指導を受けた。

監事監査の報告は、独立行政法人国立高等専門学校機構監事監査要綱により、毎年度、高専機構理事長へ報告される。

(分析結果とその根拠理由) 本校では、財務に対して監事監査を通し、適正な会計監査が行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 奨学寄附金、共同研究、受託研究、科学研究費補助金などの外部資金の確保については、学科長委員会で毎月の報告を行い、積極的に取り組んでいる。

教育研究に直接必要な経費は、実績額及び配分基準などにより算定し、効果的な活用を図るため、教員ごとではなく学科などごとに配分している。

(改善を要する点) 運営費交付金については、毎年効率化による削減を受ける。今後、効率的な工夫、活用を図る必要がある。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校は、教育研究活動を将来にわたり安定して遂行するために必要な土地、建物などの資産を有するとともに、授業料、入学科、検定料などの自己収入に加え、高専機構本部から配分される運営費交付金、施設整備費補助金などの経常的収入が確保されている。また、奨学寄附金、共同研究、受託研究、科学研究費補助金などの外部資金の確保にも積極的に取り組んでいる。

高専機構本部から示された配分予算は、常勤教職員人件費等義務的経費を除き、教育研究経費、管理経費などの各項目について、所要見込額、実績額、必要事項などを調査の上、予算配分計画を策定、予算委員会で検討された予算配分案は、学科長委員会での審議を経て、教職員に明示している。校内審議を経て適切に資源配分がなされているが、効率化による毎年1%程度の削減もあり、今後、経費面での工夫が必要である。

施設建物などの環境改善については、本校の教育環境改善計画を基に施設概算要求を行っている。現在、平成17年度補正予算により、電気電子工学科棟校舎改修を進めており、これにより計画の専門棟については整備されることになる。

財務諸表などについては、平成16年度からの法人化により、独立行政法人国立高等専門学校機構として公表される。

資料10-1-①-1

資産保有状況一覧

				(平成17年度末)	
資 産	種 類	数 量	単 位	金 額	
有形固定資産	土地	107,214	m ²	4,119,600,000円	
	建物	29,987	m ²	2,131,885,001円	
	構築物		式	258,300,438円	
	車両運搬具		式	2,426,726円	
	工具器具備品		式	96,664,643円	
	美術品・収蔵品		式	3,500,000円	
	建設仮勘定			7,497,000円	
	計			6,619,873,808円	
無形固定資産	特許権		式	693,265円	
	電話加入権		式	162,000円	
	特許権仮勘定		式	481,372円	
	計			1,073,032円	

出典：財務会計システムより抜粋

資料10-1-①-2

貸借対照表（平成17年4月1日～平成18年3月31日）（抜粋）

（資産科目）	（資産金額）	（負債・資本科目）	（負債・資本金）
[資産の部]	7,040,810,277	[負債の部]	506,245,025
流動資産	419,599,832	流動負債	440,548,369
現金及び預金	417,341,808	運営費交付金債務	7,960,215
現金	0	授業料債務	0
当座預金	0	承継剰余金債務	0
普通預金	407,341,808	預り施設費	0
定期預金	10,000,000	預り補助金等	0
その他預金	0	預り寄附金	15,835,151
有価証券	0	前受受託研究費等	2,700,000
有価証券	0	前受受託事業費等	0
受取手形	0	短期借入金	0
受取手形	0	1年以内返済予定長期借入金	0
未収学生納付金収入	0	未払金	389,736,725
未収学生納付金収入	0	未払消費税等	0
棚卸資産	2,000,000	未払費用	20,468,571
未成研究支出金	2,000,000	給与	4,882,867
未成事業支出金	0	法定福利費	173,494
貯蔵品	0	賃借料	236,565
未収入金	0	水道光熱費	7,439,737
未収入金	0	未払利息	0
前渡金	0	その他未払費用	7,735,908
前渡金	0	前受金	0
前払費用	163,404	預り金	3,847,707
前払費用	163,026	科学研究費	0
法定福利費	121,293	社会保険料	0
未経過賃借料	0	源泉所得税等	2,693,400
未経過保険料	41,733	職員宿舍貸付料	0
未経過支払利息	0	その他預り金	1,154,307
その他の前払費用	378	前受収益	0
未収収益	0	前受利息	0
未収収益	0	その他前受収益	0
短期貸付金	0	引当金	0
短期貸付金	0	賞与引当金	0

出典：財務会計システムより抜粋

資料10-1-②-1

収入確保の状況（授業料、外部資金等）

奨学寄附金

(千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	21	21	22	26	27
受入金額	15,450	21,125	15,496	15,009	15,246

共同研究（収入ベース）

(千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	22	27	38	30	26
受入金額	6,200	10,906	10,375	10,605	8,400

受託研究

(千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	2	—	—	3	2
受入金額	2,421	—	—	5,500	2,952

科学研究費補助金

(千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	8	6	7	5	4
受入金額	10,100	7,600	7,135	4,400	3,100

授業料

(千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入金額	224,340	225,357	237,248	216,192	252,997

入学料及び検定料

(千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入金額	29,399	30,443	29,670	29,954	29,469

講習料

(千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入金額	596	193	648	252	0

出典：年度別収入額調

資料10-2-②-1

損益計算書（平成17年4月1日～平成18年3月31日）（抜粋）

(勘定科目表示名称)	(明細金額)	(金額)	(合計金額)	(勘定科目表示名称)	(合計金額)
[経常費用]				[経常収益]	
業務費				[経常収益] 運営費交付金収益	1,371,421,258
教育・研究経費				[経常収益] 授業料収益	
消耗品費		52,833,285		[授業料収益] 授業料収益	264,551,950
備品費		14,713,193		授業料収益] 講習料収益	
印刷製本費		1,863,117		[経常収益] 入学金収益	21,089,600
水道光熱費				[経常収益] 検定料収益	8,380,200
電気料	16,970,249			[経常収益] 受託研究等収益	
ガス料	5,771,803			受託研究収益	2,952,000
水道料	11,657,475	34,399,527		共同研究収益	6,450,000
旅費交通費		18,417,630		[経常収益] 受託事業等収益	0
通信運搬費		1,762,673		[経常収益] 補助金等収益	0
賃借料		3,575,915		[経常収益] 寄附金収益	14,810,304
車両燃料費		0		[経常収益] 施設費収益	15,469,650
福利厚生費		0		[経常収益] 資産見返負債戻入	
保守費		7,369,208		資産見返運営費交付金等戻入	741,916
修繕費		5,612,503		資産見返補助金等戻入	0
損害保険料		30,750		資産見返寄附金等戻入	140,000
広告宣伝費		0		資産見返物品受贈額戻入	26,620,881
行事費		0		特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0
諸会費		925,350		[経常収益] 財務収益	
会議費		0		受取利息	2,950
委託調査研究費		0		その他の財務収益	608
文献複写費		0		[経常収益] 雑益	
支払派遣費		0		財産貸付料収入	4,894,877
プログラム開発費		0		文献複写料	0
支払報酬				物品受贈益	0
諸謝金	130,700	130,700		債権受贈益	0
奨学費				承継剰余金債務戻入	0
奨学交付金	11,554,050			その他の雑益	356,199
留学生給与		0	11,554,050	[経常収益]	合計 1,737,882,393

出典：財務会計システムより抜粋

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況) 学校教育法第72条の3項に規定されているように、本校では教務、学生、寮務の3主事が置かれ、それぞれの主事は校長の命を受け、教務主事は教育計画の立案、その他教務に関することを、学生主事は学生の厚生補導に関することを、寮務主事は寄宿舍における学生の厚生補導に関することを、それぞれ掌握している。また、専攻科運営に関することを掌握する専攻科主事及び自己評価や外部評価などを統括する企画主事が置かれ、5主事体制で校務運営の効率・円滑化を図っている。各主事のもとには複数の主事補が配置され、運営を補佐している(資料11-1-①-1)。最終的な意思決定の審議委員会として、委員長である校長、5主事、各学科長に加え、事務部長をはじめとする事務系の管理職が出席する学科長委員会があり、教職員への周知事項の報告や懸案事項の審議・決定などを行っている。各種委員会の役割については、委員会規則で明確に規定されており、各種委員会における審議事項に対しては学科長委員会に諮られる。学科長委員会における報告事項及び審議・決定事項は、速やかに学科長や事務管理職を通して、全教職員に周知される。また、特に重要な決定事項や審議事項については、教員会議に諮られ、校長が決定することになっている。

(分析結果とその根拠理由) 本校では、教務主事、学生主事及び寮務主事の他に、専攻科主事及び企画主事が置かれている。それぞれの主事のもとには、数名の主事補が配置され、校務運営の効率・円滑化を図っている。また、最終的な意思決定の審議委員会としては、校長、5主事、各学科長に加え、事務部長をはじめとする事務系の管理職が出席する学科長委員会があり、報告事項及び審議・決定事項は速やかに全教職員に周知される体制を整えている。

観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況) 管理運営は、校長の指示のもと「各主事室」→「各種委員会」→「学科長委員会」→「校長」の流れで執り行われている。学科長委員会に先立ち、校長、5主事及び事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長により、各主事のもとに置かれている主事室並びに委員会などで企画立案・審議・討議された事項の報告などが、連絡・調整、審議される。その結果が、定期的開催される「学科長委員会」に報告・提案され、審議された後、最終的に「校長」が決裁する体制となっている。各主事のもとには、教務委員会、厚生補導委員会、寮務委員会、専攻科委員会、自己評価検討委員会などの各種委員会が組織されているが、校長、各主事及び事務管理職の連携は綿密に取れており、必要に応じて協議し校長が必要事項を指示できる体制となっている(資料11-1-①-1)。

(分析結果とその根拠理由) 管理運営は、校長が委員長として取りまとめる「学科長委員会」を中心に行われている。さらに、5主事を中心にした各種委員会が組織化され、各委員会での討議内容は、学科長委員会で審議され、校長が最終的な意思決定を行う。校長、各主事及び事務管理職の連携は取れており、必要に応じて協議し校長が必要事項を指示できる体制となっている。さらに、

決定事項を含めた学科長委員会の会議報告は、学科長、課長を通じて全教職員に情報が流れるようになっており、効果的な管理運営体制が採られている。

観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

（観点到に係る状況） 管理運営の諸規定としては久留米高専学則、各種委員会の規則、内部組織規程及び久留米高専事務組織及び事務分掌規則があり、それに従って管理運営が適切になされている（資料 1 1 - 1 - ③ - 1、訪問調査時に提示）。

（分析結果とその根拠理由） 管理運営が円滑になるように業務を定めた諸規程が整備されている。

観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点到に係る状況） 平成3年度9月に久留米工業高等専門学校自己評価検討委員会設置要項を制定し（資料 1 1 - 2 - ① - 1、訪問調査時に提示）、平成4年度から平成14年度まで6回の久留米工業高等専門学校自己点検・評価協力者会議を開催し、外部評価を行ってきた。この評価に基づいて、学校の管理運営の改善を図ってきた。また、平成14年度には外部評価協力者会議と改称して学校全体の自己点検・評価を実施するとともに、各学科でJ A B E E 審査受審に向けた準備を進めて平成16年度にJ A B E E 審査を受け、学科ごとの自己点検・評価を行った。さらに、学校全体の点検を行うことを目的とし、平成16年度に、大学評価・学位授与機構が行う認証評価の試行審査を受審し、学校組織としての第三者評価も行ってきた。

しかし、学校全体での自己点検・評価あるいは学科ごとの自己点検・評価を進めた結果、学校の規模に対して自己点検・評価システムが複雑化しすぎたため、平成17年度に自己点検・評価システムの大幅な見直しと簡素化を図り、企画主事を中心とする自己点検・評価体制に変更した（資料 1 1 - 1 - ① - 1）。これに基づいて、平成18年度中に自己点検・評価のための外部評価委員会（資料 1 1 - 2 - ① - 2、2 - ① - 3、ともに訪問調査時に提示）を開催する予定である。

（分析結果とその根拠理由） 地域の有識者を委員に委嘱して意見を聴取するシステムが整備され、適宜自己点検・評価協力者会議あるいは外部評価協力者会議が実施されてきた。また、学科ごとにJ A B E E を受審し、細部まで自己点検・評価を行い、評価結果を学校運営に反映させてきた。平成18年度からは、改めて学校全体の自己点検・評価を行う組織を整備し直し、外部評価の結果を効果的に学校運営に生かすことになっている。

観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点到に係る状況） 平成3年度より実施してきた本校の活動の総合的な状況についての外部評価結果は、冊子にまとめ全教職員に配布し周知徹底を行ってきた。また、冊子は関係諸機関に配布し、公表に努めてきた（資料 1 1 - 3 - ① - 1）。さらに、平成16年度に受審した認証評価の試行審査結果については、大学評価・学位授与機構のホームページに公開され、公表されている。さらに、J A B E E 審査を通して学科ごとに自己点検・評価が行われ、その評価結果は教職員に周知されている。本校の各学科の教育プログラムが一定の水準を満たしていることが公表されている。

(分析結果とその根拠理由) 本校の活動の総合的な状況についての外部評価結果は、冊子にして全教職員に配布され、結果の周知が行われている。また、外部にも公表されている。

資料 1 1 - 3 - ① - 1

平成 1 4 年度久留米工業高等学校専門学校の現状と課題 配布先

全国高専	61	国立 5 3、その他 8
文部科学省	27	
国専協	1	
本校名誉教授	24	
中学校	42	北筑後教育事務所関係・鳥栖市・三養基郡
教育委員会	11	
大 学	17	九州地区大学工学部、豊橋・長岡技術科学大学
研究機関その他	6	
企業関係	83	
自己点検・評価協力者会議委員	19	
学外同窓会役員	26	理事以上（名誉教授を除く。）
学外後援会役員	28	
計	345	

出典：庶務課資料

観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況) 本校の自己点検・評価に対する外部有識者あるいは第三者機関による評価結果で指摘された改善事項については、学科長委員会に報告され、教員会議などを通じて全教職員に報告されることになっている(資料11-1-①-1)。この評価結果を受けて、校長の指示のもと企画主事・主事補が中心となって、関係する委員会や各学科に、速やかに改善案の検討を依頼する。提出された改善案について検討・立案し、関係する委員会及び学科長委員会で審議された後、校長が決定し、実施できる体制を整備している(資料11-1-①-1)。

(分析結果とその根拠理由) 外部有識者あるいは第三者機関による評価結果は、全教職員に周知される。校長の指示のもと、企画主事・主事補が評価結果を分析し、関係する主事室や各学科に問題点を指摘して改善策の検討を依頼する。各主事室は改善策の立案、検討を行い、関係する委員会及び学科長委員会で審議した後、改善策を実施する体制が整備され運営されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校では教務主事、学生主事及び寮務主事に加え、専攻科主事及び企画主事を配置することで効果的に意思決定できる管理運営体制をとっている。

平成4年度から平成14年度まで6回の久留米工業高等専門学校自己点検・評価協力者会議を通して外部有識者からの外部評価を受け、この評価に基づいて学校の管理運営の改善を図ってきた。平成16年度には、認証評価の試行審査、及び学科ごとのJABEE審査を受審するなど、積極的な自己点検・評価を行って教育の改善に結びつけている。

(改善を要する点) 該当なし。

(3) 基準11の自己評価の概要

本校では、効果的な意思決定を行うために教務主事、学生主事及び寮務主事のほかに、専攻科主事及び企画主事が置かれ、各主事のもとには、数名の主事補を配置し、校務運営の効率・円滑化を図っている。また、最終的な審議委員会としては、校長、5主事、各学科長に加え、事務部長をはじめとする事務管理職が出席する学科長委員会があり、校長が最終的な意思決定を行う。学科長委員会における報告事項及び審議・決定事項は速やかに全教職員に通知される体制を整えている。さらに管理運営面に関する意思決定プロセスにおいて、必要に応じて外部有識者の意見を有効に反映させるために、平成4年度より学校全体及び学科ごとに外部評価を実施するとともに、本校構成員に周知してきたが、平成17年度から大幅に自己点検・評価システムの見直しと簡素化を図り、企画主事を中心とする自己点検・評価体制に変更した。平成18年度中に自己点検・評価のため外部評価委員会を開催する予定である。

IV 選択的評価事項に係る目的

選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

研究のポテンシャルを向上させて教育の質の向上や技術の進展に対応した実践的技術者教育を行うとともに、産学民連携を推進して地域の技術振興に貢献するため、以下の目的を設定する。

1. 研究の成果を準学士課程の教育（卒業論文を含む）や専攻科課程の研究指導に反映させ、技術教育の質の向上を図る。
2. 産学民連携推進センターによる地元企業、商工会議所とのフォーラムや交流会の開催を通して共同研究、受託研究の振興を図る。
3. 共同研究、受託研究等による外部資金の導入を活性化する。
4. 知的財産権に係る活動を支援するシステムを整備する。
5. 地域共同テクノセンターを設立して共同研究を推進する。
6. 上記1～4の活動を支援し、問題点があれば改善していくシステムを整備する。

選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的)

以下の活動を通して、地域社会への貢献、社会の多様なニーズに対応した教育サービスを行い、本校に対する社会の理解を得ることを目的とする。

1. 中学生を対象とした久留米高専オープンキャンパス（体験セミナー）を実施し、中学生が本校に一層興味をもてるように改善していく。
2. 大学等との単位互換制度を推進する。
3. 九州沖縄地区高専の専攻科学生を対象としたサマーレクチャーを実施する。
4. 地元企業や市民を対象とした公開講座を実施する。
5. 地元企業や他高専とのフォーラム、シンポジウムを開催する。
6. 科学技術に関する地域イベントに参加する。
7. 久留米市民大学講座、地元小中学校への理科教育、教員研修への出張講義を行う。

選択的評価事項A 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 高専における研究の目的は、高等専門学校設置基準第2条2に「高等専門学校は、その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように務めるものとする」と規定され、国立高等専門学校機構の中期目標及び中期計画の中にも盛り込まれていることは周知のとおりである。本校では、研究のポテンシャルを向上させて技術の進展に対応した技術者教育の質を高めるため、教員の内地研究員・在外研究員派遣などによる学位取得の支援、学位取得者の教員採用、紀要、論文への投稿や研究発表の評価など、研究を重視する体制をとってきた。さらに、これまで蓄積されてきた本校の知的財産を活かすべく、以下に述べるような研究体制や支援体制を整備してきた。

「地域社会への貢献」を目的として、産学民連携推進センターが平成12年4月、本校に設置された(資料A-1-①-1)。同センターは、センター長を中心に、一般科目、専門学科からそれぞれ1~2名、事務部門からの3名、及び平成15年度に任用された本校コーディネーター1名で構成される。また同センターを支援し、地域産業の技術開発や技術教育の振興を図ることを目的に、地域企業、公的研究機関、久留米商工会議所及び久留米市役所のメンバーで構成される「久留米高専産学民連携推進協力会」が平成13年6月に設立された。この協力会では、年2回の「商品技術・研究発表会」並びに久留米高専産学民連携フォーラムを開催している(資料A-1-①-2)。さらに本校の連携活動の協力・支援組織として、久留米商工会議所製造部会(205社)、ゴム部会(32社)、食品部会(398社)及び中小企業家同友会久留米支部(220社)が挙げられ、各々年1~2回、交流会及び講演会を開催している。このような連携組織との活動を通して、地域産業のニーズを把握するとともに、本校教員の研究シーズを発信するなど、技術交流、共同研究のための情報交換を推進している。

産学民連携推進センター発足以来、上記の活動の主体は本校教員であったが、平成15年度からは本校コーディネーターのほかに福岡県派遣のコーディネーター2名(久留米リサーチパーク所属)との連携も図り、共同研究に関する取組を一層強化するよう体制を整えた。このような取組の結果、産学民連携推進協力会の会員数は、平成16年4月時点において64団体を数えるに至った(資料A-1-①-3)。

本校では、それぞれの専門学科の特徴を活かした地域連携の取組も行っている。生物応用化学科においては、バイオ研究分野における産学民連携推進の一環として福岡県バイオバレー構想に参画し、平成16年9月より福岡バイオインキュベーションセンター(久留米市)(資料A-1-①-4)内に実験室を設置した。研究テーマとしては、「有用微生物のスクリーニング及びその遺伝子的応用・開発」が挙げられ、本校に設置されていないP2ルーム(バイオハザード・レベル2対応)利用による研究・開発の効率化が期待される。それぞれの研究は、準学士課程学生並びに専攻科学生の研究テーマとなっており、さらにその一部は地域連携の共同研究として推進されている。さらに、久留米リサーチパーク、福岡県工業技術センター生物食品研究所、宮ノ陣ビジネスパークなど、地域の研究機関との連携も図られている。

知的財産権に関しては、その活動を一層活性化させるべく、平成17年6月に発明委員会から知的財産委員会へと改組した(資料A-1-①-5)。これまでの出願件数は多くないが、体制は整

備されており、今後、取組を強化させていく考えである。

(分析結果とその根拠理由) 本校では、高等専門学校設置基準に規定された高専における研究の目的に沿った研究が実施され、その支援体制が整備されている。また、地域社会に根ざした産学民連携を推進するために、産学民連携推進センターが設置されている。地域の協力体制も整備されており、フォーラム開催など活発な活動が行われ、多くの共同研究が実施されている。したがって、必要な研究体制及び支援体制は適切に整備され機能している。

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況) 本校教員による研究活動は、研究論文数及び学会発表件数の推移から分かるように大変活発であり、研究成果に関して毎年数多くの外部発表がなされている(資料A-1-②-1)。

資料A-1-②-1 研究論文数及び学会発表数の推移			
種類 \ 年度	H14年度	H15年度	H16年度
研究論文数	62	66	64
口頭発表数	74	75	63

出典：久留米高専紀要第19巻～第21巻

資料A-1-②-5 共同研究数の推移			
実施年度	H15年度	H16年度	H17年度
共同研究数	38	30	26

出典：庶務課

また、外部資金の獲得状況に関しては、産学民連携推進協力会を中心とした支援組織との連携強化の結果、特に民間企業からの奨学寄附金、共同研究費及び受託研究費の受け入れ件数並びに総額が過去3年間高い水準を維持している(資料A-1-②-2)。教員が、種々の学協会などから受賞した表彰実績も上がり始めた(資料A-1-②-3)。また、本校教員による教育指導の結果、ロボットコンテストやプログラミングコンテストなどにおいて、本校学生が毎年優秀な成績を残している(資料A-1-②-4)。これらのことは、教員の研究活動は十分に高いレベルにあり、同時に教育研究の分野においてもそのレベルの維持・向上を達成する上で、十分に満足できるものであることを示している。

本校では、産学民連携推進協力会を中心として、中小零細企業をも含めた全技術分野にわたる共同研究について、地域に根ざした取組を行っている。過去3年間の共同研究数の推移(資料A-1-②-5)並びに平成17年度に実施された共同研究テーマ一覧(資料A-1-②-6)から明らかのように、毎年数多くの共同研究が実施されており、その内容も地域の代表産業であるゴムの製造や廃棄物処理に関する研究をはじめとし、地元企業のニーズに的確に応えるものとなっている(資料A-1-②-7)。

さらに、「商品技術・研究発表会」や産学民連携フォーラムも毎年開催されており、産学民連携の強化が図られた結果、産学民連携推進協力会の会員数も発足当時の50数団体から64団体に増加している(資料A-1-①-3)。

(分析結果とその根拠理由) 研究論文数や研究発表件数及び外部資金獲得状況から、本校の研究活動は活発になされており、教員の研究成果に対する学協会などからの表彰として実を結びつつある。また、教員の指導によってロボットコンテストやプログラミングコンテストなどにおいて毎年優秀な成績を残していることから、研究の成果を教育に反映させるという目的に沿った活動の成果が上がっている。また、産学民連携推進センターを中心として、地域ニーズに根ざした研究テーマが数多く設定され、共同研究が推進されている。

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況) 本校では、従来から各教員の研究活動業績を、各学科の紀要編集委員が汲み上げ、校長を委員長とする紀要編集委員会にて集積した後、「久留米工業高等専門学校 紀要」に掲載し、内外に公開してきた(資料A-1-③-1)。共同研究や受託研究などの受け入れ状況については、産学民連携推進センターが把握しており、また、新たな共同研究・受託研究の採択を目指して、各教員のシーズ集(資料A-1-③-2、訪問調査時に提示)を発行し、近隣企業などへの配布を行うなどの試みがなされている。さらに、学科長委員会及び教員会議などの機会を捉えて、校長及び教務主事より、科研費申請が採択されるような研究、本校全体あるいは複数学科が連携したプロジェクト的な研究、企業との共同研究などを活発に行うよう、周知が図られている。加えて、科研費の採択件数の増加を図るために、説明会を兼ねた事前研修会を実施している。今後の取組として、本校の内部での科研費的な位置づけで、校長裁量経費の重点配分を行うことなどについて検討を進めている。

(分析結果とその根拠理由) 本校では、研究活動の実施状況や改善点を集約する体制は特に組織していないが、学科長委員会が、それらを集約する機能を有しており、内外への周知も紀要の発刊や産学民連携推進センターを通じて活発に行われている。現在では、教員会議が定期的に関催され、研究を活発化する取組や改善点を集約するといったことも継続的に議論されている。校長裁量経費の重点配分についても検討が進められている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 「地域社会への貢献」を目的に、産学民連携推進センターが設置されている。また同センターをサポートする組織としては、64団体からなる「久留米高専産学民連携推進協力会」をはじめとし、久留米商工会議所各部会並びに中小企業家同友会久留米支部が挙げられる。これらの多数の地元企業とは、産学民連携フォーラムや交流会の開催を通して、連携活動のための情報交換が行われており、その結果、企業ニーズに応える共同研究が実施されるなど、地域産業の技術開発や技術教育の振興が図られている。また、教員の指導によって、ロボットコンテストやプログラミングコンテストなどにおいて本校学生が毎年優秀な成績を残しており、目的に沿った研究・教育活動の成果が上げられている。

(改善を要する点) 該当なし。

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

久留米高専産学民連携推進センターが「地域社会への貢献」を目的に、平成12年4月、本校に設置された。また同センターを支援する組織として、地元企業、公的研究機関、久留米商工会議所及び久留米市役所から構成される「久留米高専産学民連携推進協力会」が平成13年6月に設立された。さらに本校の連携活動の協力・支援組織としては、久留米商工会議所各部会及び中小企業家同友会久留米支部が挙げられ、久留米高専産学民連携フォーラムや交流会を通して、地域産業のニーズの把握並びに本校教員の研究シーズの発信を行うなど、連携活動のための情報交換を推進している。

平成15年度からは本校コーディネーターのほかに福岡県派遣のコーディネーター2名（久留米リサーチパーク所属）との連携も図り、共同研究に関する取組を一層強化するよう体制を整えた。このような取組の結果、産学民連携推進協力会の会員数は大幅に増加するとともに、企業ニーズに応える共同研究が実施されるなど、地域産業の技術開発や技術教育の振興が図られている。

一方で、教員による教育指導の結果、ロボットコンテストやプログラミングコンテストなどにおいて、本校学生が毎年優秀な成績を残している。これらのことから、教員の研究活動は十分に高いレベルにあり、同時に教育研究の分野においてもそのレベルの維持・向上を達成する上で、十分に満足できるものであることを示している。

研究活動の実施状況や改善点を集約する体制は特に組織していないが、学科長委員会がそれらを集約する機能を有しており、内外への周知も紀要の発刊や産学民連携推進センターを通じて行われている。現在では、教員会議が定期的開催され、研究を活発化する取組や改善点を集約することも継続的に議論され、改善が図られている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

資料A-1-①-1

久留米工業高等専門学校産学民連携推進センター規則

[平成12年4月1日制定]

(設置)

第1条 久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、産学民連携推進センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、地域産業界等との共同研究等を推進することにより、本校の教育・研究の進展に寄与するとともに、併せて地域社会における技術開発及び技術教育の振興に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域産業界等との共同研究、受託研究に関すること。
- (2) 地域産業界に対する技術相談及び学術情報の提供に関すること。
- (3) 校内の共同研究に関すること。
- (4) 学生及び研究員等への技術教育に関すること。
- (5) 地域社会における学術研究の交流に関すること。
- (6) 講習会、セミナー、公開講座等に関すること。
- (7) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター長補 若干名
- (3) センター員
- (4) その他校長が必要と認めた者

(センター長)

第5条 センター長は、本校の専任教授とし、校長が任命する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長補)

第6条 センター長補は、本校の専任教員とし、校長が任命する。

2 センター長補の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠のセンター長補の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第7条 センター員は、次の各号に掲げる職員とする。

- (1) 各学科等から選出の教員 2名
 - (2) 専攻科主事補から 1名
 - (3) 庶務課長及び会計課長
- 2 前項第1号及び第2号に掲げる者の任期は、2年とする。

(職務)

第8条 センター長は、センターに関する業務を掌理する。

2 センター長補は、センター長を補佐しセンターの業務を処理する。

3 センター員は、センターの業務を処理する。

(重要事項の取扱い)

第9条 センターに関する業務のうち、特に重要な事項で審議を必要とするときは、学科長委員会に諮るものとする。

(事務)

第10条 センターの事務は、庶務課において処理する。

(その他)

第11条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

資料A-1-①-2

平成16年度久留米高専フォーラム等実施状況

事業名	講演等の内容	開催日	参加人員
第3回久留米高専産学民 連携協力会商品技術・研 究発表会	商品技術発表会	5月28日	88名
	1. 精密恒温恒湿装置” Air Pex”		
	2. 新聞製作における当社の役割		
	3. 麺類の製造に関する技術		
第29回久留米高専産学 民連携フォーラム	研究発表会	6月24日	58名
	1. 電磁現象を利用した高周波焼入れ鋼材の表面硬さ 非破壊検査		
	2. 領域型ひずみゲージ法の開発とその応用		
第30回久留米高専産学 民連携フォーラム	シンクロトロン光が創る新たな世界	7月2日	62名
	(1) シンクロトロン光とは何だろう：その原理と性質		
	(2) シンクロトロン光で何が出来るのか：産業界への 応用		
	(3) パネル・トーキング モノを介して行動と空間にアプローチするデザイ ナーの役割について		
第31回久留米高専産学 民連携フォーラム	企業家への道	10月29日	93名
	(1) 固定観念からの脱却		
	(2) たかがタオル、されどタオル		
第4回久留米高専産学民 連携協力会商品技術・研 究発表会	商品技術発表会	3月2日	47名
	1. ナノマテリアル・フラーレン		
	研究発表会		
	1. データ圧縮、クラスタリング、ノイズ除去、パター ン認識、組合せ最適化のための自己組織化写像		
	2. 反応性架橋高分子ゲルの合成とその応用		
3. 超電導ロータリアクチュエータの制御			

出典：久留米高専フォーラム等実施状況リスト（庶務課）

資料A-1-①-3

久留米高専産学民連携推進協力会員名簿（16.4.1現在）

1 武井電機工業(株)	2 日米電子(株)
3 日米ゴム(株)	4 日本タングステン(株)
5 (株)ブリヂストン久留米工場	6 福岡酸素(株)
7 (株)久留米リサーチパーク	8 林保冷工業(株)
9 大電(株)	10 (株)筑邦銀行
11 (株)クリハラ	12 ファインフーズサービス(株)
13 久留米商工会議所	14 (株)ワイビーエム
15 久留米市	16 (有)大陽工業
17 福岡県工業技術センター生物食品研究所	18 白石工業(株)久留米営業所
19 独立行政法人 産業技術総合研究所九州センター	20 三陽ガステック(株)
21 久留米工業大学	22 (株)久栄総合コンサルタント
23 西日本新聞社久留米総局	24 ニシヨリ(株)
25 東和コーポレーション(株)	26 月星化成(株)
27 日之出水道機器(株)	28 原テクノコンサルタント
29 ノリタケ電子工業(株)夜須工場	30 (株)西部技研
31 ラサ工業(株)羽犬塚工場	32 第一精工(株)総務部人事課
33 三和システム(株)	34 福岡クロス工業(株)九州工場
35 システムラボラトリー(株)	36 塩川総合企画(株)
37 (株)小川製作所	38 昭栄化学工業(株)鳥栖営業所
39 (株)ヨコオ	40 (有)中島ゴム工業所
41 (株)栄電舎	42 日本環境(株)
43 (株)九州エルピー	44 (有)旭ゴム工業所
45 (株)中島田鉄工所	46 (株)ワキタハイテクス
47 (株)九州日立ソリューションズ久留米営業所	48 福岡県南広域水道企業団
49 (株)小林建設	50 (株)大石膏盛堂
51 (株)小林鋳造所	52 (株)アサヒコーポレーション
53 (株)筑水キャニコム	54 ブリヂストンエンジニアリング西日本(株)
55 (株)平川木材工業	56 (株)ユニ・スター
57 (有)鳥栖環境開発総合センター	58 (有)八州セメント工業所
59 まるは油脂化学(株)	60 財団法人 佐賀県地域産業支援センター
61 久留米運送(株)	62 ジャスト経営研究所
63 久留米コンピュータカレッジ	64 兼定興産(株)

出典：久留米高専産学民連携推進協力会員名簿（平成16年度）（庶務課）

資料A-1-①-4

福岡バイオインキュベーションセンター概要

プロジェクトの具体的な取り組み

[HOME](#) > [プロジェクトの具体的な取り組み](#) > インキュベーション事業

■ インキュベーション事業

[福岡バイオ
インキュベーションセンター
インキュベーション
支援サービス](#)

■ オープンラボ施設

■ ネットワーク構築促進

■ 都市エリア事業

■ 研究開発支援事業

[現在実施中のプロジェクト](#)

[これまでのプロジェクト](#)

■ 研究開発公募情報



福岡バイオインキュベーションセンター

【センター設立経緯とその役割】

福岡バイオバレー構想を推進するため、久留米地区に福岡バイオインキュベーションセンターを設置します。この施設は、バイオベンチャーや産学官共同研究プロジェクト等の受け皿として福岡バイオバレーの中核拠点となるものです。

【施設概要】

- 鉄筋コンクリート4階建て
延床面積 1365m²
- インキュベーター室 50m²×17室 (P2対応)
- 商談室4室、交流スペース
- 24時間セキュリティ完備
- 実験設備付研究室3室
(安全キャビネット、実験台、オートクレーブ)

【インキュベーター室の仕様】

[詳細はこちら](#)

【詳細】

内部画像はこちら [実験室入口](#)

- [FBIC入口](#)
- [ミーティングルーム](#)
- [セキュリティー1](#)
- [セキュリティー2](#)
- [リフレッシュルーム](#)
- [ロビー](#)

※内部を見学できます。(事前連絡必要)

【入居資格】

インキュベーションルームの
空き状況はこちら [▶▶▶](#)



外観図はこちら [▶](#)



出典：福岡バイオインキュベーションセンターホームページ
(<http://www.krp.ktarn.or.jp/fbv/incubation1.html>)

資料A－1－①－5 知的財産委員会規則

久留米工業高等専門学校知的財産委員会規則

(設置)

第1条 久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校における知的財産の管理に係る重要事項を審議するため、知的財産委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教職員等の職務発明等に係る新規性、出願の価値の予備審査に関すること。
- (2) 知的財産の権利化に関すること。
- (3) 知的財産の活用に関すること。
- (4) その他本校における知的財産に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 産学民連携推進センター長
- (2) 産学民連携推進センター員のうちから各学科等各1名
- (3) 専攻科主事補から1名
- (4) 庶務課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 前項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

- 2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
- 3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

出典：久留米工業高等専門学校規則集

資料 A - 1 - ② - 2

外部資金獲得状況の推移

奨学寄附金 (千円)			
	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	22	26	27
受入金額	15,496	15,009	15,246
共同研究 (千円)			
	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	38	30	26
受入金額	10,375	10,605	8,400
受託研究 (千円)			
	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	—	3	2
受入金額	—	5,500	2,952
科学研究費補助金 (千円)			
	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	7	5	4
受入金額	7,135	4,400	3,100

出典：会計課総務係資料

資料 A-1-②-3

教員の学協会賞等の表彰実績

賞	受賞者	年月
福岡県産業デザイン協議会 福岡産業デザイン賞/インターフェース部門	藤田雅俊	平成17年1月
実践教育訓練研究協会 研究奨励賞	後藤雄治	平成17年9月
電気学会 優秀論文発表賞	後藤雄治	平成18年3月
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長奨励賞	江崎昇二	平成18年3月
平成18年度日本材料試験技術協会賞	田中慎一	平成18年4月
(財)りそな中小企業振興財団 日刊工業新聞社 産学官連携特別賞	田中慎一	平成18年4月

出典：庶務課人事係資料

資料 A-1-②-4

各種コンテスト等における表彰実績

賞	指導者	年度
第 1 4 回全国高等専門学校プログラミングコンテスト競技部門三位	黒木祥光	平成 1 5 年
ロボットコンテスト九州沖縄地区大会アイデア賞	熊丸憲男	平成 1 5 年
第 1 5 回全国高等専門学校プログラミングコンテスト競技部門準優勝	黒木祥光	平成 1 6 年
パソコン甲子園2005プログラミング部門準グランプリ	黒木祥光	平成 1 6 年
第 3 6 回九州学生会員研究発表講演会優秀講演賞	中武靖仁	平成 1 7 年
第 2 1 回ホンダエコパワー燃費競技九州大会Gr-I (市販車クラス) 第 1 位, Gr-V (高等・専門学校クラス) 第 3 位	中武靖仁	平成 1 7 年
ロボットコンテスト九州沖縄地区大会特別賞	熊丸憲男	平成 1 7 年
第 1 6 回全国高等専門学校プログラミングコンテスト競技部門優勝	黒木祥光	平成 1 7 年

出典：学生課学生係資料

資料A-1-②-6

共同研究テーマ一覧（平成17年度）

	研 究 題 目	契 約 の 相 手 方
1	小型海水淡水化蒸留装置の開発	脇田商事株式会社
2	ゴム廃棄物用一軸粉碎機に関する研究	株式会社櫻製作所
3	ガス供給遠隔監視システム”FONET”に於ける 安定な無線データ通信機の開発	福岡酸素株式会社
4	ROBO DESIGNERを用いた系統的な学習方法に関する研究	株式会社JAPAN ROBOTECH
5	加熱装置用周波数可変デジタル制御回路の開発	株式会社イズミフードマシナリ
6	製造コスト管理システム	株式会社栗木商店
7	低速型二軸ビーズミルの粉碎分散性能に関する研究	アシザワ・ファインテック株式会社
8	エチレンオキサイドの除去に関する研究	福岡酸素株式会社
9	ゴム混練機の混合性能に関する研究	株式会社モリヤマ
10	自動車排気ガスに関する調査研究	立山自動車工業有限会社
11	医薬品包装における薬効成分の吸着・バリア特性に関する研究	丸東産業株式会社
12	太陽熱を利用した海難救命用海水淡水化蒸留器に関する研究	株式会社ファサード
13	渦電流法を使用したボールベアリング検査装置の開発	センサ・システム株式会社
14	接触不良による電気機器の端子接続部の発熱・発火現象の研究	松下電工株式会社 情報機器 分社配線器具事業部
15	ニトリルゴムラテックスの乾燥特性に関する研究	株式会社東和コーポレーション
16	CFRP積層板加熱炉の開発	株式会社ワキタハイテクス
17	屋上緑化土「かるいちばん」の高設栽培用土壌への 改良に関する研究	兼定興産株式会社
18	剪定枝及び雑草の優良堆肥化における分解菌の スクリーニング並びにその分解能力強化菌の開発	有限会社共栄資源管理センター小郡
19	ドライフラワー製作における脱色・着色技術の確立	株式会社レンデフロール
20	小モジュール超硬多条仕上げホブによる高硬度歯車の 歯切り精度向上に関する研究	株式会社カシフジ
21	果実袋の効果性に関する研究	江見製袋株式会社
22	水素発生用活性陰極の開発	クロリンエンジニアズ株式会社
23	トイレの尿漏れ吸収回収装置の開発	有限会社九環
24	食品製造現場における糸状菌防止対策及び有用菌の探索	三池食品工業株式会社
25	太陽電池を電源とした無線データ通信機器の開発	福岡酸素株式会社
26	ご飯の食感を損なわないで、保水性・防腐蚀性・ 防カビ性を付与する技術の共同研究	有限会社ブーランジュリー寿

出典：庶務課資料

資料A-1-②-7

共同研究テーマ関連報道記事

剪定ゴミを堆肥に加工



出来上がった堆肥＝小郡市上岩田で

小郡市の清掃会社、共栄資源管理センターが久留米市の久留米高専との共同研究で、剪定後にゴミとして家庭から出された枝葉を堆肥にし、14日から3日間の日程で無料配布を始めた。「家庭栽培などに利用してもらえれば」と話している。

小郡の会社、久留米高専と共同研究

同社は、剪定ゴミの収集を小郡市から請け負い、1カ月に平均約40トンを収集。枝葉などを3〜8ミリのチップ状に粉碎して市内の農家に渡し、農家は堆肥の原料として利用している。今回、「排出した地域で再利用されてこそ本当のリサイクル」と自社で堆肥化を企画し、久留米高専と共同研究を始めた。昨年12月末から、会社は堆肥の原料としてリサイクルしていた。

野崎千尋社長は「カーデニングや野菜の栽培などに利用してもらい、枝葉もリサイクルできることを住民に実感してもらいたい」と話す。秋にも一度腐葉土を作り、堆肥作りを続けたいとしている。

「家庭栽培に利用を」

無料配布は14日から16日の午後1〜4時、いずれも同市上岩田の同社駐車場。先着150人で1人につき20リットル入り袋1袋まで。問い合わせは同社（0942・72・0497）へ。

出典：朝日新聞（筑後版）平成17年4月15日

資料A-1-③-1

久留米工業高等専門学校紀要編集委員会規則

[昭和60年4月1日制定]

第1条 この規則は、久留米工業高等専門学校紀要出版規則第4条第2項の規定に基づき、久留米工業高等専門学校紀要編集委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

第2条 委員会は、紀要の編集、刊行に関し必要な事項を協議する。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 専攻科・教務主事補から各1名
- (4) 各専門学科から各1名
- (5) 一般科目から5名（数学、物理・化学、外国語、国語・人文及び体育部門からそれぞれ1名）
- (6) 庶務課長
- (7) その他校長が必要と認めた者

第4条 前条第3号、第4号及び第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

第5条 委員会の委員長は校長とする。

第6条 委員会に副委員長を置き、委員の互選によって定める。

第7条 委員会の事務は、図書係で処理する。

第8条 投稿についての内規は、別に定める。

附 則

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

2 久留米工業高等専門学校研究報告編集委員会規則（昭和46年4月1日制定）は、この規則施行の日から廃止する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

出典：久留米工業高等専門学校規則集

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況) 高等専門学校設置基準第21条において、当該高等専門学校の学生以外の者への授業科目の履修を認め、単位の認定を行っている。また、学校教育法第69条において公開講座の施設を設けることができると規定されている。本校ではこれらを踏まえ、社会に開かれた学校として本校の持つ資産を活用し、これらのサービスに取り組んでいる。

特定の専門事項に関して研究を志願する者に対しては研究生制度が、専門の授業科目について聴講を志願する者に対しては聴講生制度が、さらに所定の授業科目について履修を志願する者に対しては単位を修得できる科目等履修生の制度がそれぞれ設定されている(資料B-1-①-1)。また、本校は久留米市内にある久留米大学、久留米工業大学、久留米信愛女学院短期大学及び聖マリア学院短期大学と平成16年に「久留米市内大学等单位互換に関する協定書」(資料B-1-①-2、訪問調査時に提示)を締結した。これにより、本校は専攻科の指定された科目にこれらの大学などに在籍する単位互換学生を「特別聴講生」として若干名受け入れている。

また、様々な形態・対象者向けに公開講座や講習会などを実施している。中学生向けには、夏休み期間を利用し公開講座を実施してきた(資料B-1-①-3)。この公開講座を拡大し、各専門学科の内容を講義・実習を通して理解をしてもらうことを目的にした「オープンキャンパス」(平成17年度より「久留米高専体験セミナー」と改称)が、開催されている(資料B-1-①-4)。

これに加え、九州・沖縄地区の各高専が連携してこれらの事業を行うため「九州沖縄地区高専科学技術教育支援WG」が組織され、合意書を締結した(資料B-1-①-5)。

さらに、他高専との連携事業としては、本校が立ち上げた九州沖縄地区高専フォーラム及び全国規模の高専シンポジウムが挙げられる。平成3年、久留米高専において「第1回久留米高専フォーラム」が開催された(資料B-1-①-6、訪問調査時に提示)。これは九州地区の化学系高専教員の交流を盛んにし、教育・研究の活性化を目的としたものである。以降3年間は久留米高専においてフォーラムが開催され、第4回以降は担当を各高専の輪番として、名称も「九州沖縄地区高専フォーラム」と改称し今日に至っている(資料B-1-①-7)。

主として専攻科学生が研究の成果を発表できる場として、「第1回西日本地区高専シンポジウム」が、平成7年、久留米市において開催された。第2回以降は全国規模の「高専シンポジウム」として学生の研究発表の場となっているばかりでなく、物質工学系に留まらず他分野へも拡大している(資料B-1-①-8)。

九州各高専合同の専攻科集中講義「九州高専サマーレクチャー」が平成15年8月に、久留米高専で初めて開催された。このサマーレクチャーは、九州地区の専攻科学生が一堂に会して講義を受講するだけでなく、お互いの親睦と友情の輪を広げることを目的としたものである。これにより高専間の単位互換が可能になった(資料B-1-①-9)。

本校の持つ設備やノウハウを利用して技術者や地元教員を支援するプロジェクトも実施している。様々な技術に関する話題・シーズを提供するための産学民連携センター主催の久留米高専産学民連携フォーラム・セミナーを平成14年度から毎年開催しており(資料B-1-①-10)、また技術者及び地元教員に対する実習講座も実施している(資料B-1-①-11)。これらの講座は当初、本校独自の公開講座として発足したが、現在はそれぞれ九州大学や福岡県/佐賀県教育委員会

と連携した経済産業省及び文部科学省のプロジェクトとして実施している（資料B-1-①-12、①-13、訪問調査時に提示）。

本校の施設を広く一般に開放し、地域の教育や様々な催し及び生涯学習の場に提供している例として、図書館の一般市民への開放があり、蔵書などの貸し出しなどを行っている（資料B-1-①-14）。さらに、本校の諸設備を研究会や講習会などの会場として開放している例としては、本校大ホールで開催された平成17年度「第19回福岡県高等学校化学クラブ研究発表会」及び「物理・地学研究発表会」（主催：福岡県高等学校化学部会）を挙げることができる。

地域の生涯学習の一助として、様々なイベントに本校学生を含むグループが参加し、生涯学習や教育支援などの地域貢献も行っている（資料B-1-①-15）。そのほか、地域の小中高校や各種団体と連携し、教員が専門性を活かして出前授業などを行っている。一例として久留米の各大学などが参加して一般市民に対し生涯学習の場を提供している「六ツ門大学」の例を示す（資料B-1-①-16）。

これら各種の取組は毎年実施され、案内や小冊子を関係機関に配布するほか、「久留米市広報」などへの案内記事の掲載やポスターによる広報を通し、各方面への周知に努めている。

（分析結果とその根拠理由） 正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的及び積極的に実施されている。その内容、対象者は多岐に渡り、本校の教育研究の成果及び資産が広く社会に還元されている。

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

（観点到に係る状況） 本校では各種活動などの終了後、参加者を対象にアンケートを実施し、その結果を次年度以降の企画・実施の検討事項としている。例えば、中学生向けの公開講座は、参加者などのニーズなどを踏まえ「オープンキャンパス」、さらには「体験セミナー」と進展してきた。具体的には担当部署である教務主事室が企画、立案、実行し、アンケート結果を分析、それを教務委員会、学科長委員会に諮り、翌年度の企画に反映させている。

一例として、体験セミナー参加者のアンケート結果を示す（資料B-1-②-1）。体験セミナーは定員に対してそれを越える参加希望者があり、また参加者からのアンケートの結果も「参加して良かった」という感想が多く、この試みが一定の成果をあげていることを示している。

（分析結果とその根拠理由） 実施した活動に対してアンケートを実施し、参加者の意見をまとめている。この結果を集計、分析することにより、担当委員会で議論を行い、次年度以降の企画や実施内容などに活用しており、改善システムが機能している。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点） 小中高校生や大学生、他高専生、他高専教職員、地元技術者・教員及び一般市民など、多彩な対象者に対して、幅広い内容及び形態の教育サービスを毎年実施している。また、蔵書の貸し出しを含めた図書館の一般市民への開放など施設面でも地域に対してサービスを提供している。それらの試みに対しアンケートの収集及び検討など改善のためのシステムが機能している。

(改善を要する点) 該当なし。

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校では科目の履修のための科目履修生などの制度や久留米市大学等単位互換制度及び九州専攻科サマーレクチャーなどの活動を通して正規課程の学生以外に対する教育サービスを行っている。また地域に開かれた学校として、小中高校生、他高専生、地元技術者、地元教員などを対象に体験セミナーや九州地区高専フォーラム及び様々な講座などを実施することにより地域貢献を行っている。図書館の一般市民への開放や各種会合・イベントなどに対する本校施設の提供により、施設面においても貢献を行っている。

これらの講座やセミナーの参加者から寄せられたアンケートなどに対しては担当委員会などにおいて集計・検討がされ、次年度以降の企画・実施に活かされており、改善システムが機能している。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

資料B-1-①-1 (1/2)

久留米工業高等専門学校聴講生規則

(目的)

第1条 この規則は、久留米工業高等専門学校学則第42条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校聴講生（以下「聴講生」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(入学資格)

第2条 聴講生として入学することができる者は、高等学校を卒業した者、又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(入学の出願手続き)

第3条 聴講生として入学を志願する者は、所定の入学願書に次の各号に掲げる書類及び検定料を添えて、入学時14日前までに校長に願い出なければならない。

- (1) 履歴書
- (2) 前条の資格を証明しうる書類
- (3) 健康診断書
- (4) 志願者が現に職を有しているときは、勤務先

所属長の承諾書

(入学許可)

第4条 志願者の入学については、校長が適当と認めた場合にこれを許可する。

2 入学を許可された者は、許可されたときに所定の誓約書を提出しなければならない。

(入学の時期及び聴講の期間等)

第5条 入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の事情があるときはこの限りでない。

第6条 聴講は、原則として週5科目以内とする。ただし、実験及び実習は認めない。

2 聴講期間は、原則として1学期又は1ケ年とする。ただし、当該年度を越えることはできない。

3 聴講期間の延長を希望する場合は、所定の聴講期間延長願書に、延長希望者が現に職を有しているときは、勤務先所属長の承諾書を添えて校長に願い出なければならない。

4 聴講期間の延長は、校長が許可する。

(検定料、入学料及び授業料の額)

第7条 検定料、入学料及び授業料の額は、国立の学校における授業料その他の費用に関する省令（昭

和36年文部省令第9号）に係る通達に定める額とする。

(入学料及び授業料の納付)

第8条 入学料は、入学を許可されたときに納付しなければならない。

2 授業料は、聴講期間に相当する額を聴講当初の月に納付しなければならない。ただし、聴講期間が後期にまたがるときは、後期分の額は、その当初に納付するものとする。

(検定料等の還付)

第9条 既納の検定料、入学料及び授業料は還付しない。

(聴講生の除籍等)

第10条 聴講生が、聴講期間中やむを得ぬ理由で聴講を中断する場合、又は聴講を中止する場合は、校長の許可を得なければならない。

2 校長は、聴講生がその本分に反する行為があったとみとめられたときは、除籍することができる。

附則

この規則は、昭和56年4月30日から施行する。

附則

この規則は、昭和57年4月1日から施行する。

附則

1 この規則は、昭和58年4月1日から施行する。

2 昭和58年度の入学に係る検定料の額は、この規則による改正後の久留米工業高等専門学校聴講生規則第7条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この規則は、昭和59年3月31日から施行する。

出典：久留米工業高等専門学校 規則集

資料B-1-①-1 (2/2)

久留米工業高等専門学校科目等履修生規則

(目的)

第1条 この規則は、久留米工業高等専門学校規則第42条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校科目等履修生（以下「科目等履修生」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(入学資格)

第2条 科目等履修生として入学することができる者は、高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(入学の出願手続き)

第3条 研科目等履修生として入学を志願する者は、所定の入学願書に次の各号に掲げる書類及び検定料を添えて、入学時14日前までに校長に願出しなければならない。

(1) 履歴書

(2) 前条の資格を証明する書類

(3) 健康診断書

(4) 志願者が現に職を有しているときは、勤務先所属長の出願承諾書

(入学許可)

第4条 志願者の入学については、書類選考のうえ校長が適当と認めた場合にこれを許可する。

2 入学を許可された者は、入学時まで所定の誓約書を提出しなければならない。

(入学の時期)

第5条 入学の時期は、学期の始めとする。

(履修の期間)

第6条 履修の期間は、1年以内とし当該年度を超えることはできない。

2 履修期間の延長を希望する場合は所定の延長願に延長希望者が現に職を有しているときは、勤務先所属長の承諾書を添えて、校長に願出なければならない。

3 履修期間の延長は、校長が許可する。

(履修の科目)

第7条 履修科目は、原則として週5科目以内とする。

(指導教官)

第8条 校長は、科目等履修生に対し、履修に関する必要な助言を与えるため指導教官を定める。

(検定料、入学料及び授業料の額)

第9条 検定料、入学料及び授業料の額は、国立学校における授業料その他の費用に関する省令（昭和36年文部省令第9号）に定める、聴講生に係る授業料その他の費用の額によるものとする。
(入学料及び授業料の納付)

第10条 入学料は、入学を許可されたときに納付しなければならない。

2 授業料は、履修する単位に係る額を履修当初の月に納付しなければならない。ただし、履修期間が後期にまたがるときは、後期分の額はその当初の月に納付するものとする。

(検定料等の還付)

第11条 既納の検定料、入学料及び授業料は還付しない。

(単位の履修の認定)

第12条 科目等履修生が所定の履修を修めた場合に、校長はその科目の単位の修得を認定することができる。

2 単位の修得を認定するにあたっては、久留米工業高等専門学校学業成績の評価並びに単位の認定及び及落に関する規程第1条から第12条までの規定を準用する。

3 修得した科目と単位については、願出により単位修得証明書を交付する。

(科目等履修生の除籍等)

第13条 科目等履修生が、履修期間中やむを得ぬ理由で履修を中断する場合、又は履修を中止する場合は、校長の許可を得なければならない。

2 校長は、科目等履修生がその本分に反する行為があったと認められたときは、除籍することができる。

附 則

この規則は、平成4年9月17日から施行する。

出典：久留米工業高等専門学校 規則集

資料B-1-①-3

中学生向け公開講座一覧

年度	講座の名称		開催日	定員	受講者数
13	理工学教室 中学生向けのやさしい	ソーラーカーをつくろう	7/25～7/27	90	89
		マイロボット・サマースクール			
		わかる、学べる、遊べるインターネット入門			
		たのしい生物・化学教室			
		形状記憶合金を使って遊ぼう			
		エコロジーラジオとカメラを作ろう			
14	理工学教室 中学生向けのやさしい	青空を飛ぶペットボトル飛行機を作ろう	8/26～8/27	75	57
		マイロボット・サマースクール			
		わかる、学べる、遊べるインターネット入門			
		たのしい生物・化学教室			
		形状記憶合金を使って遊ぼう			
15	理工学教室 中学生向けのやさしい	未来の自動車スターリングカーを作ろう	8/25～8/26	75	78
		マイロボット・サマースクール			
		分かる、学べる、遊べるインターネット入門			
		楽しい生物・化学教室			
		お湯につけて形が変わる合金線で物づくりをしよう			
16	工学教室 中学生向けのやさしい理	ソーラーカーを作ろう	8/23～8/24	75	70
		マイロボット・サマースクール			
		わかる、学べる、遊べるインターネット入門			
		楽しい生物・化学教室			
		たかが針金、されど針金―針金が誘う不思議な世界―			

17年度公開講座なし

出典：庶務課庶務係資料

資料B-1-①-4 (1/2)

平成17年度久留米高専体験セミナー

目的：中学生の皆さんに久留米高専各学科の内容を体験学習していただき、久留米高専を知ってもらうため開催するものです。

日時：平成17年8月22日(月)、23日(火)

場所：久留米工業高等専門学校各学科

対象：福岡・佐賀県内の中学生(その他の県でも可)

募集人員：400名 各グループ 20名×10グループ×2日

参加費用：無料

募集期間：平成17年7月12日(金)から8月5日(金)定員になり次第締切ります。

日程：

受付 9時30分～10時00分(機械・材料棟大ホール)

開校式 10時00分～10時20分

各学科の体験 10時30分～15時35分

グループ\時間	10:30 ～11:15	11:25 ～12:10	12:10 ～13:00	13:00 ～13:45	13:55 ～14:40	14:50 ～15:35
A	機械Ⅰ	電気電子Ⅰ	昼 食	制御情報Ⅰ	生物応用化学Ⅰ	材料Ⅰ
B	機械Ⅱ	電気電子Ⅱ		制御情報Ⅱ	生物応用化学Ⅱ	材料Ⅱ
C	電気電子Ⅰ	制御情報Ⅰ		生物応用化学Ⅰ	材料Ⅰ	機械Ⅰ
D	電気電子Ⅱ	制御情報Ⅱ		生物応用化学Ⅱ	材料Ⅱ	機械Ⅱ
E	制御情報Ⅰ	生物応用化学Ⅰ		材料Ⅰ	機械Ⅰ	電気電子Ⅰ
F	制御情報Ⅱ	生物応用化学Ⅱ		材料Ⅱ	機械Ⅱ	電気電子Ⅱ
G	生物応用化学Ⅰ	材料Ⅰ		機械Ⅰ	電気電子Ⅰ	制御情報Ⅰ
H	生物応用化学Ⅱ	材料Ⅱ		機械Ⅱ	電気電子Ⅱ	制御情報Ⅱ
I	材料Ⅰ	機械Ⅰ		電気電子Ⅰ	制御情報Ⅰ	生物応用化学Ⅰ
J	材料Ⅱ	機械Ⅱ		電気電子Ⅱ	制御情報Ⅱ	生物応用化学Ⅱ

各学科のⅠとⅡの体験授業はほぼ同じ内容になっています。

5専門学科の授業(講義+実験)を体験学習できることとなります。

住所	久留米市小森野1-1-1	申込み方法 本校備付の「申込書」に氏名、住所、電話番号等を記入し、郵送、FAX(0942-35-9319)又は直接持参して申込みください。
連絡先	久留米工業高等専門学校学生課 教務係	
電話	0942-35-9316	
FAX	0942-35-9319	
利用交通機関	西鉄バス「高専前」行き 西鉄久留米駅よりバスで20分、JR久留米駅よりバスで10分	

出典：学生課教務係資料

資料B-1-①-4 (2/2)

平成17年度体験セミナー授業内容の概要

機械工学科：機械Ⅰ、機械Ⅱ

環境問題、エネルギー問題、急速に進む高齢化などについては、中学生の皆さんも耳にしたことがあると思います。そこで久留米高専の機械工学科では、これらの問題を解決し、さらに近未来の機械工学を実現することを目指して、これまでに行ってきた基礎的また先進的研究に加え、環境に優しい機械や省エネルギー機器、ロボットなどの福祉機器に関連する研究を行っています。それら研究のいくつかについて動画や実験装置をまじえながら、機械工学についてわかりやすく授業を行います。

電気電子工学科：電気電子Ⅰ、電気電子Ⅱ

誰でも簡単に回路を製作して実験ができる「電子ブロック」を使って、電気電子工学に関する講義と実験を体験していただきます。電子ブロックを用いると、特別な道具は必要なく、トランジスタ、ダイオード、抵抗、コイルなどのブロックを並べ換えることによって、様々な電子回路を簡単に作ることができます。セミナーでは、まず、電子ブロックで回路を作って動作を確認しながら電子部品や電子回路の基礎を学び、ラジオ、光センサー、うそ発見器などを自分自身で製作して電子機器について学習します。

制御情報工学科：制御情報Ⅰ、制御情報Ⅱ

「コンピュータによるLED制御」

データベースにおける検索などの情報処理においては、コンピュータが用いられており、2進法が重要な役割を果たしています。その2進法について、メカトロトレーニングボードに取り付けられたLED（発光ダイオード）をコンピュータを使って制御する演習を通して学習します。制御するプログラミング言語は、現在最も利用されているC言語を用います。

「TVMLを用いたTV番組の作成」

TVML（TV Program Making Language）とは、人間の書いた台本をコンピュータに理解させ、TV番組に変換するために作成された言語です。TVの台本が時間の流れに従って起こるイベントを記しているのと同じように、TVML言語では、番組で行いたいことを単純に1行ずつ書き並べていくだけです。少し慣れれば、簡単に台本を書くことができます。各自で思い思いの番組を作成してみてください。

生物応用化学科：生物応用化学Ⅰ、生物応用化学Ⅱ

「生物応用化学入門」

化学反応や生物反応を利用して、目にも鮮やかな、びっくりするような化学・生物マジックを行うことができます。これらマジックを通して、化学や生物のおもしろさ、楽しさについて学んでいきます。これであなたも化学や生物のとりこ、かも。

材料工学科：材料Ⅰ、材料Ⅱ

「金属の不思議」

金属材料には、鉄、ステンレス、アルミニウムなど数多くの種類があります。私たちは、用途に応じて材料を選び、様々な加工を行い利用しています。例えば、同じ様に見える銀白色の鉄であっても、鉄に含まれる成分が僅かに異なると、全く異なる性質が現れます。本授業では、金属を加熱・冷却することによって、金属の性質が大きく変わることを体験し、その原因を金属顕微鏡や電子顕微鏡で調べる実験を行い、材料の不思議な世界を体験してもらいます。

出典：学生課教務係資料

資料B－1－①－5

「科学技術教育支援」に関する合意書

九州沖縄地区高専 科学技術教育支援 WG

1. 趣 旨

科学技術は我が国を支える柱であり、このための人材育成に力を注ぐことは教育の重要な課題のひとつである。しかし、近年、小中学校での「理科離れ」が強く指摘されながら、効果的な施策が組織的・重点的に実施されているとは言い難い状況にある。これは、高専教育全体にとっても大きな問題であり、独自に何らかの努力を払う時期に来ている。

子供たちが科学技術に興味を持つためには、小中学校等の授業の中で「実験」「実習」を導入することが効果的であると考えられるが、現実には「適切な器具がない」「時間と手間がかかる」「一人でやるのは大変」等々の理由で敬遠されているのが実情であり、こうした現場の先生方を積極的に支援していくことが極めて有効であると考えられる。

高専教育は、従来から「ものづくり」を基盤とした実践的教育を目指しており、こうした「科学技術教育支援」に貢献できる大きな可能性をもっている。特に、九州沖縄地区では、少子化が進み、理科教員の確保が困難な小中学校も増えており、国立高専 10 校が組織的に連携して、こうした支援活動を行うことには大きな意義がある。

本 WG の参加校は、こうした現状を十分に認識し、従来からの各校での支援実績を活かしつつ、協力・連携して「科学技術教育支援」活動に取り組むこととする。

2. 活動内容

今年度発足した本WGは、九州沖縄地区校長会の同意を得て、「科学技術教育支援」という枠組みのもとに、以下の活動について協力・連携する。

- a) 本 WG の名称を「九州沖縄地区高専 科学技術教育支援 WG」として活動する。
- b) 活動の目標は、九州沖縄地区高専での連携した科学技術教育支援体制づくりであり、これを軌道に乗せるため、今後 5 年を目途にその基盤作りをめざす。
- c) このために、本 WG 会議を少なくとも年 1 回実施し、WG 長を選任して、本活動を継続していくためのネットワークを維持する。
- d) 各校で実施している支援活動（理科実験授業、工作教室、器具貸出、科学フェア等への出展、教員研修、その他）の実績をさらに積み上げながら、これらの活動についての情報交換を行い、相互の活動の充実を図る。
- e) これらの活動を、九州沖縄地区全体に 広く紹介していくためのパンフレット 作りを共同で取り組む。（来年度には暫定版を作成）
- f) 各校で、これらの活動に教員全体の理解が得られ、教育支援が高専全体の役割として認識され、参加協力者が増えていくように努力する。

出典：「科学技術教育支援」に関する合意書

資料B-1-①-7 (1/2)

九州沖縄地区高専フォーラム

回数	期日	担当校	場所	サブタイトル	講演者	所属	講演題目
第1回	H3.11	久留米 鳥井 昭美	久留米高専	わかり易いハイテク最前線			
第2回	H4.10.29	久留米 鳥井 昭美	久留米高専 主催：日本化学会九州支部 共催：久留米高専	「液晶」と「触媒化学」に関する最近の話題	森 哲夫	久留米高専工業化学科教授	合成ポリレパチド液晶
					津田 祐輔	日本合成ゴム西東京研究所	液晶配向膜用ポリイミド
					森 章	九州大機能物質科学研究所教授	七員環構造を持つ液晶の合成
					群島 友紀	旭硝子中央研究所	液晶高分子複合体
					藤津 博	九州産業大学教員	活性炭触媒の大気浄化への適
富田 哲郎	三菱ガス化学㈱	化学工業における触媒化学の重要性-三菱ガス化学㈱と触媒プロセス-					
第3回	H6.1.22	久留米 鳥井 昭美	プリジストンクラブ 主催：日本化学会九州支部 共催：有機合成化学協会・久留米高	有機合成アラカルト	坂田 一矩	九州工大教授	イソシアニド錯体の合成と反
					米光 直志	九州産業大教授	重水素化合物のNMRスペクトル
第4回	H7.1.21	北九州 磯村 計明	北九州高専 主催：日本化学会九州支部 共催：北九州高専	生物化学工学・高専の化学教育に対する企業からの提言	鎌田 吉之	久留米高専教授	ジヒドロロアベンゼン類縁化合物の合成と反応
					拓植 乙彦	熊本工大教授	複素環化学に魅せられて
					畑中 千秋	北九州高専化学工学科教授	固定化生体触媒による物質変換に関する研究
					野坂 通子	佐世保高専物質工学科講師	タンパク質モジュールの構造と進化に関する研究～プロテインエンジニアリングに向け
					近藤 寛樹	九州工大情報工学科教授	遺伝子工学を利用した酵素の機能改変
第5回	H8.3.9	都城 占部 正義	都城高専 主催：日本化学会九州支部 共催：都城高専	「地産産業と最先端技術」に関する最近の話題	山下 敏明	都城高専物質工学科助教授	カチオンラジカル種と求核試剤の光電子移動反応
					森山 三千彦	都城高専機械工学科教授	高粘性マルレーンゲル状物の特性とその時効硬化挙動が疲労強度に及ぼす影響
					大山 邦夫	旭化成工業㈱福岡支社福岡医薬工場副総務	これからの医療「診断」
					今田 清久	宮崎大工学部物質工学科	多面的産学官協働一地域の課題から学ぶ
					川瀬 良一	有明高専物質工学科助教授	耐熱・耐食プラスチック溶射技術の開発研究～科学的研究補助金：試験研究～
第6回	H9.3.15	有明 吉武 紀道	有明高専 主催：日本化学会九州支部、共催：有明高専		三浦 博史	有明高専物質工学科教授	有明高専でのバイオテクノロジー～天然色素に関する研究を中心に～
					岡崎 光樹	三井東圧化学㈱大牟田研究所員	高屈折率レンズ用樹脂について
					磯崎 啓	電気化学工業㈱大牟田工場主任研究	構造用セラミックスの展開～一酸化ケイ素粉末の合成
					村論会(企業と高専、物質工学科)	学際を取り巻く諸問題、司	
					渡辺 哲也	佐世保高専物質工学科	環境にやさしいエネルギー材料～熱・電気直接相互変換材
第7回	H10.3.14	佐世保 山辺 国昭	佐世保高専 主催：佐世保高専、後援：日本化学会九州支部	高専教育と先端技術	須田 淳一	佐世保高専一般科目(化学)	二クロム酸カリウムのらせん状結晶成長～アキラルな化合物にキラリティを与える～
					山崎 隆志	佐世保高専物質工学科	多価分解酵素生産菌の分離
					古川 徹	佐世保高専機械工学科	気液二相流の流動様式について
					長嶋 豊	佐世保高専電気工学科	画像を用いた海洋環境および資源の調査に関する研究～佐世保光線総合技術教育センターでの取り組み～
					中島 真澄	函香蘭社研究開発部課長	常圧焼結窒化ホウ素の開発とその応用
第8回	H10.12.19	八代 木幡 進	八代高専 主催：八代高専・日本化学会九州支部	地球にやさしい科学技術と高専教育	種村 公平	八代高専生物工学科助教授	有機性廃水の生物処理の現状と将来について(嫌気性処理法の適用例を中心に)
					縄田 豊	八代高専機械電気工学科教授	太陽光発電と気象
					岩原 正宜	熊本工大工学部応用微生物工学科教授	バイオサイクル構想と産・学・行政共同研究
					山田 英継	日本製紙㈱八代工場技術環境室長	製紙産業に於ける原料の環境問題への関わり(古紙の利用・植林・廃材の利用)
					佐谷 雅實	メルシャン㈱八代工場工場長	企業における環境への取組み
第9回	H11.11.12 ・13	久留米 鳥井 昭美	ホテルニューブラザ 主催：久留米高専、共催：九州北部学術研究都市整備構想推進会議・久留米市・久留米学術研究都市づくり推進協議会・久留米大学	21世紀に向かって!			
				11.12 社会福祉を生徒学習から見つめて!	保坂 恵美子	久留米大学文学部教授	21世紀におけるテクノロジーと福祉の出会い
				11.13 今!高専は、そのハイテク技術を問う!	入江 和隆	久留米高専一般理科教授	21世紀に向けた福祉機器開発とリサイクル
					松尾 誠治郎	久留米大学文学部助教授	21世紀に向けての介護保険制度の展望と課題
					鳥井 昭美	久留米高専工業化学科教授	産・学連携による高専のハイテク技術の紹介をリフレッシュ教育面から見つめて

出典：九州沖縄地区高専フォーラム世話人会資料

資料B-1-①-7 (2/2)

					畑中 千秋	北九州高専物質化学工学科教授・技術開発センター長	河川の生物化学的浄化
					川密 義則・高橋 登徳	有明高専機械工学科教授・助手	鉱石探索の長距離坑道(5km以上)に適用可能な運搬車両の安全運転制御ハイテク技術
					長嶋 豊	佐世保高専電気工学科講師	コンパクトな無酸素海中ロボットの開発と水産資源の識別・総合技術教育研究センターでの取り組み
第10回	H12.12.9	熊本電波	熊本電波高専	地域に根ざす高専を目指して	平田 登基	鹿児島高専土木工学科教授	蘇生紙作製装置の開発
					川密 義則	有明高専機械工学科教授	環境・福祉の課題研究を通じた高専の地域に対する技術支援
					千葉 規胤	都城高専機械工学科教授	地域における都城高専の役割
					北辻 安次	八代高専一般科教授	地域の小・中・高・高専連携による理科実験教育の支援
					大山 英典	熊本電波高専電子工学科教授	「くまもとセミコン塾」を通じた産学官連携
第11回	H13.12.1	北九州		高専における産学連携	磯村 計明	北九州高専物質化学工学科教授	機能材料開発に向けての含窒素複素有機化合物の合成
					添田 満	北九州高専電子制御工学科教授	計算機・人間協調型操作ロボットの開発
					鶴田 純	環境テクノス副代表取締役	環境ビジネスと産学連携
					青井 晴彦	新日鐵化学副総合研究所長	環境ビジネスとは
					国武 豊喜	北九州市立大学副学長	新しい産学連携のしくみー北九州学術研究都市における試
第12回	H14.12.7	大分	大分高専	地域連携と環境ビジネス	清水 一道	大分高専制御情報工学科助教授	大分高専における産学官連携の現状と課題
					木下 通夫	大分県生活環境部廃棄物対策課課長	「ごみゼロおおい」の実現に向けて
					井手 英治	新日本製鐵大分製鐵所生産管理部次長	鉄鋼業における環境リサイクル事業について
					大森 俊郎	関大発酵研究所社長・三和酒類研究所副所長	むぎ焼酎粕は宝の山!
					羽野 忠	大分大学工学部長・教授	環境産業の発展と地域における産学官連携の役割
第13回	H15.12.5	都城	宮崎産業経営大学都城キャンパス	都城高専の地域連携を目指す取り組み	柳 謙一	久留米高専校長	地域連携への高専の役割
					水山 英也	宮崎県企画調整課企画調整主幹	宮崎県における科学技術振興の現状と課題
					倉吉 教文	都城市工業振興課課長補佐	都城圏域における地域連携の必要性
					窪田 次生	霧島工業クラブ代表幹事(霧島シーリング・代表取締役)	異業種交流グループ霧島工業クラブの取り組み
					足立 勝	都城高専助教授	(事例紹介) 地域との共同プロジェクト
					渡部 英夫	都城高専総合技術開発教育センター長・教授	都城高専の地域連携への取り組み
第14回	H16.12.3	鹿児島	鹿児島高専	独法化元年ー高専の新たな取り組み	専攻科学生によるポスターセッション21件		
					池田 英幸	鹿児島高専教育プログラム改善委員会委員長	鹿児島高専のJABEE認定
					高野 良	沖繩高専生物資源工学科教授	新設沖繩高専の取り組み
					鮫島 吉廣	薩摩酒造株式会社取締役	鹿児島県の地元産業界及び産学官連携
					西留 清	鹿児島高専地域共同テクノセンター	鹿児島高専の地域共同テクノセンター
					畑中 千秋	北九州高専地域共同テクノセンター	バイオリアクターによる排水処理及び産学官連携
					水田 行博	鹿児島大学学長	鹿児島大学の法人化
第15回	H17.12.3	有明	有明高専	高専教育の問題点と改善への取り組み	水室 昭三	有明高専物質工学科・教務主事	高専における教育、研究、および社会貢献
					新谷 肇一	有明高専建築学科・専攻科長	有明高専専攻科の現状と課題
					梅津 清二	大分高専基礎専門	高等専門学校における創造教育の教育的・社会的意義に関
					田中 浩二	熊本電波高専一般	一般化学教育の問題点と改善科目
第16回	H18.12.	佐世保			総合討論会	何を目指すか高専の将来(総合司会 有明高専)	

出典：九州沖繩地区高専フォーラム世話人会資料

資料B-1-①-8

高専シンポジウム

開催回数	期日	開催校	開催場所	発表件数		会場（懇親会場を除く）
				総数	ポスター	
第1回	H8.1.13	久留米	久留米リサーチセンタービル	68		2+大ホール
第2回	H9.1.18	宇部	国際ホテル宇部	82		2
第3回	H10.1.17	米子	米子市文化ホール	84		3+大ホール
第4回	H11.1.23	鈴鹿	鈴鹿市文化会館	98		3+大ホール
第5回	H12.1.22	福井	福井高専	127	73	3+2（ポスター）
第6回	H13.1.20	東京	東京高専	109	78	4+大会場+体育館（ポスター）
第7回	H14.1.26	和歌山	御坊市民文化会館	150	58	4+大ホール
第8回	H15.1.25	新居浜	リーガロイヤルホテル新居浜	133		4
第9回	H16.1.17	有明	有明高専	198		8+大会場
第10回	H17.1.15	鶴岡	鶴岡市中央公民館	135	50	5+ポスター会場
第11回	H18.1.21	長岡	ホテルニューオータニ長岡	180		6+ホール
第12回	H19.1.27	沼津	東レ研修センター（予定）			

出典：高専シンポジウム協議会資料

資料B-1-①-9 (1/2)

平成17年度サマーレクチャー実施要項

【目的】高専の工業教育活性化を実現するため、専攻科生に対する開放型の授業を実施する。

【セミナー題目】「メカトロニクス基礎と応用」

【受入学生数】制御情報工学の基礎知識をもつ専攻科1年生 25名程度

【講師】外部講師及び久留米高専専攻科の制御情報工学科教員

【単位の認定】久留米高専で成績評価し、単位の認定については各高専の規則による。

【期間及び実施場所】

期間：平成17年8月1日(月)～8月5日(金)まで

場所：久留米高専 D2 教室、制御情報工学科棟、機械力学実験室及び日産自動車(株)九州工場見学

【宿泊】久留米高専の学生寮を提供する。

[日 程]

区 分	8/1(月)	8/2(火)	8/3(水)	8/4(木)	8/5(金)
9:00～10:30	10:00～受講 手続き 1030～開式、 説明(綾部制御 情報工学科長)	日産自動車(株) 九州工場見学 (※1)	久留米高専 福田幸一教授 ④	久留米高専 赤坂則之教授 ⑧	久留米高専 江頭成人 助教授 ⑫
10:45～12:15	九州大学 長谷川勉教授 ①(※)		九州工業大学 山川 烈教授 ⑤	久留米高江碕 江崎昇二 助教授 ⑨	久留米高専 江頭成人 助教授 ⑬
13:15～14:45	久留米高専 川口武実教授 ②		久留米高専 黒木祥光 助教授 ⑥	久留米高専 綾部 隆教授 ⑩	13:00～閉式
15:00～16:30	久留米高専 川口武実教授 ③		久留米高専 前田道治 助教授 ⑦	久留米高専 小田幹雄講師 ⑪	

※：講義テーマを示す。

※ 1：日産自動車(株)九州工場見学の移動はスクールバスを使用

※ 2：8月1日(月)17時20分から専攻科学生交流会を行う。

【講義テーマ】

- ①「人間とともに活動するロボットの実現にむけて」 ②「電動射出成形機の制御」
 ③「デジタルエンジニアリングを活用した新しい車造り」 ④「自由曲面のCAD/CAM」
 ⑤「高次脳機能のモデル“SORネットワーク(自己組織化関係ネットワーク)”とそのトレーラー・
 トラックの後退制御への応用」
 ⑥「画像認識の基礎」 ⑦「知的制御の基礎」 ⑧「ACサーボシステムの基礎理論」
 ⑨「倒立振子を立てるまで」 ⑩「機械の振動制御」 ⑪「ハードウェア記述言語によるディジ
 タル回路設計」 ⑫「産業用多関節形ロボットの制御」 ⑬「インターネットを利用したロボットの
 遠隔制御」

出典：学生課教務係資料

B-1-①-9 (2/2)

平成17年度サマーレクチャー

授 業 科 目	授業形態	学 年	学 期	必・選	単 位	担 当 教 官 (E-mail)																														
制御情報工学特論	講 義	1,2年	前期	選択	2	赤坂 則之 (akasaka@kurume-nct.ac.jp)																														
〔教育目的〕 本科目は、久留米工業高等専門学校制御情報工学科の特化した専門教育を、九州地区高専の専攻科生を対象に講義するものである。本校、「制御情報工学プログラム」の専門教育はデジタル制御と情報の二分野を柱に構成されている。今回は、デジタル制御、特にメカトロニクスを中心に、その基礎と応用及び最新技術を教授する。学生の理解を深めるため、実験を含む。																																				
〔授業内容〕 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:60%;">第1回；人間とともに活動するロボットの実現にむけて</td> <td>九州大学 長谷川 教授</td> </tr> <tr> <td>第2回；電動射出成形機の制御</td> <td>久留米高専 赤坂 教授</td> </tr> <tr> <td>第3回；デジタルエンジニアリングを活用した新しい車造り</td> <td>(株)BPA 根岸 社長</td> </tr> <tr> <td>第4回；日産自動車(株)九州工場見学</td> <td>日産自動車(株) 九州工場</td> </tr> <tr> <td>第5回；日産自動車(株)九州工場見学</td> <td>日産自動車(株) 九州工場</td> </tr> <tr> <td>第6回；自由曲面のCAD/CAM</td> <td>久留米高専 福田 教授</td> </tr> <tr> <td>第7回；高次脳機能のモデル“SOR ネットワーク(自己組織化関係ネットワーク)”とそのト レーラー・トラックの後退制御への応用</td> <td>九州工業大学 山川 教授</td> </tr> <tr> <td>第8回；画像認識の基礎</td> <td>久留米高専 黒木 助教授</td> </tr> <tr> <td>第9回；知的制御の基礎</td> <td>久留米高専 前田 助教授</td> </tr> <tr> <td>第10回；ACサーボシステムの基礎理論</td> <td>久留米高専 川口 教授</td> </tr> <tr> <td>第11回；倒立振子を立てるまで</td> <td>久留米高専 江崎 助教授</td> </tr> <tr> <td>第12回；機械の振動制御</td> <td>久留米高専 綾部 教授</td> </tr> <tr> <td>第13回；ハードウェア記述言語によるデジタル回路設計</td> <td>久留米高専 小田 助教授</td> </tr> <tr> <td>第14回；産業用多関節形ロボットの制御</td> <td>久留米高専 江頭 助教授</td> </tr> <tr> <td>第15回；インターネットを利用したロボットの遠隔制御</td> <td>久留米高専 江頭 助教授</td> </tr> </table>							第1回；人間とともに活動するロボットの実現にむけて	九州大学 長谷川 教授	第2回；電動射出成形機の制御	久留米高専 赤坂 教授	第3回；デジタルエンジニアリングを活用した新しい車造り	(株)BPA 根岸 社長	第4回；日産自動車(株)九州工場見学	日産自動車(株) 九州工場	第5回；日産自動車(株)九州工場見学	日産自動車(株) 九州工場	第6回；自由曲面のCAD/CAM	久留米高専 福田 教授	第7回；高次脳機能のモデル“SOR ネットワーク(自己組織化関係ネットワーク)”とそのト レーラー・トラックの後退制御への応用	九州工業大学 山川 教授	第8回；画像認識の基礎	久留米高専 黒木 助教授	第9回；知的制御の基礎	久留米高専 前田 助教授	第10回；ACサーボシステムの基礎理論	久留米高専 川口 教授	第11回；倒立振子を立てるまで	久留米高専 江崎 助教授	第12回；機械の振動制御	久留米高専 綾部 教授	第13回；ハードウェア記述言語によるデジタル回路設計	久留米高専 小田 助教授	第14回；産業用多関節形ロボットの制御	久留米高専 江頭 助教授	第15回；インターネットを利用したロボットの遠隔制御	久留米高専 江頭 助教授
第1回；人間とともに活動するロボットの実現にむけて	九州大学 長谷川 教授																																			
第2回；電動射出成形機の制御	久留米高専 赤坂 教授																																			
第3回；デジタルエンジニアリングを活用した新しい車造り	(株)BPA 根岸 社長																																			
第4回；日産自動車(株)九州工場見学	日産自動車(株) 九州工場																																			
第5回；日産自動車(株)九州工場見学	日産自動車(株) 九州工場																																			
第6回；自由曲面のCAD/CAM	久留米高専 福田 教授																																			
第7回；高次脳機能のモデル“SOR ネットワーク(自己組織化関係ネットワーク)”とそのト レーラー・トラックの後退制御への応用	九州工業大学 山川 教授																																			
第8回；画像認識の基礎	久留米高専 黒木 助教授																																			
第9回；知的制御の基礎	久留米高専 前田 助教授																																			
第10回；ACサーボシステムの基礎理論	久留米高専 川口 教授																																			
第11回；倒立振子を立てるまで	久留米高専 江崎 助教授																																			
第12回；機械の振動制御	久留米高専 綾部 教授																																			
第13回；ハードウェア記述言語によるデジタル回路設計	久留米高専 小田 助教授																																			
第14回；産業用多関節形ロボットの制御	久留米高専 江頭 助教授																																			
第15回；インターネットを利用したロボットの遠隔制御	久留米高専 江頭 助教授																																			
〔教育方法〕 オムニバス形式の講義と本校設備を使った実験及び企業の工場見学で構成する。																																				
〔教材及び参考図書〕 配布プリント。																																				
〔期待される成果〕					〔プログラム目標〕																															
〔評価方法〕 レポートにより評価する。																																				
〔関連科目〕 メカトロニクス工学、システム制御工学					〔関連教官〕 綾部隆、赤坂則之																															

出典：学生課教務係資料

資料 B-1-①-10

平成16年度久留米高専フォーラム等実施状況

事業名	講演等の内容	開催日	開催場所	参加人員
第3回久留米高専産学民連携協会商品技術・研究発表会	商品技術発表会 1. 精密恒温恒湿装置”Air Pex” 2. 新聞製作における当社の役割 3. 麺類の製造に関する技術 研究発表会 1. 電磁現象を利用した高周波焼入れ鋼材の表面硬さ非破壊検査 2. 領域型ひずみゲージ法の開発とその応用	5月28日	久留米高専	88名
第29回久留米高専産学民連携フォーラム	シンクロトロン光が創る新たな世界 (1) シンクロトロン光とは何だろう：その原理と性質 (2) シンクロトロン光で何が出来るのか：産業界への応用	6月24日	久留米高専	58名
第30回久留米高専産学民連携フォーラム	インターフェイスのデザインをめぐって (1) プロダクトにおけるインターフェイス・デザインの現状 (2) プロダクトとヴィジュアル・コミュニケーションに関わるインターフェイス・デザイン (3) パネル・トーキング モノを介して行動と空間にアプローチするデザイナーの役割について	7月2日	久留米高専	62名
第31回久留米高専産学民連携フォーラム	企業家への道 (1) 固定観念からの脱却 (2) たかがタオル、されどタオル	10月29日	久留米高専	93名
第4回久留米高専産学民連携協会商品技術・研究発表会	商品技術発表会 1. ナノマテリアル・フラーレン 研究発表会 1. データ圧縮、クラスタリング、ノイズ除去、パターン認識、組合せ最適化のための自己組織化写像 2. 反応性架橋高分子ゲルの合成とその応用 3. 超電導ロータリアクチュエータの制御	3月2日	久留米高専	47名

平成17年度久留米高専フォーラム等実施状況

事業名	講演等の内容	開催日	開催場所	参加人員
第8回久留米高専産学民連携講演会	強誘電体セラミックスの光起電力効果と応用 一材料から計測へ、産総研の新しい取り組み	10月24日	久留米高専	66
知的財産セミナー	知的財産権の概要	11月22日	久留米高専	26
知的財産セミナー	知的入門講座「知的財産権による幸福？」	1月20日	久留米高専	26

出典：学生課庶務係資料

資料 B-1-①-11

社会人向け公開講座一覧

年度	講座の名称	対象	開催日	定員
13	科学教育セミナー	教員	8/9～8/10	10
	歯車加工講座	技術者	9/25～9/28	20
	先端測定分析機器実習講座(1) 「X線、電子顕微鏡を用いてミクロの世界を調べよう」	教員・技術者	8/20～8/21	10
14	先端測定分析機器実習講座 「X線、電子顕微鏡を用いてミクロの世界を調べよう」	教員・技術者	8/19～8/20	10
15	歯車加工講座—ホブ切り実習を主体とした—	技術者	9/24～9/26	20
	先端測定分析機器を用いた実習講座Ⅰ「放射線を計ってみよう」	教員・技術者	7/30	10
	先端測定分析機器を用いた実習講座Ⅱ「X線、電子顕微鏡を用いてミクロの世界を調べよう」	教員・技術者	8/18～8/19	10

出典：庶務課庶務係資料

資料B-1-①-12 (1/2)

「歯車製造コース」18年度実施方針とカリキュラム

1. 18年度実施方針

「歯車製造コース」は、一連の専門人材育成コースとして、Basic コースと Advance コースとに分ける。17年度実施した分は、Basic コースの大部分のものであり、18年度実施する分は、17年度実施しなかった Basic コースおよび新たな Advance コースである。企業の要望に応え、コースの連続性 (Basic から Advance へ) を考慮して、18年度においては、17年度に実施した内容は自立事業として並行して実施する。定員を、Basic コース、Advance コースそれぞれ 20 名、計 40 名とする。これにより、将来の自立化構築のための方策を探る。

2. 18年度カリキュラム

● 講義 (演習を含む)

- 実践工学講座 開催場所：福岡 (九大)
 - ・歯車基礎 新規：7コマ 自立事業：7コマ
 - ・歯車設計 新規：7コマ 自立事業：7コマ
 - ・歯車製造 新規：7コマ 自立事業：7コマ
- プロフェッショナル技術科目 開催場所：福岡 (九大)
 - ・歯車運転性能評価 新規：7コマ (19年度自立事業：7コマ)
 - ・歯車計測・製造自動化 新規：7コマ (19年度自立事業：7コマ)
- IT融合科目 開催場所：佐賀 (佐大)
 - ・歯車設計・製造 CAD/CAM 新規：7コマ 自立事業：7コマ
(・FEM解析…共通)

● 演習・討論

- トラブル処理・コミュニケーション 開催場所：福岡 (九大)
 - ・歯車トラブルシューティング 新規：7コマ (19年度自立事業：7コマ)
(・実践トラブル処理実習…共通)

● 実習・インターンシップ

- ものづくり実習 開催場所：久留米 (久留米高専)、企業 (数社)
 - ・歯車加工基礎 自立事業：7コマ
 - ・歯車加工応用 新規：7コマ
 - ・先端歯車加工 I (A), (B), (C) 自立事業：7コマ
 - ・先端歯車加工 II (D), (E) 新規：7コマ
- インターンシップ 開催場所：企業 (数社)
 - ・インターンシップ I (A), (B) 自立事業：7コマ
 - ・インターンシップ II (C), (D) 新規：7コマ (19年度自立事業：7コマ)

※ コマ数・時間と単位の関係：90分/コマ、2単位/14コマ

※ 実施日・時間

- 講義・演習・討論：原則として土曜(4.5H)・日曜(6H)の連続2日
- 実習：原則として1日目(4.5H)・2日目(6H)の連続2日
(曜日は開催機関の都合による)
- インターンシップ：2週間程度 (開催機関の都合による)

出典：平成18年度第4回学科長委員会資料

資料B-1-①-12 (2/2)

産学官連携による設計・製造基盤技術分野の中核リーダー育成事業
 歯車製造コース ものづくり実習「歯車加工(その1)」の日程及び実施概要

1. 日程；平成18年8月24日(木)～8月25日(金)
2. 実施場所；機械工作工場及び機械材料棟2階CAD室
3. 参加教員；広尾教授，○永野教授，櫻木教授，米倉名誉教授
4. 参加技官；吉田，伊藤，津村，城野，馬田，福田

	8/24 (木)				8/25 (金)				備考
	E1	E2	E3	E4	E1	E2	E3	E4	
A	1班	1班 2班	1班 2班	2班	3班	3班 4班	3班 4班	4班	
B	3班	3班	4班	4班	1班	1班	2班	2班	
C	2班			1班	4班			3班	
D	4班	4班	3班	3班	2班	2班	1班	1班	

E1：09：00～10：30 E2：10：40～12：10 E3：13：10～14：40 E4：15：00～16：30

5. 受講者 企業技術者22名
6. 実施内容
 A：歯切工具・ホブ盤（90分×3コマ 担当者 米倉，伊藤）
 B：ハイスホブ切り（90分×2コマ 担当者 永野，城野，馬田）
 C：超硬ホブ切り（90分×1コマ 担当者 櫻木，津村）
 D：歯車測定（90分×2コマ 担当者 廣尾，吉田）

歯車製造コース ものづくり実習「歯車加工(その2)」の日程及び実施概要

1. 日程；平成18年9月21日(木)～9月22日(金)
2. 実施場所；機械工作工場及び機械材料棟2階CAD室
3. 参加教員；広尾教授，○永野教授，櫻木教授，米倉名誉教授
4. 参加技官；吉田，伊藤，津村，城野，馬田，福田

	9/21 (木)				9/22 (金)				備考
	E1	E2	E3	E4	E1	E2	E3	E4	
A	1班			2班	3班			4班	
B	3班	3班	4班	4班	1班	1班	2班	2班	
C	2班	1班 2班	1班 2班	1班	4班	3班 4班	3班 4班	3班	
D	4班	4班	3班	3班	2班	2班	1班	1班	

E1：09：00～10：30 E2：10：40～12：10 E3：13：10～14：40 E4：15：00～16：30

5. 受講者 企業技術者19名
6. 実施内容
 A：仕上ホブ切り（90分×1コマ 担当者 米倉，伊藤）
 B：高能率ホブ切り（90分×2コマ 担当者 永野，城野，馬田）
 C：超硬ホブ切り（90分×3コマ 担当者 櫻木，津村）
 D：CAD（90分×2コマ 担当者 廣尾，吉田）

出典：平成18年度第4回学科長委員会資料

資料B-1-①-14 (1/2)

久留米工業高等専門学校図書館一般利用要項

[平成13年4月1日制定]

1 趣旨

この要項は、久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育及び研究に支障のない範囲内で、本校図書館（以下「図書館」という。）を本校図書館利用規則（以下「利用規則」という。）第5条第3項に規定する者（以下「利用者」という。）の利用に供するため、その利用に関し必要な事項を定めるものとする。

2 利用の範囲

- (1) 利用者は、図書館備付けの図書館資料を、本校学生・教職員の利用に支障のない範囲で利用することができる。
- (2) 利用者は、前号に規定する図書館資料を所定の場所で閲覧し又は貸出を受けることができる。

3 利用期間及び時間

利用者は、利用規則第4条に規定する図書館の開館期間及び時間内に利用することができる。ただし、次の各号に掲げる場合は除くものとする。

- (1) 試験期間及びその前1週間
- (2) その他図書館長が指定した日

4 利用手続

- (1) 利用者は、図書館を利用しようとするときは、「図書館利用願」（別紙第1号様式）を提出するとともに、身分を証明する証書を提示のうえ、「図書利用カード」（別紙第2号様式）の交付を受けなければならない。
- (2) 利用者は、図書館の入館に際しては、「図

書利用カード」を図書館係員（以下「係員」という。）に提示しなければならない。

- (3) 利用者は、図書の貸出を受けるときは、「図書利用カード」を添付して係員へ申出なければならない。

5 遵守事項

利用者は、係員の指示する事項を遵守しなければならない。

6 弁償義務

利用者は、図書館資料を汚損若しくは破損したとき、又は施設設備若しくは物品等に損害を与えたときは、弁償しなければならない

7 利用中止等

この要項に違反した利用者は、直ちに利用を中止し、退館しなければならない。

8 規則の準用

この要項に定めるもののほか、利用に関し必要な事項は、利用規則を準用する。

附 則

- 1 この要項は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 久留米工業高等専門学校図書館一般市民等利用要項（平成8年4月1日制定）は、この要項施行の日から廃止する。

出典：久留米工業高等専門学校規則集

資料B-1-①-14 (2/2)



平成8年9月から、久留米工業高等専門学校図書館は、一般市民の皆さんも利用できます。(ただし、18才以上の方に限ります。)

利用希望の方は、身分を証明する証書(運転免許証・健康保険証・学生証等)と、印鑑をご持参ください。



利用時間は、次のとおりです。
★平日 9時～20時
★土曜日 9時～17時

ただし、春季・夏季・冬季・学年末の各休業期間中については、平日は17時まで、土曜日は、閉館とします。

図書館の市民向けの開放状況

	登録者数 (人)	利用者数 (人)	貸出数 (冊)
平成17年度	15	96	180
平成16年度	15	72	104
平成15年度	14	85	144
平成14年度	16	87	175
平成13年度	20	103	190

出典：図書館資料

資料B-1-①-15

【地域イベント等への参加例】

「本校で復元したからくり儀右衛門の蒸気車の実演」

1. イベント 久留米からくり儀右衛門展 (写真(左))
 期 日 平成18年4月25日(火)～30日(日)
 場 所 久留米商工会館
 内 容 蒸気車・ロボット展示、実演

2. イベント 久留米市教育委員会 土曜楽校
 期 日 平成17年12月24日(土)
 場 所 本校
 内 容 (小学生対象の)蒸気車走行実演

3. イベント 佐賀城本丸歴史館開館1周年記念事業
 期 日 平成17年8月6日(土)～7日(日)
 場 所 佐賀城本丸歴史館
 内 容 蒸気車走行実演

4. イベント 佐賀城本丸歴史館開館記念事業イベント
 期 日 平成16年8月2日(月)
 場 所 福岡天神イムズ
 内 容 蒸気車走行実演

「久留米市 学びピア (生涯学習フェスティバル) 参加 (毎年実施) (写真右)」

- 期 日 平成17年11月13日
 場 所 久留米市勤労青少年センター
 内 容 各学科による実験の実演



出典：庶務課庶務係資料

資料B-1-①-16 (1/2)



シニア情報プラザ 久留米

シニアのみなさんが「安心」して、仲間づくりや社会参加できる場を提供し、生きがい作り、社会参加の道具としてのコンピュータの学習を支援することを目的としています。

[トップ](#)
[六ツ門商店街](#)
[六ツ門大学](#)
[パソコン教室](#)
[タウンモビリティ](#)
[地図・駐車場・アクセス](#)
[リンク集](#)



受講生募集中

六ツ門大学
Mutsumon University

六ツ門大学

● 暮しの発明学

-

- 授業回数:全5回
- 講師:伊藤 義文 先生(久留米高専)

● スケジュール

日時	時間
11月11日(金曜)	3時間目(15:00~16:30)
12月9日(金曜)	3時間目(15:00~16:30)
1月13日(金曜)	3時間目(15:00~16:30)
2月10日(金曜)	3時間目(15:00~16:30)
3月10日(金曜)	3時間目(15:00~16:30)

● 講座一覧

第1の門/大学講座

[源氏物語](#)
[平安日記文学](#)
[中国語初級講座](#)
[中国語中級講座](#)
[韓国語初級講座](#)
[韓国語講座](#)
[やさしい英会話](#)
[日本近代文学を読む](#)
[イスラム世界を見る](#)
 久留米大学公開講座
[平家物語](#)
[古文書を読み解く](#)
[短歌](#)

第2の門/筑後の歴史学

筑後の歴史学概論
 絵画に見る郷土史
 久留米は邪馬台国のミヤコだった
 ふるさと筑後の歴史学

出典：六ツ門大学ホームページ

<http://www.kurume-mutsumon.info/uni/curriculum/44.html>

資料B-1-①-16 (2/2)

六ツ門大学

● ロボット学2

-

- 授業回数:全6回
- 講師:熊丸 憲男(久留米高専助手)

● スケジュール

日時	時間
10月 8日(土曜)	3時間目(15:00~16:30)
11月 26日(土曜)	3時間目(15:00~16:30)
12月 24日(土曜)	3時間目(15:00~16:30)
1月 28日(土曜)	3時間目(15:00~16:30)

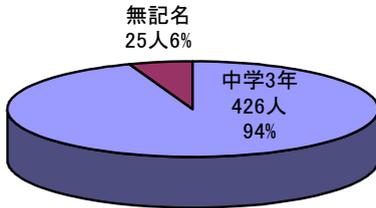
出典：六ツ門大学ホームページ

<http://www.kurume-mutsumon.info/uni/curriculum/10.html>

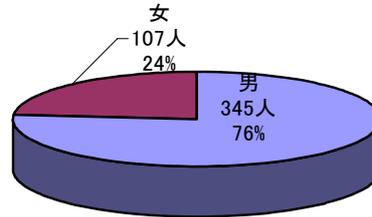
資料B-1-②-1 (1/4)

体験セミナー参加者のアンケート結果

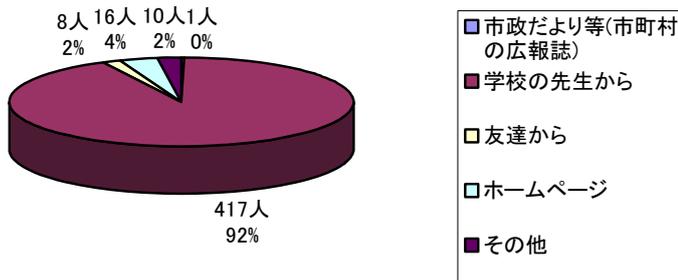
1.あなたの学年(451人回答)



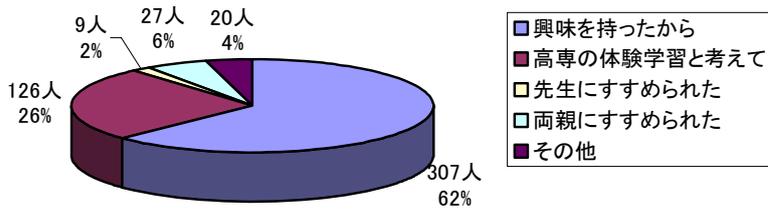
2.あなたの性別(452人回答)



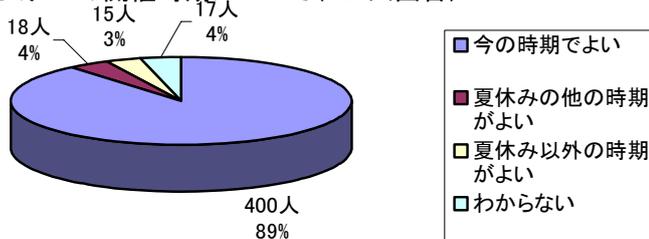
3.体験セミナーの開催を何で知ったか(452人回答)



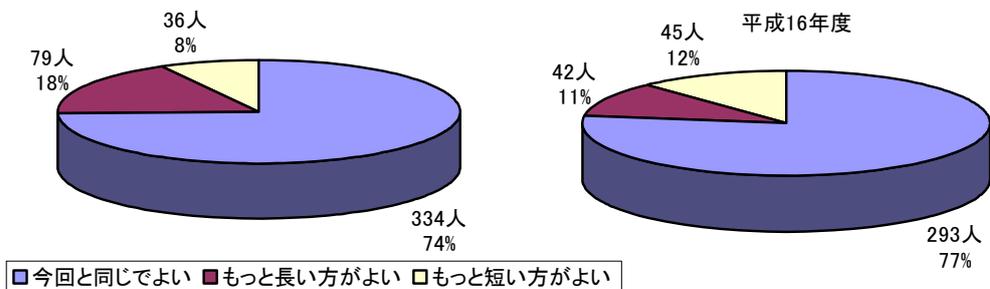
4.体験セミナーを受講した動機(複数解答有り)(489人回答)



5.体験セミナーの開催時期について(450人回答)



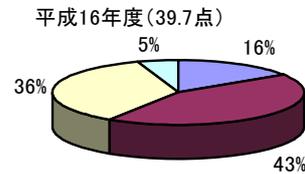
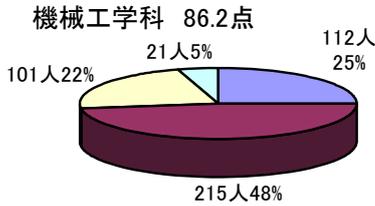
6.体験セミナーの授業時間について(未記入者あり)(449人回答)



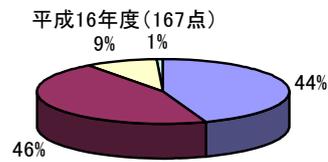
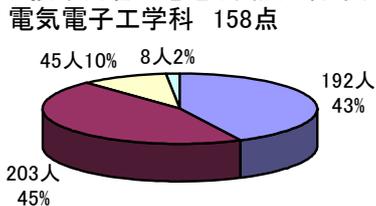
出典：平成17年度第14回学科長委員会資料

資料B-1-②-1 (2/4)

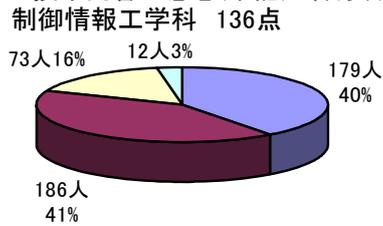
7.各コースの授業内容の感想(未記入者あり)(449人回答)



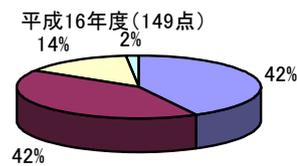
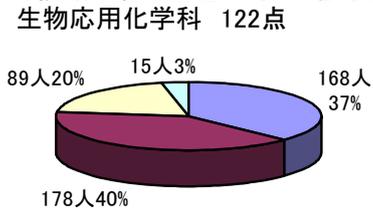
7.各コースの授業内容の感想(未記入者あり)(448人回答)



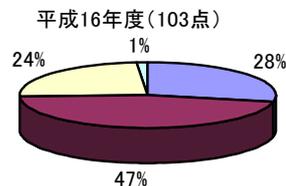
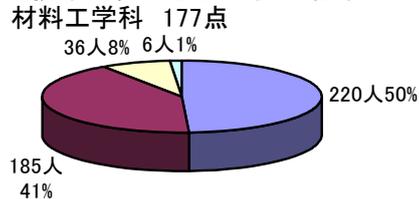
7.各コースの授業内容の感想(未記入者あり)(450人回答)



7.各コースの授業内容の感想(未記入者あり)(450人回答)

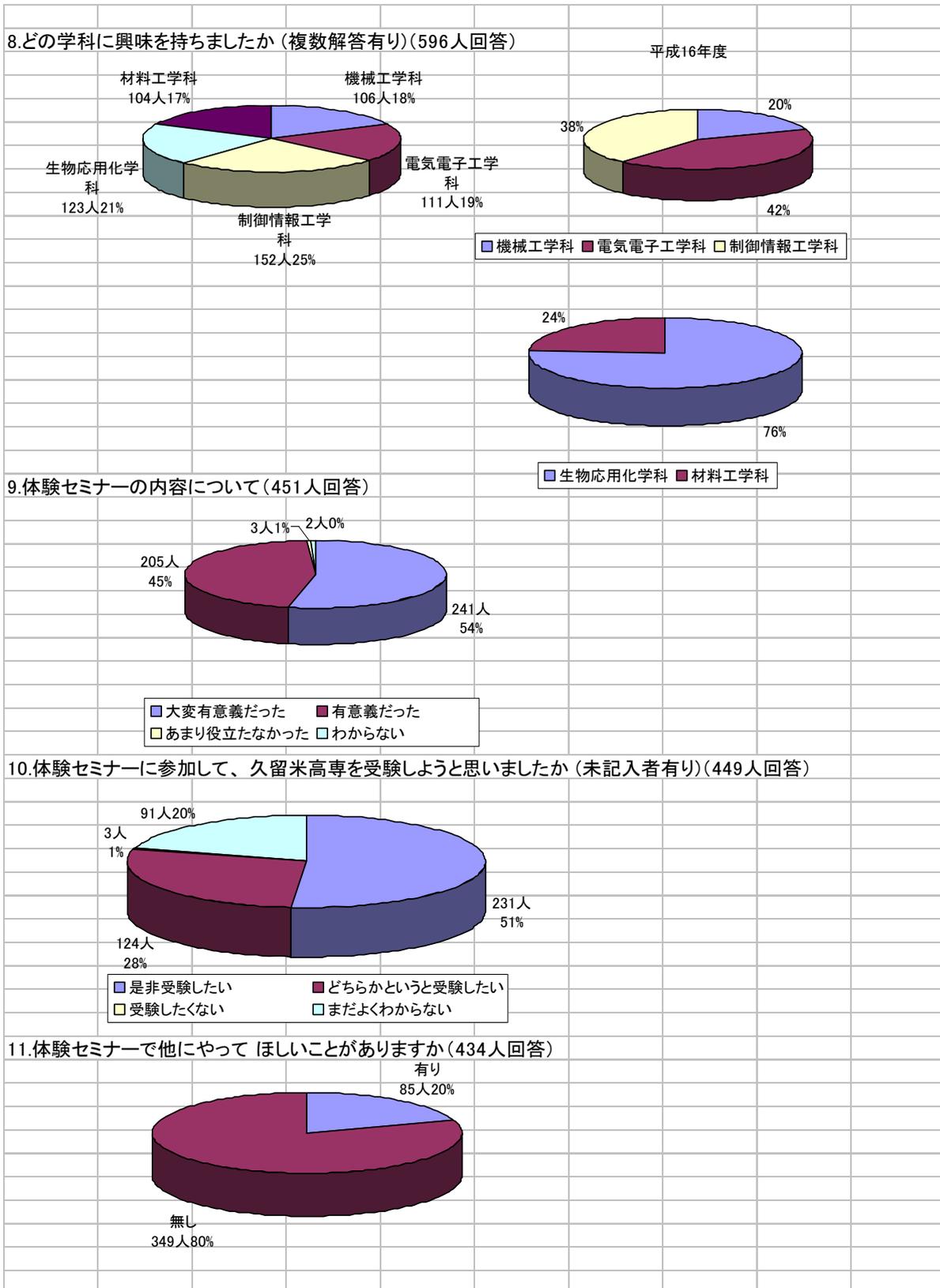


7.各コースの授業内容の感想(未記入者あり)(447人回答)



出典：平成17年度第14回学科長委員会資料

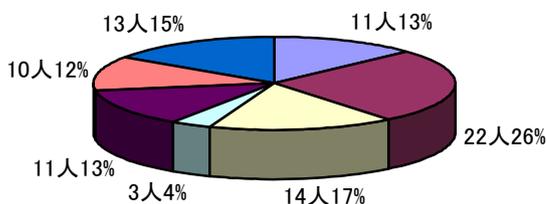
資料B-1-②-1 (3/4)



出典：平成17年度第14回学科長委員会資料

資料B-1-②-1 (4/4)

11.体験セミナーで他にやってみたいこと(84人回答)

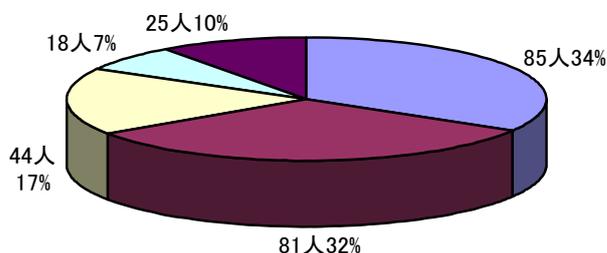


ものづくり	部活	実験	授業見学
施設見学	体験	その他	

その他の意見

- ・実際に学習(研究)している内容の展示
- ・もっと詳しく教えて欲しかった。
- ・ロボコンなどに出場したロボットでショーをしてほしい。

12.この体験セミナーに関する感想(253人回答)



役に立った, よかった, よくわかった	楽しかった, おもしろかった
学科のことがよくわかった	高専のことがよくわかった
その他	

その他の意見

- ・一つ一つの授業が短い。もう少し長くしてくれないと理解できない部分が出てくると思う。
- ・コースによっては説明のみということもあったので、できれば体験させてほしいと思います。
- ・話したり、資料を見せたりするのもいいけど、電気電子みたいに自分で体験できるのが他の科にもあればよかった。
- ・食事時間が短かくゆっくりできなかったのも、少し増したらいいと思う。
- ・もう少し少人数でいろいろなことをやってほしい。
- ・45分授業を行わなくても、もっと分かりやすく短時間で済ませた方が眠くならず集中でき、より有意義なものになると考えられます。

出典：平成17年度第14回学科長委員会資料